

授 業 名	ブッダの教え u a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1101
英 文 名	Teaching of Buddha			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 汎用能力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『ブッダと法然』( 学術図書出版社、2019年 )								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	確認テストを回収後、解答を解説する。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授 業 名		ブッダの教え u a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	「宗教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでおく。	
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 建学の精神をまとめてください。	
第3回	「仏教とは何か」	(学修内容) 私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は、私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について一通り、教科書を読んでみてください。授業後、プリントを整理してください。	
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	(学修内容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代インドについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。	
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	(学修内容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 業思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六師外道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。	
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第8回	「ブッダの生涯-四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第9回	「ブッダの生涯-苦行」	(学修内容) ブッダの出家・修業時代から悟りへの道を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 苦行について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第10回	「ブッダの生涯-成道について」	(学修内容) ブッダの「さとり」を中心に概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さとりについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第11回	「ブッダの教え-縁起」	(学修内容) 縁起説について概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 縁起について、該当する教科書の範囲を読んでください。前回授業のノートを読み返しておくこと。	
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	(学修内容) 四諦説と八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	(学修内容) 釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十大弟子について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	(学修内容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 三宝について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。	
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでのノートを読み返してください。自分なりに釈尊の生涯をまとめること。	

授業名	ブッダの教え u b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1102
英文名	Teaching of Buddha			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。								
学修成果到達目標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 汎用能力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	『ブッダと法然』（学術図書出版社、2019年）								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストを回収後、解答を解説する。								
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	ブッダの教え u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「オリエンテーション」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 建学の精神をまとめてください。
第3回	「仏教とは何か」	(学修内容) 私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、一通り教科書を読んでみてください。授業後、プリントを整理する。
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	(学修内容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代インドについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	(学修内容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 業思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道について」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六師外道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「ブッダの四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「ブッダの生涯-修行」	(学修内容) ブッダの苦行について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 苦行について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「ブッダの生涯-さとり」	(学修内容) ブッダの「さとり」を中心に概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダのさとりについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「ブッダの教え-縁起」	(学修内容) ブッダの教説「縁起」を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 縁起について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	(学修内容) 「四諦説」と「八正道」について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	(学修内容) 釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十大弟子について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	(学修内容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 三宝について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 全授業のノートを読み返しておくこと。釈尊についてまとめてください。

授 業 名	法然上人の思想と生涯 u a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1116
英 文 名	Saint Honen's Thought and His Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解出来る。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 汎用能力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『ブツダと法然』( 学術図書出版社、2019年 )								
参 考 書	使用しない								
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストを回収後、解答の解説をします。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授業名	法然上人の思想と生涯 u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み返すこと
第2回	「釈尊の仏教の意義」	(学修内容) 釈尊の生涯と思想を振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の生涯と思想を読み返す。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	(学修内容) 大乘仏教について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第4回	「仏教の伝来とは」	(学修内容) インド・中国・日本にわたる仏教の伝来を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、ノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第5回	「日本仏教の特色」	(学修内容) 日本仏教の特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教伝来について、授業のノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第6回	「法然上人の生きた時代 末法思想」	(学修内容) 法然上人の生きた時代の背景を学びます。末法思想を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 末法思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「法然上人の生涯 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生から出家まで概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生から出家について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「法然上人の生涯 修学」	(学修内容) 法然上人の修学時代を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 比叡山修学、南都遊学について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「法然上人の生涯 浄土宗開宗」	(学修内容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 立教開宗の過程について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	(学修内容) 浄土宗の教えを概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然上人の教え 『選択本願念仏集』」	(学修内容) 法然上人の教え「選択本願念仏」について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	(学修内容) 法然上人の信者、弟子たちについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 門弟や信者について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然上人の生涯 大原問答」	(学修内容) 東大寺講説、大原問答等について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然上人の生涯 法難と臨終」	(学修内容) 念仏の興隆と法難、法然上人の入滅。専修念仏教団の展開について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難・臨終について、該当する教科書の範囲をよんでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業のノートを読み返しておくこと。法然上人についてまとめてください。

授 業 名	法然上人の思想と生涯 u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1116
英 文 名	Saint Honen's Thought and His Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 建学の精神を理解する。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 汎用能力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『ブツダと法然』( 学術図書出版社、2019年 )								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	理解度テストの回収後、解答の説明をします。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	法然上人の思想と生涯 u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「オリエンテーション」	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み返しておくこと。
第2回	「釈尊の生涯と思想」	(学修内容) 釈尊の生涯と思想を振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の生涯と思想について、テキストとノートを読み直します。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	(学修内容) 大乘仏教を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第4回	「仏教の伝来とは」	(学修内容) インド・中国・日本にわたる仏教の伝来を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、ノートを読み返してください。授業後、ノートを整理する。
第5回	「日本仏教について」	(学修内容) 日本仏教の特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教伝来について、授業のノートを読み返してください。授業後、ノートを整理する。
第6回	「法然上人の時代背景 末法思想」	(学修内容) 末法思想を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 末法思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「法然上人の生涯 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生から出家を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生から出家について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「法然上人の生涯 修学」	(学修内容) 法然上人の修学時代を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読んでください。
第9回	「法然上人の生涯 浄土宗開宗」	(学修内容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 立教開宗について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	(学修内容) 法然上人の教えについて概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然上人の教え 『選択本願念仏集』」	(学修内容) 『選択本願念仏集』について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	(学修内容) 法然上人の弟子や信者について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 門弟や信者について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然上人の生涯 大原問答」	(学修内容) 大原問答・東大寺講説について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然上人の生涯 臨終」	(学修内容) 念仏の興隆と法難、臨終までを概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難・臨終について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの授業のノートを読み返しておくこと。法然上人についてまとめてください。



授 業 名	総合基礎演習 s a ・ s b ・ s c ・ s d				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1102
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	斧出 節子・柿本 真代・秋山 裕之・流石 智子				対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを交流し相互理解を深めながら、各学生の学びの方向性を明確にする。 発表資料の作成方法を学んで発表し、プレゼンテーション能力を身につける。また、レポート作成の方法を学んで、実際にレポートを作成し、意見を主張する技術を習得する。									
学 修 成 果 到 達 目 標	1) コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2) プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3) マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見し、必要な資料を収集することができる。									
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能				
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション			
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社									
参 考 書	初年次教育用の冊子を配布・使用する									
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを書いて返却する。									
留 意 事 項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りを目的とするため、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。									
実 践 的 教 育										

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い(1) 履修登録	(学修内容)講義、演習、実習などの位置づけ、必修・選択・資格科目、インターンシップ等の授業形態の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修要項の該当部分を確認し、授業に持参する。
第2回	高校と大学の違い(2) 学生生活をデザインする	(学修内容)大学教員の役割(教育と研究、研究日、研究室の利用方法)や、ポータルサイト、Gmailの使い方(ITC自主学习含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) ポータルサイトを確認し、必要な情報を入手する。履修要項を持参する。
第3回	目標と方法(1) 学びの動機付け	(学修内容)大学生活における目標と方法、長期目標と短期目標の設定の仕方を学ぶ。(ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(45分) ディプロマポリシーについて振り返る。
第4回	目標と方法(2) 目標づくり	(学修内容)目標の立て方を学び、具体的な目標を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料を読んで過不足のない目標を確認する。
第5回	大学での学び方	(学修内容)講義の受け方、ノートの取り方、単位の実質的意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 学んだ内容を他の授業で実践する。
第6回	レポートの書き方(1) 書式	(学修内容)レポートと論文の違い、体裁や書式について(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(45分) レポートを作成する。
第7回	レポートの書き方(2) 添削	(学修内容)前回の事後学習課題を持参し、添削を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 添削された内容を基に、修正・再提出する。
第8回	発表用資料の作成方法	(学修内容)口頭発表のレジュメ作成の方法について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第9回	発表用資料の作成	(学修内容)レジュメ作成の実際について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第10回	個人別プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第11回	個人別プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第12回	個人別プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第13回	PROGテストの活用	(学修内容)PROGテストの見方、活用方法、目標設定について (事前事後学修課題の内容)(30分) PROGテストのテキストを参照する。
第14回	1回生ゼミ連絡会	(学修内容)夏季休暇中のレポート課題発表・夏季ボランティア等紹介 (事前事後学修課題の内容)(45分) 夏季休暇中の課題に必要な情報を収集する。
第15回	レポート・文章の書き方(基本)まとめ	(学修内容)発表を終えての文章の書き方・1200字程度のレポート作成について (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期の振り返りをしておくこと。

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b ・ t c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1102
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	竹市 仁美・猿渡 綾子・林 育代			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>大学で何を学び身に付けたいか。どのような学生生活を送りたいかを各学生が考える機会にする。 また、クラスメイトとの相互理解を深めるとともに、新しい環境に馴染み、積極的に学んでいく基本姿勢を身に付ける。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1. 大学教育に必要な学修方法を身につける 2. 他者と適切なコミュニケーションをとることができる 3. プレゼンテーションの基礎を身につける</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	<p>総合基礎演習 (冊子は授業で配布) 『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 化学同人</p>								
参 考 書	<p>適宜紹介する 第1回目～第3回目は「Campus Life」と「履修要項」を持参する</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>各自の課題に対してコメントを返し指導を行う。グループワークの成果についてもクラスメイトと共有できるアドバイスを行う。</p>								
留 意 事 項	<p>ゼミを通して自ら大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境づくりを実現するために、積極的に取り組んでください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回時に伝えます								
実践的教育									

授業名	総合基礎演習 ta・tb・tc	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・履修登録	(学修内容)この授業の目的を確認する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自、履修内容の確認ができるよう準備する
第2回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう(1) (授業について・学生生活について)	(学修内容)講義・演習・実習・実験の位置づけを理解する 必修・選択・資格取得・インターンシップなどの授業形態を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習
第3回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう(2) (学生生活をデザインする)	(学修内容)大学教員を知る ポータルサイト・Gメールの使い方を知り、連絡の取り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習
第4回	目標の設定とその方法(1) (望む将来像について考える)	(学修内容)学科のディプロマポリシーを深く理解する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習
第5回	レポートの書き方を学ぼう(1) (実験ノートの取り方・データの収集)	(学修内容)簡単な実験を通して、ノートの取り方、データ収集方法を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習
第6回	レポートの書き方を学ぼう(2) (レポートで使う語句・作成手順)	(学修内容)前回の実験を通してレポート作成方法を習得する・レポートと論文の違いを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習
第7回	目標の設定とその方法(2) (実際に計画を立てる)	(学修内容)目標の立て方を学び、ステップアップシートを記入する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習
第8回	大学での学び方(自分で学ぶとは) 図書館ツアー(文献検索と日々の学習)	(学修内容)自律的に学ぶための基本を理解する(講義の受け方・ノートの取り方) 図書館の利用方法を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 学生証を持参すること 課題学習
第9回	学んだことを使って発表しよう(1)	(学修内容)レジュメ・口頭などの発表方法を学ぶ 要約の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習
第10回	学んだことを使って発表しよう(2) (プレゼンテーション)	(学修内容)各自実際にプレゼンを行い、客観的な意見をもらう  (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で学んだことに配慮し、プレゼンの練習をすること 課題学習
第11回	健康的な生活について考える (グループワーク)	(学修内容)健康に生活を送るためのスキルについて学ぶと共に、他者との意見を交換する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習
第12回	手紙・メール術を実践しよう	(学修内容)学んだルールに沿った文章をつくる  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習
第13回	課題に取り組むためのPDCAサイクルとは	(学修内容)PDCAサイクルを通して、発見した課題の改善策や次への計画の立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習
第14回	自己分析結果を見てみよう	(学修内容)ステップアップシートやPROGテストの結果を通して、自己の特性についての課題を見つける (事前事後学修課題の内容)(60分) じっくりと考えるだけではなく、家族や友人からコメントをもらうこと 課題学習
第15回	自己分析結果と気づきから方針を立てよう	(学修内容)見つけた課題に対して、長所・短所などに気づき、今後の取り組み方針を決定する (事前事後学修課題の内容)(60分) 全体的な復習を行うこと 課題学習

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b ・ t c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1117
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	竹市 仁美・猿渡 綾子・林 育代			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	総合基礎演習 に続き、大学でのこれからの学びの基礎力を身につけるとともに、2年生以降の学びの目標をどこに置くかを考え、自分自身の課題設定を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 4年間の学生生活の基礎となる友人や教員との適切なコミュニケーションを実践できる。 2. 資料を収集し、レポートを作成する能力を身につけ、他の学生に向けてプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの内容などに対し、個別でのアドバイスを行う。								
留 意 事 項	課題を期日までにしあげること。 テキスト以外の根拠ある情報の検索を積極的に行うこと。 他者のプレゼンテーションを真剣に聴き、積極的に質問すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		総合基礎演習 ta・tb・tc	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 夏休み課題の確認	(学修内容) 秋学期の授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏休課題を忘れずに持参すること シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておくこと	
第2回	秋学期に向けての抱負	(学修内容) 原稿用紙の正しい使い方、文の構成について確認する 秋学期に向けての作文を書く (事前事後学修課題の内容) (60分) 春学期から秋学期への自己の生活について整理しておく	
第3回	プレゼンテーションについて 質疑応答について	(学修内容) 秋学期のプレゼンテーションの進め方について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 文章術ハンドブックの復習	
第4回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学1) 日本語学習1	(学修内容) 国試問題解答解説 書き言葉と話し言葉 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第5回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学2) 日本語学習2	(学修内容) 国試問題解答解説 言葉の選択 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第6回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学3) 日本語学習3	(学修内容) 国試問題解答解説 文の構成 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第7回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学4) グループディスカッション1	(学修内容) 国試問題解答解説 テーマに沿って話す (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第8回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学5) 日本語学習4	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第9回	国試対策プレゼンテーション(生化学1) 日本語学習5	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第10回	国試対策プレゼンテーション(生化学2) 日本語学習6	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第11回	国試対策プレゼンテーション(解剖学1) グループディスカッション2	(学修内容) 国試問題解答解説 テーマに沿って話す (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第12回	国試対策プレゼンテーション(解剖学2) 日本語学習7	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第13回	国試対策プレゼンテーション(食べ物と健康1) 日本語学習8	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第14回	国試対策プレゼンテーション(食べ物と健康2) 日本語学習9	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第15回	まとめ(2回生に向けて)	(学修内容) 1回生である1年間を振り返り、2回生に向けての課題を考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の学びと気づきをまとめておくこと	

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1117	
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修		
担 当 者	斧出 節子・柿本 真代・秋山 裕之・流石 智子				対 象 学 生	現代家政1回生					
授業の概要	大学生生活に必要な、プレゼンテーションの方法、資料作成の方法、レポート作成の方法について学ぶ。プレゼンテーションの方法は、個人あるいはグループとし、適宜、アンケート調査を実施したり、文献調査を行ったり、インターネットの情報を収集したりして、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。また、その発表を期末レポートにまとめ、2年次以降の学びにつなげる。										
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 資料を収集し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作成することができる。 2) 4年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力を身につけ、発表することができる。 3) マネージメント能力を身につけ、発表した内容をレポートにまとめることができる。										
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能						
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力						
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技			
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)				
テ キ ス ト	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社										
参 考 書	適宜紹介する										
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを書いて返却する。										
留 意 事 項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。運営・発表の形式は各ゼミによって変更することがある。										
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。										
実践的教育											

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏季レポートのプレゼンテーション 第1グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。(プレゼンテーション、ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の準備をしておく。
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション 第2グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。(プレゼンテーション、ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の準備をしておく。
第3回	企画に基づいたグループ活動 企画	(学修内容) 企画に基づいた活動計画をたてる。(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 企画実施に必要なことを考えておく。
第4回	企画に基づいたグループ活動 実践	(学修内容) 計画に基づいて役割分担を決め、必要な準備をする。(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自の役割に沿って、必要なものを用意する。
第5回	プレゼンテーションに向けた情報検索 資料(紙媒体)検索実践演習	(学修内容) 学術書等の紙媒体からの資料検索の実践 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの第2章を読んでおく。
第6回	プレゼンテーションに向けた情報検索 インターネット検索実践演習	(学修内容) インターネットを中心とした資料検索の実践(ICT自主学習含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの第2章を読んでおく。
第7回	プレゼンテーション資料の作成 PowerPoint	(学修内容) PowerPointによる発表資料作成について(ICT自主学習含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) PowerPointでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第8回	プレゼンテーション資料の作成 Word,Excel	(学修内容) Word,Excel等による発表資料作成について (事前事後学修課題の内容)(30分) Word,Excelでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第9回	プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第10回	プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第11回	プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第12回	プレゼンテーションと討論 第4グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第13回	プレゼンテーションと討論 第5グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第14回	レポートの書き方(応用)	(学修内容) 発表を踏まえたレポートの作成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の資料を振り返り、持参する。
第15回	秋学期の到達度確認	(学修内容) 春学期、秋学期の自己到達点を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 学びステップアップシートに記述する。



授業名	英語 UC			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	奥 尚子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	この授業ではリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	角山照彦/ Simon Capper著、English with Hit Songs、成美堂								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(12時30分～13時00分)								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：高等学校英語科臨時講師、非常勤講師として4年間勤務								

授業名	英語 UC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入しUnit1に目を通しておくこと。
第2回	Unit 1 My Heart Will Go On(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第3回	Unit 1 My Heart Will Go On(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。現在完了を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第4回	Unit 2 Open Arms(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落になれる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第5回	Unit 2 Open Arms(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。分詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第6回	Unit 3 Life(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。注意すべき母音になれる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第7回	Unit 3 Life(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。品詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第8回	Review 1	(学修内容) これまでの復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した単語や表現の復習をする。
第9回	Unit 4 Don't Look Back In Anger(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の同化になれる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第10回	Unit 4 Don't Look Back In Anger(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。知覚動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第11回	Unit 5 A Whole New World(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第12回	Unit 5 A Whole New World(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係副詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第13回	Unit 6 I Don't Want To Miss A Thing(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音声変化の複合になれる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第14回	Unit 6 I Don't Want To Miss A Thing(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。助動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第15回	Review 2	(学修内容) これまでの総復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した単語や表現の総復習をする

授 業 名	英語 ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1103
英 文 名	English			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	奥 尚子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授 業 の 概 要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	角山照彦/Simon Capper著 English with Hit Songs 成美堂								
参 考 書	使用しない。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了前に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高等学校英語科臨時講師、非常勤講師として4年間勤務								

授業名	英語 ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 My Heart Will Go On	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第3回	Unit1 My Heart Will Go On	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。現在完了を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第4回	Unit2 Open Arms	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第5回	Unit2 Open Arms	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。分詞の復習をする。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第6回	Unit3 Life	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。注意すべき母音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第7回	Unit3 Life	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。品詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第8回	Review 1	(学修内容) これまでの復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した単語や表現の復習をする
第9回	Unit4 Don't Look Back In Anger	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の同化に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第10回	Unit4 Don't Look Back In Anger	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。知覚動詞に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第11回	Unit5 A Whole New World	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第12回	Unit5 A Whole New World	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係副詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第13回	Unit6 I Don't Want To Miss A Thing	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音声変化の複合に慣れる。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第14回	Unit6 I Don't Want To Miss A Thing	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。助動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第15回	Review 2	(学修内容) これまでの総復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した単語や表現の総復習をする

授業名	英語 ua			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	和田 未穂子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『Ghost』映画で学ぶコミュニケーション演習 Teruhiko Kadoyama Cengage Learning								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		英語 u a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 The Loft	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。意見感想を求める表現を学習する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べておくこと。
第3回	Unit2 Unchained Melody	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べておくこと。
第4回	Unit3 Life After Death	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べておくこと。
第5回	Transcript	(学修内容) Review Unit1~3までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Willy Lopez	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。勧誘の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べておくこと。
第7回	Unit5 Spiritual Adviser	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。推量の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	(学修内容) Review Unit4~5までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 The Truth	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。伝達の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 The Police	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Subway Ghost	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。賞賛の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Unit9 Lita Miller	(学修内容) Review Unit6~8までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第13回	Unit10 Revenge	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。挨拶の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit 11 The Penny	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。警告の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Unit12 Last Chance	(学修内容) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。別れの表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。

授業名	英語 ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	和田 未穂子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。内容に関する会話を聞いて、ペアワークで会話の練習を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をやる。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	『GHOST』 映画で学ぶコミュニケーション演習 Teruhiko Kadoyama Cengage Learning								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		英語 ub
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 The loft	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。意見感想を求める表現を学習する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Unchained Melody	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。断りの表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第4回	Unit3 Life After Death	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第5回	Transcript	(学修内容) Review Unit1~3までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第6回	Unit4 Willy Lopez	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。勧誘の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第7回	Unit5 Spiraiatual Adviser	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第8回	Transcript	(学修内容) Review Unit4~5までの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小テストのための家庭学習
第9回	Unit6 The Truth	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第10回	Unit7 The Police	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。音の変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第11回	Unit8 Subway Ghost	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。アメリカ英語とイギリス英語の違いについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第12回	Unit9 Rita Miller	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。挨拶の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第13回	Unit10 Revenge	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第14回	Unit 11 The Penny	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。警告の表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。
第15回	Unit12 Last Chance	(学修内容) 該当する箇所を読みすすめる。別れの表現を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 該当する箇所の単語を調べ、本文を読んでおくこと。



授業名	英語 UC			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	English			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	奥 尚子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードし、native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	角山照彦/ Simon Capper著、English with Hit Songs、成美堂								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかり行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(12時30分～13時00分)								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：比叡山高等学校、桂高校などで英語科非常勤講師、臨時講師として勤務								

授業名	英語 UC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず目を通しておくこと。
第2回	Unit8 The Stranger(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の弱化に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第3回	Unit8 The Stranger(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係代名詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第4回	Unit9 Hey Now(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第5回	Unit9 Hey Now(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。不定詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第6回	Unit10 Every Time I Close My Eyes(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第7回	Unit10 Every Time I Close My Eyes(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。接続詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第8回	Review1	(学修内容) これまでの復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする
第9回	Unit11 Kiss Of Life(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第10回	Unit11 Kiss Of Life(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。完了不定詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第11回	Unit12 All I Want For Christmas Is You(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第12回	Unit12 All I Want For Christmas Is You(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。5文型を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第13回	Unit13 Livin' La Vida Loca(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第14回	Unit13 Livin' La Vida Loca(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。使役動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。
第15回	Review2	(学修内容) これまでの総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した語彙や表現の総復習をする

授 業 名	英語 ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1118
英 文 名	English			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	奥 尚子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (語彙力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	角山照彦/ Simon Capper 著 English with Hit Songs、成美堂								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了前に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：比叡山高等学校、桂高校などで英語科非常勤講師、臨時講師として勤務								

授業名	英語 ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。  (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず目を通しておくこと。
第2回	Unit8 The Stranger	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の弱化に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第3回	Unit8 The Stranger	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係代名詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第4回	Unit9 Hey Now	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第5回	Unit9 Hey Now	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。不定詞に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第6回	Unit10 Every Time I Close My Eyes	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第7回	Unit10 Every Time I Close My Eyes	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。接続詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第8回	Review 1	(学修内容) これまでの復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第9回	Unit11 Kiss Of Life	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第10回	Unit11 Kiss Of Life	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。完了不定詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第11回	Unit12 All I Want For Christmas Is You	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第12回	Unit12 All I Want For Christmas Is You	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。5文型を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第13回	Unit13 Livin' La Vida Loca	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第14回	Unit13 Livin' La Vida Loca	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。使役動詞に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。授業で聞いた英文を繰り返し音読すること。
第15回	Review 2	(学修内容) これまでの総復習をする。  (事前事後学修課題の内容) (90分) テストのためにこれまで学習した単語や表現の総復習をする。

授 業 名	英語 u a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1118
英 文 名	EnglishII			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		必 修	
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 語彙力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『TITANIC』 Teruhiko Kadoyama SEIBIDO								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		英語 u a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	Unit1 The Woman in the Picture	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第3回	Unit2 Back to Titanic	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。受動態について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第4回	Unit3 Leaving Port	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第5回	Unit4 Don't Do it	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。現在進行形仮定法について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第6回	Unit5 Do You Love Him?	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。進行形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第7回	Unit6 I Can't See You	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第8回	Unit7 I'm Flying!	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習した語彙や表現の復習をする。
第9回	Unit 8 Iceberg Right Ahead!	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第10回	Unit9 An Honest Thief	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第11回	Unit 10 Goodbye, Mother	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。未来形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第12回	Unit11 Get in the Boat	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第13回	Unit12 Two Tragic Bullets	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。動名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第14回	Unit13 Promise Me	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。不定詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第15回	Unit14 Rose's Secret	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。否定について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。

授 業 名	英語 ub			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1118
英 文 名	EnglishII			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	和田 未穂子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 語彙力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『TITANIC』 Teruhiko Kadoyama SEIBIDO								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授業名	英語 ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction to the course	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。
第2回	1 The Woman in the Picture	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第3回	2 Back to Titanic	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。受動態について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第4回	3 Leaving Port	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。助動詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第5回	4 Don't Do it	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。仮定法について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第6回	5 Do You Love You	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。進行形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第7回	6 I Can't See You	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第8回	7 I'm Flying!	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。関係詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第9回	8 Iceberg Right Ahead!	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。完了形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第10回	9 An Honest Thief	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。分詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第11回	10 Goodbye, Mother	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。未来形について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第12回	11 Get in the Boat	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。代名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第13回	12 Two Tragic Bullets	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。動名詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第14回	13 Promise Me	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。不定詞について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。
第15回	14 Rose's Secret	(学修内容) 前回は指示した箇所を読みすすめる。否定について学ぶ。会話はペアワークで行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回は指示した箇所の単語を調べ、本文の内容を読んでおくこと。



授 業 名	英語コミュニケーション uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1104
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読と言われる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について5往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.7程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )			
テ キ ス ト	Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere! Nagatomo, D. & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は解答と解説を付して、秋学期初回授業(答案返却期間)に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction Chapter 1: Preparing for the Trip	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 Chapter 1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	Chapter 2: On the Airplane 文法1: 人 または 物 は/が~する	(学修内容)多読、Chapter 2・文法1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 2の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント1を解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第3回	Interview (時間割等の都合により実施回が前後することがある)	(学修内容)外国人にインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:インタビュー項目を5問以上考えて書く。 事後:インタビューレポートを作成し、gmailで提出する。
第4回	Chapter 3: Arrival and Passport Control 文法2: 人 に 物 を~する	(学修内容)多読、Chapter 3・文法2の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 3の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント2を解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第5回	Quiz 1 文法3: 人や物を説明する:第2文型をとる動詞	(学修内容)小テスト1、多読、文法3の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:宿題プリント3を解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第6回	Quiz 2 Chapter 4: Banking and Leaving the Airport 文法4: 人や物を説明する:第5文型をとる動詞	(学修内容)小テスト2、多読、Chapter4・文法4の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 4の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント4を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第7回	Quiz 3 文法1~4: 練習	(学修内容)小テスト3、多読、文法1~4の練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:宿題プリント5を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第8回	Quiz 4 Chapter 5: Checking Into the Hotel 文法5:「いつも~している」と「~した」	(学修内容)小テスト4、多読、Chapter 5・文法5の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 5の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント6を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第9回	Quiz 5 文法6:「これから~するつもりだ」	(学修内容)小テスト5、多読、文法6の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:宿題プリント7を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第10回	Quiz 6 Chapter 6: Hotel Facilities 文法5~6: 練習	(学修内容)小テスト6、多読、Chapter 6・文法5~6の練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 6の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント8を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第11回	Quiz 7 文法7:「今~している」と「その時~していた」	(学修内容)小テスト7、多読、文法7の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:宿題プリント9を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第12回	Quiz 8 Chapter 7: Let's Eat! 文法7: 練習	(学修内容)小テスト8、多読、Chapter 7・文法7の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 7の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント10を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第13回	Quiz 9 文法8:過去のことが現在まで影響する形	(学修内容)小テスト9、多読、文法8の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:宿題プリント11を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第14回	Quiz 10 Chapter 8: Sightseeing 文法8: 練習	(学修内容)小テスト10、多読、Chapter 8・文法8の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter 8の問題を解いて授業前に提出する。 事後:宿題プリント12を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第15回	Review	(学修内容)Chapter 1~8・文法1~8の復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:Chapter1~8・文法1~8を復習する。 事後:定期試験に向けて復習する。

授業名	英語コミュニケーション ua・ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1104
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	竹村 理世			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学修成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について5往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.7程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	竹内真澄他著『Enjoy Your Trip!』南雲堂 2015年 2,000円+税								
参考書	TOEICテスト受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、後期第1回目の授業において希望者に返却する。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行う。 暗唱テストに関しては、終了後に講評を行う。								
留意事項	積極的に授業に参加すること。 授業の際には必ず辞書を携帯すること。 病欠、忌引等のやむを得ない事情によらない欠席は、1回につき3点の減点とする。 電車の遅延などのやむを得ない事情によらない遅刻は、1回につき1点の減点とする。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語コミュニケーション ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	Unit 1 At the airport	(学修内容)多読、Unit 1の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 1の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 1で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第3回	Unit 2 On the plane	(学修内容)多読、Unit 2の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 2の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 2で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第4回	Quiz 1 Unit 1とUnit 2の新出単語 Unit 3 Arrival	(学修内容)Unit 1, Unit 2 小テスト、多読、Unit 3の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 3の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 3で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第5回	Unit 4 Checking in at the hotel	(学修内容)多読、Unit3の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 4の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 4で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第6回	Quiz 2 Unit 3とUnit 4の新出単語 Unit 5 Getting information and sightseeing	(学修内容)Unit 3, Unit 4小テスト、多読、Unit 5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 5の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 1~5で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第7回	暗唱テスト Unit 1-5 Review	(学修内容)Units 1-5 暗唱テスト、多読、Units 1-5の復習。  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units 1~5の会話表現を練習し、暗唱できるようにする。 事後:本読み1,000単語以上。
第8回	Unit 6 Ordering fast food	(学修内容)多読、Unit 6の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 6の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit6で学習した表現を使って短文を作成。本読み1,000語以上。
第9回	Quiz 3 Unit 5 とUnit 6の新出単語 Unit 7 Going to the theater	(学修内容)Unit 5, Unit 6 小テスト、多読、Unit 7の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 7の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit7で学習した表現を使って短文作成。本読み1,000単語以上。
第10回	Unit 8 At the restaurant	(学修内容)多読、Unit 8の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 8の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit8で学習した表現を使って短文作成。本読み1,000単語以上。
第11回	Quiz 4 Unit 7 とUnit 8の新出単語 Unit 9 Shopping	(学修内容)Unit 7, Unit 8 小テスト、多読、Unit 9の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 9の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit9で学習した表現を使って短文作成。本読み1,500単語以上。
第12回	Unit 10 Lost and found	(学修内容)多読、Unit 10の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 10の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit10で学習した表現を使って短文作成。本読み1,500語以上。
第13回	Unit 11 Using public transportation	(学修内容)多読、Unit 11の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 11の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit11で学習した表現を使って短文作成。本読み1,500語以上。
第14回	Unit 12 Renting a bike	(学修内容)多読、Unit 12の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 12の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit12で学習した表現を使って短文作成。本読み1,500語以上。
第15回	暗唱テスト Units 6-12 Review	(学修内容)Units 6~12 暗唱テスト、多読、Units 6-12の復習  (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units 6-12の会話表現を暗唱する。Units 6-12を復習する。 事後:定期試験に向けて、Units 1-12を復習する。

授 業 名	英語コミュニケーション uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1119
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )			
テ キ ス ト	Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere! Nagatomo, D. & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒロ前田著『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 社団法人保育英語検定協会著『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』本の泉社 1,900円+税 社団法人国際子育て支援機構著『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』本の泉社 1,363円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Chapter 9: Making Small Talk	(学修内容) 多読、Chapter 9の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Chapter 9の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント13を解いて次回提出する。本読み500単語以上。
第2回	Quiz 11 Chapter 10: Shopping 文法9: 「話し手・相手の気持ち」を表す表現	(学修内容) 小テスト11、多読、Chapter 10・文法9の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Chapter 10の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント14を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第3回	Quiz 12 文法9: 練習	(学修内容) 小テスト12、多読、文法9の練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 宿題プリント15を解いて次回提出する。本読み1,000単語以上。
第4回	Quiz 13 Chapter 11: Feeling Sick 文法10: 「～すること」を表す2種類の形	(学修内容) 小テスト13、多読、Chapter 11・文法10の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Chapter 11の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント16を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第5回	Quiz 14 文法11: 「～するために」と「～して」を表す形	(学修内容) 小テスト14、多読、文法11の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 宿題プリント17を解いて次回提出する。本読み1,500単語以上。
第6回	Interview (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 華頂祭の次週に実施予定)	(学修内容) フィールドワーク: 街に出て外国人に英語でインタビューを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: インタビュー項目を5問以上考え書く。 事後: インタビュー内容・感想をgmailで提出。本読み1,500単語以上。
第7回	Quiz 15 Chapter 12: Getting Around 文法10～11: 練習	(学修内容) 小テスト15、多読、Chapter 12・文法10～11の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: Chapter 12の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント18、本読み1,500単語以上、サンタカード1枚目。
第8回	Quiz 16 文法12: 「～される」を表す形	(学修内容) 小テスト16、多読、文法12の練習、Secret Santa 1枚目提出  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事後: 宿題プリント19、本読み1,500単語以上、サンタカード2枚目。
第9回	Quiz 17 Chapter 13: Checking Out of the Hotel 文法13: 「～された」を表す形	(学修内容) 小テスト17、多読、Chapter 13・文法13の内容確認・練習、Secret Santa 2枚目提出  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: Chapter 13の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント20、本読み2,000単語以上、サンタカード3枚目。
第10回	Quiz 18 文法14: 「～している」を表す形	(学修内容) 小テスト18、多読、文法14の内容確認・練習、Secret Santa 3枚目提出 (事前事後学修課題の内容) (70分) 事後: 宿題プリント21、本読み2,000単語以上、サンタカード4枚目。
第11回	Quiz 19 Chapter 14: Heading Home 文法12～14: 練習	(学修内容) 小テスト19、多読、Chapter 14・文法12～14の内容確認・練習、Secret Santa 4枚目提出  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: Chapter 14の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント22、本読み2,000単語以上、サンタカード5枚目。
第12回	Quiz 20 Secret Santa (時間割等の都合により実施回が前後することがある - 12月最終週の授業日に実施予定)	(学修内容) 小テスト20、Secret Santa発表、Secret Santa 5枚目提出  (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前: 小テスト勉強。 事後: 本読み2,000単語以上。
第13回	文法15: 2つの文を1つにする方法	(学修内容) 多読、文法15の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 宿題プリント23、本読み2,000単語以上。
第14回	Chapter 15: Talking About Your Trip 文法15: 練習	(学修内容) 多読、Chapter 15・文法15の内容確認・練習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Chapter 15の問題を解いて授業前に提出する。 事後: 宿題プリント24、本読み2,000単語以上。
第15回	Review	(学修内容) Chapter9～15・文法9～15の復習  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Chapter9～15・文法9～15を復習する。 事後: 定期試験に向けて復習する。

授業名	英語コミュニケーション ua・ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1119
英文名	English Communication			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	竹村 理世			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学修成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	角山照彦他著『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂 2019年 2,200円+税								
参考書	TOEICテスト受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、希望者に返却する。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行う。 暗唱テストに関しては、終了後に講評を行う。								
留意事項	積極的に授業に参加すること。 授業の際には必ず辞書を携帯すること。 病欠、忌引等のやむを得ない事情によらない欠席は、1回につき3点の減点とする。 電車の遅延などのやむを得ない事情によらない遅刻は、1回につき3点の減点とする。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	英語コミュニケーション ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)多読、進め方の確認、夏休みの出来事についての発表 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:本授業のシラバスを読む。夏休みの出来事を英語で言う練習。 事後:本読み500単語以上。
第2回	Unit 1 What's your major?	(学修内容)多読、Unit 1の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:Unit 1の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 1で学習した会話表現を練習する。本読み500単語以上。
第3回	Unit 2 How do you like your new school?	(学修内容)多読、Unit 2の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事前:Unit 2の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 2で学習した会話表現を練習する。本読み1,000単語以上。
第4回	Quiz 1 Unit 1とUnit 2の新出単語 Unit 3 Let me introduce a new member to you .	(学修内容)Unit 1, Unit 2 小テスト、多読、Unit 3の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 3の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 3で学習した会話表現を練習する。本読み1,500単語以上。
第5回	Unit 4 How was your Golden Week?	(学修内容)多読、Unit 4の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 4の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 4で学習した会話表現を練習する。本読み1,500単語以上。
第6回	Quiz 2 Unit 3とUnit 4の新出単語 Unit 5 I'm looking for a part-time job .	(学修内容)多読、Unit 5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 5の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit 5で学習した会話表現を練習する。本読み1,500単語以上。
第7回	暗唱テスト Units 1-5 Review	(学修内容)Units 1-5 暗唱テスト、多読、Units 1-5の復習。 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Units 1~5の会話表現をroot練習し、暗唱できるようにする。 事後:本読み1,500単語以上。
第8回	Unit 6 What do you call this in Japanese?	(学修内容)多読、Unit 6の内容確認・練習、会話練習。 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit 6の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit6で学習した表現を使って短文を作成。本読み1,500語以上。
第9回	Quiz 3 Unit 5とUnit 6の新出単語 Unit 7 Have you been there?	(学修内容)Unit 5, Unit 6 小テスト、多読、Unit 7の内容確認・練習、会話練習。 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit 7の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit7で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000語以上。
第10回	Unit 8 Could you tell me how to get there?	(学修内容)多読、Unit 8の内容確認・練習、会話練習。 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit 8の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit8で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000語以上。
第11回	Quiz 4 Unit 7とUnit 8の新出単語 Unit 9 What do you want me to do?	(学修内容)小テスト、多読、Unit 9の内容確認・練習、会話練習。 (事前事後学修課題の内容)(100分) 事前:Unit 9の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit9で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000語以上。
第12回	Unit 10 I'm on a tight budget.	(学修内容)多読、Unit 10の内容確認・練習、会話練習。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:Unit 10の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit10で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000語以上。
第13回	Unit 11 What do you think of this program?	(学修内容)Unit 11の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 11の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit11で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000単以上。
第14回	Unit 12 I'm reviewing what I studied.	(学修内容)Unit 12の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Unit 12の問題を解いて授業前に提出する。 事後:Unit12で学習した表現を使って短文作成。本読み2,000語以上。
第15回	暗唱テスト Review	(学修内容)Units 6-12 暗唱テスト、多読、Units 1-12復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前:Units 6-12の会話表現を暗唱する。Units 1-12を復習する。 事後:定期試験に向けて、Units 1-12を復習する。



授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2) 運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (リーダーシップ)	( )			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名		健康スポーツ科学 u a ・ u b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)
第2回	講義1:運動・スポーツと健康	(学修内容)運動・スポーツ活動が心身の健康に及ぼす影響 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	講義2:運動・スポーツの継続	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第4回	体力測定1:筋力、柔軟性、投力、走力の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	体力測定2:跳躍力、筋持久力、敏捷性、持久性の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	バドミントン1:基礎スキルの習得	(学修内容)フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの基本技術を調べる
第7回	バドミントン2:ルールの理解	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを調べる
第8回	バドミントン3:基礎スキルの実践	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第9回	バドミントン4:基礎スキルの応用	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第10回	ソフトバレーボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)パス、サーブ、レシーブ、スパイク (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール2:ルールの理解	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べる
第12回	ソフトバレーボール3:基礎スキルの実践	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール4:基礎スキルの応用	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義3:体力測定データの評価	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する

授 業 名	健康スポーツ科学 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深め、実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し自己の体力の現状を認識する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 運動が身体に及ぼす影響についての学習を踏まえた上で、スポーツの実践を通して自身の健康についての理解を深めることができる。</p> <p>2) 体力測定の結果から自己の体力の現状を認識し、健康の維持・向上のための生活習慣の改善を図ることができる。</p> <p>3) スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導</li> <li>・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師</li> <li>・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師</li> </ul>								

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション  (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)、プリントを配布する
第2回	ストレッチと有酸素運動	(学修内容)ストレッチ・有酸素運動の理論や脂肪燃焼のメカニズムを理解する。運動強度、脈拍、有酸素運動の関係について実践を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストレッチ・有酸素運動とは何かを調べ、毎日の生活の中で習慣化するための工夫や方法について考える
第3回	バドミントン(基本技術の理解と実践)	(学修内容)バドミントンの基本技術(フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの基本技術を調べる
第4回	バドミントン(ゲームの基礎知識)	(学修内容)基本技術の習得、簡易ゲーム  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの簡易ゲームを通して技術を習得する
第5回	バドミントン(戦術の理解と実践)	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第6回	バドミントン(作戦と試合)	(学修内容)バドミントン・ダブルスの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントン・ダブルスの戦術を調べる
第7回	講義(健康と運動)	(学修内容)健康と体力、運動とトレーニング  (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んでおく
第8回	体力測定(ストレッチと筋力系テスト)	(学修内容)文部科学省新体力テスト  (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第9回	体力測定(ストレッチと持久力系テスト)	(学修内容)文部科学省新体力テスト  (事前事後学修課題の内容)(30分) 体調管理
第10回	ソフトバレーボール(基本技術の理解と実践)	(学修内容)ソフトバレーボールの基本技術(パス、レシーブ、スパイク)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール(ゲームの基礎知識)	(学修内容)基本技術の習得、ソフトバレーボールの簡易ゲーム  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの簡易ゲームのルールを調べる またアレンジしたルールについても考えてくる
第12回	ソフトバレーボール(戦術の理解と実践)	(学修内容)ソフトバレーボールの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール(作戦と試合)	(学修内容)ソフトバレーボールの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義(体力テストのフィードバック)	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価し、自身の課題や改善点を明確にする (事前事後学修課題の内容)(60分) 生活習慣を振り返り、自身の課題や改善点などについて考えておく
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出  (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストの結果を検討、今後について課題や抱負などについて考察する

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1120
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義受講時と各種スポーツ実践時における気分と心拍数の変化を測定し、考察を加えレポートにまとめる。また、後半週には各種スポーツを実践する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 講義受講時と各種スポーツ実践時の気分と心拍数を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯に亘り実践する意義について理解する。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 (リーダーシップ )		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名		健康スポーツ科学 u a ・ u b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具
第2回	講義1:運動スポーツの継続法	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法の事例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	運動時の気分と心拍数の測定1:ウォーキングの基礎	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第4回	運動時の気分と心拍数の測定2:強制ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	運動時の気分と心拍数の測定3:快適自己ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	各種スポーツの実践1:からだのコントロール	(学修内容)縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第7回	各種スポーツの実践2:ボールを使ったからだのコントロール	(学修内容)ドッジボール (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第8回	バスケットボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを調べる
第9回	バスケットボール2:基礎スキルの実践	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第10回	バスケットボール3:基礎スキルの応用	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第11回	卓球1:基礎スキルの習得	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを調べる
第12回	卓球2:基礎スキルの実践	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第13回	卓球3:基礎スキルの応用	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第14回	講義2:運動前後の気分と心拍数データの評価	(学修内容)測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察

授 業 名	健康スポーツ科学 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1120
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	運動実践時にハートレートモニターを装着し、心拍数を測定する。測定結果から各運動の強度を調べ、運動の内容について検討を加えレポートにまとめる。各種スポーツの実践を通して日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について理解することができる。</p> <p>2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な運動強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解することができる。</p> <p>3) スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (リーダーシップ)				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。ウォーキング時は運動靴を使用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導</li> <li>・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師</li> <li>・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師</li> </ul>								

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 筆記用具
第2回	講義(運動とダイエット)	(学修内容)健康を維持増進するための運動 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布したプリントを読んでおく
第3回	有酸素運動の理論と実践	(学修内容)有酸素運動時(ウォーキング)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方や姿勢について調べる
第4回	有酸素運動と心拍数測定	(学修内容)有酸素運動時(エアロビックダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 正しい歩き方・動き方と適正強度を調べる
第5回	有酸素運動と運動強度	(学修内容)有酸素運動時(エアロビックダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正強度を調べる
第6回	有酸素運動と消費カロリーの計算	(学修内容)有酸素運動時(フィットネスダンス)の心拍数測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 適正強度を調べる
第7回	各種スポーツの実践(綱引き)	(学修内容)綱引きの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 綱引きの基本技術、戦術を調べる
第8回	各種スポーツの実践(大縄)	(学修内容)大縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 大縄跳びについて調べる
第9回	各種スポーツの実践(ドッジボール)	(学修内容)ドッジボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ドッジボールのルール、戦術を調べる
第10回	バスケットボール(基本技術の理論と実践)	(学修内容)バスケットボールの基本技術(ドリブル、パス、シュート)の習得 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの基本技術を調べる
第11回	バスケットボール(ゲームの基礎理論)	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第12回	バスケットボール(戦術の理解と実践)	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第13回	バスケットボール(作戦と試合)	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第14回	講義(健康と運動)	(学修内容)心拍数測定資料の整理、検討、健康と運動についての考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理、検討
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、自身の健康に対する考え方についての考察



授 業 名	人権と社会 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1106
英 文 名	Human Rights and Society			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本授業では、まず、差別と偏見の捉え方から始まり、ジェンダーの視点から、女性労働における人権の問題を中心に考察していくことを目指している。目に見える差別を観察し、その背後にある目に見えない心の闇や偏見を考えるにあたって、いくつかの研究成果を踏まえながら、現代の人権問題を考察していく。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、「自身の考え」を書く時間を設けます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 人権を視点に現代の女性労働の問題をとらえることができる。  2) 差別と偏見の問題を捉えることができる。  3) 日常生活の中で人権尊重の意識・態度を自己点検する姿勢を持つことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適宜資料を配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に関して、授業内、メールにて、評価基準の具体的な内容について解説します。								
留 意 事 項	覚える学びでなく調べ考える学びを重視する。積極的・主体的な学習参加を期待する(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授業名	人権と社会 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	人に備わる利他性	(学修内容)心理学以外の社会科学において「心」をどのように扱ってきたのか考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活において利他性があらわれているところを整理してみる。
第3回	差別と偏見 「行動」から「心」を探る	(学修内容)我々が普段行う選択と選好の問題に関して考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活において、選択と選好の問題を整理してみる。
第4回	差別と偏見 市場理論からの分析	(学修内容)市場理論から差別と偏見の問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常生活でみられる、差別と偏見の問題について整理してみる。
第5回	ジェンダーの視点について	(学修内容)ジェンダーの視点について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 女性問題に関して、どのような問題があげられるのか、新聞記事などから調べてみる。
第6回	グループワーク--女性問題に関する整理	(学修内容)グループワークで、女性問題に関して、どのような問題があげられるのか整理してみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなど整理してみる。
第7回	男女の行動の違いについて リスクの取り方に性差あり?	(学修内容)リスクの取り方の性差について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) リスクの取り方の性差に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第8回	男女の行動の違いについて 性差の刷り込みの影響	(学修内容)性差の刷り込みの影響について考察します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 性差の刷り込みの影響に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第9回	男女の行動の違いについて 社会環境が性差を生む?	(学修内容)社会環境により性差を生む側面について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 社会環境により生じる性差に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第10回	グループワーク 性差を超えた取り組みに関して考察する	(学修内容)これまでの内容をふまえ、グループワークで、人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなど、自分で整理してみる。
第11回	女性労働の問題 女性の社会進出の現状	(学修内容)国際比較をまじえて日本の女性の社会進出の現状について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 女性の社会進出に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第12回	女性労働の問題 女性労働の壁について	(学修内容)女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 出産や育児に関して、自分ならどう考えるのか、具体例をあげながら整理してみる。
第13回	女性労働の問題について 社会保障のありかた	(学修内容)女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 育児休暇の問題など、新聞記事などから、自分で整理してみる。
第14回	グループワーク:女性の労働参加に関して考察する	(学修内容)これまでの内容をふまえ、グループワークで、女性の労働参加において解決しなければならない問題を考察し、レポートとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループにおける意見の違いなどを整理してみる。
第15回	まとめ	(学修内容)本講義のポイント整理。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	日本語表現法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1108
英 文 名	Japanese Writing			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	大学での学びに必要なとなる基礎的な日本語表現の方法を学び、調査した内容や自分の考察などを文章にし、口頭で発表できるようにトレーニングを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本語の基礎的な知識、紹介文や意見文を書くことができる。 2) ディスカッションやディベートの方法を理解し、実践することができる。 3) 調査結果や考察をレポートにまとめ、口頭で発表することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改訂版』国書刊行会、2019								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	課題は適宜添削を行い、返却します。								
留 意 事 項	文章作成や口頭発表の原稿作成などを行います。教科書をベースに授業を進めていきますので必ず持参してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回到に提示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	日本語表現法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方、教科書の活用の仕方を理解する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第2回	紹介文(自分の好きなもの・こと) 文章表現	(学修内容) 敬体を用いて四段構成で紹介文を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマをいくつか出しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第3回	紹介文(自分の故郷) 文章表現	(学修内容) 客観表現・主観表現を使い分け、四段構成で紹介文を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 故郷についての下調べをしておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第4回	自己紹介 口頭発表	(学修内容) 紹介文をもとに発表原稿を作成し、数分の自己紹介スピーチをする (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 紹介文を読み直し、資料を整理しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第5回	本の紹介 口頭発表	(学修内容) 発表時間や聞き手の興味を喚起するようスピーチする  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 紹介したい本を何冊か準備しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第6回	賛成・反対の意見文 文章表現 論理展開	(学修内容) 対立項を意識した論理展開を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマを概観し、自分の意見をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第7回	図書館の活用と新聞記事の探し方	(学修内容) 図書館での資料の探し方やデータベースの使い方、新聞記事などの探し方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 自分の利用しやすい図書館の場所などを調べておく (事後) データベース等を活用し、課題に取り組む
第8回	新聞・雑誌記事の紹介 口頭発表	(学修内容) グループワークを通してスクリプトの作成および発表を行う  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 取り上げる新聞記事を読み、要点をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第9回	賛成・反対の意見文 文章表現 根拠の提示	(学修内容) 根拠を示しながら主張する意見文を作成する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 図書館などを活用し、関連する資料を集めておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第10回	意見の主張・ディスカッション 口頭発表	(学修内容) ディスカッションのルールを学び、議論を行い結果を発表する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて自分の意見をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第11回	変化を説明する文 文章表現 自己の変化	(学修内容) 時間軸を意識しながら五段構成で文章を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて考えておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第12回	変化を説明する文 文章表現 社会の変化	(学修内容) 社会の変化について調査した内容をふまえて文章にする  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて予備調査を行う (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第13回	ディベート 口頭発表	(学修内容) グループで意見をまとめ、ディベートマッチを行う  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) グループメンバーと文章を交換し読み合っておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第14回	対立項と時間軸のある文章 文章表現	(学修内容) 調査年度の異なる統計資料を読み、比較しながら文章をまとめる (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 対立項・時間軸を意識した文章について復習しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第15回	調査とプレゼンテーション 口頭発表	(学修内容) プレゼン資料をパワーポイントで作成し発表する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 調査の内容をまとめ、発表の準備をしておく (事後) チェック表を確認し、今後の課題を整理する

授業名	京都の歴史u			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1124
英文名	History of Kyoto			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	平安京の造営から近代まで、京都の町は大きく変化してきた。また、京都では古代から染織業が発展してきた。本講義では、絵画等の資料を用いて町の変化たどり、京都で培われてきた染織文化を概観する。さらに、フィールドワークを行うことにより京都の歴史についての理解を深める。								
学修成果到達目標	1. 京都の町の変化を理解することができる。 2. 京都の染織業について理解することができる。 3. 染織文化の歴史を理解することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	指定しない								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	京都の歴史 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 科目ガイダンス フィールドワークの説明 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	平安時代	(学修内容) 平安京の造営について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	平安時代の染織業	(学修内容) 平安時代の織物作りについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	中世から近世の町の変化：中世	(学修内容) 洛中洛外図屏風に見る京都の町について：室町時代 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	中世から近世の町の変化：近世	(学修内容) 洛中洛外図屏風に見る京都の町について：江戸時代 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	中世の織物業	(学修内容) 西陣機業の始まりについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	近世の織物業	(学修内容) 職人尽絵に見る染織業について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	近世の染織業と呉服商	(学修内容) 京都の町と染織業の発展について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	近世の染織文化	(学修内容) 近世の西陣織と能装束について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	近世京都の町の変化	(学修内容) 近世の絵画に見る京都の町 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	近代京都の町の変化	(学修内容) 近代の写真に見る京都の町の変化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	京都の近代化と博覧会	(学修内容) 京都の博覧会と染織品について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	染織業の近代化	(学修内容) 京都における染織業の近代化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第14回	近代京都の町の賑わい	(学修内容) 近代京都の商店の発展について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授 業 名	こころの科学 u			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1109
英 文 名	Mental Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小川 徳子			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説していきます。視聴覚資料や紙媒体の資料も使い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた知見を取り上げて紹介します。資料の内容を参考に、心の働きについて、自分なりに考えた内容や、ディスカッションを通して考えた内容をまとめるレポート課題を実施します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 心理学の基礎領域について、全体像を把握できている。 2) 心にはどのような働きがあるのか、理解できている。 3) 人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的な記述力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	心理学 心のはたらきを知る 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ)								
参 考 書	北尾 倫彦、中島 実、他(1997)グラフィック心理学 サイエンス社								
課題に対する フィードバック の方法	レポート課題となる発問をし、考えた内容を記述する時間をとった後、発問内容について解説します。								
留 意 事 項	毎回、授業時間内に提出を求めるショートレポートの課題を用意します。提示したテーマについて、自分の考えを記述する課題です。考えをまとめる前に、グループでの話し合う時間を取る場合もあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の開始前か終了後。								
実践的教育									

授業名	こころの科学 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学とは	(学修内容) 心理学の基礎領域 (事前事後学修課題の内容) (30分) 心の働きだと思いをリストアップしてみよう
第2回	感覚・知覚・認知	(学修内容) 情報を取り入れる働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 五感と心の関係とは? 説明してみよう
第3回	記憶(1): 記憶の種類	(学修内容) 「覚える」・「忘れる」働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶にはどんな種類がある? 考えておこう
第4回	記憶(2): 発達のな変化	(学修内容) 記憶の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶の何が変わると発達? 考えておこう
第5回	言語(1): 5種類の機能	(学修内容) 言葉の働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の働きとは何? 考えておこう
第6回	言語(2): 発達のな変化	(学修内容) 言葉の発達過程 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の習得に必要な力は? 考えておこう
第7回	思考(1): 思考の種類	(学修内容) 「考える」働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 「考える」とは何すること? 説明してみよう
第8回	思考(2): 発達のな変化	(学修内容) 思考の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	(学修内容) 学習と動機づけ (事前事後学修課題の内容) (30分) 人の行動を変える要因とは? 考えておこう
第10回	感情	(学修内容) 感情と他の心の働きの関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「感情」はどんな働き? 説明してみよう
第11回	知能	(学修内容) 知的な能力とはどのような能力なのか、知能検査について (事前事後学修課題の内容) (30分) 「知能」について説明してみよう
第12回	パーソナリティ	(学修内容) 個性の捉え方、性格検査について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分や友人の性格を説明してみよう
第13回	自己の認知	(学修内容) 自己概念の発達と対人関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分を知る手がかりとは? 考えておこう
第14回	社会的認知	(学修内容) 他者の捉え方とそれに影響する要因 (事前事後学修課題の内容) (30分) どんなことが他者の印象を左右しているのか、考えてみよう
第15回	社会的行動	(学修内容) 他者の存在が個人に及ぼす影響、集団の認知 (事前事後学修課題の内容) (30分) 集団で行動する時の傾向とは? 考えておこう



授 業 名	自然科学 (生物)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1121
英 文 名	Natural Science I (Biology)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	この講義では、生命活動の構造の単位である細胞、その活動である代謝および体内環境の維持など生物に関する基礎的知識について学ぶことにより、生体について深く理解していく。授業はレクチャーを行った後、理解を深めるため少人数のグループワークを行いながら進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生物に関する基礎的事項について理解できる 2) 日常生活における生命科学における情報を理解できる 3) 生きていることについて考えることができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	《基礎固め》生物、松村瑛子 安田正秀 著、化学同人								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点して返却する。返却時解説を行う。								
留 意 事 項	高校生物を履修していない者を対象とし、今後の学びの土台となるように講義を進めていく								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	自然科学（生物）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)生物学を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく
第2回	細胞および生体の構造と機能	(学修内容)細胞の種類、組織と器官について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P1-10を読んでおく
第3回	細胞を構成している成分:タンパク質 脂質	(学修内容)タンパク質と脂質について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P15-24を読んでおく
第4回	細胞を構成している成分:糖質 核酸	(学修内容)糖質、核酸について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p25-33を読んでおく 前回までの復習をして小テストに備える
第5回	生体内の化学反応	(学修内容)酵素などについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P35-39を読んでおく
第6回	遺伝とは	(学修内容)遺伝の決まりについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p53-58を読んでおく
第7回	遺伝:タンパク質の合成	(学修内容)DNAの複製、タンパク質の合成について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p59-69を読んでおく
第8回	発生と分化:細胞分裂	(学修内容)細胞分裂などについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p194-205を読んでおく
第9回	発生と分化:受精	(学修内容)受精について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p83-88を読んでおく
第10回	発生と分化:しくみ	(学修内容)発生の過程、しくみについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p88-100を読んでおく 前回までの復習をして小テストに備える
第11回	恒常性の維持:自律神経系	(学修内容)自律神経系の関与について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p101-106を読んでおく
第12回	恒常性の維持:内分泌系	(学修内容)内分泌系(ホルモン)などについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p106-111を読んでおく
第13回	生体防御機構:免疫	(学修内容)免疫について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p113-118を読んでおく
第14回	生体防御機構:免疫と疾患	(学修内容)免疫と疾患について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p118-122を読んでおく
第15回	ポストゲノム	(学修内容)21世紀に発展が期待される分野について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p123-129を読んでおく 全体のまとめをしておく

授 業 名	自然科学 (化学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1110
英 文 名	Natural Science II (Chemistry)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	化学は自然科学の基礎であり、化学の基礎的な知識を修得することによって、関連する生化学、栄養学、食品学等の科目の学習が容易になる。本講義では高校の化学の復習を主とした内容とし、レクチャーを行った後、理解を深めるため少人数のグループワークを行いながら進めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 化学の基礎的事項について理解できる。 2) 溶液の性質を理解できる。 3) 溶液やモル濃度など実験に必要な具体的な計算ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル、小野廣紀 日比野久美子 吉澤みな子 著、化学同人								
参 考 書	授業中に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	確認テスト後に解答の解説を行っていく。								
留 意 事 項	計算力をつけるように、常に暗算で計算をするようにするとよい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	自然科学（化学）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 元素記号、周期表	(学修内容) これからの学びに必要な化学とは 元素、単体、同素体、化合物、周期表 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書p10、p48-49を読んでおく
第2回	原子	(学修内容) 原子の構造、電子軌道 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p33-34、p37-38を読んでおく
第3回	分子とイオン	(学修内容) 分子、イオン、イオン式、組成式 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p42-44を読んでおく
第4回	化学結合：イオン結合 金属結合	(学修内容) 化学結合の種類 イオン結合、金属結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p53-58を読んでおく
第5回	化学結合：共有結合 配位結合	(学修内容) 化学結合の種類 共有結合、配位結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p41-42を読んでおく
第6回	分子の極性と分子間にはたらく力	(学修内容) 結合の極性、水素結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p67-69を読んでおく
第7回	化学量と物質質量	(学修内容) 質量数、原子量、分子量、アボガドロ数とモル数 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p72-75を読んでおく
第8回	物質の状態変化	(学修内容) 固体、液体、気体 溶液ができる仕組み、濃度 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p79-80、p85、p134-135を読んでおく
第9回	物質の化学変化	(学修内容) 化学変化を表す化学反応式 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p85-87を読んでおく
第10回	酸と塩基	(学修内容) 酸性 アルカリ性 アレニウスの定義、ブレンステッド・ローリーの定義 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p89-91を読んでおく
第11回	水素イオン濃度とpH	(学修内容) 水の電離、水素イオン指数pH、水溶液の水素イオン濃度 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p94-95を読んでおく
第12回	中和反応	(学修内容) 中和反応、中和滴定 (事前事後学修課題の内容) (380分) 教科書p98を読んでおく
第13回	酸化と還元	(学修内容) 酸化と還元の意味、酸化数、酸化剤と還元剤 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p101-103を読んでおく
第14回	酸化還元反応	(学修内容) 酸化還元反応 電子の動き (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の演習プリントを用いて復習する
第15回	試薬の調整方法 まとめ	(学修内容) 試薬調整方法 濃度 希釈 自然科学（化学）の講義内容のまとめと演習 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの講義内容についてまとめておく

授 業 名	くらしと法律（日本国憲法）			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1122
英 文 名	Law and Our living (The Constitution of Japan)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小松 郁夫			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>近年、日本国憲法に関する注目・関心が高まっています。選挙権年齢も18歳に引き下げられました。本講義では、小・中          学校や高等学校などでの憲法学習で得られた知識をもとに、より体系的に日本国憲法の全体像を理解することを目的とし          ています。特に、私たちの人権保障をめぐる問題を中心に、あらためて憲法の意義や役割について受講者全員で考え直し          てみたいと思います。          なお、内容の理解を深めるために、ビデオを見たり、受講者同士で話し合い、適宜、発言等も行ってもらえるよう配慮し          たいと考えています。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 日本国憲法の意義や内容について、私たちの身のまわりの生活と結びつけて理解できる。          2) 自由・平等に関する諸問題について、人権保障の現状と課題を理解することができる。          3) 国家と個人との関係に着目し、民主主義社会における市民としての責務を自覚することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>木山泰嗣監修『マンガでわかる日本国憲法』（池田書店、2014年） *詳細については、参考文献のこととあわせて初回          に説明します。</p>								
参 考 書	<p>長瀬他編著『これから始める「憲法学習」の授業』（ミネルヴァ書房、2019年）、吉田仁美・渡辺暁彦編『憲法判例ク          ロニクル』（ナカニシヤ出版、2016年）、吉田仁美編『スタート憲法』（成文堂、2020年）、山崎聡一郎著『こども六法』          （弘文堂、2019年）、その他、適宜授業中に指示します。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>理解度確認のための小テスト等については、授業時に解説・コメントを行います。</p>								
留 意 事 項	<p>日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを心がけて下さい。適宜、講義のなかでそれについて発言・コメントを求めます。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施します。</p>								
実 践 的 教 育									

授業名	くらしと法律（日本国憲法）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ～法とは何か、そして憲法とは？～	（学修内容）授業概要の説明、社会規範としての法、法の体系、憲法の意味などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、シラバス及びテキストの目次、プロローグに目を通しておくこと。
第2回	今の憲法ができるまで、比較のなかの日本国憲法	（学修内容）憲法の歴史、諸外国の憲法との比較、最高法規としての憲法の重要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、憲法に関連する新聞記事の切り抜きを読み、私たちの日常生活と憲法の関係等について考える。
第3回	日本国憲法の前文を読む。天皇の位置と役割などについて学ぶ	（学修内容）日本国憲法の前文を読み、憲法の意義及び目的について学ぶ。PART2の天皇制についての記述を学び、その意義と課題を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習・復習としてとして、PART1「前文」とPART2「天皇」を読み、憲法の基本コンセプトを理解する。
第4回	人権とは何かを考える	（学修内容）人権の観念、権利と義務、私人間効力をめぐる問題などについて学ぶ。「幸福追求権」などについて、身近なテーマから具体的に考えてみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、PART4「人権」を読み、どのような内容が含まれるかなどについてまとめておくこと。
第5回	人権は誰のもの？ ～基本的人権の保障内容と課題～	（学修内容）そもそも「基本的人権」には、どのような内容が構造的に含まれているかなどを考え、その意義と課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習・復習として、テキストPART4および配布資料などに目を通しておくこと。
第6回	人権保障の現在（1）幸福追求権、自己決定権、プライバシー	（学修内容）個人の尊重と公共の福祉、幸福追求権について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習・復習として、テキストPART4および配布資料などに目を通しておくこと。
第7回	人権保障の現在（2）法の下での平等	（学修内容）男女平等をめぐる問題などを中心に、私たちの社会のなかの「自由」「平等」について学ぶ。グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、私たちの普段の生活のなかで「これは平等に反するのではないか」と考えたことについてまとめておくこと。
第8回	人権保障の現在（3）精神的自由	（学修内容）表現の自由の現代的意義について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習・復習として、テキストPART4および配布資料などに目を通しておくこと。
第9回	人権保障の現在（4）経済的自由	（学修内容）経済的自由と様々な規制のあり方について学ぶ。特に最近のグローバルな経済活動の変貌について学び、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習・復習として、テキストPART4および配布資料などに目を通しておくこと。（30分）
第10回	人権保障の現在（5）社会権	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、社会権の保障について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、テキストPART4および教育基本法の内容に目を通しておくこと。
第11回	憲法第9条「戦争放棄」と平和主義の意義と課題	（学修内容）憲法第9条の内容と我が国及び世界を取ります現状について学び、その意義と課題を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習・復習として、テキストPART3に目を通しておくこと。世界の国防・防衛問題に関する話題を調べてまとめること。
第12回	民主政治のしくみ（1）国会	（学修内容）国会の地位と構成、国会の権能などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、テキストPART5「統治」の「国会」に目を通しておくこと。
第13回	民主政治のしくみ（2）内閣	（学修内容）内閣の組織、議院内閣制、行政の民主的コントロールなどについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキストPART5「統治」の「内閣」に目を通しておくこと。
第14回	民主政治のしくみ（3）裁判所	（学修内容）裁判所の役割、裁判員制度について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、テキストPART5「統治」の「裁判所」に目を通しておくこと。
第15回	まとめ ～憲法改正論議と私たち～	（学修内容）昨今の憲法改正論に言及しながら、いま日本国憲法を学ぶ意味について考える。 （事前事後学修課題の内容）（80分） 予習として、現段階で公表されている憲法改正論議の資料や案を参考に「いま、なぜ憲法を学ぶのか」について考えをまとめる。

授 業 名	社会学概論			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1111
英 文 名	Introduction to Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか?」という日常生活の身近な問題を出発点として、映像資料を用いながら、次のように授業を進めていきます。まず、人の中で生じる相互作用についての考察から初めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えていきます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができる。 2) 人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができる。 3) 自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して解説します。								
留 意 事 項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニッツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	社会学概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	現代の社会問題について	(学修内容) 人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してください。
第3回	人間の相互作用について	(学修内容) 日常生活における分析に適用・応用できる人の間で生じる相互作用のありかたの類型について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください。
第4回	相互作用の類型について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、映像資料を通じて、人間の感情の動きを考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常における自分の人間関係を分析し、整理してみてください。
第5回	人間関係の変化について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える人間関係を分析してみてください。
第6回	人間の絆について	(学修内容) 現代の社会において「人間の絆」はどのように捉えられるのかについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の周りに存在する「人間の絆」について整理してみてください。
第7回	グループワーク：人間の絆についての分析	(学修内容) グループワークで、家庭、学校、サークル・クラブ、バイト先などにおける人間の絆の強さのありかたを整理し、レポートとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークをふまえた上で、日常生活における「人間の絆」について、その純粋性とは何かを考察してみてください。
第8回	人間の絆とは何か	(学修内容) 「人間の絆について」を踏まえた上で、「純粋な人間関係」について考察を進めて行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第9回	組織と個人について	(学修内容) 人間は、どのようにすれば「一致団結=まとまる」ことができるのか。ここでは「組織」を捉える枠組みについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が、これまで所属している・してきた組織(クラブなど)は、どのように運営されていたのか、整理してみてください。
第10回	グループワーク：組織と個人の関係の分析	(学修内容) グループワークで、組織に関する分析組みを用いて、家庭、学校、バイト先などの組織を分析してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループにおいて、異なった意見などを整理してみる。
第11回	組織と個人の関係とは	(学修内容) クラブ活動などの経験を事例に、人間は、どうすれば、一致団結し、まとまるのか、を考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「組織と個人のありかた」について分析してみてください。
第12回	グローバル化について	(学修内容) グローバル化の進展により、どのような社会問題が生じているのか、説明して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食や衣服など、自分の身の周りの商品が、どこで作られているのか、注意深く観察してみてください。
第13回	グローバル化の現状	(学修内容) グローバル化が進展していく中で、必要となる異文化の理解について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「グローバル化」という現象を分析してみてください。
第14回	日常生活を振り返って - コミュニケーション	(学修内容) 日常における他者との関係において自己を表現する問題、他者の存在を理解しようとする動き、そのなかで生じる相互作用について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第15回	グループワーク：コミュニケーションについて考察する	(学修内容) グループワークで、仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーの各々の役割を考察し、レポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。



授 業 名	消費者教育			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1123
英 文 名	Consumer Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大谷 和 海			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授 業 の 概 要	<p>消費者教育は、2012年の「消費者教育の推進に関する法律」が制定されて以来、その在り方も変化しつつあります。ところで、私たちの多くは労働者として働いて賃金収入を得て、それを貯蓄や支出に利用しています。支出の多くは生活に必要な商品やサービスの購入にあてています。</p> <p>しかし、仮に高収入を得ても、商品等の価値が分からなかったり、騙されたりしては商品等の購入に使ったお金の値打ちを減少させることになりかねません。そこで、消費生活に関わる知識を習得し、これを適切な行動に結びつける実践的能力の育成や、主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与できる資質を育むことが重要になっています。本講座では消費者教育の意義と課題について考えつつ、具体的な事例を通して、消費者教育についての理解を深め、その力量を形成することを目指します。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要を理解することができる。</p> <p>2) 自らが、賢い消費者として、日常生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考えることができ、また行動することができる。</p> <p>3) 現代の消費生活の特徴や消費者問題を理解し、その事象や原因について説明することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (授業での質疑応答による理解力と回答力)			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	神山久美・中村年春・細川幸一編著『新しい消費者教育』慶應義塾大学出版会。								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝える。								
留 意 事 項	消費者教育に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身に付けてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		消費者教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス：新しい消費者教育の推進に向けて	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第2回	消費者教育とはー理念と目的(第1章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第3回	消費者教育の歴史と体系(第2章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第4回	経済社会の発展と消費者問題の発生(第3章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第5回	消費者政策の展開(第4章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第6回	国・地方の消費者行政(第5章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第7回	商品の安全性(第6章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第8回	契約と消費者トラブル(第7章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第9回	生活設計(第8章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第10回	消費者信用(第9章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第11回	情報化社会と消費者(第10章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第12回	幼児期・小学生期(第11章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第13回	中学生期・高校生期(第12章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第14回	成人期(若者・成人一般・高齢者)(第13章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	
第15回	消費者市民社会の構築に向けて(第14章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。	

授 業 名	ジェンダー論 u			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2127
英 文 名	Gender Studies			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ジェンダーとは何かについて理解することができる。  2) 現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。  3) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門 第3版』伊藤公雄ほか（有斐閣アルマ）								
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著（有斐閣）、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）ほか、随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。								
留 意 事 項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行き、受講者は授業への積極的な参加が求められます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> 教員の業務経験など：大阪市立高校教諭（家庭科・保健科） 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名	ジェンダー論u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	セックスとジェンダーの違い	(学修内容) 概念説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	(学修内容) 男らしさ、女らしさについて考える(グループワーク含む)。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第3回	男女二分法について	(学修内容) 二つに分けることはどういうことを学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の講義について復習すること。
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(学修内容) 性の複数の次元について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第5回	性における多様性：性の少数派	(学修内容) 性の少数派について理解する。ビデオ学習し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第6回	文化とジェンダー	(学修内容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第7回	幼児期の性の社会化	(学修内容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第8回	シンデレラとジェンダー	(学修内容) 映像を分析する(グループワークを含む)。  (事前事後学修課題の内容) (30分) グリム童話について調べておくこと。
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(学修内容) メディアが与える影響について考える(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題レポートを作成しておくこと。
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(学修内容) 隠れたカリキュラムについて理解する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業内容をまとめておくこと。
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(学修内容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える(グループワーク、ディスカッションを含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第12回	デートDVとジェンダー	(学修内容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) DVとは何か調べておく。
第13回	子育てとジェンダー	(学修内容) 家庭における子育ての実態について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第14回	子育てにおけるジェンダー問題	(学修内容) ジェンダーの視点からみた子育ての課題について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーの視点からみて、子育てにはどのような問題があるか調べておく。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 疑問点をまとめておくこと。

授業名	国際理解			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1112
英文名	International Understanding			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	朝田 郁			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>国際理解とは世界について知ることです。1) 私たちの暮らしは、様々な形で世界とつながっており、相互に影響を与え合う関係にあります。2) それぞれの国は社会的・文化的な多様性を持ち、それが時として誤解や対立を生むことがあります。3) その一方で、すべての人々の未来に関わる地球的な課題が、国や地域の違いを越えて議論されるようになっていきます。この授業では、これら3つの視点から世界について学ぶことで、グローバル化が進む現代社会を生きるために必要な、知識と思考力を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業の中で1人1回のプレゼンテーションの機会を設けます。受講生が多数の場合は、プレゼンテーションに代えてグループワークを実施します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 私たちの暮らしと世界のつながりについて、身近な事例から考えられる。  2) 世界の国々の社会的・文化的多様性を知り、それらの違いを尊重できる。  3) 地球規模の課題や問題について理解し、自分の行動と生き方に活かせる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	指定はありません。講師が用意したパワーポイント資料で授業を進めます。								
参考書	必要に応じて適宜ご紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	各回の最後に理解度テストを実施します。解答の説明は、次回の最初におこないます。								
留意事項	前提知識は必要ありません。基本的なことから順番にお話しします。新鮮な気持ちで臨んでください。講義内容をより多いものにするため、受講生のみなさんの積極的な授業参加を期待します。								
オフィスアワー	授業終了後に時間を設けます。								
実践的教育									

授 業 名		国際理解
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：なぜ国際理解か	(学修内容) 講義全体の進め方・授業内容についてのガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) グローバル化はどのような現象か、自分が持つイメージをまとめてみる
第2回	多様性と異文化理解(1)：アジア	(学修内容) 私たちの隣人たち・生活様式の多様性と日本との結び付き (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本社会に暮らす外国人に、どこの国の出身者が多いか調べてみる
第3回	多様性と異文化理解(2)：アフリカ・中東	(学修内容) 生態環境と人々の暮らし・経済成長と資源の呪い (事前事後学修課題の内容) (30分) アフリカと中東地域が、どのような気候帯に属しているか調べてみる
第4回	多様性と異文化理解(3)：ヨーロッパ	(学修内容) 近代のモデルとして・地域統合と地域主義のはざま (事前事後学修課題の内容) (30分) イギリスがなぜEU離脱を選択したか、関連するニュースを読んでみる
第5回	多様性と異文化理解(4)：北アメリカ	(学修内容) 移民国家の成り立ち・人種のつぼとサラダボール (事前事後学修課題の内容) (30分) アメリカやカナダの「聖域都市」が、なぜそう呼ばれるのか調べてみる
第6回	多様性と異文化理解(5)：南アメリカ・オセアニア	(学修内容) 移民と混血の歴史・民族的マイノリティの声 (事前事後学修課題の内容) (30分) ブラジルやペルーに、なぜ日系人が多く暮らしているのか調べてみる
第7回	グローバル社会と相互依存関係(1)：グローバル化のとらえかた	(学修内容) コンビニとファストフードから考えるグローバル社会 (事前事後学修課題の内容) (30分) マクドナルドとスターバックスが、世界の何カ国にあるか調べてみる
第8回	グローバル社会と相互依存関係(2)：グローバルヒストリーという視点	(学修内容) 国境にとられない歴史とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 中国のベストが、なぜ14世紀のヨーロッパに広まったのか調べてみる
第9回	グローバル社会と相互依存関係(3)：世界宗教のダイナミクス	(学修内容) 社会システムとしての宗教のありかた (事前事後学修課題の内容) (30分) キリスト教とイスラームの信者が、世界のどこに多いのか調べてみる
第10回	グローバル社会と相互依存関係(4)：世界経済と国際政治	(学修内容) 世界システム論・パワーゲームと勢力均衡 (事前事後学修課題の内容) (30分) 中国の「一帯一路」構想が、世界のどこを対象とするのか調べてみる
第11回	地球的課題とSDGs(1)：人間らしさとは	(学修内容) 人権の尊重・平等性・教育と健康的な暮らし (事前事後学修課題の内容) (30分) 「国際貧困ライン」で暮らす人々が、世界人口の何%なのか調べてみる
第12回	地球的課題とSDGs(2)：豊かさのために	(学修内容) 経済成長とイノベーション・自然との調和 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本において、1人が1日に使う水の量が何リットルなのか調べてみる
第13回	地球的課題とSDGs(3)：地球環境を守る	(学修内容) エネルギーと気候変動・生物多様性と環境保全 (事前事後学修課題の内容) (30分) 平安時代の日本の平均気温が、現在と比べてどうだったのか調べてみる
第14回	地球的課題とSDGs(4)：平和とパートナーシップ	(学修内容) 争いのない世界の実現・グローバルな協働 (事前事後学修課題の内容) (30分) 2018年のノーベル平和賞の受賞者が誰か、理由も合わせて調べてみる
第15回	国際理解のために：授業のまとめ	(学修内容) 世界をどのように見るか・私たちの暮らしと未来 (事前事後学修課題の内容) (30分) 講義を振り返り、自分のライフスタイルにどう活かせるか考えてみる

授 業 名	産官学連携実践 u a ・ u b			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1113
英 文 名	Practice of society cooperation			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>大学生として学ぶ意味と実社会との結びつきを実感し、大学生としてのキャリア形成のスタートを図る。地域の企業や学校への関心を涵養し、進路選択の選択肢としての視野を広げることを意識する。具体的には事前学習を行い、実践体験先である企業や学校の現場に入り、多様な価値観が存在することに気づき、「仕事とは何か」「働くこととは何か」を考察できることをねらいとする。また、実践体験からの気づきと課題などを整理し、社会の担い手として貢献できる姿勢を身につける。この授業は、グループワークを行いながら授業を進めるので積極的に参加してほしい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 社会に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。  2) 社会人に必要な基礎的なマナーを身に付けることができる。  3) 自己覚知ができる。  4) 進路や今後の目標を意識することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	稲本恵子、白井弘子、吉浦昌子『社会人基礎力』 晃洋書房								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	<p>実習前レポート、オリエンテーション後レポート、実習後レポートの3点については、個別面談を通して確認し、本人へ返却を行う。  シラバスで課している事前事後学習で行う内容については、随時確認を行う。</p>								
留 意 事 項	<p>本授業は、学びと実社会のつながりを認識しながら、学びを深めるという目的から、意欲のある学生の受講を求める。大学での事前授業・事後授業に加えて、スクールボランティアやインターンシップに主体的に参加することが単位の条件となる。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は、1回目の授業で広報を行う。								
実践的教育									

授 業 名		産官学連携実践 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 産官学連携実践を受講する意義と目的を理解する この授業の流れを理解する	(学修内容) 授業の計画・内容・注意事項等、シラバスをたどりながら産官学連携実践の意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでおく。 事後 1分間自己紹介ができるように考えておく。	
第2回	自己覚知1 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションを理解する。	(学修内容) 自己紹介を行い、非言語コミュニケーションが人に与える影響を考える。非言語コミュニケーションの知識を深め自己の姿勢や態度に気づく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 1分間自己紹介ができるように考えておく。 事後 振り返りレポートを書き、3回目の授業に提出する。	
第3回	自己覚知2 他者からの自分に気づく グループで行う作業を通し、自己覚知を行う	(学修内容) グループワークを通して、グループ内の自分の役割等に気づき、自己覚知を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 2回目の振り返りレポートを書く。 事後 テキストp4~8を読み、他者へ説明できるようにする。	
第4回	産官学連携実践 との合同授業 インターンシップ、ボランティアの経験を聞き、 産官学連携実践に臨む姿勢をつくる	(学修内容) 産官学連携実践を学修した学生と合同で授業を行い、その学生の学びを共有する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキストp4~8を読み、他者へ説明できるようにする。 事後 今日の授業での学びをレポートにまとめる。(5回目提出)	
第5回	実践体験に向けた目的の設定 社会人基礎力について理解する。 インターンシップの実践の目的・目標を明確にする	(学修内容) 社会人基礎力を理解するために、教える側にとって他者へ説明する。初年次教育で行う「目標」について理解する。ブログ結果必要。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 インターンシップ先を選定しておく。 事後 テキストp61~68を読み、必要と思われるところに印をつける。	
第6回	社会人としてのマナーの基本1 インターンシップへ行くうえで必要な心構えやマナーについてについて演習を通して理解する	(学修内容) 事前の連絡・事前の訪問・挨拶・打ち合わせ等の心構えを学び、自己紹介・挨拶の仕方等の演習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp61~68を読み、必要と思われるところに印をつける。 事後 配布プリントを読み、考えをまとめる	
第7回	社会人としてのマナーの基本2 守秘義務違反と個人情報の取り扱いを事例を通して理解する	(学修内容) どんなことが守秘義務違反と個人情報の取り扱いに違反するのかについてグループワークをしながら考えをまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布プリントを読み、考えをまとめる 事後 テキスト72~79を読み、お礼状を書く。(封筒に入れ封をする)	
第8回	社会人としてのマナーの基本3 文章の基本的な書き方(お礼状、メール等)を修得する	(学修内容) 自分の書いてきたお礼状を友達と添削しあい基本的な手紙の書きかたを修得する。インターンシップに必要な書類を配布。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 テキスト72~79を読み、お礼状を書く。(封筒に入れ封をする) 事後 自分が実践する対象の到達目標とその方法を作成する。	
第9回	インターンシップの目標指導と、事前レポートの作成	(学修内容) 事前レポートに目標等を記入し、個別で面談を行う。 Gメールを通してアポイントをとること。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 事前レポートに記載しアポイントをとる 事後 オリエンテーションのアポイントをとり訪問する	
第10回	企業・学校の現場を知る 1	(学修内容) 現場での実践。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く	
第11回	企業・学校の現場を知る 2	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く	
第12回	企業・学校の現場を知る 3	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く	
第13回	企業・学校の現場を知る 4	(学修内容) 現場での実践 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践記録を書く	
第14回	実践を修了後のレポート作成 現段階での進捗状況の確認	(学修内容) 現段階での進捗状況を確認する。実践体験が終了した学生は事後レポートに気づきと課題などを整理し、今後の目標を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 提出書類をまとめておく。 事後: 事後レポートを完成させる。	
第15回	まとめ 事後レポートを完成させる 定期試験にむけての指導	(学修内容) 事後レポートを完成させ、教員にアポイントをとり自身の言葉で発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 事後レポートを完成させる。	



授業名	産官学連携実践 u a ・ u b			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE2126
英文名	Practice of society cooperation			開講時期	春・秋学期	必修選択	選択		
担当者	野田 隆生			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	<p>本講では、基本となるテキストに基づき、自らキャリアを形成したいという意欲を高めるために、他者とのコミュニケーションを通じて多様な価値観を取り込みながら「社会人」として必要な資質・技能を修得していくことを目的とします。また、すでに体験している一般企業でのインターンシップ、幼稚園、保育所、社会福祉施設でのボランティア、スクールボランティアでの実践体験をふりかえり、各自がプレゼンテーションを通して気づいたことを、共有しながら、社会人として必要とされる基本的な能力を身につけていきます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 自主的・主体的に行動する力を習得する。  2) 課題を発見し、解決に向け提案する力を修得する。  3) わかりやすく書くこと・話すことができる自己表現力を身につける。  4) 他者と力を合わせて取り組むことのできるチームワーク力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	稲本恵子・白井弘子・吉浦昌子著『社会人基礎力 大学生の社会人準備講座』晃洋書房								
参考書	山崎紅『求められる人材になるための社会人基礎力講座（第2版）』日経BP 木下直子・木山三佳・徳田恵『学生のコミュニケーション・スキルの学び グローバル社会を生きるためのレッスン』実教出版 松浦照子編『実践日本語表現』ナカニシヤ出版 その他、随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題については、適宜コメントを行う。								
留意事項	1) 学生のみなさんの自主的・主体的活動を理論と実践の両側面から支援するための講座です。 2) ボランティアやインターンシップの場を自ら開拓し、準備を入念に行う姿勢が大切です。 3) スクールボランティアや福祉施設でのボランティア、企業でのインターンシップなどへの積極的な参加を求めます。								
オフィスアワー	講義初回時にお知らせします。 基本的には研究室（1R 404）に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	産官学連携実践 ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ～「産官学連携実践」であることの意識～	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明し、「」であることを意識しながら今後の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 「」をふりかえり、自らの進路・就職イメージについて考えておく。 テキスト第1、2、3章を読んでおくこと。
第2回	インターンシップならびにボランティアの意義	(学修内容)各自が「」において実践したインターンシップもしくはボランティアについてグループワークを通してふりかえりを行う。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4、5、6章を読み、インターンシップもしくはボランティアでの体験についてまとめておくこと。
第3回	プレゼンテーション ～「」のふりかえりと個人発表に向けて～	(学修内容)自身が気づき、学んできたものは何かを言語表現で明らかにするために、個人発表に向けた資料を作成していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第7章を熟読し、発表に向けて必要とされる要素について調べておくこと。
第4回	プレゼンテーション ～個人発表ならびにコメントシート～	(学修内容)個人発表を行う。質疑応答も含めて、一人当たり13分を予定している。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 発表に際し、レジュメとスライド(PPT)を準備すること。
第5回	次期社会実践に向けて	(学修内容)次のインターンシップもしくはボランティアに向けて目的や意義について個別ワークを通して深めていく。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 「」に関連する資料等を再度見直しておくこと。 テキスト第8、9章を読んでおくこと。
第6回	企業でのインターンシップ ～食品・販売系～	(学修内容)食品・販売系の企業でのインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) インターンシップに向けた事前準備を行う。
第7回	企業でのインターンシップ ～商社・総合職系～	(学修内容)商社での受付や総合職系のインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) インターンシップに向けた事前準備を行う。
第8回	学校でのボランティア ～小学校・中学校・高等学校～	(学修内容)学校関係でのボランティアもしくはインターンシップに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) スクールボランティアに向けた事前準備を行う。
第9回	保育所・幼稚園でのボランティア	(学修内容)保育所や幼稚園でのボランティアに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ボランティアに向けた事前準備を行う。
第10回	福祉施設でのボランティア	(学修内容)障害者・高齢者の施設でのボランティアに係る心得と準備について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ボランティアに向けた事前準備を行う。
第11回	ボランティア・インターンシップにおける守秘義務	(学修内容)個人情報・企業情報の機密性と倫理性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定された文献を読んでおくこと。
第12回	事後レポートの作成	(学修内容)実習活動をふりかえり、事後レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習活動時の資料等をまとめておく。
第13回	実習活動報告用の資料作成	(学修内容)収集した資料を整理し、プレゼンテーションに向けた準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習活動時の資料等をまとめておく。
第14回	プレゼンテーション ～実習活動報告～	(学修内容)事後レポートに基づきながら、実習活動のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習活動での内容に基づきながら、報告資料を作成する。
第15回	おわりに ～実践活動報告への総評と今後に向けて～	(学修内容)産官学連携実践に関して教員より総評ならびに今後に向けたメッセージを送る。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 授業評価を含め、本講に関してどのような意見を持っているのかをまとめておくこと。

授 業 名	ライフステージ栄養学			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3443
英 文 名	Nutrition of Life			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養4回生				
授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的変化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養状態の評価・判定について理解できる。 2) ライフステージ各期の栄養および食事に関する諸問題について理解できる。 3) 加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 思考・判断力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	カレント 応用栄養学 辻 悦子 編（建帛社）								
参 考 書	日本人の食事摂取基準（2020年版） 管理栄養士必携 2020年度 日本栄養士会編								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明します。								
留 意 事 項	・学習項目に沿い予習をしておくこと。学んだ内容につき復習すること。 ・専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。								

授 業 名		ライフステージ栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	1、オリエンテーション 栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の理解	(学修内容) 1、授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、食事摂取基準の基礎について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスと教科書を予習しておくこと。	
第2回	2、成長・発達・加齢の概念と栄養	(学修内容) 2、誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達・加齢における影響と栄養について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第3回	3、妊娠期の栄養	(学修内容) 3、妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第4回	4、授乳期の栄養	(学修内容) 4、授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第5回	5、新生児期の栄養	(学修内容) 5、新生児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第6回	6、乳児期・離乳期の栄養	(学修内容) 6、乳児期及び離乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第7回	7、幼児期の栄養	(学修内容) 7、幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第8回	8、学童期の栄養	(学修内容) 8、学童期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第9回	9、思春期の栄養	(学修内容) 9、思春期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第10回	10、成人期の栄養	(学修内容) 10、成人期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第11回	11、更年期の栄養	(学修内容) 11、更年期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第12回	12、高齢期の栄養	(学修内容) 12、高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第13回	13、運動・スポーツと栄養	(学修内容) 13、運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第14回	14、環境と栄養	(学修内容) 14、ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。	
第15回	15、まとめと評価(到達度の確認)	(学修内容) 15、まとめと総合評価 (グループワークでまとめを発表する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 全体の復習をしておくこと。	

授業名	中国語 U			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	GE2125
英文名	Chinese			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) 正確な中国語の発音ができる。 2) 基本的な単語や文法が理解できる。 3) 自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『初級テキスト カンフー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年)								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	中国語 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「発音」(声調、単母音)	(学修内容)講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」(子音、複母音)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「発音」(声調変化、よく使う表現 など)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	「第一課」(人称代名詞、疑問文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第3回」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第二課」(いろいろな動詞、語気助詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	復習 「第一課」「第二課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第一課」「第二課」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	「第三課」(形容詞述語文、疑問詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第6回」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第四課」(数詞、量詞 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	復習 「第三課」「第四課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第三課」「第四課」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	「第五課」(方位詞、存在を表す“在” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第9回」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第六課」(時間の言い方、連動文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	復習 「第五課」「第六課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第五課」「第六課」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	「第七課」(完了、変化“了” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第12回」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「発音」から「第7課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容)今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。

授業名	中国語 u			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	GE2128
英文名	Chinese			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生				
授業の概要	本授業では「中国語 u」の学習成果をふまえ、引き続き中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) より正確な中国語の発音ができる。 2) より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 3) 自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年) 「中国語 u」で購入したテキストを継続して使用								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	中国語 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「中国語 u」の復習	(学修内容) 講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「中国語 u」で学習した部分の復習。次回内容に関する予習。
第2回	「第八課」(助動詞、“会”“能”“可以”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「第九課」(進行“正在~?”、持続“~着”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	復習 「第八課」「第九課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第八課」「第九課」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第十課」(補語 結果補語、比較 A“比”B~ など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	「第十一課」(“是~的”構文、二重目的語 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第5回」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	復習 「第十課」「第十一課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十課」「第十一課」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第十二課」(補語 方向補語“来”“去”、“把”処置式の文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	「第十三課」(主述述語文、存現文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8回」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	復習 「第十二課」「第十三課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十二課」「第十三課」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第十四課」(受身、使役 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	「第十五課」(複文、動詞A+也+動詞A+可能補語の否定形 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第11回」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	復習 「第十四課」「第十五課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十四課」「第十五課」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8課」から「第15課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容) 今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。



授業名	情報処理 u a ・ u b			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	佐藤 愛			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版（オーム社）								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	情報処理 u a ・ u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授業名	情報処理 u c ・ u d			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	猿渡 綾子・佐藤 愛			対象学生	食物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版（オーム社）								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	情報処理 u c ・ u d	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 情報セキュリティ、モラル メールの基本操作	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授 業 名	和食学			開 講 学 年	2・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2431
英 文 名	Japanese Food			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養4回生				
授業の概要	人は生きていくために、食物を獲得し、貯蔵・加工し、安全でおいしく食べる工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。世界には気候風土によって、特色ある食文化圏が形成されている。日本では稲作を基盤とする伝統的な和食文化が生まれ、魚や野菜など四季ごとの豊かな食材で彩られており、健康的な食文化として注目されている。この和食文化を社会的背景や歴史の変遷を追って理解を深めていく。和食の優れた点を把握して、将来の食のあり方を考えていくとともに、健康的な食生活の維持、増進に役立てていくことを目指す。理解を深めるために、適宜グループワークを行う。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 和食の特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食文化を自然風土、社会的背景、歴史的観点から考察することができる。 3) 世界の食文化を比較しながら、和食の優れた点を把握し、継承について考えることができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	江原絢子、石川尚子・編著『日本の食文化 和食の継承と食育』アイ・ケイ コーポレーション								
参 考 書	『聞き書 日本の食生活全集』農文協								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	食生活は何をどれだけ食べるかだけでなく、食べ方、文化、歴史、交流、楽しむ要素など多角的に把握していくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお知らせします。								
実践的教育									

授業名	和食学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	和食の特徴	(学修内容) 食文化とは何か。和食文化の特徴は何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食の特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	日本の食文化形成と展開	(学修内容) 自然環境や社会環境がどのように日本の食文化の形成に影響してきたか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.31-40をよく読んでおくこと。
第3回	異文化接触と受容	(学修内容) 日本の食文化が影響を受けた主な異文化について、それぞれの接触と受容の過程を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.41-50をよく読んでおくこと。
第4回	主食の文化	(学修内容) 米だけに限らず、木の実やいも類、麦、雑穀などについても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.51-60をよく読んでおくこと。
第5回	副食の文化	(学修内容) 雑食文化からやがて主食・副食の形が明確化し、現在の欧米化が進む中で出てきた問題点まで歴史を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.61-70をよく読んでおくこと。
第6回	調味料、油脂、だし、香辛料	(学修内容) 日本料理に欠かせない発酵調味料やだしを中心に、その種類や歴史的背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.71-80をよく読んでおくこと。
第7回	菓子、茶、酒	(学修内容) 嗜好品としてその時代時代の社会状況や文化によって変動してきた菓子、茶、酒について、その変容をみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.81-90をよく読んでおくこと。
第8回	日本料理の形成と発展	(学修内容) 日本料理がどのようにして今の形に発展してきたのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.91-100をよく読んでおくこと。
第9回	台所・食器・食卓の文化	(学修内容) 台所や調理に使う道具、食器、食卓について、その変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.101-110をよく読んでおくこと。
第10回	日常の食生活	(学修内容) 日常の食事について、その形態や地域性の変化等を時代を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.111-120をよく読んでおくこと。
第11回	非常の食生活	(学修内容) 天災や人災によって非日常となったときの非常食について、今日に伝わる工夫などを歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-130をよく読んでおくこと。
第12回	外食文化の成立と変化	(学修内容) 外食文化がどのような時代背景の中で成立し変容していったかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.131-140をよく読んでおくこと。
第13回	行事と地域の食文化	(学修内容) 古くから伝えられてきた行事食や儀礼食、また日本各地の地域独特の食材とそれを利用して伝えられてきた郷土料理についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.141-150をよく読んでおくこと。
第14回	家庭・地域、学校、社会における食育	(学修内容) 伝統的食文化の継承を含む食育の現状と課題をみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.151-160をよく読んでおくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 和食文化の継承の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食文化の優れた点をあげて、継承の課題をあげておく。

授業名	現代家政学論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1201
英文名	Theory of Contemporary Home Economics			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>家庭生活と地球環境は密接に関連している。本科目ではその具体的な諸相をとりあげ、将来を展望する。具体的には、伝統的な社会における人々の生活と自然環境との関係と、現代日本の都市部におけるそれとの対比を通して、日本の各家庭が持続可能な社会の形成に寄与するための方向性を探る。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 環境学の基礎を学び、資源利用への生態学的な視点を身につける。  2) 伝統的な暮らしと環境との関係を知り、現代社会と対比して考えることができる。  3) 現代日本において持続可能な社会を目指すための指針をもち、自分で考えられるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料もほぼ毎回用いる。								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回のコミュニケーションペーパーからいくつかピックアップして翌週にコメントを返し、全体で共有する。								
留意事項	毎回のコミュニケーションペーパーをしっかりと書いてください。質問はそこに併記して構いませんし、メールや直接研究室でも受け付けます。座席は指定します。								
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 環境とは何か	(学修内容) 本科目の進め方、環境について (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	持続的発展の理論形成史	(学修内容) 持続的発展、MSY理論、宇宙船地球号、SDGs (事前事後学修課題の内容) (30分) 「持続可能な社会」について考える
第3回	地球温暖化のメカニズムと社会的影響	(学修内容) 地球温暖化、生態学的な視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地球温暖化について調べておく
第4回	地球温暖化への取り組み	(学修内容) 二酸化炭素排出量、家庭生活 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭生活でできることを考える
第5回	コモンズの悲劇の成立条件と回避条件	(学修内容) コモンズの悲劇 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「共有資源」とは何か調べてくる
第6回	食糧問題の現状と乾燥地での農耕の可能性	(学修内容) 食糧問題、アグロフォレストリー (事前事後学修課題の内容) (30分) ふだん何を食べているか考える
第7回	食の問題 日本を中心に	(学修内容) 食料自給率、有機栽培 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本の食の問題について考える
第8回	持続的な環境利用 アフリカ狩猟採集社会	(学修内容) ブッシュマン、ピグミーの暮らし (事前事後学修課題の内容) (30分) 狩猟採集生活について想像する
第9回	人口を抑制する社会制度 東アフリカ牧畜民	(学修内容) 人口抑制、婚姻規則、東アフリカ牧畜民 (事前事後学修課題の内容) (30分) 牧畜民の暮らしについて想像する
第10回	焼畑農耕の持続可能性	(学修内容) 焼畑農耕、自然のサイクルと人の営み (事前事後学修課題の内容) (30分) 生態学的に持続可能なモデルを考える
第11回	持続性を支える経済	(学修内容) 分配、交換、使用価値、生業経済、貨幣 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現金で買うことと物々交換との違いを考える
第12回	循環型社会への取り組み	(学修内容) 物質循環、ゴミ問題、リサイクル (事前事後学修課題の内容) (30分) リユース経験のリストを作る
第13回	人類社会と自然環境	(学修内容) 汚染、自然保護、現代文明社会の持続可能性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自然のサイクルと人の営みの関係を考える
第14回	暮らしと地球環境	(学修内容) 持続可能な社会、日常生活 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「自分の日常生活」と「持続可能な社会」との関係について考える
第15回	地球環境の現状：野生動物を通して	(学修内容) 野生動物の現状、地球環境 (事前事後学修課題の内容) (30分) 野生動物と地球環境問題との関係を考える



授業名	現代家政学論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1204
英文名	Theory of Contemporary Home Economics			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>現代の家庭生活実態について考える。私たちの生活は、多くの人たちに支えられ、またいろいろな生活環境で生活する人がいる。本授業では、日本においてはどのような家庭があり、地域社会での家庭はどのような状況なのか。これらについて考えたい。</p> <p>家庭生活の変遷と現代の家庭、家族、地域、社会についてグループ討議などを通して互いの考えを理解し、討論しながら「現代社会」について理解を深めたい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 日本の現代社会を理解できる。</p> <p>2) 日本の社会、地域、家庭、家族の現状を理解できる。そこでの問題を明らかにできる。</p> <p>3) 問題の発見から、どのようにしていくと人間が生活しやすくなるか、幸せに日々を過ごせるかについて考察できる。特に子どもたちが幸せになるための生活保障について考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	使用しない。プリントを配布するなど必要なときに、資料の提供をする。映像資料を参考にすることがある。								
参考書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題のレポートを授業時に提出する。その後、返却時に解説をする。								
留意事項	グループでの討議、意見の発表も行う。資料を読み込み、自分の考えをしっかりと記述できるようにしてください。また、授業に関連した課題を出し、レポートの提出をする。								
オフィスアワー	研究室前に掲示、学生演習室に掲示。研究室に在室している時は、時間があれば対応。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代社会とは何か	(学修内容) 本科目の進め方、現代社会について  (事前事後学修課題の内容) (20分) 本授業を理解するために、シラバスを読んで、学びの目標を理解する。
第2回	家庭・家族の理解	(学修内容) 現代の家庭はどのような家庭なのか  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、「家庭が記事になっている資料を持参(新聞でも良い)」気になることをまとめる。
第3回	家庭、家族の生活	(学修内容) 家庭生活の実態：家族の人数、家事の現状、共働きなど。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、現代の家庭の抱えている問題を、たとえば、子どもの問題、食事の問題、介護の問題などについてまとめる。
第4回	家庭をもつことは、結婚すること。	(学修内容) 結婚について考え、現代の結婚観について理解する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、あなたは結婚して家庭をもつことについてどのような考えを持っていますか。レポート (800字程度) で提出。
第5回	子どもを育てること	(学修内容) 家庭は子どもを育てるために、どのような役割をしているか。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、家庭で育てることができない子どもたちについて、調べてみる。
第6回	食べることと家庭生活	(学修内容) 朝ごはんについて考える  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、子どもにとって、食事がいかに大切かについてまとめなさい。レポート課題 (800字程度)
第7回	子どもを育てるのは、親。	(学修内容) 親のいない子どもは、親が育てられない子どもは、どう育つか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、親に育てられない子どもたちについて、調べる。
第8回	ひとり親家庭、ふたり親家庭	(学修内容) モデル家族、ひとり親家庭などについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、ひとり親家庭について、現状と課題についてまとめる。レポート課題 さん(800字程度)
第9回	貧困家庭の理解	(学修内容) 子どもが育つ家庭の貧困について考える。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、家庭の貧困、子どもの貧困とはどのようなことか。レポート課題 (800字程度)
第10回	子ども食堂・子どもの居場所	(学修内容) 日本の子ども食堂について考える  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、あなたは、子ども食堂にいったことはあるか。それが、どのような役割をしているか調べる。レポート課題 (800字程度)
第11回	地域で生活する子どもを守るには	(学修内容) どのようにすれば、地域で生活する子どもの生活を守れるのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、地域で生活する子どもの不安とは、どのようなことがあるか調べる。SOSを発信している子どもがいるかも。
第12回	児童養護施設、母子生活支援施設、(乳児院)等で生活する子どもたち	(学修内容) 大人の都合で、子どもの生活実態は変わる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設で生活する子どもと地域で生活する子どもの実態を知る
第13回	現代の少子社会について	(学修内容) 女性が家庭で子育てをすれば、少子社会は解消するか  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、女性が家庭で子育てをすれば、少子化は解消するか。レポート課題 (800字程度)
第14回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらおう。(1)	(学修内容) 発表を中心にする。(1) 授業の状況で変更あり。  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、今までの授業でまとめた学びを、発表するので、自分の考えをしっかりと持ち、発表できるように準備する。
第15回	社会・地域・家庭をテーマに、それぞれにプレゼンテーションしてもらおう。(2)	(学修内容) 発表を中心にする。(2) 授業の状況で変更あり。  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、今までの授業でまとめた学びを、発表するので、自分の考えをしっかりと持ち、発表できるように準備する。

授 業 名	生活構造論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2206
英 文 名	Theory of Living Structure			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>生活の基礎単位は世帯（家族・家庭）にあるが、この世帯の現状と変化をまず検討したい。そして生活の場である地域の現状と変化を検討しながら生活の実情を考えていきたい。さらに生活は身近な地域を超えた社会の仕組みとの関係によって成り立っているといえ、この社会の仕組みの現状と変化から生活を考えていきたい。以上は生活の広がりという視点で述べたが、一方、今日の生活の中身は、 暮らしの基盤である労働、 日常的な交流と連帯、 生活の社会化によって規定されているといえる。講義形式の授業によって、これらのことについて実態調査等をもとに構造的な分析・把握をしていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 生活に対して、健康問題、世帯の変化、地域の変化等を押さえながら認識できる。  2) 人間らしい生活（暮らし）には、暮らしの基盤である仕事、日常的な協力・共同といったヨコのつながりが欠かせないことを認識できる。  3) 人間らしい生活（暮らし）には、社会政策・公共一般施策・社会福祉といった生活の社会化の発展・拡充が欠かせないことを認識できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留 意 事 項	暮らしについて家族と一緒に考える機会を設けて下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実践的教育									

授 業 名		生活構造論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生活とは？ - いのちとくらしは一体 -	(学修内容) 生活をとらえる視点について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの生活を振り返る。	
第2回	くらしの実態把握 - 視点と枠組み -	(学修内容) 生活問題の視点と枠組み (事前事後学修課題の内容) (30分) くらし・地域について考察する。	
第3回	くらしの実態把握 - くらしの中身 -	(学修内容) くらしの中身について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしの中身について考察する。	
第4回	くらしの実態把握 - 健康状態 -	(学修内容) くらしと健康状態について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしと健康について考察する。	
第5回	くらしの実態把握 - くらしの単位 -	(学修内容) くらしの単位について (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族・家庭について考察する。	
第6回	くらしの実態把握 - 世帯構成の変化 -	(学修内容) 世帯構成の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) わが家の歴史を振り返る。	
第7回	くらしの実態把握 - くらしの場 -	(学修内容) くらしの場について (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域とくらしの関係性を考察する。	
第8回	くらしの実態把握 - 地域の変化 -	(学修内容) 地域の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域の変化を考える。	
第9回	くらしの実態把握 - くらしの基盤・しごと -	(学修内容) くらしの基盤について (事前事後学修課題の内容) (30分) しごととくらしの関係性を考察する。	
第10回	くらしの実態把握 - ヨコのつながり -	(学修内容) ヨコのつながりについて (事前事後学修課題の内容) (30分) ヨコのつながりとくらしについて考察する。	
第11回	くらしの実態把握 - 日常的協力・共同 -	(学修内容) 日常的な協力・共同について (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な協力・共同とくらしについて考察する。	
第12回	くらしの実態把握 - 生活の社会化 -	(学修内容) 生活の社会化について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度について考察する。	
第13回	くらしの実態把握 - 社会政策とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・社会政策について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・社会政策について考察する。	
第14回	くらしの実態把握 - 公共一般施策とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・公共一般施策について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・公共一般施策について考察する。	
第15回	くらしの実態把握 - 社会福祉とくらし -	(学修内容) 生活の社会化・社会福祉について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしを支える制度・社会福祉について考察する。	

授業名	ライフデザイン論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2210
英文名	Theory of Life Design			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、自分自身のライフデザインを新しい社会構築を含め考えていく。								
学修成果到達目標	1) 現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2) 自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。 3) 社会的な課題を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	適宜資料を配布する。								
参考書	『ライフストーリー分析—質的調査入門』大久保孝治(学文社)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編(光文社新書)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対して、コメントする プレゼンテーションに対して、コメントする								
留意事項	講義だけでなく半期間で大きな課題(インタビュー調査)に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である。また、授業内容は、秋学期のカレンダーにより順番を変更することもある。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名		ライフデザイン論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業全体の内容を把握しておく
第2回	社会変動と人生：ライフコースの変化	(学修内容) ライフコースとは何かを学び、その変動を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第3回	社会変動と人生：高度経済成長期の人生	(学修内容) ライフコースと社会変動の関連性についてビデオを用いながら学び、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第4回	インタビュー調査について	(学修内容) インタビュー調査の目的について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第5回	インタビュー調査の方法	(学修内容) インタビューの方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを呼んでおく
第6回	自立と家族関係	(学修内容) 自立ということとはどういうことかについて学び、若者の家族関係について統計資料などを用いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 自立とはどのようなことか、考えておく
第7回	女性と就労：事例からみる実態	(学修内容) 日本女性の就労の実態について、ビデオを用いながら理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な女性の就労状況を調べておく
第8回	働くことの意味	(学修内容) 働くことの意味を様々な角度から考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が考える働く意味をまとめておく
第9回	女性の就労状況と課題	(学修内容) 日本女性の就労の実態について統計資料から理解し、課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第10回	インタビュー調査のケース報告書作成	(学修内容) インタビューデータの整理をする (事前事後学修課題の内容) (180分) データの文字お越しをしておく
第11回	ケーススタディ1：インタビュー調査結果についてのグループワーク	(学修内容) グループワークを行うことにより、多くのインタビュー調査の結果を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をしておく
第12回	ケーススタディ2：さまざまな人々の生活実態	(学修内容) グループワークで学んだことを生かしながら、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークのまとめをし、発表者は発表の準備をしておく
第13回	ライフデザインと政策：外国のライフコースと政策	(学修内容) 外国の仕事と家庭生活を支える政策について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 女性の就労に関する政策について調べておく
第14回	ライフデザインと政策：外国のライフコースの実態	(学修内容) 外国のケースを例に考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間のまとめをしておく

授 業 名	現代家政学演習 s a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	社会学の入門書を輪読することにより、読む力とまとめる力を付ける。また、地域のさまざまな取り組みから1つを選び、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。毎回の発表と討論を通じて、視野を広げ、考える力をつける。個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的課題について学ぶ。発表担当者は発表資料を必ず事前に提出する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 学術的な入門書を読み解き、まとめることができる。 2) 社会的な視点から現代的課題を説明することができる。 3) 適切な方法を用いた調査研究計画を立案することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	ケイン樹里安・上原健太郎 編著 『ふれる社会学』北樹出版 2019年								
参 考 書	寛裕介 監修、issue + design project 著 『地域を変えるデザイン』英治出版 2011年 篠原清夫・栗田真樹 編著 『大学生のための社会学入門』晃洋書房 2016年 筒井淳也・前田泰樹 著 『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣 2017年								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする								
留 意 事 項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 sa	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	(学修内容)オリエンテーション、輪読の担当者決め  (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスとテキストの「はじめに」を読んでおく
第2回	・社会学とは何か ・社会を観察する方法	(学修内容)レジュメの作り方、社会学の基礎  (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第3回	・スマホにふれる ・飯テロにふれる ・就活にふれる	(学修内容)第1章・第2章・第3章  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1章・第2章・第3章を読んでおく
第4回	・労働にふれる ・観光にふれる ・スニーカーにふれる	(学修内容)第4章・第5章・第6章  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第4章・第5章・第6章を読んでおく
第5回	・よさこいにふれる ・身体にふれる ・レインボーにふれる	(学修内容)第7章・第8章・第9章  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章・第8章・第9章を読んでおく
第6回	・「外国につながる子ども」にふれる ・「ハーフ」にふれる ・差別感情にふれる	(学修内容)第10章・第11章・第12章  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章・第11章・第12章を読んでおく
第7回	・「障害」にふれる ・「魂」にふれる ・100年前の社会学にふれる	(学修内容)第13章・第14章・第15章  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第13章・第14章・第15章を読んでおく
第8回	・学ぶ/教える 地域での取り組み事例紹介の準備	(学修内容)教育社会学の基礎  (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第9回	・変容する家族のかたち ・「格差」の社会学 地域の取り組み(見本)	(学修内容)家族と格差について、事例研究の例  (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第10回	地域の取り組み1	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第11回	地域の取り組み2	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第12回	地域の取り組み3	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第13回	地域の取り組み4	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第14回	論文検索	(学修内容)参考文献(論文)の見つけ方  (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究のテーマを考えてくる
第15回	研究テーマと調査方法	(学修内容)個人研究のテーマ・方法  (事前事後学修課題の内容)(60分) 研究テーマと調査方法を具体的に考えてくる



授 業 名	現代家政学演習 t a ~ t c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	根岸 裕子・竹市 仁美・平 正人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	現代家政学演習 では、1回生で学んできた管理栄養士関連科目に関連させながら、現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割などについてプレゼンテーションやディスカッション、グループワークなどを行いながら考えていく。さらに現代家政学部で学ぶ学生として、生活者としての視野を広げ、社会の食にかかわるものとして寄与していく力を培っていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 適切なプレゼンテーション方法を選択することができわかりやすく説明することができる。 2) 要点を把握して聞き取ることができる。 3) プレゼンテーション・コミュニケーションの力を高め、人とのかかわりの場面で活かすことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	・西川真理子著『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 化学同人2016 ・導入教育(信頼される専門職となるために)最新版 特定非営利活動法人 栄養改善学会 監修 伊達ちぐさ 他編								
参 考 書	適宜参考書を紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	返却時に解説し、問題点などについて討議する。								
留 意 事 項	積極的に発言・発表するよう心がけてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 t a ~ t c	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読んでおく
第2回	プレゼンの方法について	(学修内容) パワーポイント、レジメなどプレゼンの方法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 1回生で行ったプレゼンの方法を振り返っておく
第3回	個人別プレゼンテーション1 - 1 一回生の学びの振り返り プレゼン準備	(学修内容) 個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備
第4回	個人別プレゼンテーション1 - 2 一回生の学びの振り返り 発表	(学修内容) 個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第5回	個人別プレゼンテーション1 - 3 一回生の学びの振り返り 発表	(学修内容) 個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第6回	文献・資料検索法について	(学修内容) 文献・資料の検索について (事前事後学修課題の内容) (60分) 調べたい事柄についてどのように情報を収集することができるかについて考えておく
第7回	プレゼンテーション準備 1 - 1 方法の検討	(学修内容) 発表内容にあったプレゼンの方法について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの方法、内容の準備
第8回	プレゼンテーション準備 1 - 2 文献・資料の検索および発表資料の準備	(学修内容) 発表内容を理解してもらうための工夫について (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備
第9回	プレゼンテーション1 - 1	(学修内容) プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作り直し提出する
第10回	プレゼンテーション1 - 2	(学修内容) プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作りなおし提出する
第11回	プレゼンテーション1 - 3	(学修内容) プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料を作りなおし提出する
第12回	食に関する問題 1 - 1 情報の収集	(学修内容) 様々な情報資源から興味のある食に関する問題に関する資料をみつける (事前事後学修課題の内容) (60分) 情報源について考えておく
第13回	食に関する問題 1 - 2 社会的背景	(学修内容) 問題の社会的背景について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味ある食の問題についての社会的な背景について考えておく
第14回	食に関する問題 1 - 3 発表	(学修内容) 各自の取り上げた問題について口頭発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明するためにどのようにしたらよいか考えておく
第15回	食に関する問題 1 - 4 発表およびまとめ	(学修内容) 各自の取り上げた問題について口頭発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明するためにどのようにしたらよいか考えておく、さらにまとめのレポート作成

授業名	現代家政学演習 s a			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして現場取材と発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。								
学修成果到達目標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことを身につけることができる。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して調査研究の実際について実践的に学ぶことができる。 3) 参考文献や現場取材などを通して視野を広げることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	使用しない。								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内でコメントする。								
留意事項	学生の発表そのものが全員の学びのための教材になります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。								
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	夏休みの成果報告	(学修内容)夏休み中に行った取材や読んだ論文、テーマの再検討などについて報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告準備	
第2回	発表資料の作り方	(学修内容)発表資料の作り方について (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究の概要を話す用意をしておく	
第3回	文献発表 1	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第4回	文献発表 2	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第5回	文献発表 3	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第6回	パソコンでの資料作成	(学修内容)地図やExcelの図表を発表資料に用いる (事前事後学修課題の内容)(60分) 個人研究のデータを整理して持ってくる	
第7回	調査研究発表 1 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第8回	調査研究発表 1 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第9回	調査研究発表 1 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第10回	調査研究発表 1 ? 4	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第11回	PowerPointとWordによる成果物制作の実践	(学修内容)プレゼン内容をレポート文書に仕上げる (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料やデータを用意して持ってくる	
第12回	調査研究発表 2 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第13回	調査研究発表 2 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第14回	調査研究発表 2 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第15回	調査研究発表 2 ? 4	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	

授 業 名	現代家政学演習 t a ~ t c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2211
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	根岸 裕子・竹市 仁美・平 正人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジユメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) テーマに適した論文の収集ができる。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高め、人を納得させる話ができる。 3) 論文の構成について理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	・西川真理子 著 「栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック」化学同人2016 ・導入教育(信頼される専門職となるために)最新版 特定非営利活動法人 栄養改善学会 監修 伊達ちぐさ 他編								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物はコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	現代家政学演習 ta ~ tc	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 現代家政学演習 の進め方の確認  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	個人プレゼンテーション1 - 1	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第3回	個人プレゼンテーション1 - 2	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第4回	個人プレゼンテーション1 - 3	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考える
第5回	現代社会における食の問題1 現場の管理栄養士の視点から	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞いた話をメモし内容を整理してレポートにする
第6回	現代社会における食の問題2 生活者の視点から	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 視点を変えてみたときの問題点の違いについてまとめておく
第7回	研究テーマの決め方	(学修内容) 研究テーマを決めるの方法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.48~53を読んでおく 研究テーマについて考えておく
第8回	研究資料収集について	(学修内容) 研究テーマに関連する資料収集の手法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 決定したテーマについての資料を検索してみる
第9回	個人研究の発表テーマの決定	(学修内容) 研究テーマを決定し選択理由の発表  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が選んだ理由について簡潔にまとめておく 他の人のテーマや選択した理由など他の人の視点について考えて見る
第10回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(学修内容) 先行研究の収集および閲覧について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を収集し読んでいく
第11回	個人研究の発表準備	(学修内容) 発表資料を作る  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の方法を考え資料準備をする
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 1	(学修内容) 個人研究の発表  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 2	(学修内容) 個人研究の発表  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 3	(学修内容) 個人研究の発表  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 ほかの人の話の要点をまとめてみる
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(学修内容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み  (事前事後学修課題の内容) (60分) 次年度に向けての課題を考えておく

授 業 名	キャリア教育			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2208
英 文 名	Career Design Including Internship			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	中川 直毅			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>学生の皆さんを取り巻く社会環境や雇用環境についての理解を深め、社会・企業から求められる資質、能力、知識について学ぶことで、ストレスを感じ難い、充実した大学生活を送ることができて、その上で、社会に出て、「たくましく」そして「しなやか」に生き抜くことができる、自立した人材になるきっかけ作りを支援していけるよう講義を進めていきます。</p> <p>自己の将来のキャリア形成を考えながら、自らの身を護るための働く上で必須のワークルール(労働法)の初歩的事項についての知識も同時に学ぶことができます。企業勤務30年以上、長くの間人事部長の要職にあった経験を十分に活かして、「明るく 楽しく 元気な」そして「役に立つ」授業を展開していきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>大学での学びの大切さを認識した上で、皆さんの将来と一緒に考えていきます。</p> <p>自己の将来を客観視してデザインしていけるように、関連する知識やルールの理解を深めることができるようになる。社会人基礎力の概要を理解し、幅広い目的意識を持って大学四年間を過ごすことができるようになる。アルバイトや就職などでブラック企業に自身のキャリア形成を邪魔させることがないように、働く者を保護するワークルール(労働法の基礎的事項)を理解し、自己防衛できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	中川直毅 編著『要説 キャリアとワークルール』三恵社 2019年 1650円(税別)								
参 考 書	授業時に随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業中において1~2回程度、授業理解を確認するための授業感想メモの提出を求めます。こちらは、授業中に講評すること、又はコメントを付けて返却することの何れかの方法で学修成果へのフィードバックを行います。								
留 意 事 項	成績評価は、定期試験時の「レポート提出」(80%)と、授業時間内に2回行う「ミニテスト」(20%)の評点とで総合評価にて行う。 なお、ミニテスト実施時のテキストの持ち込みを認める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日の6時限終了後、非常勤講師控室にて。授業終了後に予約を受け付ける。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など： キャリア指導:名古屋芸術大学キャリアセンター長(現職)、一般社団法人洛陽労働法務キャリア支援機構 代表理事・理事長(現職) 労働法・人事労務管理:特定社会保険労務士、T R A D社会保険労務士法人顧問、安村公認会計士事務所顧問(以上現職)。上場会社等で、人事部長、人事総務部長(元職)などを歴任。これらの経歴を通じて実践的なキャリア教育を行ってきた。</p>								

授業名	キャリア教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、キャリアとワークルール	(学修内容) 各回の概要を説明。キャリアとは何か、ワークルールとは何かについて、学生の皆さんと考えていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読み、自分の将来について考えてみる。
第2回	キャリアを考える	(学修内容) 働くこととは、仕事とは、これらについて考えていく。キャリア形成に役立つ働き方とは、豊かな生活が実現することの意義を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト13～21頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第3回	働くことは人生を豊かにする	(学修内容) ～稼働能力と自己実現のバランス、働き方の変遷、人間力などを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト22～34頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第4回	雇用の動向を知る	(学修内容) 雇用情勢、働き方改革、優秀な社員の要件などについてを学ぶ。テキスト35～44頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストの35～44頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第5回	会社やNPO法人で仕事をする	(学修内容) 会社などの組織や活動、人材育成の仕組みを解説する。これらの機関・部署の活動を紹介し働くイメージを具体化する。テキスト45～59頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト45～59頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第6回	働く世界を知る	(学修内容) 業界の研究(繊維、製薬、電機、日用品、流通、旅行、福祉、教育など) についての事例を学んでいく。テキスト60～68頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト60～68頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第7回	国家資格とキャリア開発について	(学修内容) ～社会福祉士、社会保険労務士、臨床心理士、管理栄養士、教師、幼稚園教諭、保育士などについて、その概要と素顔を学んでいく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト69～72頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第8回	社会人必須の問題解決スキルを知る～問題と課題の違いとは何か、そしてその発見方法について	(学修内容) 問題解決カスキルを2回に分けて学んでいく。1回目は問題の発見方法、問題の解決プロセスにつき学ぶ。テキスト140～154頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト140～154頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第9回	社会人必須の問題解決スキルを知る～問題の原因分析と解決方法について	(学修内容) 問題解決カスキルを2回に分けて学んでいく。2回目は問題の原因分析、問題解決の諸方法を学ぶ。テキスト155～166頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト155～166頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第10回	ブラック企業に近づかない方法について	(学修内容) いわゆるブラック企業の見分ける方法を知って、豊かなキャリア形成の阻害とならない様に、必要な知識を習得する。121～128頁を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト121～128頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第11回	働く人のためのワークルール～就業規則(ワークルールブック)と給与支払いのルール	(学修内容) 労働契約(雇用契約)、就業規則、お給料の支払いルールと損をしない知識について学ぶ。テキスト91～106頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト91～106頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第12回	働く人のためのワークルール～働く時間と安心して働ける職場を考える	(学修内容) 労働時間、年次有給休暇、健康診断とストレスなどについて学ぶ。テキスト107～120頁。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト107～120頁に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を再度読んでおくこと。
第13回	求人票と求人広告の見方～ブラック企業に入社してしまわない為にしておくこと	(学修内容) 職業安定法を知って適法な求職と求人視点で、ブラック企業に近寄らない方法と知恵を教示する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前にレジメ(2～3枚)を配布するので目を通して、事後には復習しておくこと。
第14回	履歴書とエントリーシートの書き方について	(学修内容) 履歴書とエントリーシートの書き方のポイント、面接時の戦略的面接方法の勘どころについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前にレジメ(2～3枚)を配布するので目を通して、事後には復習しておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (100分) 事前にテキストと配布されたレジメを読み直しておくこと。事後には総復習する。



授 業 名	文献講読 a			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>取り上げるテキストは、そもそも結婚とは何か、なぜ結婚をする必要があるのかといったことを問い直し、結婚の正体を考察しています。著者は、今の日本は「結婚困難社会」であるとし、欧米の結婚のかたちと日本の結婚のかたちを比較し、戦後に作り上げた強固な日本人の意識を明らかにしていきます。また、日本社会の現状を考察していくことを通して、結婚困難を克服するヒントめいたものを示しています。</p> <p>テキストの講読を通して、話の筋道のたてかたとともに、データの見方についても、勉強していきます。授業では、毎回、話をまとめる練習として、要約の実践を進めていき、グループでディスカッションやプレゼンをします。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 文献内容を理解し、説明することができる。</p> <p>2) 自分が理解したこと、疑問に思ったことを説明することができる。</p> <p>3) 問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	山田昌弘2019年『結婚不要社会』朝日新書								
参 考 書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留 意 事 項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	文献講読 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業進め方。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	文献の「読み方」	(学修内容) 文献の読み方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでくる。
第3回	要約について	(学修内容) 実際に要約を試みる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 再び、配布資料を読み、大事なところに線を引いてくる。
第4回	結婚をめぐる日本の現状	(学修内容) 結婚をめぐる日本の現状について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP15-24を読む。
第5回	未婚化の現象	(学修内容) 未婚化の現象について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP24-41を読む。
第6回	結婚の形態	(学修内容) 結婚の形態について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP43-57を読む。
第7回	結婚の効果	(学修内容) 結婚の効果について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP57-65を読む。
第8回	近代的結婚の特徴	(学修内容) 近代的結婚の特徴について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP68-78を読む。
第9回	恋愛結婚の純化	(学修内容) 恋愛結婚の純化とその展開について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP78-91を読む。
第10回	戦前の階層結婚	(学修内容) 戦前の結婚状況について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP94-102を読む。
第11回	戦後の自由結婚	(学修内容) 戦後の自由結婚について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP102-122を読む。
第12回	近代的結婚の危機	(学修内容) 近代的結婚の危機について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP124-141を読む。
第13回	欧米の結婚状況	(学修内容) 欧米の結婚状況について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP141-152を読む。
第14回	結婚困難社会への道	(学修内容) 結婚困難社会となったプロセスを要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP153-177を読む。
第15回	まとめ：日本の結婚の未来形	(学修内容) 日本の結婚の未来形について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP177-188までを読む。

授 業 名	文献講読 b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	現代の家族・家庭の実態を把握すると同時に、そこで発生している諸問題を明確にし、その解決方法を探っていきたい。そのために、スウェーデンでの実情を把握する文献を購読することで、国際的な観点からわが国の課題を考察していきたい。私たちの暮らしを世界的な視点から客観的にみつめ、これからの方向性を明らかにしていきたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 文章の内容を正確に理解できるようになる。 2) 文章の論理構造を把握し、何が提起されているかを認識できるようになる。 3) 自分が理解した内容を、他者に適切に伝えられるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	三瓶恵子著『女も男も生きやすい国、スウェーデン』岩波書店								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表の都度、アドバイスする。								
留 意 事 項	しっかり読んで、しっかり考えよう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室しているときはいつでもOKです。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	文献講読 b		
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明する  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく。	
第2回	テキスト はじめに、2 - 19頁	(学修内容) テキスト はじめに、2 - 19頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト はじめに、2 - 19頁を考察。	
第3回	テキスト 20 - 38頁	(学修内容) テキスト 20 - 38頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 20 - 39頁を考察。	
第4回	テキスト 38 - 57頁	(学修内容) テキスト 38 - 57頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 38 - 57頁を考察。	
第5回	テキスト 58 - 73頁	(学修内容) テキスト 58 - 73頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 58 - 73頁を考察。	
第6回	テキスト 74 - 95頁	(学修内容) テキスト 74 - 95頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 74 - 95頁を考察。	
第7回	テキスト 95 - 112頁	(学修内容) テキスト 95 - 112頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 95 - 112頁を考察。	
第8回	テキスト 112 - 130頁	(学修内容) テキスト 112 - 130頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 112 - 130頁を考察。	
第9回	テキスト 131 - 144頁	(学修内容) テキスト 131 - 144頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 131 - 144頁を考察。	
第10回	テキスト 144 - 165頁	(学修内容) テキスト 144 - 165頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 144 - 165頁を考察。	
第11回	テキスト 165 - 181頁	(学修内容) テキスト 165 - 181頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 165 - 181頁を考察。	
第12回	テキスト 184 - 205頁	(学修内容) テキスト 184 - 205頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 184 - 205頁を考察。	
第13回	テキスト 205 - 212頁	(学修内容) テキスト 205 - 212頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 205 - 2012頁を考察。	
第14回	テキスト 213 - 219頁	(学修内容) テキスト 213 - 219頁を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 213 - 219を考察。	
第15回	テキストのまとめ	(学修内容) テキスト全体からの学びを振り返る  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキストを通して何を学んだかをまとめておく。	

授 業 名	文献講読 c・d			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	豊原 容子・根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	文献を精読し、内容についてディスカッションすることにより、汎用な読解力を養うとともに、自らがもつ疑問がどこまで明らかにされており残されている課題がどこにあるのかについて考えていく力をつけていくことを目指す。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 図表を正しく読み取ることができる 2) 文献内容を理解し説明することができる 3) 問題点を明確にしていくことができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的思考力)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	プリントを使用。各自で対象の文献をプリントアウトして用意してもらうこともあります。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	文献を適切に読みこなすことができているか、コメントを付けて返却するとともに解説を行う。								
留 意 事 項	しっかりと自分で読んでいくことが大切ですので、授業時間中、ランダムに指名し質問をしていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	掲示にてお知らせします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方と資料についての説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく	
第2回	文献を読むための基礎 1 資料の検索方法	(学修内容) 自分の求める資料の検索方法について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の興味ある事柄について、キーワードを考えておく	
第3回	文献を読むための基礎 2 図表の読み方	(学修内容) 図表から読み取れることについてまとめ文章化する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 宿題に出された資料に目を通しておく	
第4回	文献を読むための基礎 3 統計について	(学修内容) 文献によく用いられる検定法等について理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 与えられた統計に関する基本事項に関する資料に目を通しておく	
第5回	論文を読む 和文論文 1 - 1 要旨について	(学修内容) 論文の輪読を通して、要旨、緒言から内容の概略について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 論文に目を通し、わからない語句について調べておく でてくる参考文献についても調べておく	
第6回	論文を読む 和文論文 1 - 2 方法について	(学修内容) 論文の輪読を通して、研究方法について理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 行われている方法や測定事項について、何を明らかにするのかについて調べておく	
第7回	論文を読む 和文論文 1 - 3 データについて	(学修内容) 論文の輪読を通して、図表を読み取り明らかになったことについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 図表に目を通しておく	
第8回	論文を読む 和文論文 1 - 4 考察	(学修内容) 論文の輪読を通して、この研究で明らかになったこと、問題点などをまとめていく (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を復習しておくこと	
第9回	白書を読む 1 平成30年食育白書 食育推進施策の基本的枠組み	(学修内容) 食育白書の位置づけについて理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 各年の白書の構成について目を通しておく	
第10回	白書を読む 2 平成30年食育白書 食育推進施策をめぐる状況	(学修内容) 白書の輪読・ディスカッションを通して白書に書かれた問題点を理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) わからない語句について調べておく	
第11回	白書を読む 3 平成30年食育白書 健康寿命と栄養・食生活に関する現状と取組	(学修内容) 白書の輪読・ディスカッションを通してデータの意味について理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 白書中の図表に目を通しておく 理解できない語句を調べておく	
第12回	白書を読む 4 平成30年食育白書 ライフステージ別現状と取り組み	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通してデータの意味について理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 白書中の図表に目を通しておく 理解できない語句を調べておく	
第13回	英文論文の検索	(学修内容) 英文の文献検索の方法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のある事柄についてのキーワードを考えておく	
第14回	英文論文を読む	(学修内容) 自分の興味のある英文文献を読んで理解し、発表する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 選んだ論文の要旨を読んでおく	
第15回	まとめ	(学修内容) 文献の読み方について復習する  (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの文献講読でわからなかったことについてまとめておく	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s d			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之・湯浅 俊郎・西川 由紀子・馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して、卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 対 象 業 績	1) 卒業研究テーマとして取り上げる自身の関心領域についてどのような面から分析し、考察を進めていくのかを明確に記述、説明することができる。 2) 卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定することができる。 3) 学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、内容に対してコメントをつけます。レポート、論文に関して、個別指導を行います。								
留 意 事 項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに、積極的に先行研究や関連資料にあたる。3回生春学期に卒業演習プレゼミを実施することもある。 研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心を持ち、意見交換・考察・討議する習慣をもつ。 主体的積極的に研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスパワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	3 回生秋学期ガイダンス 自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	(学修内容) 3 回秋から 4 回秋のスケジュール、卒業論文作成要項、3 回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼミ課題・夏期課題の提出
第2回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第3回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第4回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第5回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第6回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第7回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第8回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第9回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第10回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第12回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第13回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第14回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第15回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備



授 業 名	卒業演習（論文を含む。） t a ~ t f			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	富安 広幸・坂本 裕子・林 育代・豊原 容子・塩田 二三子・根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	3回生秋学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、卒業論文のテーマを決めるために、関心が高い分野の先行研究や関連資料を収集して、課題を整理し、研究方法、調査法、分析法、結果の出し方と考察法を学んでいく。ゼミの中で、関連文献を紹介し、意見交換し、卒論研究のテーマを絞っていく。課題探究力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 先行研究から学び、明らかにしたい課題を絞っていき、卒業研究テーマを自ら決定することができる。 2) 研究目的を明らかにし、そのための研究方法を検討し、決めていくことができる。 3) 様々な情報をもとに、論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	3回生春学期までの学習を通して、関心の幅を広げて、卒論研究のテーマを自ら決定できるよう、関連の先行研究や資料を集め、学んでおく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	ゼミ担当者より指示する。								
実 践 的 教 育									

授業名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t f	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒論研究の概要について	（学修内容）卒業演習のスケジュールと進め方について （事前事後学修課題の内容）（60分） プレゼミでの課題（卒業研究テーマ）について考えておく
第2回	研究発表1-1（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第3回	研究発表1-2（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第4回	研究発表1-3（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第6回	個別指導（面談）1-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第7回	研究発表2-1（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第8回	研究発表2-2（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第9回	研究発表2-3（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第10回	個別指導（面談）2-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する 検討事項を整理し、研究を進めていく
第11回	個別指導（面談）2-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する
第12回	研究発表3-1（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第13回	研究発表3-2（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第14回	研究発表3-3（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第15回	3回生秋学期の卒論演習の振り返り	（学修内容）3回生秋学期の卒論演習の振り返り 研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒論研究進捗状況の報告と研究方法、研究計画を作成し提出する

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	秋山 裕之・山中 信子・西川 由紀子・馬場 まみ・ 藤井 伸生・湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進めることができる。 2) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表することができる。 3) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において、出された質問に対して適切に回答できると同時に今後の研究課題を認識できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、その都度アドバイスする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	(学修内容) 研究の目的、研究進捗状況の確認をする  (事前事後学修課題の内容) (60分) 先行研究を読み込んでおく
第2回	研究発表1 - (研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)	(学修内容) 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第3回	研究発表1 - (研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)	(学修内容) 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第4回	研究発表1 - (研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表)	(学修内容) 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第5回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告レポートに基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第6回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告レポートに基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第7回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告レポートに基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第8回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告レポートに基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第9回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告レポートに基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第10回	研究発表2 - (研究進捗状況の発表)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表)  (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	研究発表2 - (研究進捗状況の発表)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表)  (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第12回	研究発表2 - (研究進捗状況の発表)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表)  (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第13回	個別指導(面談)2 - (現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告に基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第14回	個別指導(面談)2 - (現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告に基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)
第15回	個別指導(面談)2 - (現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討)	(学修内容) 研究進捗状況報告に基づいて面談  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談資料持参(ゼミ担当分1部; 自分局1部)

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之・山中 信子・西川 由紀子・馬場 まみ・ 藤井 伸生・湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進めることができる。 2) 学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させることができる。 3) 卒業論文の作成でどのような研究成果があったかを「口頭試問」で明確に伝えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	研究進捗状況を確認し、適宜アドバイスをする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）s a ~ s f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認  （事前事後学修課題の内容）（90分） 先行研究を読み込んでおく	
第2回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第3回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第4回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談  （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談  （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談  （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談  （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第9回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第11回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出  （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第12回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出  （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第13回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出  （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備  （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備  （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	

授 業 名	未来につなぐ生活学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1301
英 文 名	Life Science for the Future			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代家政学を広い範囲の領域から学ぶ。各先生の専門分野の授業を受け、現代社会の現状や問題の発見、その対策を考察する手がかりになる学びをする。担当の先生によっては、グループワーク等の授業が実施される。その中で、ディスカッションをし課題発見の力をつけてもらいたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1、現代社会の現状を把握することができる。 2、生活に関する現状、課題、その解決方法について自分なりの考えをまとめることができる。 3、各先生からの学びのヒントをしっかりと理解し、これからの専門分野の学びに活かすことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (文章作成力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	授業にて資料を配布する。								
参 考 書	授業担当より、提示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業時のミニレポート、レポート課題の提出等は、各先生方の授業によって異なる。返却等についても、各先生の方法で実施され、解説等のことが行われる。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、4人のゲストスピーカーの先生に3回ずつ授業をしていただく。（詳しくは1回目の授業で説明する）</li> <li>・授業で印象に残った点等を、授業ごとにノートを整理しておくこと、定期試験の時に役立つ。</li> <li>・自分のノート作成に工夫をして取り組むことが必要。</li> </ul>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	先生方のオフィスアワーを各自で確認する。演習室等に掲示している。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		未来につなぐ生活学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) これからの授業について説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読む。私たちの生活状況で、気になることについて、400字程度にまとめておく。1回目の授業終了後、提出する。
第2回	児童福祉の現代的課題 社会的養護の実践	(学修内容) 児童虐待に児童福祉がどのように取り組んでいるかについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 児童虐待の4類型について調べる
第3回	児童福祉の現代的課題 社会的養護からの自立	(学修内容) 社会的養護から自立するために必要な支援とは何かについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 自立援助ホームについて調べる
第4回	人間関係の類型について	(学修内容) 社会学における人間関係のありかたの基礎的なとらえかたについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のまわりの人間関係について、社会学の類型にあてはめて整理してみる
第5回	買い占め騒動について	(学修内容) コロナウイルスにより、マスク、トイレトペーパー、ティッシュペーパーが、スーパーの棚から消えた。その過程について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) コロナウイルスの影響による買い占め騒動について、ネットや新聞はどのように伝えているのか、整理してみる
第6回	生活の社会化 - 保育について -	(学修内容) 育児は家庭だけで成り立つのでしょうか? 今日、育児の社会化としての「保育」が欠かせません。その意味・役割を考えます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) みなさんの乳幼児期を振り返り、どのようにして育ててきたかを家族に尋ねてみましょう。
第7回	生活の社会化 - 介護について -	(学修内容) 介護は家庭だけで成り立つのでしょうか? 今日、介護の社会化としての「介護保障」が欠かせません。その意味・役割を考えます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) みなさんの家族の中で介護の必要な方はいませんか? 介護について家族の意見を聞いてみてください。
第8回	食品ロスの問題について理解を深め、削減に向けてできることを考え実践につなげる。	(学修内容) 食品ロスについてどのように考え、行動しているのか。国内の食品ロスの現状や人々の意識を知り、削減に向けて何ができるのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 食品ロスの問題について調べる。
第9回	高齢化が進む現在、若年期から健康な食事について考え、実践できる力を身につける。	(学修内容) 若年女性のやせが問題となっている。生活習慣病も増加しており、望ましい体型について、また、健康長寿につながる食事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 健康な食事について考える。
第10回	動くおもちゃの文化は京都から	(学修内容) 動くおもちゃを通してどのような資質や能力が育つか。また、動くおもちゃの仕組みが生活の中でどのように活躍しているかを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活している中で、どのような動く仕組みがあるか調べておく。授業内容を、まとめておく。
第11回	未来の扉をみんなの力で拓こう ~ ビオトープづくりからの学び ~	(学修内容) ビオトープづくりを通して、子どもたちのやる気が生まれます。「コミュニティパーク」実践記録をもとに、「生きて働く知恵」を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ビオトープについて調べておく。授業内容をまとめておく。
第12回	生活と読書	(学修内容) 読書世論調査から現代の生活と読書の関係について考察する。読書力を育む活動についても考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の読書生活について振り返る。
第13回	読書教育について	(学修内容) 読書教育の様々な手法について理解する。中でもアニメーションについては、目的と方法を理解した上で実践し、その意義について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学校の中で行われている読書活動について調べ、まとめておく。
第14回	生活学ワーク	(学修内容) 未来と今をつなぐグループワーク (事前事後学修課題の内容) (40分) 未来の自分たちの生活を想像し、今やっておくべきことを考えてくる
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの講義から考えたこと (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 全体を振り返って学んだことを800字程度にまとめて書いてもらうので、その準備をしておく



授 業 名	食生活論 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1303
英 文 名	Theory of Dietary Life			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	食に関するさまざまな資料をみながら、食にまつわる問題が生じる原因についてグループで話し合ったり、意見交換をしたりして考えていく。また理想的な食生活をめざしていくための指針となる事項について学び、実生活での応用をいかに進めていくかについて考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食の問題点とその原因について理解できる。 2) 自らの食と環境との関連性について理解できる。 3) 理想的な食生活を営むために、情報を取捨選択し正しい判断基準をもち行動することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	食生活 健康に暮らすために 第3版 市川朝子、下坂智恵編著、八千代出版								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題についてコメントをつけて返却する。さらに気づきについて紹介するとともに授業内で取り上げ考える時間を持つ。								
留 意 事 項	自分で考えることが大切です。自分の身の回りではどうか、常に意識してください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	食生活論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「食べる」とは	(学修内容)なぜ食べなくてはいけないのかについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んでおく、食事の役割についてまとめる
第2回	若年者の食生活の問題点1 欠食	(学修内容)若年者の欠食の状況とその弊害について 欠食の問題点についてグループで話し合う (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の食生活を振り返ってみる
第3回	若年者の食生活の問題点2 肥満	(学修内容)肥満の定義、肥満と疾病との関連性について (事前事後学修課題の内容)(60分) 理想的な体型について考えておく
第4回	若年者の食生活の問題点3 やせ	(学修内容)やせの定義、やせと疾病との関連性について 痩せていることのデメリットについてグループで話し合ってから発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 若年者の食の問題について考えまとめる
第5回	ライフステージと食生活1 乳幼児・学童期	(学修内容)乳児期・学童期の食生活の問題点について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p61-86を読んでおく 自分のライフコースについて考えておく
第6回	ライフステージと食生活2 成人・高齢期	(学修内容)成人期・高齢期の食生活の問題点について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p86-98を読んでおく 高齢期の家族を抱えた家庭の食生活についてまとめる
第7回	食事の評価方法1 食事バランスガイド	(学修内容)食事バランスガイドを用いた1日の食事の評価方法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p30-33を読んでおく 食事バランスガイドを用いて自分の食事内容をチェックしてみる
第8回	食事の評価方法2 六つの基礎食品群・食生活指針	(学修内容)六つの基礎食品群や食生活指針を用いた食生活の評価方法について 自分の食事についてほかの人との違いについて話し合ってみる (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p1-17を読んでおく 食べたものを六つの基礎食品群に食品をわけてみる
第9回	食に関する情報1 誤った情報	(学修内容)フードファディズム、食の流行などを生む食の情報について 流行に流された事例について話し合ってから発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 誤った食の情報を集めてみる 情報に扇動される理由について考えてみる
第10回	食に関する情報2 情報の取捨選択	(学修内容)食品を選択する場合、信頼できる情報をどこから得るのかについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分は食の情報を主にどこから得ているのかについて考える
第11回	目に見えない食の危険について	(学修内容)食べ物に含まれる有害物質やさまざまなリスクの除去について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p33-39を読んでおく 安全な食のために自分ができることは何か考えてまとめる
第12回	飢餓と食糧輸入	(学修内容)世界の食糧事情についておよび日本の食との関連性について概説する (事前事後学修課題の内容)(60分) 日常用いられている外国の食品について調べてみる
第13回	世界の食	(学修内容)世界各地の食事内容や食のタブーなどについて宗教や環境から考察する (事前事後学修課題の内容)(60分) 日本の食のタブーについて調べておく
第14回	環境問題と食	(学修内容)環境にやさしい食生活を目指して各自ができることについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自家庭の食糧購入状況について調べ、無駄について考えてみる
第15回	まとめ	(学修内容)自らの食生活をどのように営んでいったらよいかについて考えていく これから自分が留意することについて発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 講義内容を振り返って問題点を整理し解決の方策についてまとめてみる

授 業 名	子どもの保健 U			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1416
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、そして子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達と保健、子どもの疾病と保育について理解する。さらに、子どもの精神保健、保育における環境及び衛生管理、安全管理、子どもの心身の健康管理の実施体制について理解する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 子どもの身体発育や生理機能の発達、運動機能、精神機能の発達と保健について理解する。 子どもの疾病と、その予防および適切な対応について理解する。 子どもの精神保健とその課題などについて理解する。 保育における環境および衛生管理、安全管理について理解する。 施設などにおける子どもの心身の健康、安全体制について理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子著 「子どもの保健」 ななみ書房								
参 考 書	大澤眞木子監修、小國美也子編著 「子どもの保健～健康と安全～」 日本小児医事出版社 兼松百合?・荒? 暁? ・? 室俊? 編著、? 泉志保美・前? はる? ・? ? 由美? ・ 須藤佐知? ・? 檀芳江・本間美知? 著 「子どもの保健・実習 -すこやかな育ちをサポートするために-」								
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し、次回に回答の解説する。								
留 意 事 項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいる時は対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：産科病棟にて助産師、小児科外来にて看護師としての勤務経験。								

授業名	子どもの保健 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 子どもの健康と保健の意義	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についてのガイダンス 健康の概念と健康指標、地域保健(虐待についてを学ぶ。) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス、教科書P9～18、103を読んでおく。 「健やか親子21」について調べておく。
第2回	子どもの発育・発達と保健	(学修内容) ヒトの成り立ちと身体発育の経過、身体計測、身体発育の評価について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P19～29を読んでおく。 体格指標、発育曲線について調べておく。
第3回	子どもの生理機能の発達と保健 形態と特徴	(学修内容) 乳幼児の生理機能(呼吸、循環、血液、免疫、消化機能、排泄機能)について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P30～34を読んでおく。 胎児、乳幼児の生理機能について大人との違いを考えておく。
第4回	子どもの生理機能の発達と保健 恒常性	(学修内容) 水分代謝、体温調節、内分泌機能、睡眠について理解する。乳児の特徴から保育時に注意(配慮)すべき点をグループワークで出し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P34～36を読んでおく。
第5回	子どもの運動機能、感覚機能の発達	(学修内容) 乳幼児の運動機能、感覚機能、神経機能の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P27～29、36～40を読んでおく。 年齢毎の運動機能の発達段階と乳幼児の原始反射について調べておく。
第6回	子どもの生活習慣	(学修内容) 子どもの成長過程に合わせた生活リズム、食習慣、排泄、清潔習慣について、乳汁栄養の種類と特徴、離乳食について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P41～58、102～104を読んでおく。 食事バランスガイドについて調べておく。
第7回	子どもの精神機能の発達	(学修内容) 子どもの心の健康と精神機能、言語の発達、情緒の発達について生活環境、精神保健、児童虐待、発達障害について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 乳幼児の精神機能の発達について調べておく。
第8回	子どもの健康状態の把握	(学修内容) 子どもの健康状態の把握(観察)、健康診断などについて学び知識を得る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P59～71を読んでおく。 カウプ指数、ローレル指数、BMIについて調べておく。
第9回	子どもの疾病 感染症とアレルギー、先天異常	(学修内容) 感染症(予防接種)、免疫(アレルギー)、先天異常とスクリーニングについて学び知識を得る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P73～89を読んでおく。 保育所における感染対策ガイドライン、学校保健安全法を読んでおく。
第10回	子どもの疾病 消化器、呼吸器、循環器の疾病	(学修内容) 消化器、呼吸器、循環器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P89～91を読んでおく。
第11回	子どもの疾病 血液、神経、腎泌尿器の疾病と子どものケガ	(学修内容) 血液、神経、腎泌尿器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P91～94を読んでおく。
第12回	子どもの疾病 感覚器(皮膚、目、耳、口)、内分泌の疾病と子どものケガ	(学修内容) 感覚器(皮膚、目、耳、口)、整形外科、内分泌の疾病について、外傷、骨折について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P94～99を読んでおく。
第13回	子どもの心の健康と精神保健	(学修内容) 心の健康とその課題(家族関係、社会)、発達障害、児童虐待、いじめについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第7回の授業内容の復習をしておく。 教科書P114～116を読んでおく。
第14回	保育環境と衛生管理	(学修内容) 保育環境と衛生管理、乳幼児突然死やベットの感染について法規や指針、基準などを参照しながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P36、99、102～114を読んでおく。子どもに多い事故について調べておく。学校保健安全法を読み出席停止の感染症をまとめておく。
第15回	子どもを取り巻く環境と保健活動 母子保健の役割、母子保健対策 授業のまとめと筆記試験について	(学修内容) ネットワーク(職員間の連携、家族との連携、地域連携、児童相談所について)、母子保健対策と保育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 教科書P101～116を読んでおく。 授業全体の教科書・配布資料の全ての確認・見直しをしておく。

授 業 名	栄養学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1401
英 文 名	Dietetics			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 五大栄養素の種類と働きについて理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる。 3) 健康に対する栄養素の重要性が理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	日本フードスペシャリスト協会編 「三訂 栄養と健康 第2版」建帛社 2020								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については採点し返却する。返却時解説を行う。								
留 意 事 項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	健康と栄養	(学修内容)健康と栄養の定義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の1章を読んでおく
第2回	糖質とその働きについて	(学修内容)糖質の種類と構造及びその働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp40-45を読んでおく 糖質がどのような食品に多く含まれているかまとめておく
第3回	脂質とその働きについて	(学修内容)脂質の種類と構造およびその働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておく 教科書のp48-52を読んでおく
第4回	タンパク質とその働きについて	(学修内容)タンパク質の種類と構造およびその働き (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp53-58を読んでおく
第5回	ミネラルについて	(学修内容)ミネラルの種類と機能 (事前事後学修課題の内容)(60分) 三大栄養素について復習をしておく 教科書のp58-60を読んでおく
第6回	ビタミンについて	(学修内容)ビタミンの種類と機能 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp61-64を読んでおく
第7回	消化と吸収	(学修内容)消化器系の構造及び消化の流れおよび腸内細菌の働きについて 上皮細胞膜通過の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp27-35を読んでおく
第8回	身体の仕組み	(学修内容)身体の働きの調節について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p9-27を読んでおく
第9回	エネルギー代謝	(学修内容)三大栄養素のエネルギー産生 基礎代謝量に関わる因子など (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p45-46、64-65を読んでおく
第10回	栄養状態の判定と評価	(学修内容)栄養状態の判定と評価のための情報と判断基準について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p67-76を読んでおく
第11回	日本人の食事摂取基準(2020版)について	(学修内容)食事摂取基準の概要について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p76-85を読んでおく 指針を使い毎日の食事内容を振り返ってみる
第12回	ライフステージと栄養 妊娠期、授乳期	(学修内容)妊娠期、授乳期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p129-134を読んでおく
第13回	ライフステージと栄養 乳幼児期、学童・思春期	(学修内容)乳幼児期、学童・思春期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p134-142を読んでおく
第14回	ライフステージと栄養 成人期、高齢期	(学修内容)成人期、高齢期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて 生活習慣病とその予防および食事療法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p142-168を読んでおく 自分のライフコースにおいて最も留意することは何か考えてみる
第15回	免疫と栄養	(学修内容)免疫の基本的な仕組みについて 食物アレルギーの理解 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p169-176を読んでおく 身近な食品の特定原材料表示について調べておく

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	HE2306
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識の習得も目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な調理技術の習得。 2) 調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3) 中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基本的な調理技術の習得)	プレゼンテーション能力 (主体性)	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	新調理研究会編『これからの調理学実習 基本手法から各国料理、行事食まで』オーム社 2014年								
参 考 書	授業にて指示する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で指示します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意	(学修内容) グループの形成、レポートの書き方 計量、包丁法などの基本的な調理操作について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.2~6をよく読んでおくこと。 レポートの作成法について説明する。	
第2回	米粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出	(学修内容) 電子レンジを利用した和菓子の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米粉の種類や米粉を材料とする和菓子の作り方を把握しておくこと。 お茶の種類を調べておく。レポートを作成して、次回に提出する。	
第3回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出	(学修内容) 炊飯、青茹で、みそ汁の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米の糊化の原理、みその種類と特性について調べておくこと。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第4回	小麦粉の膨化調理(イースト発酵)、 野菜の調理(カロテンの理解)	(学修内容) パン生地、野菜の煮物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) イースト菌の発酵の工程や野菜の特性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第5回	加熱調理の科学 (揚げ物、炒め物)、 和え物の調理	(学修内容) 揚げ物(炸菜)、炒め物(炒菜)、和え物(拌菜)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 揚げ油の温度変化や和え衣の種類について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第6回	米飯調理(すし飯)の基本、 卵の熱凝固性(希釈卵液)	(学修内容) すし飯、希釈卵液の蒸し物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卵の調理特性である熱凝固性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。	
第7回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルションの科学	(学修内容) コンソメスープ、ひき肉料理、サラダの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 肉類の種類と調理特性やマヨネーズとドレッシングの違いを 調べておく。レポートを作成し、次回に提出する。	
第8回	米飯調理(炒飯)の基本、 中華食材(干貝柱等)の理解	(学修内容) 炒飯(点心)、湯菜の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 天心の種類や作り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第9回	魚の調理、ゲル化剤(ゼラチン)を用いた調理	(学修内容) ムニエル、サラダ、ゼリーの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 魚の種類や旬、調理特性を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第10回	加熱調理の科学 (焼き物、蒸し物)、 ゲル化剤(寒天)を用いた調理	(学修内容) 焼き物、蒸し物、寒天の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 寒天とゼラチンの違いについて調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第11回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	(学修内容) 天ぷら、和え物、汁物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 昆布やかつお節のうま味成分やだしの取り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第12回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性	(学修内容) パスタ、クッキーの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) パスタの種類や焼き菓子の種類について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第13回	加熱調理の科学 (あんかけ物)、卵の起泡性	(学修内容) あんかけ物(溜菜)、蒸しかステラの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卵の調理特性である起泡性について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第14回	もち米の調理、煮物調理の基本	(学修内容) もてなし料理(赤飯、炊き合わせ等)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) もち米と小豆について調理特性について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。	
第15回	テーブルセティングとマナー 振り返り	(学修内容) 和洋の基本的なセティングとマナーについて 全レポートから、改善点等について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.34~37,72~73,110~113を読んでおく。 各グループで発表する準備をする。	



授業名	子どもの運動			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2423
英文名	Children and Exercise			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	眞崎 雅子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	子どもたちの心と体の健康、発育発達、体力などの視点から、「運動」の意義・役割について多角的に捉え、子どもの運動遊びの実践を通して、体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。同時に、多様な運動遊びの指導や援助について学ぶ。授業後半にはペアやグループで模擬授業を実施し、互いに創意工夫を凝らし、協働的に取り組む態度を身に付け、保育者・教育者としての資質やコミュニケーション能力を高めることを目指す。								
学修成果到達目標	1) 楽しく様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた運動遊びを自分で工夫する事ができる。 2) 遊びを展開・発展させていく上で、重要な着眼点や基本的な配慮点に気づく事ができる。 3) 運動遊びの重要性と楽しさを理解する事ができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (授業参加への意欲)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 (グループによる研究とその成果)			
テキスト	使用しない。								
参考書	『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0~5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。実技については、その都度コメントをする。								
留意事項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくこと ボランティア活動にも積極的に参加してもらいたい。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。活動実績として、 ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師								

授業名	子どもの運動	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)子どもの心と体の発育発達を踏まえ、発達段階に応じた運動の特性を捉えた指導法について、実践を通して理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内容を、ノートにまとめておく。
第2回	体づくり運動	(学修内容)基本的な動きを身に付け、体力を培う。体を動かす楽しさを味わう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 基本の動きとはどんな動きかを調べ、ノートにまとめておく。
第3回	リズム運動	(学修内容)いろいろなリズムに反応して動き、リズムの変化を楽しむ。2拍子-4拍子のリズムを体で表現する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループでできるリズム打ちを考え、ノートにまとめておく。
第4回	リズムダンス	(学修内容)いろいろなリズムダンスを行う。表現力も身に付ける。(ハイテンポの曲・スローテンポの曲) (事前事後学修課題の内容)(80分) ダンスの曲を見つけ、曲のイメージに合った動きや、発達年齢に合った運動を考えて、ノートにまとめておく。
第5回	ボール遊び	(学修内容)ボールの特性について知る。ボールの扱いになれる。少人数でのボール遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ボールの特性について調べ、ボール遊びの種類や遊び方についてノートにまとめておく。
第6回	ボールでゲーム遊び	(学修内容)ボールゲームを楽しむ。ゲームを楽しくするための工夫をする。ルールの工夫。ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの頃に行ったゲームを思い出し、ノートにまとめて提出する。
第7回	フープ遊び	(学修内容)フープの特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを楽しむ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 簡単な遊びを考えて、ノートにまとめておく。多種多様な基本動作を多数取り入れるように工夫をする。
第8回	フープでゲーム遊び	(学修内容)フープを使ってゲーム遊びを行う。ゲーム遊びを考える。発表後、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループでゲーム遊びを考え、ゲームのポイントや魅力についてレポートにまとめて提出する。
第9回	マット遊び	(学修内容)マット運動に必要な基本的な動きを行う。腕で体を支えるための力を養うための様々な遊びを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 腕を使った動物遊びを考えて、動きのポイントなどをノートにまとめておく。
第10回	マット運動	(学修内容)横転・前転・後転・側転・倒立を行う。補助の方法を学ぶ。(二人組で補助の練習) (事前事後学修課題の内容)(60分) 今まで行っていた補助を思い出し、レポートにまとめて提出する。援助のための言葉掛けについて考える。
第11回	とび箱	(学修内容)とび箱に慣れる遊びから、跳び越える遊びに発展させる。跳び越えるためのポイントはどこなのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) とび箱を跳ぶには何が大切なのか考え、ノートにまとめておく。
第12回	学生による模擬授業(発表)	(学修内容)学生による模擬授業の発表。 (事前事後学修課題の内容)(80分) 模擬授業を発表する学生はその準備、他の学生は指導案の作成。
第13回	縄遊び	(学修内容)短い縄を使っての遊び。1人で遊ぶ・2人で遊ぶ・色々な方法で跳ぶ。長縄を使って皆で跳んでみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発達年齢を踏まえ、色々な跳び方を考えて、ポイントや獲得できる動きなどをノートにまとめておく。
第14回	体操を考える	(学修内容)子ども達が積極的に取り組みたくなるような、ウォーミングアップの方法を考える。グループでまとめ、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの体操(5歳児対象)を考えて、レポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容)本授業を振り返りながら、学びや課題等について話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達年齢に応じた運動遊びについてまとめ、自身も生涯を通じて運動を継続するための方法を考え、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	子どもの食と栄養 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2440
英 文 名	Infant Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、実習やグループ討議などを通じて望ましい小児の食生活について理解していく。小児が望ましい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養に関する基礎的事項について理解できる。 2) 小児の食生活のありかたについて正しく理解できる。 3) 子どもたちに食育していくことのできる力をもつ。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『子どもの食と栄養演習』 第4版 小川雄二編著 建帛社								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小テストやレポートについては、返却時に理解が深まるように解説を行う。								
留 意 事 項	子どもの発達を復習して臨み、食育を保育という広い視点でとらえるように。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業始まりにお知らせします。来る際は事前にメールで知らせてください。 また、授業の後に質問を受けつけます。								
実践的教育									

授業名	子どもの食と栄養 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食の重要性について	(学修内容) 授業の進め方についての説明および「食べる」ことの重要性についてグループで話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の食生活を振り返っておく
第2回	子どもの健康と食生活	(学修内容) 子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 大人と子どもの食の違いについて考えておく。教科書p1-2を読んでおく
第3回	栄養の基礎知識 糖質、脂質、タンパク質	(学修内容) 糖質、脂質、タンパク質の種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの食生活の重要性について復習しておく。教科書p11-16を読んでおく
第4回	栄養の基礎知識 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p16-21を読んでおく
第5回	栄養の基礎知識 食事摂取基準、食構成、献立作成	(学修内容) 必要な栄養素をどのように考えて充足するかについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養素について復習しておく、教科書p34-40を読んでおく
第6回	乳児期の栄養の特性	(学修内容) 乳児期の栄養の留意点などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p41-60を読んでおく
第7回	乳汁栄養の特徴(実習含む)	(学修内容) 母乳栄養、人工栄養の特徴について、各種ミルクの調乳・試飲を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p72-92を読んでおく、市販の育児用ミルクの情報を集めておく
第8回	離乳の進め方	(学修内容) 離乳の必要性和授乳・離乳の支援ガイドについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p92-114を読んでおく 離乳各期にふさわしい調理例についてまとめておく
第9回	離乳食の実際(実習含む)	(学修内容) 離乳食の進め方と留意点について、調理例を実際に見て違いなどを学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p199-202を読んでおく、市販のベビーフードを観察しておく ベビーフードの長所と短所についてまとめておく
第10回	幼児期の栄養の特性	(学修内容) 幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p114-126を読んでおく 幼児期に食べにくい食べ物についてまとめておく
第11回	幼児期の食生活の実際(実習含む)	(学修内容) 幼児期の食生活におけるおやつ的重要性、内容などについてグループで話し合い発表し、適切な内容・量・与え方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p122,128の演習をやってみる 咀嚼力をつけるための取り組みについて考えてみる
第12回	幼児期の食生活上の問題点、学童期の食生活	(学修内容) 幼児期の偏食、遊び食べなどの問題行動および学童期の食の留意点について、グループで話し合い対応策などを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p126-134を読んで幼児期の問題行動の原因について、さらに教科書p140-143を読んで学童期の留意点について考えておく
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	(学修内容) 食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p183-198を読んでおく 食物アレルギーを持つ子供への対応について考えておく
第14回	児童福祉施設における食事	(学修内容) 児童福祉施設で提供される食事について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p172-182を読んでおく 給食の役割についてまとめる
第15回	食育計画	(学修内容) 幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p154-164、保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく

授 業 名	健康マネジメント			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2432
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	生涯を通じて健康なからだを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。 講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因についての知識を広めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを自実生活の中で実践し、自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の大切さを理解することができる。 2) 生活習慣病の背景要因と疾病予防を理解することができる。 3) 若年女性の健康問題について理解し、予防に取り組むことができる。 4) 健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	日本健康マスター検定 公式テキスト (NHK出版)								
参 考 書	・適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートや課題を添削後返却する。 個人の健康意識調査結果を判定後、コメントとともに返却する。								
留 意 事 項	積極的に発言するよう努力すること。 目指す行動が習慣化するよう継続して取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：管理栄養士として総合病院で勤務。実務経験をもとに栄養・運動・災害対応などを話します。								

授 業 名	健康マネジメント	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「健康」と「健康を支える仕組み」 健康状態の把握	(学修内容)生活習慣病の発症とその予防対策から健康について考える。 自己の健康状態について、血圧や体脂肪などの測定を行う。(測定) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト予習・復習
第2回	食生活と健康 「エネルギーの摂取」 食生活アセスメント	(学修内容)食事のエネルギーについて、栄養学的な視点で学ぶ。 自己の食生活傾向を知るための調査票記入を行う。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 エネルギーに関する自分の考えをまとめる。
第3回	食生活と健康 「糖質摂取」 「食生活の傾向を把握する」	(学修内容)健康と糖質の関係について学ぶ 自己の糖質摂取量について調べる。(調査) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 主食や種類、おやつなどの糖質を調べる。
第4回	食生活と健康 「脂質摂取」 「食生活の傾向を把握する」	(学修内容)健康と脂質の関係について学ぶ。 自分の脂質摂取について調べる。(調査) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 調理に用いる脂質やおやつなどの油脂を調べる。
第5回	食生活と健康 「塩分摂取」 「食生活の傾向を把握する」	(学修内容)健康と塩分の関係について学ぶ。 自己の塩分摂取について確認する。(測定) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 普段飲んでいる味噌汁を持参すること。
第6回	食生活と健康 「飲酒や喫煙(嗜好品)」 「習慣と傾向を把握する」	(学修内容)嗜好品の利用実態について考える。 自己の嗜好品摂取について確認する。(調査) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 飲酒・喫煙に関するのニュースを検索する
第7回	睡眠と心の健康運動と健康づくり	(学修内容)ストレスと睡眠について、健康との関係について学ぶ。 リラククス法について体験する。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト予習・復習 睡眠に影響する要因を調べる
第8回	身体活動・運動と健康づくり	(学修内容)健康づくりに役立つ運動について学ぶ。 日常生活に取り入れられる運動を実践する。(実習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト予習・復習 動きやすい服装を準備する。
第9回	口の健康と感染症	(学修内容)口の中から見える全身の健康問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第10回	疾病の予防 生活習慣病予防対策(肥満症、糖尿病)	(学修内容)肥満症、糖尿病について学び、予防と対策を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習 生活習慣病の種類や成因を調べる。(調査)
第11回	疾病の予防 がん対策	(学修内容)疾病の予防の段階について学ぶ。 日本のがん罹患の現状や対策を学び、予防法について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第12回	女性の健康	(学修内容)ライフステージ(出産、更年期など)の変化に伴う女性の健康と生活の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第13回	高齢の身体的特徴と栄養	(学修内容)高齢者の身体的特徴と栄養管理について学ぶ。 家族や地域として見守る視点も学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習・復習
第14回	救急の知識 災害への備え	(学修内容)緊急事態の対処法や心構えについて学ぶ。 災害への備えについて学び、アイデアを出し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 家庭の備蓄や防災意識を聞き、まとめる。
第15回	まとめと確認	(学修内容)授業から得た知識を総合的に考え、健康の大切さについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト全般の復習

授 業 名	道徳教育論（家庭・栄養）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1705
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授 業 の 概 要	<p>いじめ・不登校・SNS問題をはじめとする生きる力を育てる上での現代の課題を考えた場合、道徳教育に求められるものは大きい。その道徳教育の基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。</p> <p>授業内容 道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。</p> <p>学習方法 講義 議論（全体・グループ） 演習（全体・グループ） 模擬授業（考察・実習） 授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） 一人学習</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>到達目標 道徳教育の意義と魅力を実感する。 生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>「先生が楽しい！道徳授業の作り方」 出版社：三晃書房 定 価：¥ 1 5 0 0 - 発 行：平成31年3月29日 図書分類コード：C 3 0 3 7 I S B Nコード：9 7 8 - 4 - 7 8 3 0 - 8 0 1 8 - 3</p>								
参 考 書	文科省 中学校学習指導要領の解説 特別の教科道徳編（平成29年）								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	<p>レポート：添削後返還 テスト：希望者のみ返還</p>								
留 意 事 項	<p>資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。 授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。 今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に、実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。 ・小学校道徳授業・中学校道徳授業 実践してきた取り組みを紹介し、地域保護者との連携を理解させる。 ・保護者会・学校運営（掲示物等）・家庭教育学級</p>								

授 業 名	道徳教育論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	（学修内容）オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等) 理 論：道徳教育に求められること 実践例：「もしも私が神様に」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 目標
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科 道徳	（学修内容）理 論：道徳教育と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「1こでも100このりんご」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	（学修内容）理 論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん（僕の生まれた日）」他 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント
第4回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 中心教材・補助教材	（学修内容）理 論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」漢字で学ぶ「辛・優」 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第5回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 1時間の流れ	（学修内容）理 論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「CM」ポスターで学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第6回	現代的な課題 豊かな心 指導案の書き方 主題	（学修内容）理 論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント 中心発問を考える
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方 中心発問・導入・終末	（学修内容）理 論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第8回	道徳教育における発達段階 スピーチ学習（チームザ〜）	（学修内容）理 論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンターで学ぶ「数字送り」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第9回	道徳教育における評価 スピーチ学習（リーダーシップ）	（学修内容）理 論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第10回	道徳教育の内容 Aの領域 スピーチ学習（フォロアーシップ）	（学修内容）理 論：Aの領域 実践例：TPOに学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案・教材
第11回	道徳教育の内容 Bの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Bの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・声・立ち位置 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第12回	道徳教育の内容 Cの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Cの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・教材の魅力提示の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第13回	道徳教育の内容 Dの領域 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：Dの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・発問の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・分析・教材の力・全体協議の在り方 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第15回	まとめ	（学修内容）・指導者の研究（指導力向上への意欲と自己研鑽） ・教育指導者としてのプラス思考・テストについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 1～14回の授業プリント



授 業 名	道徳教育論（小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1413
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	若松 秀一			対 象 学 生	現代家政1回生				
授 業 の 概 要	<p>理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。  また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。  適宜、プレゼンテーションの授業資料、写真など参考資料、レポート課題等の提示を行う。  指名発問も実施する。  演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。</li> <li>2) 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。</li> <li>3) ほぼ毎回、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れる。コミュニケーション力を高める。</li> <li>4) レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。  代表者はプレゼンテーション力を、出席者はコメントを通して分析力、思考力を養う。</li> </ol>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>社会人として道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持つことができる。  道徳授業づくりの基本型に沿って指導案を書くことができる。  自作の指導案に基づいて模擬授業を行うと同時に他の授業時は、児童役を行うことで児童理解ができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・特別の教科 道徳編」廣済堂あかつき 平成29年7月								
参 考 書	赤堀博行「『特別の教科 道徳』で大切なこと」 東洋館出版社 2018 小寺正一・藤永芳純 [ 編 ] 「四訂道徳教育を学ぶ人のために」 世界思想社 2017								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	毎回の授業で記入した振り返りに対して、毎回解説を行う。								
留 意 事 項	教職を志望する学生の履修を望む。「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。また、授業の復習をすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市の教員として、37年間勤務。								

授業名	道徳教育論（小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の概要	（学修内容）オリエンテーション（本講義のねらいと内容、評価の方法、マナーなどについて）道徳教育の概要を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の復習
第2回	「特別の教科 道徳」の概要 改訂の背景と道徳性	（学修内容）「特別の教科 道徳」の設置に当たっての経過と道徳性について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（以下、解説道徳編）プリントをもとに学習内容の復習
第3回	「特別の教科 道徳」の目標と「期待される道徳授業」	（学修内容）「特別の教科 道徳」の目標と「期待される道徳科の授業」について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第4回	道徳科の授業づくり（教材分析・教材提示）	（学修内容）道徳授業づくり（道徳授業で使われる教材と教材分析、教材提示の仕方）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第5回	道徳科の授業づくり（導入・発問・板書）	（学修内容）道徳授業づくり（道徳授業の導入、自己を見つめる発問、板書の役割について）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第6回	道徳科の授業づくり（話し合い活動、役割演技）	（学修内容）道徳授業づくり（多面的・多角的に考えるための話し合い活動や役割演技について）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第7回	道徳科の指導方法（終末の発問と評価）	（学修内容）道徳授業づくり（生き方を考える展開後段の発問や終末について具体例や道徳科の評価について）を学ぶ。平常試験のレポート課題を提示する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第8回	生き方を考える道徳科の授業づくり（新しい発想での道徳授業）	（学修内容）道徳授業づくり（新しい発想での道徳授業の方法について具体例をもとに）を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容の復習
第9回	道徳授業の指導案の作成（教材分析）	（学修内容）道徳授業の指導案の作成に取り組む。模擬授業をする教材を決定し、教材分析を行うとともに内容項目の理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容（指導案）の復習
第10回	道徳授業の指導案の作成（主題設定の理由、ねらい）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。主題設定の理由、ねらい・めあての作成。ねらいに迫る発問の検討をする。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容（指導案）の復習
第11回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、発問）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。ねらいに迫る効果的な指導方法の検討、補助発問の作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容（指導案）の復習
第12回	道徳授業の指導案の作成（指導方法、板書）	（学修内容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。構造的な板書計画の作成。フラッシュカードや挿絵の作成。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 解説道徳編、プリントをもとに学習内容（指導案）の復習
第13回	作成した指導案をもとに一回目の模擬授業	（学修内容）次回も含めて代表3人の学生が、30分間の模擬授業を行う。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 模擬授業をもとに指導案の修正。
第14回	作成した指導案をもとに残り二つの模擬授業	（学修内容）模擬授業について感想、意見交流を行い、道徳科の授業づくりで大切にしたいことを考える。指導案を仕上げ提出する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 模擬授業をもとに指導案の振り返り。
第15回	道徳教育の学級経営に果たす役割について 家庭や地域社会と連携した道徳教育について	（学修内容）道徳教育の学級経営に果たす役割と家庭や地域社会と連携した道徳教育の有効性について考える。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の復習。定期試験の準備。

授 業 名	発達心理学（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1403
英 文 名	Developmental Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		発達心理学（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（学修内容）保育における発達理解の必要性を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 1章を読んでくる
第2回	乳児期前半	（学修内容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第3回	乳児期後半	（学修内容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第4回	1歳児（運動・認知）	（学修内容）1歳児の運動発達、認知発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第5回	1歳児（言語・社会性）	（学修内容）1歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第6回	2歳児	（学修内容）2歳児の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第7回	3歳児	（学修内容）3歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第8回	4歳児	（学修内容）4歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第9回	5歳児	（学修内容）5歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 5章を読んでくる
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（学修内容）乳幼児期の6年間を通してたいせつなことを解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる
第11回	児童期	（学修内容）児童期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第12回	思春期前期	（学修内容）思春期前期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第13回	思春期後期	（学修内容）思春期後期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第14回	発達の援助のあり方 自閉症スペクトラム	（学修内容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる
第15回	発達の援助のあり方 ADHD	（学修内容）ADHDの特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる

授 業 名	教育の基礎と制度（家庭・栄養）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1704
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 奈美			対 象 学 生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授業の概要	教育の目標や方法、内容といった構成要素の視点から分析する。また、歴史・哲学・社会背景などとの関連から、教育とは何かについて考察する。教育の理論は、どのような歴史や議論を経てその形に至ったのか、また、目標や方法といった教育の構成要素をふまえると「よい教育」とはどのようなものなのか、について探究する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教師、生徒などさまざまな立場から、教育を分析できる。 2) 歴史・哲学・社会背景などとの関連から、教育とは何かについて理解、説明できる。 3) 講義内容を理解したうえで、現時点における自分にとっての「よい教育」とはどのようなものなのかについて説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	香川七海、福若真人、蒲生良太編『教育原理』七猫社、2019年、ISBN 978-4-908869-14-3。								
参 考 書	紺野祐、走井洋一、小池孝範、清多英羽、奥井現理『教育の現在 改訂版』学術出版会、2011年。 ほか適宜授業にて紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーを含む小レポートについては翌週の授業時にコメントする。								
留 意 事 項	欠席時には次の授業までにその時の授業内容や配布物などを確認しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回時に連絡。								
実践的教育									

授 業 名		教育の基礎と制度（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	はじめに	<p>（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。教育を原理的に問う、とはどういったことなのかについて考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスを確認しておく。自分が受けてきた教育について振り返っておく。</p>	
第2回	教育の意味と意義	<p>（学修内容）私の教育体験をふりかえる。準備してきたワークシートをもとにグループで意見交換する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 自分たちが受けてきた教育を振り返り、「教育」とは何か、今の自分にとって「よい教育」について考えをまとめる。</p>	
第3回	教え込みと学びの誘発	<p>（学修内容）教育実践を分析し、教師として、生徒の学びを誘発するにはどうすべきかを考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当ページを読み、それぞれの教育者が自らの教育理論において何を大切にしていたのかをまとめる。</p>	
第4回	教育原理と実践	<p>（学修内容）事例を観察することで、教育原理と実践の関係について理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当ページを読み、教育者の生きた時代背景が、彼らの教育理論にどのように影響していたのかについて調べる。</p>	
第5回	古代ヨーロッパの教育：「教師の問い」	<p>（学修内容）プラトンの対話法から、「教師の問い」の意義を考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、プラトンが若者との対話において、大切にしていたと思われることをまとめる。</p>	
第6回	現代ヨーロッパの教育：子ども中心主義	<p>（学修内容）教師からの一方通行の教育から、子どもを中心に考えた教育への移行がどんな歴史・社会背景のもと成立したかを探究する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、「子ども・児童中心主義」教育者たちの主張をまとめる。</p>	
第7回	プラグマティズム：生活と教育	<p>（学修内容）デューイが、生活と教育の関係をどのように考えていたのかについて考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、デューイの人間観をまとめる。</p>	
第8回	日本の教育制度	<p>（学修内容）現代日本の教育制度が大事にしていることは何か。日本やヨーロッパの教育の歴史を踏まえて、そこに到る道を考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 現行学習指導要領に規定されている「生きる力」は、いつ頃どんな社会背景のもとと言及されるようになったのか、小レポートにまとめる。</p>	
第9回	アジアの教育制度 教育の個人的目的	<p>（学修内容）事例を検討することによって、制度と個人の関係、および個人にとっての教育の意味について探究する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事例の国の社会、文化、歴史、教育制度について下調べをする。</p>	
第10回	アジアの教育制度 教育の社会的目的	<p>（学修内容）社会や文化が教育の意味づけやその実施にどのように影響するのかを考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業の事例において、背景にある社会や文化が教育にどのような影響を及ぼしているのかについて、考えをまとめる。</p>	
第11回	教育と抑圧	<p>（学修内容）教育が良き側面だけではなく、ともすると人を抑圧してしまう契機になりうる点について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（50分） 配布資料を読み、気になった点をまとめる。</p>	
第12回	教育と「人間になること」	<p>（学修内容）人間形成としての教育がどのように成り立つのかについて考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（50分） 配布資料を読み、気になった点をまとめる。</p>	
第13回	道徳教育とは何か	<p>（学修内容）自分自身が受けてきた道徳教育を振り返りつつ、改めて道徳教育の意味を問う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（50分） 自分が受けてきた道徳教育の特徴を整理してくる。配布資料を読み、事例の教育者の道徳教育に対する考えをまとめる。</p>	
第14回	ふりかえり :	<p>（学修内容）授業内容を踏まえて、教育において何が重要なのかを考え、グループで共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 5-10分間の発表（プレゼンテーション）準備をしておく。</p>	
第15回	ふりかえり :	<p>（学修内容）授業内容を踏まえて、今の自分にとってよい教育とはどのようなものなのかを考え、グループで共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 5-10分間の発表（プレゼンテーション）準備をしておく。</p>	

授 業 名	教育の基礎と制度（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1402
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 奈美			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	教育の目標や方法、内容といった構成要素の視点から分析する。また、歴史・哲学・社会背景などとの関連から、教育とは何かについて考察する。教育の理論は、どのような歴史や議論を経てその形に至ったのか、また、目標や方法といった教育の構成要素をふまえると「よい教育」とはどのようなものなのか、について探究する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育の目標や方法、内容といった構成要素の視点から理解し、説明することができる。 2) 歴史・哲学・社会背景などとの関連から、教育とは何かについて考察し、説明することができる。 3) 教育の理論は、どのような歴史や議論を経てその形に至ったのかについて説明することができる。 4) 目標や方法といった教育の構成要素をふまえ、今の自分にとって「よい教育」とはどのようなものなのか探究し、それを説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	香川七海、福若真人、蒲生良太編『教育原理』七猫社、2019年、ISBN 978-4-908869-14-3。								
参 考 書	紺野祐、走井洋一、小池孝範、清多英羽、奥井現理『教育の現在 改訂版』学術出版会、2011年。 ほか適宜授業にて紹介。								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーなどの小レポートについては翌週の授業時にコメントする。								
留 意 事 項	欠席時には次の授業までにその時の授業内容や配布物などの確認にすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初日に連絡。								
実践的教育									

授 業 名		教育の基礎と制度（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	はじめに	<p>（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。教育を原理的に問う、とはどういったことなのかについて考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認しておく。自分が受けてきた教育について振り返っておく。</p>	
第2回	「教育」とは何か 教育の意味と意義	<p>（学修内容）私の教育体験をふりかえる。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 自分たちが受けてきた教育を振り返り、「教育」とは何か、今の自分にとって「よい教育」について考えを確認する。</p>	
第3回	「教育」とは何か 「教えること」と「学ぶこと」の関係	<p>（学修内容）教育を「教える」と「学ぶ」の視点から捉え、教育実践を視聴・分析し、教師として、生徒の学びを誘発するにはどうすべきかを考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当ページを読み、それぞれの教育者が自らの教育理論において何を大切にしていたのかをまとめる。</p>	
第4回	「教育」とは何か 「教育目標」と「教育方法」の関係	<p>（学修内容）事例を観察することで、教目標と方法が教育実践にいかに関われるのかを考察し、教育目標と方法の関係について理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当ページを読み、教育者の生きた時代背景が、彼らの教育理論にどのように影響していたのかについて調べる。</p>	
第5回	古代ヨーロッパの教育：「産婆術」と「教師の問い」	<p>（学修内容）古代ギリシャの対話法から、「教師の問い」の意義を考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料（プラトンの対話篇）を読み、プラトンが若者との対話において、大切にしていたと思われることをまとめる。</p>	
第6回	近代ヨーロッパの教育：「人間の性質」と「教育」の関係	<p>（学修内容）近代ヨーロッパにおける人間についての考え方の転換と、教育の変化の関係を考察し、現子どもの成長に関わる意義を探究する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読み、近代ヨーロッパの思想家の人間観をまとめる。</p>	
第7回	現代ヨーロッパの教育：個人の教育と社会の教育	<p>（学修内容）教師からの一方通行の教育から、子どもを中心に考えた教育への移行がどんな歴史・社会背景のもと成立したかを探究する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読み、「子ども・児童中心主義」教育者たちの主張をまとめる。</p>	
第8回	日本の教育制度	<p>（学修内容）現代日本の教育制度が大事にしていることは何か。日本やヨーロッパの教育の歴史を踏まえて、そこに到る道を考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 現行の学習指導要領に規定されている「生きる力」は、いつ頃どのような社会背景のもと言及されるようになったのかをまとめる。</p>	
第9回	アジアの教育制度 教育の個人的目的	<p>（学修内容）事例を検討することによって、制度と個人の関係、および個人にとっての教育の意味について探究する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 事例の国の社会、文化、歴史、教育制度について下調べをする。</p>	
第10回	アジアの教育制度 教育の社会的目的	<p>（学修内容）社会や文化が教育の意味づけやその実施にどのように影響するのかを考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 前回授業の事例において、背景にある社会や文化が教育にどのような影響を及ぼしているのかについて、考えをまとめる。</p>	
第11回	学校教育の思想 系統主義と経験主義	<p>（学修内容）系統主義と経験主義とは何か。それぞれがカリキュラムにどう影響しているのかを考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読み、内容をまとめる。</p>	
第12回	学校教育の思想 生活教育とプラグマティズム	<p>（学修内容）学校の勉強と子どもの生活はつながっているのか、どうつなげることができるのかについて考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（90分） 教科書の該当箇所を読み、内容をまとめる。</p>	
第13回	現代にける教育の課題	<p>（学修内容）子ども・若者と自己承認 事例を検討し、現代の教育の課題について考える。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（90分） 配布資料を読み、事例の教育者が何を教育の課題としたのかについて、まとめる。</p>	
第14回	ふりかえり	<p>（学修内容）授業内容を踏まえて、教育において何が重要なのかを考え、グループで共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（90分） 5-10分間の発表準備をしておく。</p>	
第15回	ふりかえり	<p>（学修内容）授業内容を踏まえて、今の自分にとってよい教育とはどのようなものなのかを考え、グループで共有する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 5-10分間の発表（プレゼンテーション）準備をしておく。</p>	



授 業 名	教育心理学（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3766
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>個人の持つ潜在的能力の実現は、教育による個々人の学習と、加齢に伴う心身の発達を通じて達成される。本講義は、特別支援教育の視点も加味しながら、学習や発達とはいかなる過程なのか、学習や発達を促進させる要因と障害となる要因は何か、それらはどのように理論化されるのかなどの問題を考える。また、教育現場で生起するさまざまな心理的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から、対処法も含めて考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>人間の発達や学習の諸側面について説明できる。 人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	西口利文・高村和代 『教育心理学』 ナカニシヤ出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師								

授業名	教育心理学（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の内容や研究領域について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認し疑問点をまとめる。
第2回	発達（1）発達の規定因、発達と教育	（学修内容）発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のこれまでの育ちについて振り返る。
第3回	発達（2）エリクソンの生涯発達理論	（学修内容）各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 家族など、自分の周囲にいる人たちの発達課題を考える。
第4回	発達（3）ピアジェの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 同化、調節の具体例を考える。
第5回	発達（4）ヴィゴツキーの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 足場かけの具体例を考える。
第6回	学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ	（学修内容）学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第7回	学習（2）観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	（学修内容）学習理論の教育への応用を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第8回	学習（3）動機づけ、原因帰属	（学修内容）動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第9回	思考と知能	（学修内容）知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第10回	パーソナリティ（1）類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	（学修内容）パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第11回	パーソナリティ（2）性格検査法、質問紙法、投影法、作業検査法	（学修内容）学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第12回	学級集団における人間関係	（学修内容）学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第13回	教育現場における心理・社会的問題	（学修内容）いじめや不登校など、学校現場でみられる心理・社会的問題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のこれまでの学校生活を振り返る。
第14回	特別な配慮が必要な子どもの理解と支援	（学修内容）発達障害などについて学び、合理的配慮の必要性を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 特別支援教育について調べる。
第15回	教育相談	（学修内容）カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） ノートや資料を整理し、不足分について確認しておく。

授 業 名	教育心理学 u ( 幼・小 )			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3448
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>個人の持つ潜在的能力の実現は、教育による個々人の学習と、加齢に伴う心身の発達を通じて達成される。本講義は、特別支援教育の視点も加味しながら、学習や発達とはいかなる過程なのか、学習や発達を促進させる要因と障害となる要因は何か、それらはどのように理論化されるのかなどの問題を考える。また、教育現場で生起するさまざまな心理的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から、対処法も含めて考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>人間の発達の諸側面について説明できる。  人間の学習の諸側面について説明できる。  人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えられる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	西口利文・高村和代 『教育心理学』 ナカニシヤ出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	事前事後学習をすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に知らせる。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師</p>								

授 業 名		教育心理学 u (幼・小)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の内容や研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートやファイルを準備する。
第2回	発達(1)発達の規定因、発達と教育	(学修内容)発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のこれまでの育ちについて振り返る。
第3回	発達(2)エリクソンの生涯発達理論	(学修内容)各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族など、自分の周囲にいる人たちの発達課題を考える。
第4回	発達(3)ピアジェの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 同化、調節の具体例を考える。
第5回	発達(4)ヴィゴツキーの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 足場かけの具体例を考える。
第6回	学習(1)古典的条件づけ、オペラント条件づけ	(学修内容)学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な条件づけの例を考える。
第7回	学習(2)観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	(学修内容)学習理論の教育への応用を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習理論を教育活動に取り入れる方法を自分なりに考える。
第8回	学習(3)動機づけ、原因帰属	(学修内容)動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) やる気について考える。
第9回	思考と知能	(学修内容)知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知能検査について調べる。
第10回	パーソナリティ(1)類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	(学修内容)パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第11回	パーソナリティ(2)性格検査法、質問紙法、投影法、作業検査法	(学修内容)学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第12回	学級集団における人間関係	(学修内容)学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み、事例について考える。
第13回	教育現場における心理・社会的問題	(学修内容)いじめや不登校など、学校現場でみられる心理・社会的問題について学ぶ。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のこれまでの学校生活を振り返る。
第14回	特別な配慮が必要な子どもの理解と支援	(学修内容)発達障害などについて学び、合理的配慮の必要性を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み事例について考える。
第15回	教育相談	(学修内容)カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートや資料を整理し不足分について確認する。

授業名	人間福祉論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1302
英文名	Theory of Human Welfare			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、社会福祉の役割について考える。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象である対象・主体・方法、社会福祉制度の概要の理解をしていく。海外の社会福祉の実情も紹介し、わが国の課題を考察する。								
学修成果到達目標	1) 社会事象に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2) 私たち人間のくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) くらしを支える最後の拠り所である社会福祉の重要性を理解できるようになる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない。								
参考書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留意事項	ノートをしっかり取ること。新聞を読むこと。								
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。								

授 業 名	人間福祉論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ我々は学ぶのか、どう学ぶか	(学修内容) 社会福祉を学ぶ姿勢について話す (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の事象に思いをよせる。
第2回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈善 -	(学修内容) 生活問題と生活保障の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の歴史を調べ考える。
第3回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈恵・博愛・相互扶助 -	(学修内容) 慈恵・博愛・相互扶助について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の誕生について調べ考える。
第4回	社会事業・社会福祉の成立	(学修内容) 社会福祉の成立について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の今日の役割を調べ考える。
第5回	社会福祉の動向と課題 - 対象 -	(学修内容) 社会福祉の対象理解について (事前事後学修課題の内容) (30分) くらしの基盤について家族と対話し考える。
第6回	社会福祉の動向と課題 - 主体 -	(学修内容) 社会福祉の主体について (事前事後学修課題の内容) (30分) 企業と社会福祉について調べ考える。
第7回	社会福祉の動向と課題 - 方法 -	(学修内容) 社会福祉の方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の方法について調べ考える。
第8回	社会福祉制度の概要 - 社会保険 -	(学修内容) 社会福祉としての保険制度について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの加入している保険を調べる。
第9回	社会福祉制度の概要 - 社会手当 -	(学修内容) 社会手当について (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族が受給している手当を家族から学ぶ。
第10回	社会福祉制度の概要 - 生活保護 -	(学修内容) 生活保護制度について (事前事後学修課題の内容) (30分) 貧困について調べ考える。
第11回	社会福祉制度の概要 - 児童福祉 -	(学修内容) 児童福祉について (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所をはじめ児童について考える。
第12回	社会福祉制度の概要 - 施設・サービス -	(学修内容) 施設・サービスについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設・サービスに関わっている事象を調べ考える。
第13回	社会福祉の国際比較 - 保育 -	(学修内容) 社会福祉の国際比較 - 保育 - (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外の保育情報に目を向ける調べる。
第14回	社会福祉の国際比較 - 介護 -	(学修内容) 社会福祉の国際比較 - 介護 - (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外の介護情報に目を向け調べる。
第15回	社会福祉の今日的課題	(学修内容) 社会福祉の動向と課題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 新聞等から今日の話題をつかむ。

授 業 名	生涯学習論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2441
英 文 名	Theory of Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。  2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。  3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	生涯学習論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国における生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国における生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	OECDのリカレント教育	(学修内容)OECDのリカレント教育について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史の変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)生涯学習世論調査から生涯学習の実施状況を確認し、グループ討議を通して望ましい生涯学習の在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表	(学修内容)自分が住む地方自治体の生涯学習の取り組みについて、調べた内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体の生涯学習振興策及び実施状況を調べて、発表用資料にまとめる。



授 業 名	家族関係論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2212
英 文 名	Theory of Family Romance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、主に心理学的な概念や分析手法への理解を通して、これからの時代における望ましい家族像について検討する。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代日本の家族が抱えている問題を客観的に把握することができる。  2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。  3) 家族療法の基礎的な知識を得、その方法を説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義『家族の心理 第2版 家族への理解を深めるために』サイエンス社								
参 考 書	小田切紀子・野口康彦・青木聡(編著)『家族の心理 変わる家族の新しいかたち』金剛出版								
課題に対するフィードバックの方法	授業中にコメントを返す								
留 意 事 項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	家族関係論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) この授業のテーマと進め方について (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる
第2回	家族とは何か	(学修内容) テキスト第1章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第1章を読んでくる
第3回	家族の健康性	(学修内容) テキスト第2章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第2章を読んでくる
第4回	家族づくりの準備	(学修内容) テキスト第3章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第3章を読んでくる
第5回	恋愛の心理・結婚の心理	(学修内容) 恋愛と結婚の心理 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第6回	夫婦の飛達	(学修内容) テキスト第4章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第4章を読んでくる
第7回	子どもが育つ場としての家族	(学修内容) テキスト第5章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第5章を読んでくる
第8回	変化する社会の中の家族	(学修内容) テキスト第6章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第6章を読んでくる
第9回	家族療法の基礎	(学修内容) 家族療法の基礎 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第10回	家族理解に役立つ臨床理論	(学修内容) テキスト第7章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第7章を読んでくる
第11回	家族の変化に役立つ臨床的援助技法	(学修内容) 家族療法の臨床理論 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第8章を読んでくる
第12回	家族への臨床的アプローチの実際	(学修内容) テキスト9章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第9章を読んでくる
第13回	少年・家事事件の現状/子ども虐待と被虐待児(者)の心理	(学修内容) 非行・家事事件/児童虐待 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第14回	再婚家庭と子ども/中年期・老年期の家族	(学修内容) 離婚・再婚と家族/家族のライフサイクル (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第15回	家族をめぐる心理学の課題と展望	(学修内容) テキスト第10章 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの第10章を読んでくる

授 業 名	子どもの生活 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2317
英 文 名	Children and Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子・山川 宏和			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。  2) 生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。  3) 近年の教育環境や教育目標の変化が、生活科に及ぼした影響について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』文部科学省(東洋館出版社)								
参 考 書	適宜配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、授業内で紹介しコメントする。								
留 意 事 項	幼稚園・小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもの生活 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（学修内容）子どもと生活の目標、授業方法について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを読んでおく
第2回	生活科の解説	（学修内容）生活科創設の経緯・変遷について説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第3回	教育指導要領の解説	（学修内容）生活科に関する指導要領の内容を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第4回	季節の変化と生活 秋を観察する	（学修内容）学外の自然観察に必要な内容を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回のまとめをしておく
第5回	授業計画の目的と意義について	（学修内容）生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （事前事後学修課題の内容）（30分） 生活科の9つの領域を調べておく
第6回	グループ・セッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容を振り返っておく
第7回	グループ・セッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） グループ内で出された意見をまとめておく
第8回	授業計画の策定 ねらい	（学修内容）授業計画をグループでまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第9回	授業計画の策定 方法	（学修内容）各グループ内で授業計画を完成させる （事前事後学修課題の内容）（30分） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第10回	季節の変化と生活 秋を体験する	（学修内容）学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （事前事後学修課題の内容）（30分） 体験するための準備をしておく
第11回	ポスターセッション	（学修内容）授業計画を展示し、他グループの内容を参照する （事前事後学修課題の内容）（60分） 展示の準備をしておく
第12回	発表 前半グループ	（学修内容）ポスターセッションの内容を発表する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表内容をまとめておく
第13回	発表 後半グループ	（学修内容）ポスターセッションの内容を発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表内容をまとめておく
第14回	季節の変化と生活 秋を伝える	（学修内容）学外で体験した季節の変化について振り返る （事前事後学修課題の内容）（30分） 観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を 考えておく
第15回	まとめ	（学修内容）半期の学びを総括し、試験について説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 半期間のまとめをしておく

授業名	幼児理解			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3444
英文名	Understanding Infants			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川 由紀子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>子ども理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。そこで、子どもの生活や遊びの実態に即して、幼児期にいたるまでの過程を含めて発達を解説しつつ、そこでの子どもの学びや保育者の基礎的な態度を解説する。また、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法も解説する。また保護者支援を念頭に置いてカウンセリングについても解説する。カウンセリングの解説では、簡単なロールプレイを行い、ディスカッションを通して、相談に乗る際に大切なことを理解できるようにする。</p>								
学修成果到達目標	<p>子どもを理解し保育を展開する方法を学ぶ  子ども理解の意義を理解している。子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。保育所や幼稚園における保育相談の意義と理論を理解している。保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (90%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	<p>保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版</p>								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		幼児理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	(学修内容) 子ども理解に必要なことを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んでくる	
第2回	0歳児の発達と保育	(学修内容) 0歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p40から読んでくる	
第3回	1歳児の発達と保育	(学修内容) 1歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p88から読んでくる	
第4回	2歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p126から読んでくる	
第5回	2歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章を読んでくる	
第6回	3歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p146から読んでくる	
第7回	3歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでくる	
第8回	4歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p200から読んでくる	
第9回	4歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる	
第10回	5歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p232から読んでくる	
第11回	5歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでくる	
第12回	子どもの問題行動のとらえ方	(学修内容) 子どもの問題行動をとらえる視点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p108からp119を読んでくる	
第13回	保育相談の留意点	(学修内容) ロジャースの3原則を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) プリントを読んでくる	
第14回	カウンセリングの実際(ロールプレイ)	(学修内容) ロールプレイを行い、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前週のプリントを復習する	
第15回	保護者と話す際の留意点	(学修内容) ロールプレイの振り返りを行い、その技法を保護者とのやりとりにか す方法を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) ロールプレイの振り返りしておく	

授 業 名	衣生活論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1302
英 文 名	Clothing and Human Life			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>私たちは、販売されている多くの既製のなかから衣服を選択し、購入して着用している。快適な衣生活を営むためには、衣服の材料やサイズ、管理の方法などの知識が必要である。本講義では、衣服の役割や機能、衣服に関する基礎的な知識について学ぶ。さらに、衣生活に関わる現代的課題について考える。理解を深めるため、適宜実習を取り入れながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衣服の機能を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 衣服に関する総合的な知識を身につけ、説明することができる。</li> <li>3. 衣生活にかかわる課題を指摘することができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	消費者の視点からの衣生活概論 [ 井上書院 ]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで在室できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		衣生活論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義の目的と授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストに目を通しておく
第2回	衣服の役割	(学修内容) 衣服の役割について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	衣服材料1: 繊維の種類	(学修内容) 繊維の種類と特色について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	衣服材料2: 天然繊維	(学修内容) 天然繊維の種類と特徴について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	衣服材料3: 化学繊維	(学修内容) 化学繊維の種類と特徴について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	衣服材料4: 糸の種類	(学修内容) 紡績糸とフィラメント糸について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	衣服材料5: 布の構造	(学修内容) 織物と編物の構造について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	衣服のデザイン	(学修内容) 衣服と色彩、デザインについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	体型と衣服	(学修内容) 体型と衣服の形について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	型紙の作成	(学修内容) 自分にあった原型を作成する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	型紙の完成	(学修内容) 原型を完成させる  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	衣服のサイズ表示	(学修内容) 衣服のサイズ規格と表示方法について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	快適な衣服: 気候と衣服	(学修内容) 衣服と体温調節について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	衣服の手入れと洗濯	(学修内容) 洗濯と洗剤について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	現代社会と衣服	(学修内容) 衣生活に関わる現代的課題について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える



授業名	衣生活実習			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1305
英文名	Dress Making Practice			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	細長 喜久代			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いとズボンやトップスの布の選定から型紙作成、縫製、試着までを行う。								
学修成果到達目標	1) 衣服材料の種類と性質、衣服製作に必要な道具の取り扱い方を説明できる。 2) 着用者に合わせたズボンとトップスを完成できる。 3) 人体と制作物のデザインや着心地との関係について説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基本技術の習得)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (製作物の完成度)	( )			
テキスト	プリントを配布する。								
参考書	中学校技術・家庭および高等学校家庭科の教科書								
課題に対するフィードバックの方法	制作物・レポートについては、点検し、コメントをつけて返却する。								
留意事項	教職を志望する学生は履修すること。 学生の進捗状況などを鑑み、内容を変更することもある。 欠席、遅刻はしないように心がけること。								
オフィスアワー	初回到提示する								
実践的教育									

授 業 名		衣生活実習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	「ズボンの製作1」採寸	(学修内容)採寸を行う。ズボン製作に必要な用具、布等の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 裁縫道具の確認をして持参する。	
第2回	「ズボンの製作2」型紙作成・ロックミシンの使い方	(学修内容)ズボンの型紙の特徴を理解し、ズボンの型紙を作成する。ロックミシンの使い方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 布を準備し、地直しをする。	
第3回	「ズボンの製作3」裁断・縫製	(学修内容)作図裁断と印付け、縫い代の始末を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のところまでレポートを書いておく。	
第4回	「ズボンの製作4」脇・股下・股上縫い ミシンの使い方	(学修内容)ミシンの使い方を理解する。躡のかけ方を学ぶ。脇と股下、股上を縫う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のところまでレポートを書いておく。	
第5回	「ズボンの製作5」ウエストの始末	(学修内容)ウエストにゴムを入れ、完成させる。 試着を行い、みんなで観察し合う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ズボンとレポートを完成させ提出する。	
第6回	「トップスの製作1」トップスの作図 身頃	(学修内容)トップスの形状と用いる布の説明を聞く。身頃の作図を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 衣生活論の授業で描いた見頃の原型を持参する。 トップス製作に必要な布やボタンを調達する。	
第7回	「トップスの製作2」トップスの作図 袖	(学修内容)トップスの袖の作図を行う。トップス製作に必要な基礎縫いを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 布の地直しをしておく。	
第8回	「トップスの製作3」裁断と印付け	(学修内容)布を裁断し、印付けを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のところまで、レポートを書いておく。	
第9回	「トップスの製作4」仮縫いと補正	(学修内容)布を組み立て、仮縫い合わせを行い、場合によっては補正を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第10回	「トップスの製作5」縫い代の始末と接着芯貼り	(学修内容)縫い代を整理し、ロックミシンで縫い代の始末を行う。見返しに接着芯を貼る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第11回	「トップスの製作6」身頃作り	(学修内容)肩・脇を縫い合わせる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第12回	「トップスの製作7」襟ぐり・見返し付け	(学修内容)見返しを付け、襟ぐりを始末する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第13回	「トップスの製作8」袖作り	(学修内容)袖を作る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第14回	「トップスの製作9」袖付け	(学修内容)身頃に袖を付ける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回まで習ったところを完成させ、レポートを書いておく。	
第15回	「トップスの製作10」ボタンホール、ボタン付け、仕上げ、試着	(学修内容)ボタンホールを作り、ボタンを付ける。仕上げを行う。試着し、みんなで観察しあう。 (事前事後学修課題の内容)(30分) トップスとレポートを完成させ提出する。	

授 業 名	カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Color Coordinates			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の衣食住の場面において色彩が持ち得る役割について理解し、それを実際の場面計画できるを能力を深める。</p> <p>また、授業ではワークシートに実際に配色することで、色彩に対する実践的力を学び、できた作品を相互に鑑賞することで色彩理論を感覚で確認する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 衣食住における色彩についてその意味と効果を理解できる。</p> <p>2) 科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩計画を読解できる。</p> <p>3) 配色や色彩計画の演習を行って、さまざまな場面で色彩を計画できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	必要な資料は、適宜紹介する。								
参 考 書	プリント等で配布する。								
課題に対するフィードバックの方法	各課題のワークシートを確認、適時指導する。								
留 意 事 項	実際に色カードによる配色演習を行なう 色彩検定などのアドバイスは必要に応じて適時行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施、その他、可能時間を授業時に伝える。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長</p>								

授 業 名		カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	色彩表現の世界	（学修内容）導入 色彩を学ぶこと、楽しむこと。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 色彩について考える。
第2回	色彩体系を学習 1	（学修内容）色相の構成要素と特徴を理解する。 PCCSの色相環を配色カードを使って理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.4～13を読んでキーワードをマーキングする。
第3回	色彩体系を学習 2	（学修内容）明度・彩度の設定方法と特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） ワークシートを振り返り完成させる。
第4回	色彩体系を学習 3	（学修内容）日本色研配色体系（PCCS）や、トーンの概念についてワークシートを作成し理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.14～15を読んでおく。
第5回	色彩調和の基礎 1	（学修内容）自然色の秩序、色彩調和論の要約を理解する。 色相を基準にした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.16～19を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第6回	色彩調和の基礎 2	（学修内容）明度を基準とした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.20～21を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第7回	色彩調和の基礎 3	（学修内容）彩度を基準とした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.22～23を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第8回	色彩調和の基礎 4	（学修内容）トーンを基準にした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.24～25を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第9回	配色技法 1	（学修内容）ベースカラーとアソートカラー、アクセント効果による配色、セパレーション効果、ドミナントカラーによる配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.26～32を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第10回	配色技法 2	（学修内容）グラデーション効果による配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.33～35を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第11回	配色技法 3	（学修内容）トーンオントーン配色、トーンイントーン配色、トータル配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.36～40を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第12回	色彩心理	（学修内容）色の見えの効果を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.41～646を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第13回	色のイメージと配色（カラープランニング） 1	（学修内容）配色技法の応用：日常空間の配色を考えるイメージと配色の関係を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.47～59を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第14回	色のイメージと配色（カラープランニング） 2	（学修内容）個人空間、住空間、都市空間の配色を考え、意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.60～77を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第15回	まとめ	（学修内容）色彩についてのまとめ。 ワークシートを完成させる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでのワーキングシートを振り返り、完成させて提出する。

授 業 名	食の科学 (調理学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1401
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。実際の調理場面を想定し理論がどう活かされているかなどについてディスカッションし理解を深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理の目的・調理理論を理解できる 2) おいしさに関する因子について理解できる 3) 理論を理解し日常の調理で実践することができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (汎用的能力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	フーズスペシャリスト協会 編『調理学 第2版』 建帛社 2020								
参考書	講義内で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	前回の復習を講義冒頭に行い、返却課題に関する解説も同時に行う。								
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしておくこと								
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	食の科学（調理学）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（学修内容）調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p2-3を読んでおく 調理の目的について簡潔にまとめておく
第2回	おいしさに関する要因1（食べ物の因子）	（学修内容）おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p3-18を読んでおく 食べ物の基本味と味の相互作用例についてまとめておく
第3回	おいしさに関する要因2（食べる人の因子）	（学修内容）おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p17-29を読んでおく おいしさに大きく寄与する因子について考え、まとめておく
第4回	食事計画と調理	（学修内容）食事計画における調理環境などの因子についての考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 献立を立てるメリットについて考えておく 献立作成するときの留意点についてまとめておく
第5回	調理操作1（予備操作）	（学修内容）浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p42-51を読んでおく
第6回	調理操作2（非加熱操作）	（学修内容）生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について学ぶ 各家庭の冷蔵の仕方などについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p53-59を読んでおく
第7回	調理操作3（加熱操作）	（学修内容）湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について 誘導加熱のメリットについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 加熱調理器具の特徴について考えてまとめておく
第8回	調理操作4（調味）	（学修内容）調味料の特徴と調味操作について学ぶ 調味料の浸透と料理例および調理時間などの関連について意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく
第9回	植物性食品の調理特性1（穀類）	（学修内容）米、小麦の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 米や小麦を使った調理例について調べておく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第10回	植物性食品の調理特性2（豆類、イモ類）	（学修内容）豆、イモ類の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p86-97を読んでおく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第11回	植物性食品の調理特性3（野菜類、果実類など）	（学修内容）野菜、果実の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p117-123を読んでおく 野菜の特徴を生かす料理法について考えてみる
第12回	動物性食品の調理特性1（食肉）	（学修内容）牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p99-104を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第13回	動物性食品の調理特性2（魚介類）	（学修内容）魚介類の体組織の構造と調理特性について 魚の鮮度とテクスチャーとの関連性について話し合ってみる （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p105-109を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第14回	動物性食品の調理特性3（卵類、乳・乳製品）	（学修内容）卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p109-115を読んでおく 卵の調理特性についてまとめ、調理例について考えておく
第15回	調理と摂食機能	（学修内容）食べる機能と調理の工夫について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p138-148を読んでおく 咀嚼と嚥下の仕組みについてまとめ、食べにくい食品・料理を考えてみる

授 業 名	住生活論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2209
英 文 名	Living Life Theory			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	住むことと生活との関わり合いを考えていく。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学ぶ。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から説明することができる。 2) 住宅図面の基礎的な読解ならびに作図をおこなうことができる。 3) 住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識を説明することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	未定								
参 考 書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして、住宅見学後に提出したレポートにコメントを付けて返却し、講評をおこなう。								
留 意 事 項	外部の住宅見学を実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住生活論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	住生活論を学ぶ意義	(学修内容) 住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が体験してきた住まいについてまとめておくこと	
第2回	生活空間の計画	(学修内容) 生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第3回	住居の計画	(学修内容) 間取りの意味・室空間の取扱 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第4回	現代の住宅	(学修内容) 和風と洋風の住まい (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第5回	日本の住宅史	(学修内容) 伝統的な住まいのありよう (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第6回	住宅見学・京都の名作住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の名作住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟	
第7回	外国の住宅史	(学修内容) ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第8回	集合住宅の意義	(学修内容) 共同して住む家 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第9回	環境と住まい	(学修内容) 気候風土と室内環境 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第10回	都市と住まい	(学修内容) 市街化住宅(町家と長屋)と郊外型住宅(ニュータウン) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第11回	住宅見学・京都の集合住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の集合住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟	
第12回	住宅見学についてのディスカッション	(学修内容) 住宅見学の講評ならびにディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が見学会の感想をまとめて用意する。	
第13回	住宅図面の読解能力	(学修内容) 設計図面の内容・表記方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 物差しなどなどの使い方を事前に習熟	
第14回	名作住宅の紹介	(学修内容) 町家など京都の住宅を事例に (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で見た内容を整理	
第15回	より良き住生活への提案のプレゼンテーション	(学修内容) 住生活への提案のプレゼンテーションと講評 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小レポートとしてまとめ、提出	



授 業 名	食の科学 (食品学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1408
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、多くの食品の中から適切な食品を選択することが重要である。そのためには、食品成分の特性、食品の物性さらに食品中の化学変化などをよく理解しておくことが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2) 食品のもつ機能について理解できる。 3) 食品の加工・調理による変化について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	中島肇 佐藤薫 著、『食品学 (ステップアップ栄養・健康科学シリーズ)』化学同人 2017 新しい食生活を考える会・編著『新ビジュアル食品成分表』大修館書店 2019								
参 考 書	講義の中で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストについては返却時に解説を行い、理解が進むようにしていく。								
留 意 事 項	毎日にげなく食べないで、食品に関心を持って生活してください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	食の科学 (食品学)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品とは	(学修内容) 食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく 食品の定義についてまとめておく
第2回	食品の分類	(学修内容) 食品成分表の目的と概要、食品の分類法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品成分表の最初の解説について読んで理解を深めておく
第3回	食品中の一般成分 三大栄養素	(学修内容) 炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中での働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 三大栄養素の特徴についてまとめ理解を深める
第4回	食品中の一般成分 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの特性と食品中での働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) ビタミン、ミネラルの働きについてまとめて理解を深める
第5回	食品中の一般成分 水	(学修内容) 水の働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品中の水の働きについて考えておく
第6回	食品中の嗜好成分	(学修内容) 色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) おいしいと感じるにはどのようなことが必要か考えておく
第7回	食品中のその他の成分	(学修内容) 機能性成分および有毒成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 機能性成分を含む市販食品について調べておく
第8回	食品の加工による変化 褐変	(学修内容) 酵素的褐変と非酵素的褐変について (事前事後学修課題の内容) (60分) 褐変を利用した食品についてまとめる
第9回	食品の加工による変化 油脂	(学修内容) 油脂の酸化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 脂質の特徴について復習しておく
第10回	微生物・酵素を用いた食品の加工	(学修内容) 微生物・酵素を用いた食品加工における食品成分の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 発酵食品についてどのようなものがあるか調べ、その特徴についてまとめる
第11回	植物性食品の特徴 穀類、芋類、豆類、種実類	(学修内容) 穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第12回	植物性食品の特徴 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	(学修内容) 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第13回	動物性食品の特徴 肉類、魚類	(学修内容) 肉類と魚類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 肉と魚の食品学的違いについてまとめる
第14回	動物性食品の特徴 卵類、乳類	(学修内容) 卵類、乳類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群の食品について、食品成分表をみて理解を深めておく
第15回	その他の食品の特徴	(学修内容) 新規に開発された食品などの特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 遺伝子組み換え食品などについて調べておく 食品の表示についてまとめる

授 業 名	家庭経済学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2213
英 文 名	Home Economics			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	上田 有里奈			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授 業 の 概 要	<p>金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計という。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようになっているのかを理解する。多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化、ジェンダー間の問題も視野に入れながら、制度やシステムの課題を考える。授業はできるだけ双方向の形で進め、ディスカッションや発言の機会を多く取り入れていく。</p> <p>授業やディスカッションを通して、学生自身が家計管理や生活設計について考えとともに、学生自身の生活および社会の中で共に暮らす様々な人の生活を視野に入れながら、ゆたかさを実現できる社会保障制度やその他の生活経済に関する制度や仕組みのあり方について考える機会にしたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得することができる。</p> <p>2) 家庭経済が果たしている機能を理解することができる。</p> <p>3) 家庭経済と関連する社会制度やシステムの課題を理解することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	『新訂 生活経済学』重川純子 ( 一般財団法人 放送大学教育振興会 )								
参 考 書	ジェンダーで学ぶ生活経済論【第2版】伊藤純・斎藤悦子 ( ミネルヴァ書房 ) そのほか、授業時に適宜紹介する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	グループディスカッションにおいてコメントする。 毎回、授業の内容理解を深めるための演習問題に取り組む。								
留 意 事 項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、グループディスカッションの機会を多く設ける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回 ( 休業期間中を除く。 ) オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育									

授業名	家庭経済学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・家庭経済の概念	(学修内容) 家庭経済とは何か  (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	生活の経済	(学修内容) 日々の生活の営みの中で行っている経済活動について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身のライフコースを視野に入れて生活設計を立て、その時の消費生活様式と個人や家族との関わりについて、考えてみよう。
第3回	家計にみる暮らしの変化 家計収入・支出の構造とジェンダー	(学修内容) 戦後の生活がどのように変化してきたかについて学ぶ。 家計関連統計を用いたジェンダー分析を行う。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第4回	無償労働	(学修内容) 無償労働はどのような役割を果たしているかについて学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような労働が、どのような場合に、ペイドワークになったりアンペイドワークになったりするの、具体的に考えてみよう。
第5回	生活設計とリスク	(学修内容) 生活設計におけるリスクマネジメントの方法や、生活の保障としての自助・共助・公助の概念について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の今後予定するライフイベント、起こりうるリスクにどのようなものがあるか考えてみよう。
第6回	賃金と所得格差・貧困	(学修内容) 就業形態や年齢・性別などによる賃金の相違、就業に関する賃金・所得保障の制度について概説するとともに、所得格差や貧困について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分達の身近にある貧困問題について考えてみよう。相対的貧困率が低い国々の雇用制度や社会保障制度を調べ、日本の課題を考えてみよう。
第7回	消費社会と家計 消費行動	(学修内容) 戦後の消費構造の変化や消費行動への影響要因について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が物やサービスを購入する時の目的を考えてみよう。
第8回	消費社会と家計問題	(学修内容) 消費者信用の仕組みや成り立ちと、利用実態について学ぶ。 多重債務化の原因等問題状況を踏まえ、対応策について検討する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 多重債務や家計の問題を予防するためにはどのようなことが必要か考えてみよう。
第9回	妻と夫の経済関係	(学修内容) 妻と夫の経済的な分担、共同について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) ライフスタイルの選択に影響する可能性のある税制や社会保障制度について考えてみよう。
第10回	「子どもにかかる費用」についてのケースワーク	(学修内容) 「子どもにかかる費用」としてどのようなものが考えられるかをグループで話し合い、まとめてみよう。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにかかる費用としてどのようなものがあるか考えてみよう。
第11回	「子どもにかかる費用」についてのケースワーク 親と子の経済関係	(学修内容) 前回のグループワークのまとめをプレゼンテーションする。 親と子の経済関係について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のグループワークのまとめをしておく。
第12回	高齢期の生活と社会保障	(学修内容) 高齢者の家計の実態と課題について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 公的年金制度や介護保険制度の仕組みについて知ろう。
第13回	NPOと家計	(学修内容) 家計とNPOとの関わりについて学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 非営利組織(NPO)とはどのようなものか知ろう。
第14回	生活の質の向上と持続可能な社会の実現に向けて ジェンダー平等な生活経済と当事者主体による生活様式の創造を展望する	(学修内容) 私達一人一人が、男女を問わず、生活を営む主体として行動するにはどうしたら良いのかを考える。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分達の周りにある、持続可能なライフスタイルを創造するための活動を探してみよう。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする。  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく。

授業名	生活経営学			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3315
英文名	Theory of Life Management			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養学科3回生				
授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかがわっており、それらといかにうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。								
学修成果到達目標	1) 自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかわっているということを理解できる。 2) どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。 3) 生活経営に関連する事象についてまとめ考察し、発表できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	適宜資料を配布する								
参考書	『暮らしをつくりかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編(朝倉書店)、 『下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編(勤草書房)、 『ライフコースから見た女性学・男性学』乙部由子(ミネルヴァ書房)、 『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)、 『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、 『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』佐光紀子(光文社新書)、 『平成の家族と食』品田知美編(晶文社)								
課題に対するフィードバックの方法	発表においては、コメントします。 リアクションペーパーに対して、コメントします。								
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、グループワーク、プレゼンテーションの機会を設ける。発表テーマにより、授業の順序が異なることもある。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名		生活経営学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	変わる生活実態	(学修内容) 経済の変化・雇用の流動化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近なところの雇用の状況について調べておく
第3回	生活枠組みの変容と新たな生活経営主体の事例	(学修内容) 生活枠組みが変化した事例について(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第4回	経済システムの中の家庭生活の位置づけ	(学修内容) 国民経済のしくみを理解する (ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第5回	有償労働と無償労働	(学修内容) 有償労働と無償労働の家事労働について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 家事労働の意味について考えておく
第6回	職業労働と家事労働のマネジメント	(学修内容) 生活時間について (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第7回	就労と家事労働の課題	(学修内容) 共働き・パートナーとの家事育児分担について事例研究をする(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第8回	ライフステージからみた生活リスク	(学修内容) 生活経営主体の変更について(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭生活のリスクにはどのようなものがあるか考えておく ワークショップの準備をしておく
第9回	公助としての社会保障	(学修内容) 社会保障のしくみについて理解する(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会保障とはどのようなものがあるか調べておく ワークショップの準備をしておく
第10回	生活経営とNPOなどの市民組織	(学修内容) 公助としてそのようなものがあるのか理解する(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第11回	高齢期の生活保障	(学修内容) 高齢期の生活保障の課題について理解する(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップの準備をしておく
第12回	女性の貧困	(学修内容) 近年の若年女性の生活実態について理解する(ワークショップ含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく ワークショップの準備をしておく
第13回	多様な家族の生活経営	(学修内容) 多様な生活経営主体の実態と課題について (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第14回	個人と社会を結ぶ活保障システム	(学修内容) 福祉レジームについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業のふりかえりをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間の授業のまとめをしておく

授 業 名	家族社会学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2307
英 文 名	Family Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>私たちは出生から死亡までの一生を通じて、あらゆるライフステージにおいて家族とさまざまな関わりをもちながら生活している。つまり多くの人々が自分自身の「家族にかかわる体験」をもつため、個々が経験したり見聞きしたりすることを一般化しがちで、相対化することが難しい。そこで本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の相対化を試みる。できるだけグループワークなどの手法を用いながら、参加型の授業にしていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 家族に関する現象を客観的に分析する視点をもつことにより、「家族問題」とされている事象を多角的に分析できるようになる  2) データを読み解く力がつく  3) 自分自身の家族体験を相対化することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	適宜資料を配布する								
参 考 書	『21世紀家族へ 第3版』落合恵美子(有斐閣) 『家族を超える社会学』牟田和恵編著(新曜社) 『未来をひらく男女共同参画』西岡正子(ミネルヴァ書房)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたりアクションペーパーに対して、コメントします。								
留 意 事 項	3回生時に「生活経営学」を履修する人は、本授業を受講してほしい。 授業時には積極的な発言が期待されます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授業名	家族社会学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家族とは何かーファミリー・アイデンティティ	(学修内容)主観的家族について考える(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	近代家族の成立	(学修内容)近代家族の成立過程について理解をする (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第3回	家族の変化:家族機能	(学修内容)家族機能の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第4回	家族の自助原則	(学修内容)家族の自助原則・地域社会との関係について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく
第5回	戦後の子育ての変化:戦後から高度経済成長期	(学修内容)戦後から高度経済成長期までの子育てについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第6回	戦後の子育ての変化:高度経済成長期以降	(学修内容)高度経済成長期以降の子育てについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第7回	家族の変化:家族形態	(学修内容)家族形態の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第8回	結婚の動向:未婚化・晩婚化の実情	(学修内容)晩婚化・未婚化の実態について統計資料をもとに学ぶ(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第9回	結婚の動向:未婚化・晩婚化の要因	(学修内容)未婚化・晩婚化の要因について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第10回	出産と少子化	(学修内容)少子化の現状とその要因・影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第11回	生殖技術と家族:技術の現状	(学修内容)生殖技術の歴史と現在の実態について理解する(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第12回	生殖技術と家族:課題	(学修内容)生殖技術の家族への影響について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第13回	家族における抑圧と暴力	(学修内容)愛情規範と暴力の関係について考える(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第14回	親密性について	(学修内容)親密性とは何かについて理解し、現在ではどのようなところではたされているか考える(ビデオ学習し、ディスカッションする) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく
第15回	まとめ	(学修内容)半期間の学びの振り返りとまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 半期間のまとめをしておく



授 業 名	比較家族論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2318
英 文 名	Comparative Study of Family			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。ほぼ毎回グループワークを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを知ることができる。  2) 家族の形と社会のあり方の関係を理解することができる。  3) 子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	グループワークを重視します。積極的に発言してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	比較家族論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家族とは何か～はじめに	(学修内容) 家族の定義について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、「家族とは何か」について考えておく
第2回	家族の起源	(学修内容) 霊長類の社会集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第5回	東アフリカ牧畜民	(学修内容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第6回	アフリカ農耕民	(学修内容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第7回	極北インディアン	(学修内容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第8回	イスラム圏	(学修内容) イスラム教圏における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第9回	西洋	(学修内容) 西洋キリスト教社会における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第10回	タイ	(学修内容) 仏教圏の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第11回	韓国	(学修内容) 家父長制と儒教理念 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第12回	一妻多夫	(学修内容) 一妻多夫性の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(学修内容) 家族と社会の関係・日本の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく
第14回	子を育てる社会的装置	(学修内容) 子育ての比較文化論 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく
第15回	家族とは何か～おわりに	(学修内容) 授業をふまえて家族について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく

授業名	服飾と社会			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3442
英文名	Theory of Clothing Society			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダーなどを反映して形成されてきた。本講義では、近代以降、服装が社会状況や規範意識を反映してどのように変化してきたのかをたどる。さらに、民族服が形成された過程や意味づけ、各国の民族服の特徴について考える。理解を深めるために、適宜プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1. 服装の社会的機能について理解できる。  2. 近代に日本の服装がどのように変化したのか説明することができる。  3. 民族服の成り立ちについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜資料を配付する。								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		服飾と社会
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 授業の概要 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	資料にみる近代の生活と服装	(学修内容) 近代初期の資料にみられる人々の服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	近代社会と服装 - 近代化と服装の変化	(学修内容) 近代化による社会の変化と服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	近代社会と服装 - 男性の服装の変化	(学修内容) 男性の服装の洋装化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	近代化と服装 - 女性の服装の変化	(学修内容) 女性が着用した洋服と和服について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	近代社会と服装 - 和服の意味づけ	(学修内容) 和服に付与された近代的な意味づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	近代社会と服装 - 和服文様の変化	(学修内容) 和服文様の近代的な変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	近代化と服装 - 近代的和服の形成	(学修内容) 和服の近代的な変化の様相について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	近代社会と服装 - 洋服・和服とジェンダー	(学修内容) 近代の服装にみるジェンダーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーについて調べておく
第10回	民族服の成り立ちと和服の現状	(学修内容) 世界の民族服と成り立ちと和服の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料をよんでおく
第11回	民族服について調べる 国の歴史と服装	(学修内容) 民族服の歴史について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる
第12回	民族服について調べる 染織技法と文様	(学修内容) 民族服に施された文様や染織技法について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる
第13回	民族服について調べる 現代社会における民族服	(学修内容) 民族服の用いられ方を調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族服について調べる
第14回	プレゼンテーション	(学修内容) 民族服について調べたことをプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーション資料を作成する
第15回	総括	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業を振り返り考えたことをまとめておく

授業名	ファッション論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2430
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	ファッションは、時代により、また地域によって多様である。本講義では、日本と西洋のファッションの流れをたどり、現代ファッションの特色と現代的課題について考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞しディスカッションを行う。								
学修成果到達目標	1. 日本と西洋のファッションの変化を説明することができる。 2. 現代的なファッションの成立について理解することができる。 3. 現代社会におけるファッションにかかわる課題を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜資料を配付する。								
参考書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	ファッション論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	日本のファッション：平安時代	(学修内容) 平安時代の服飾と身分について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	日本のファッション：江戸時代の社会と服装	(学修内容) 江戸時代の身分制と服装について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	日本のファッション：江戸時代の女性の服装	(学修内容) 衣装比べと奢侈禁止令について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	日本のファッション：江戸時代の女性のきもの	(学修内容) きもの文様について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	日本のファッション：江戸時代の女性ファッション	(学修内容) きもの・帯・化粧について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	西洋のファッション	(学修内容) 近代的な洋服の成立について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	デザイナーとファッション：シャネル	(学修内容) シャネルの生涯について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	デザイナーとファッション：シャネルのファッション	(学修内容) シャネルのファッションについて 映像鑑賞とディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	デザイナーとファッション：ディオール	(学修内容) 戦後のファッションとディオール  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	デザイナーとファッション：ディオールのファッション	(学修内容) ディオールのファッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	日本のデザイナー	(学修内容) 日本のデザイナーについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	日本のデザイナーとファッション	(学修内容) 日本のデザイナーとファッションについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第14回	現代のファッション産業	(学修内容) 現代のファッション産業とファストファッションについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第15回	現代社会における課題	(学修内容) 現代社会における衣生活に関わる課題について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える

授業名	児童文化論			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Cultural Studies of Children			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	柿本 真代			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	児童文化のなかでも、特に絵本や昔話、児童文学などに注目し、子どもの本がつけられた歴史的経緯やその変遷について学ぶ。様々な時代の絵本や児童文学作品を実際に読み、自分の意見をまとめ、受講生同士で共有することを通じて、子どもにとって「良い本」とはなにか、どのような物語を子どもたちに伝えていきたいかを考えていく。また、絵本を自分で制作することによって、絵本の構造について具体的に学ぶとともに、絵本を鑑賞・批評する力を養う。								
学修成果到達目標	1) 子どもの本の歴史や昔話の変遷について、社会的背景を交えながら説明することができる。 2) 絵本の制作の方法を理解し、実践することができる。 3) 絵本の基本的構造や絵とことばの役割について説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	プリントを配布します。								
参考書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は毎回感想文等をeラーニングで提出してください。次回の授業で適宜紹介し、フィードバックをします。								
留意事項	講義だけでなく、ブックトーク等による絵本の紹介や手づくり絵本の制作・発表を行います。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション（授業の進め方などについて）		（学修内容）授業の目的や内容、評価の方法などを理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）シラバスを読んでおく （事後）自分が子どものころに好きだった本についてまとめておく
第2回	子どもにとって「良い本」とは		（学修内容）世界の禁止図書問題について学び、ディスカッション等を通して理解を深める （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）ディズニー版『白雪姫』の絵本または映画をみる （事後）配布した英文資料を読んでおく
第3回	本のおもしろさを共有する		（学修内容）ピブリオバトル、ブックトークの方法を学び、子どもに本のおもしろさを伝える方法について考える （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）ピブリオバトル、ブックトークについて調べておく （事後）自分の好きな絵本をまとめ、その理由を考えてまとめておく
第4回	子どもの本の歴史		（学修内容）近代日本の児童文学について学ぶ ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）授業で紹介したサイトで児童文学の歴史を概観しておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第5回	子どもの本の歴史		（学修内容）明治期の翻訳絵本について学ぶ ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）授業で紹介したサイトを閲覧し絵本の歴史を概観しておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第6回	子どもの本の歴史		（学修内容）パロディなど現代の昔話絵本を読む ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）オオカミが登場する絵本や映画についてリストを作成する （事後）授業で紹介した作品のなかで未読のものを読んでおく
第7回	昔話の変遷		（学修内容）「桃太郎」の伝承について学ぶ ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）知っている「桃太郎」の話についてまとめておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第8回	昔話の変遷		（学修内容）明治期の「桃太郎」絵本について学ぶ ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）日清・日露戦争について日本史の教科書などで調べておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第9回	昔話の変遷		（学修内容）戦時下の「桃太郎」と戦後の「桃太郎」の描かれ方を学ぶ ブックトーク （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）アジア・太平洋戦争について日本史の教科書などで調べておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第10回	絵本の仕組みを考える		（学修内容）絵本の特徴やしかりけについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）本の基本的な構造や用語について調べておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第11回	絵本の「絵」を読む		（学修内容）絵本の「絵」に注目しながら絵本を読む方法を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）自分の好きな絵本の絵の特徴についてまとめておく （事後）授業で配布した資料を読みなおし、考えをまとめる
第12回	手づくり絵本		（学修内容）絵本の構成や画材の使い方を学び、絵本をつくる （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）自分のかきたい絵本のテーマを考えておく （事後）絵本の絵を仕上げておく
第13回	手づくり絵本		（学修内容）製本の技術を学び、絵本を完成させる （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）製本の方法を配布したプリントで予習しておく （事後）製本を行い、絵本を完成させる
第14回	制作発表会		（学修内容）手づくり絵本の読み聞かせを行う （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）自分の絵本を仕上げる （事後）コメントシートをもとに今後の課題を見つける
第15回	まとめ		（学修内容）これまでの講義の内容と最終課題のポイントについてまとめる （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）これまでの授業資料を整理し、読み直しておく （事後）これまでの学びを振り返り、最終課題に取り組む



授 業 名	保育原理 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1406
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	子どもの育ちを考えると、保育の問題は社会状況と深くかかわっている。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史にもふれ、保育の現状と課題についても考える。ビデオをみることもあり、グループでの討議も行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代家庭の保育事情を理解することができる。 2) 保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3) 保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	天野珠路・北野幸子編著 『新基本保育シリーズ 保育原理』中央法規 2019年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートの返却時に、解説をする。授業時のレポートについても、説明をして返却する。								
留 意 事 項	授業中に課題を出し、レポート提出をすることもある。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。ビデオを見ることもあり、その内容についてレポート提出で考察を求めることもある。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前、演習室に掲示する。在室の時は可能である。(時間が取れない時は、あとで連絡する。メールにより、予約も可能。)								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育原理 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	保育の理念と概念	(学修内容) 保育の理念、概念・子どもを育てること (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p2～12を読み、理解する。	
第2回	保育の社会的役割	(学修内容) 保育の社会的役割と責任 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p14～26を読み、理解する。	
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	(学修内容) 保育の制度的位置づけ (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p28～38を読み、保育と制度を理解する。(事後に、コラム:「保育士の確保策」を読み、レポート提出・800字程度)	
第4回	保育の実施体系	(学修内容) 保育の実施体系について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p40～50を読み理解する。 コラムからの学びの提出(36ページ)	
第5回	保育所保育指針に基づく保育	(学修内容) 保育所保育指針等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p52～66を読み、理解する。	
第6回	保育の目標と方法	(学修内容) 保育の目標と方法について理解を深め、「遊び」との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p68～78を読み、理解する。(事後に、コラム:「保育の目標と方法」を読み、レポート提出。800字程度)	
第7回	乳児の保育	(学修内容) 乳児の発達過程や保育の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p80～90を読み、理解する。	
第8回	1歳以上3歳未満児の保育	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p92～102を読み、理解する。	
第9回	3歳以上児の保育	(学修内容) 3歳以上の幼児期の保育のあり方 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p104～114を読み、理解する。(事後に、「スタートカリキュラムについて」考察する。レポート提出、800字程度)	
第10回	子ども理解に基づく保育の過程:理論	(学修内容) 保育過程について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p116～126を読み、理解する。	
第11回	子ども理解に基づく保育の過程:実践	(学修内容) 学びの連続性と小学校との接続について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p128～138を読み、理解する。	
第12回	諸外国の保育の思想と歴史	(学修内容) 諸外国の保育の思想と歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p140～149を読み、理解する。	
第13回	日本の保育の思想と歴史	(学修内容) 日本の保育の思想と歴史から現在を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p152～162を読み、理解する。	
第14回	諸外国の保育の現状と課題	(学修内容) 諸外国の保育の現状と課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、テキスト p164～174を読み、理解する。(事後に、「保育の質の維持と向上」を読んで、考察してレポート提出。800字程度)	
第15回	日本の保育の現状と課題・まとめ	(学修内容) 日本の保育の現状と課題について、理解する。本授業のまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p176～186を読み、理解する。	

授 業 名	子ども家庭福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1414
英 文 名	Theory of Child Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・待機児童・児童虐待など様々なものがある。それらは、現代の家庭状況と関連を密にしており、社会保障や社会福祉の動向からも大きな影響を受けている。そこで、本講義では、わが国と欧米諸国の児童福祉の歴史、子どもの権利、児童福祉法制、家族政策、実践の特徴、について内容を解説し、理解することを目的としている。各種法制度を理解するために、授業内でレポートを作成する。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士・社会福祉士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 64 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 36 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	芝野松次郎 宮野安治 新川泰弘 山川宏和 編著 「子ども家庭福祉入門」[ ミネルヴァ書房 ]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、採点し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	超少子高齢化社会における子ども家庭福祉	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1章を参照しておく ひのえうまや少子化など、学んだ内容をまとめる
第2回	子どもの権利擁護について	(学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第4章を参照しておく 批准や署名など、学んだ内容をまとめる
第3回	子ども家庭福祉の歴史	(学修内容)日本・欧米の子ども家庭福祉史  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3章を参照しておく 石井十次、バナードなど学んだ内容をまとめる
第4回	子ども家庭福祉の実施機関	(学修内容)児童相談所ほか行政機関について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章を参照しておく 児童相談所の4つの業務など学んだ内容をまとめる
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(学修内容)児童福祉六法、児童福祉法改正について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく 保育政策の変化などをまとめる
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく 虐待対応などの内容をまとめる
第7回	児童福祉法について 2012～2020年の改正	(学修内容)近年の児童福祉法改正について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく さらなる虐待対応など学んだ内容をまとめる
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(学修内容)児童虐待の定義と対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく 虐待の定義などの内容をまとめる
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(学修内容)児童虐待の定義と対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく 児童虐待防止法の内容をまとめる
第10回	子ども家庭福祉の専門職について	(学修内容)児童福祉に従事する専門職について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章を参照しておく 児童福祉司や保育士について内容をまとめる
第11回	母子保健について	(学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9章を参照しておく 乳児死亡率など学んだ内容をまとめる
第12回	少子化対策について 日本	(学修内容)日本の保育政策・サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を参照しておく エンゼルプランなどの内容をまとめる
第13回	少子化対策について 諸外国	(学修内容)諸外国の保育政策・サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) スウェーデンの取り組みの内容をまとめる
第14回	ひとり親家庭の福祉について	(学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8章・第10章を参照しておく ひとり親家庭支援の4本柱をまとめる
第15回	障がい児の福祉について	(学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8章・第10章を参照しておく 放課後等デイサービスなどをまとめる

授 業 名	乳児保育 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2429
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の保育の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、実際の保育所保育の見学を行う。さらに、乳児向けのおもちゃや絵本を実際にみて、乳児保育のイメージをしっかりとつくり、乳児保育でたいせつにしたいことを伝える。見学で学んできたことを、受講生同士で意見交流を行うことによって様々な場面を共有したり、手作りおもちゃの工夫を伝え合うなどして、主体的な学び体験を保障したい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児保育の歩み、現状と課題について理解することができている。 2) 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解している。 3) 絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになっている。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (教材の工夫力			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	乳児保育研究会編 『改訂新版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』(ひとなる書房) 保育計画研究会編 『改訂版 実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方(ひとなる書房) 西川由紀子 『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 厚生労働省 『保育所保育指針』								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートなどについては、授業で解説を行う。授業への質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	乳児保育 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた	(学修内容) 子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5章を読んでくる 第2章1、2を読んでくる
第2回	乳児保育のあゆみ	(学修内容) 乳児保育の歴史を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第7章を読んでくる
第3回	0歳児保育の生活とあそび	(学修内容) 0歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の0歳児の部分、の0歳児の部分を読んでくる
第4回	0歳児の保育の実際	(学修内容) 0歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) の0歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第5回	1歳児保育の生活とあそび	(学修内容) 1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の1歳児の部分、の1歳児の部分を読んでくる(30分)
第6回	1歳児の保育の実際	(学修内容) 1歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) の1歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第7回	2歳児の生活とあそび	(学修内容) 1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の2歳児の部分、の2歳児の部分を読んでくる
第8回	乳児保育の展開	(学修内容) 保育所見学に向けて、保育の留意点を解説した後、各自が見学に際しての目標を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分なりに保育所見学のイメージをもてるよう準備をする
第9回	保育所保育の見学	(学修内容) 保育所見学を実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所見学の目標をしっかりと確認する
第10回	手作りおもちゃの魅力	(学修内容) 手作りおもちゃを子どもたちがどのようにあそぶかを考え、魅力的なおもちゃ像を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) さまざまな手作りおもちゃを本やネットで調べてくる
第11回	保育所見学から学んだこと 子どものようす・保育者連携	(学修内容) 見学で学んで来て子どもの様子、保育者連携の様子を交流したのち見学から学んだきづきをまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育所見学で学んだことをレポートとしてまとめてくる
第12回	乳児にとっての絵本の役割	(学修内容) 絵本の特性を解説した後、乳児にとっての絵本の楽しさを解説きいたあと、小グループで絵本を読み合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児向け絵本を1冊選んでもってくる
第13回	乳児保育とかみつきについて	(学修内容) 乳児の集団保育にみられる困った行動のひとつであるかみつきについて解説した上で、保育を見直す視点を伝える (事前事後学修課題の内容) (90分) のp75からp79を読んでくる
第14回	乳児保育の指導計画、記録と評価	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる 第1章3を読んでくる
第15回	手作りおもちゃの交流	(学修内容) 各自が作ってきた手作りおもちゃの解説を行い、さまざまな手作りおもちゃのよさを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (180分) 手作りおもちゃを作成し持参するとともに、そのレポートをまとめる。

授 業 名	子育て支援論 u			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3325
英 文 名	Theory of Child-care Support			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策をどのようにするのか、検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。グループに分かれて、課題についての討議をし、他の人の考えについて理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できる。 2) 家庭における子育て支援策を具体的に理解することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	松原康雄他編集『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援論』中央法規 2019年								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの返却時に、課題について解説を行う。								
留 意 事 項	レポート提出、授業時にミニレポート(数回)提出を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をするので、確認してください。在室の時は可能である。(時間が取れない時は、調整して連絡する。)								
実践的教育									

授 業 名	子育て支援論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	(学修内容) 家庭支援の意義と子育て支援  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト2頁から12頁を読み、理解しておく。事後: コラム「新しいタイプの子育て支援」について考察し、レポート800字で提出。
第2回	子ども家庭支援の目的と機能	(学修内容) 家庭支援の制度、目的等について。  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト14頁から24頁までを読み、理解しておく。レポートの提出あり。
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進	(学修内容) 保育所、幼稚園における新制度の理解をする。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト26頁から36頁までを読み、理解しておく。
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(学修内容) 社会資源について理解を深め、学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト38頁から48頁までを読み、理解しておく。
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	(学修内容) 保育者の専門性と子ども家庭支援について、学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト50頁から60頁までを読み、理解しておく。
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	(学修内容) 子どもの育ちを共有することとは。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト62頁から72頁までを読み、理解しておく。
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	(学修内容) 地域での子育て・保育士に求められている支援について。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト74頁から84頁までを読み、理解しておく。
第8回	保育士に求められる基本的態度	(学修内容) 保育士と保護者との信頼関係とは。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト86頁から95頁を読み、理解しておく。
第9回	家庭の状況に応じた支援	(学修内容) 家庭状況の把握とその支援について。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト98頁から107頁までを読み、理解しておく。
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	(学修内容) 子ども家庭支援と地域資源の活用。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト110頁から120頁までを理解しておく。事後: コラム「ストレングス視点」を読み、理解したことをレポート800字提出。
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	(学修内容) さまざまな子ども家庭支援の対象: 子ども、保護者、地域。  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト122頁から132頁までを読み、理解しておく。レポートの提出あり。
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	(学修内容) 家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト140頁から149頁までを読み、理解しておく。
第13回	地域の子育て家庭への支援	(学修内容) 地域の子育て家庭への支援・支援者の姿勢  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト146頁から156頁までを読み、理解しておく。
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	(学修内容) 要保護児童とその家庭に対する支援について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト158頁から168頁までを読み、理解しておく。事後: 授業で印象に残った子育て支援について論述・レポート800字。
第15回	子育て支援に関する課題と展望	(学修内容) 子育て支援のニーズの多様化と連携機関  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト176頁から185頁までを読み、理解しておく。学びのまとめとして、発表をお願いすることがある。



授 業 名	生徒指導論（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Student Guidance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岡田 敏之			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 3) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	「生徒指導提要」（文部科学省）								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付したり、必要に応じてコメントを付したりします。								
留 意 事 項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に行います。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		生徒指導論（家庭・栄養）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。教育を取り巻く社会の状況を理解する。 P B L （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の準備
第2回	生徒指導の基礎概念	（学修内容）生徒指導の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第3回	教育相談と生徒指導 - 教育相談の概要 -	（学修内容）教育相談の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第4回	学級経営と生徒指導 - 教育相談の基本的な考え方 -	（学修内容）教育相談の基本的な考え方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第5回	学級経営と生徒指導 - 実習 C H R -	（学修内容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第6回	望ましい集団づくり - 実習 C H R -	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習
第7回	望ましい集団づくり - 生徒会活動を考える -	（学修内容）生徒会活動の実践例について考察する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第8回	学校不適應と問題行動	（学修内容）生徒の問題行動について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第9回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（学修内容）非行防止教室の実践を体験する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習
第10回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（学修内容）いじめ問題について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第11回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（学修内容）いじめ問題の対応について考える。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第12回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第13回	保護者対応	（学修内容）保護者との連携の在り方について理解する。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第14回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（学修内容）コーチングスキルの基本を身につける。 P B L、ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（30分） 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（20分） 前講の復習

授業名	生徒指導論(小)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Theory of Student Guidance			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	岡田 敏之			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。								
学修成果到達目標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。 3) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	「生徒指導提要」(文部科学省)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付したり、必要に応じてコメントを付したりします。								
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視します。								
オフィスアワー	担当授業終了後に行います。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実際経験など：京都市立郁文中学校、京都市立嘉楽中学校、京都市立西賀茂中学校、京都市教育委員会生徒指導課、京都府警察本部少年課、京都市立洛友中学校、京都教育大学教授								

授 業 名		生徒指導論（小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	(学修内容)本講義の概要。教育を取り巻く社会の状況を理解する。 P B L (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の準備
第2回	生徒指導の基礎概念	(学修内容)生徒指導の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第3回	教育相談と生徒指導 -教育相談の概要-	(学修内容)教育相談の全体像を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第4回	学級経営と生徒指導 -教育相談の基本的な考え方-	(学修内容)教育相談の基本的な考え方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第5回	学級経営と生徒指導-実習CHR-	(学修内容)学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第6回	望ましい集団づくり -実習CHR-	(学修内容)集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習
第7回	望ましい集団づくり -児童会活動を考える-	(学修内容)児童会活動の実践例について考察する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第8回	学校不応と問題行動	(学修内容)児童の問題行動について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第9回	子どもの規範意識を育てる-非行防止教室-	(学修内容)非行防止教室の実践を体験する。 P B L、ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習
第10回	いじめ問題の理解と対応 -いじめの原因-	(学修内容)いじめ問題について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第11回	いじめ問題の理解と対応 -未然防止に向けて-	(学修内容)いじめ問題の対応について考える。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第12回	不登校の理解と対応	(学修内容)不登校の現状について理解する。 P B L、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第13回	保護者対応	(学修内容)保護者との連携の在り方について理解する。 ロールプレイ (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第14回	子どもの意欲を育てる-コーチングスキルより-	(学修内容)コーチングスキルの基本を身につける。 ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(30分) 「生徒指導提要」の予習と前講の復習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	(学修内容)本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(20分) 前講の復習

授 業 名	教育相談（中・高・栄）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	School Counseling			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	現代家政4回生、食物栄養4回生				
授業の概要	現代社会の多様化や変化を背景にしたさまざまな課題が学校現場で生じている。児童・生徒の教育的ニーズを把握し、問題への理解を深め、解決への糸口を探ることは重要なことになっている。教育相談では児童・生徒の心理的成長を図り、問題解決への道筋を図りながら成長発達をめざすことが必要である。この授業では、教育相談における心理学的アプローチを学び、児童・生徒の発達状況に即して人格の成長を支援する方法について学ぶ。児童・生徒の心理的特性をふまえ教育的課題を支援するために予防的開発的技法や教育相談の活用について知識や実践力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)教育相談の意義および理論、教育相談に関わる心理学の基本的知識を学んでいる。（第1回 第3回） 2)教育相談に関連のある心理学の基礎的な知識をもとに教育相談の進め方や方法を理解している。（第4回 第6回） 3)教育相談の展開、具体的な方法を理解し、組織的な取り組みができる。（第7回 第12回） 4)児童・生徒および保護者に対する教育相談を実施する時の目標、計画、方法を学び、実際に行えるように実践力を身につけている。（第13回 第15回）								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	毎回プリントや資料を配布する								
参 考 書	『カウンセリングの理論』、『カウンセリングの技法』 國分康孝(誠信書房) 『学校カウンセリングの考え方・進め方』 福島脩美・監修(金子書房) 『生徒指導提要』 文部科学省(教育図書)								
課題に対する フィードバック の方法	理解度の確認の後、解説を行う								
留 意 事 項	事前学習・事後学習を行い日常生活に役立てる								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：2000年度から教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザーとして勤務。生徒や保護者の教育相談および教員研修を担当した。								

授 業 名	教育相談（中・高・栄）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（10分） シラバスを確認しておくこと
第2回	教育相談の意義、カウンセリング・ヘルピングの定義・歴史	（学修内容）教育相談の意義や役割・カウンセリング・ヘルピングの定義・歴史について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（教育相談・カウンセリング・ヘルピング）に取り組む
第3回	教育相談に関わる心理学の基礎知識	（学修内容）教育相談に関わる心理学の基本的知識について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（教育相談・カウンセリング・心理学の基礎知識）に取り組む
第4回	学校における教育相談の方法、カウンセリングマインド、校内の組織的取り組み	（学修内容）教育相談に生かすカウンセリングの方法、教育相談と生徒指導、校内組織との連携や組織的取り組みについて （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第5回	学校における教育相談・児童・生徒の心理的特性と発達課題	（学修内容）児童・生徒の心理的特性と学童期から青年期までの発達課題について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第6回	学校における教育相談・児童・生徒のさまざまな問題と社会的背景	（学修内容）学校における教育的問題を適切にとらえ支援するための取り組みについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第7回	教育相談の展開（1）学校への不適応	（学修内容）学校への不適応の内容と理解について （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第8回	教育相談の展開（2）問題行動、非行	（学修内容）問題行動の内容、背景を理解し、解決のための方策を探る （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（非行）に取り組む
第9回	教育相談の展開（3）不登校	（学修内容）不登校の種類、原因、支援の方法を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（不登校）に取り組む
第10回	教育相談の展開（4）いじめ	（学修内容）いじめ問題の発生の要因、内容を学び、よりよい人間関係の在り方を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（いじめ問題）に取り組む
第11回	教育相談の展開（5）虐待	（学修内容）児童虐待問題の内容、背景の実態について学び、虐待問題への支援と予防の取り組みを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（虐待）に取り組む
第12回	教育相談の展開（6）精神疾患	（学修内容）思春期・青年期に見られる精神疾患について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（思春期・青年期の精神疾患）に取り組む
第13回	教育相談の展開（7）保護者との信頼関係の構築	（学修内容）教育相談における保護者への心理学的支援の方法を学び実践できるように取り組む （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第14回	教育相談の展開（8）地域の専門機関との連携	（学修内容）地域の専門機関、医療機関、福祉機関、教育機関との連携や協働について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（専門機関との協働）に取り組む
第15回	授業のまとめ	（学修内容）授業全体のまとめ、学校におけるメンタルヘルスの向上について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（学んだこと・自ら考えたことのまとめ）に取り組む

授業名	教育相談（幼・小）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	School Counseling			開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	藤井 裕子			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>保育・教育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育・教育現場における教育相談の意義と役割、教育相談の前提となる幼児・児童の心理的特性を学ぶ。教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、教育相談を具体的な進める実践的な方法や、組織的な仕組み、地域の専門機関との連携について理解を深める。教育相談の理論をしっかりと身につけたうえで、実際に相談に応じ適切な助言指導が行えるように教育相談の実践力が向上することを目的に授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 保育・教育の現場における教育相談の理論や意義、役割について理解している。  2) 幼児・児童のさまざまな心理や行動上の問題について理解し、支援できる保育者、教員の専門性を理解する。  3) 保護者からの相談に応じ適切な助言を行うことや必要に応じ関係機関との連携について理解している。  4) 幼児・児童の心理的成長が支えられるように発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	毎回プリントや資料を配布する。								
参考書	春日井敏之・伊藤美奈子「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては口頭で回答するほか、必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留意事項	主体的な授業への参加が必要であり意見発表やグループ討議を取り入れる。積極的に取り組むこと。								
オフィスアワー	授業終了後に行う。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザー、緊急支援時の教育支援活動、教職員・保育者の研修講師等</p>								

授 業 名		教育相談（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリング、教育相談の意義と役割	（学修内容）本講義の目標を理解する。教育相談・カウンセリング・相談支援の概要について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスに目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第2回	教育相談の基本的知識（1）乳幼児・学童期の心理的発達と発達課題	（学修内容）保育現場や学校における教育相談の意義や役割を学ぶ。乳幼児・学童期の心理的発達と発達課題を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第3回	教育相談の基本的知識（2）カウンセリングの理論と実践	（学修内容）カウンセリングマインド、基本的な応答技法、共感的理解、受容、支持的応答など相談支援の基礎について学ぶ。ロールプレイを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第4回	教育相談の基本的知識（3）カウンセリングの方法を実践的に学ぶ	（学修内容）非言語的コミュニケーション、明確化・質問の技法、介入の仕方についてロールプレイを通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第5回	教育相談の実際（1）幼児・児童の気になる行動、理解と解決のための意見発表	（学修内容）子どもの問題行動について理解を深め、成長を促す取り組みについて考えを深める。解決の方策について意見発表。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布プリントを読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第6回	教育相談の実際（2）登園しぶり・不登校、理解と解決のための意見発表	（学修内容）登園しぶりや不登校の問題について理解し、カウンセリングや相談支援を用いた方策を考える。各自の意見を発表する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第7回	教育相談の実際（3）友人関係のトラブル。いじめ問題への対応	（学修内容）友人関係のトラブル、いじめ問題について理解を深め、取り組みについて考えを深める。具体例を通してグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第8回	教育相談の実際（4）発達障害	（学修内容）発達障害、特別支援教育について多面的に理解し、支援の方策を考える。具体例を通してグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第9回	教育相談の実際（5）保護者への支援	（学修内容）保護者自身のおかれている状況や課題について理解し、信頼関係の構築や保護者カウンセリングの方法について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第10回	教育相談の実際（6）校内の相談システムの構築	（学修内容）クラスの担任や保健室の養護教諭との連携、園内・校内ネットワークとチームアプローチのあり方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第11回	教育相談の実際（7）関係機関との連携	（学修内容）医療機関、教育相談機関、児童相談所などの役割や意義、連携について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第12回	教育相談の実際（8）ソーシャルスキル教育・ストレスマネジメント教育	（学修内容）ソーシャルスキル教育の方法やストレスマネジメント教育の理論と方法を実践的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第13回	教育相談の実際（9）学校の危機管理・緊急支援における教育相談、具体例を通して意見発表と討議。	（学修内容）学校における危機管理、事故や災害時における教育相談の役割を理解し適切な支援ができるようになる。各自の意見発表を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第14回	教育相談の実際（10）ケースカンファレンスの方法、具体例を通してグループ討議を行う。	（学修内容）事例から子どもの変化や成長について検討し、教育相談が担った役割を学ぶ。実際の場面を想定してグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第15回	振り返りとまとめ	（学修内容）講義全体を通して振り返り、資料をまとめ学んだことを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 配布資料やノートを整理する。全体を自分でも総括し、レポートを作成する。



授業名	ボランティア論u			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1305
英文名	Theory of Volunteer			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	一人ひとりが一人の人間として尊重され、あたりまえに生きていくことができる社会を築くためには、法律や制度の充実はもちろんのこと、市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。その参加の方法として重要な意味を持つのがボランティア・市民活動、さらにNPO活動である。本授業ではそれらの活動の意味や具体的な内容について、さらに現代社会における必要性などについて様々な角度から学習する。 授業内容やテーマに応じて適宜グループワークやまとめの発表などのアクティブラーニングも組み入れて能動的に学べるようにする。								
学修成果到達目標	1) ボランティア・市民活動の基本的な考え方を説明することができる。 2) 災害時のボランティアコーディネートの必要性とその具体的な方法について理解できる。 3) 専門職と市民ボランティアとの協働のあり方を理解できる。 4) ワークキャンプ等におけるボランティア学習について実践事例を通して学び、現代社会におけるその必要性を理解し説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	使用しない 適宜プリントを配布する								
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行								
課題に対するフィードバックの方法	日常的な課題やレポートについて記載内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し適宜プレゼンテーションできるようにする。								
オフィスアワー	水曜日 昼休み								
実践的教育									

授業名	ボランティア論u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・社会性	(学修内容) ボランティア活動の基本的な要素である自発性、主体性、社会性などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティアにおける自発性・主体性」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第3回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(学修内容) ボランティア活動の根本にある思想「ボランタリズム」について、基本的な考え方やその歴史的な変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランタリズムという思想」について、参考文献や事前配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第4回	ボランティア活動の変遷 1	(学修内容) イギリス、アメリカ、日本における戦前のボランティア活動について、社会福祉の変遷と関連させながらその歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「社会福祉の変遷とボランティア活動の関係性」について参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第5回	ボランティア活動の変遷 2 活動支援の広がり 1	(学修内容) 社会福祉協議会を中心にしたボランティア活動支援の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア活動と社会福祉協議会」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第6回	ボランティア活動の変遷 3 活動支援の広がり 2	(学修内容) 社会福祉協議会とは違った民間のボランティア活動支援の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「民間ボランティア活動推進センター」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第7回	ボランティア活動の変遷 4 ボランティア・市民活動の転換期	(学修内容) ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災が大きな転換期になったことについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア活動支援の歴史的変遷」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第8回	災害支援とボランティア活動	(学修内容) 災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「災害時のボランティア活動」について、参考文献や配布プリントを読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第9回	ボランティア学習の理解 1 ワークキャンプ運動	(学修内容) ワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性和可能性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットでワークキャンプを行っている団体を3つ探し、活動内容などを調べてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第10回	ボランティア学習の理解 2 ボランティア活動と学び	(学修内容) ボランティア活動に内在する学びとしてあるボランティア学習に関して、その意味と意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア学習の考え方やその内容について」参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第11回	ボランティア学習の理解 3 学びの実践事例	(学修内容) ボランティア学習の具体的な学習効果について、DVDなどの教材から理解しそれぞれの可能性や学習効果を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットからボランティア学習の実践事例を調べ、今後のボランティア学習のあり方を整理しまとめる。その日の授業を振り返る。
第12回	ボランティアコーディネートの理解 1 インターメディアリーとしてのボランティアセンター	(学修内容) ボランティアセンターの必要性とその現状について、あわせてインターメディアリーの構造について理解する理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア・コーディネート」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第13回	ボランティアコーディネートの理解 2 ボランティアコーディネートの実際	(学修内容) ボランティアコーディネート実践を踏まえ、コーディネーターの役割や業務の特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア・コーディネート」の専門性について、ここまでの話を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点	(学修内容) ボランティア活動のこれからの可能性について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「今後のボランティア活動に期待されること」を、参考文献や配布資料を読み、整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 全体の総括をしながら、今後のボランティア活動の在り方について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理しておく。その日の授業を振り返りまとめておく。

授 業 名	介護学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2420
英 文 名	Introduction to Nursing Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>みなさんは「介護」と聞いて何を思い浮かべますか？寝たきり老人、認知症、障害者等への身の回りのお世話をすることを想像された方もいるでしょう。しかし、「寝たきり」状態や「障害のある方」は、老人に限るのでしょうか？さらには、「介護」には「介護する人」と「介護される人」の双方向の関係性が生じてきます。</p> <p>本講では、通俗的に使用される「介護」と専門分野としての「介護」を情緒的かつ科学的な視点で切り込みながら、次代を生きる上で欠かすことのできない概念として生活支援の一助となるような「介護」を理解することを目的とする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 介護を取り巻く社会情勢について説明できる。</p> <p>2) 介護を活かす場とそこに関わる多職種の役割を説明できる。</p> <p>3) 全人的存在としての対象に対して、こころとからだの両側面より介護することの必要性を理解できる。</p> <p>4) 生活を支援する「介護」の場において生じる「なぜ」に対して、根拠に基づいた説明ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	宮崎和加子著『認知症の人の歴史を学びませんか』中央法規 2011年								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークやプレゼンテーションでの発表後は、講評ならびに解説を行います。								
留 意 事 項	講義を中心に進めていきますが、グループワークや口頭発表を取り込んでいくので、学生自身の主体的かつ積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義初回時に連絡します。 基本的に研究室（1R 404）に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	介護学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「介護」って何？～	(学修内容) 講義の進め方や成績評価の方法について説明する。 ミニ・グループワーク；「介護」って何？ (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおくこと。テキストを必ず購入すること。
第2回	グループワーク 「介護」から何をイメージしますか？	(学修内容) 「介護」のイメージについてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「歴史を学ぶ前に (pp.2-11) を読んでおくこと。
第3回	介護の概念と法制度	(学修内容) 介護の定義や法制度の位置づけを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その1 認知症の人の居場所の変遷」(pp.14-21) を読んでおくこと。
第4回	グループワーク 介護における専門職倫理	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士の倫理綱領を読みながら、それぞれの専門性についてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第5回	「介護」はなぜ社会問題となっているのか？	(学修内容) 人口動態より日本社会の「介護」をめぐる諸課題について整理する。 ワークシートを配布する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「その2 四十年前のこと」「その3 精神病院という場で」(pp.24-51) を読んでおくこと。
第6回	介護は誰がするのか？	(学修内容) 介護は誰が、誰に、どのような方法で、何をするのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その4 身体拘束禁止にたどりつくまで」(pp.54-72) を読んでおくこと。
第7回	介護の過去・現在・未来	(学修内容) 歴史的背景を通じてどのような変遷をしているのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第8回	介護の基本・演習 ～「わたし」って...～	(学修内容) 自分知るワークを通して他者を知ることの意味を体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第9回	介護の基本・演習 ～障害を体験する～	(学修内容) ブラインドウォーク、車イスなどを通して障害について体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第10回	介護の実際 ～特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その5 動き出した特養ホーム」(pp.74-90) を読んでおくこと。
第11回	介護の実際 ～小規模特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その6 老人保健施設とE型デイサービス」(pp.92-98) を読んでおくこと。
第12回	介護の実際 ～宅老所でのかいご～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その7 宅老所・グループホームの試み始まる」(pp.100-115) を読んでおくこと。
第13回	認知症の理解と介護	(学修内容) 認知症の種類や原因、周辺症状について理解し、介護の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その8 「呆け老人をかかえる家族の会」発足と市民活動」(pp.118-125) を読んでおくこと。
第14回	グループワーク 介護の未来	(学修内容) 介護がどのような場で展開されていくのか、グループワークを通して考え、新たな介護のあり方を提案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その11 未来に向けて 私の歴史とともに」(pp.150-162) を読んでおくこと。
第15回	わたしが提案する「介護の未来」	(学修内容) 「介護の未来」に関して受講生がプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 紙ベースのレジュメとスライド(PowerPoint)を必ず準備すること。

授 業 名	消費科学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2319
英 文 名	Consumption Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	三室 久枝			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>情報化、国際化が進む現代の消費生活を取り巻く問題の現状を知り、未然防止や早期解決のための基礎知識を身につけるとともに、「食」に注目して、人々の暮らし方の変化に伴う、食生活、食品の生産・加工・流通・販売形態などの変化や今後の動向などを考察する。そして、日常生活における、消費者の権利や役割を理解し、自立した消費者としてのあり方を考える。講義のほか、啓発資料や動画、実際の商品や広告等を活用したグループワーク・発表も取り入れる。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>消費生活問題の現状や消費者の権利を理解し、消費トラブルへの対処法を身につける。  食品の生産・加工・流通、それぞれの段階における役割や変化の要因について理解できる。  現代の食料消費の課題を理解し、消費や環境の観点から考察して述べることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	(公社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社 2019年(三訂版第4刷)								
参 考 書	2020年版『くらしの豆知識』国民生活センター								
課題に対するフィードバックの方法	授業中の確認テストやミニレポートは回収し、次回、返却と解説を行う。グループワークに取り組む姿勢やプレゼンテーションなどについては、その時にコメント、評価する。								
留 意 事 項	消費や食をめぐる問題は社会の変化と密接に関連しているので、ニュースなど社会の動きに関心を持ち、疑問点は調べる。予習、復習をしておくこと。特に、フードスペシャリスト資格試験受験希望者は教科書を読み返し、理解を深めておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校の家庭科非常勤講師、消費生活センターの消費生活相談員（消費者教育含む）として勤務。								

授業名	消費科学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代の消費生活問題の現状、「フードスペシャリスト」について	(学修内容)授業の到達目標、授業の進め方、評価のポイント、受講に関する注意点(事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んで、内容を確認し、教科書に目を通しておく。
第2回	消費者の権利と責任、契約の基本とキャッシュレス社会	(学修内容)消費者の権利と責任、契約の基礎知識、クレジットカード、電子マネーについて(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(30分) 利用している電子マネーのメリット、デメリットをまとめておく。(グループワーク用資料)
第3回	若い世代の消費トラブルと社会背景	(学修内容)若い世代からの消費生活相談が多いトラブル事例の紹介。心理、対処法などをグループで話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 国民生活センターのホームページで最新の消費生活相談事例を見ておく。
第4回	消費者を守る法律と消費者行政、消費者市民社会	(学修内容)消費者関連法(消費者契約法・特定商取引法等)と消費生活センターの役割 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定されたweb教材を視聴しておく。事後、資料を読み返し、知識を確認する。
第5回	広告のルールと新しい形の消費	(学修内容)問題広告をグループで検討し、景品表示法について学ぶ。ネットを利用した、新しい形の消費について調べたことを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な新しい消費の形の例を調べて、発表の準備をしておく。
第6回	エシカル消費と食品ロス削減、消費者志向経営	(学修内容)人や社会・環境に配慮した消費の形と食品ロス削減に向けての取組みについて (事前事後学修課題の内容)(30分) エシカル消費と食品ロス削減について学んだことを実践する。
第7回	食市場の変化	(学修内容)食の外部化など食生活の変化をもたらした社会的要因や食品産業の技術について (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品売り場や食卓で、約20年前と比べて変化したと思う点を調べてくる。
第8回	消費者の食品消費の変化と食生活の多様化	(学修内容)主要食品の品目別消費の変化、加工食品の普及や食生活の多様化の社会的環境との関連について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所を読んで、身近にある、便利な食品について調べる。
第9回	食品流通の役割	(学修内容)生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場と加工食品を扱う食品問屋について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所を読んで、流通の役割について理解する。
第10回	食品の小売流通	(学修内容)スーパーやコンビニ、生協、ネット通販など食品小売業について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所を読み、大学生として利用しやすい小売形態について考えてくる。
第11回	外食産業・中食産業のマーチャンダイジング	(学修内容)外食産業、中食産業の運営の仕組みや食材供給システムについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 関心のある企業のホームページを見て、特徴を発表できるようにしておく。
第12回	商品特性による分類と温度帯別食品流通	(学修内容)商品を体系的にみる分類方法・基準と食品の特性に応じた温度帯別流通について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の該当箇所を読んで、次回の発表担当内容をまとめておく。
第13回	主要食品の流通	(学修内容)主要食品それぞれの商品特性と流通について(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の該当箇所と発表資料を復習しておく。
第14回	フードマーケティング	(学修内容)フードビジネスとマーケティングについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 今までの学習を振り返り、最終回到質問したいことをまとめておく。
第15回	食料消費の課題	(学修内容)「食」を取り巻く、環境問題、安全確保、社会状況などの課題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 食生活・消費生活の課題について、考えを述べられるようにしておく。

授 業 名	ライフスタイルと法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2422
英 文 名	Lifestyle and Law			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	小松 郁夫			対 象 学 生	現代家政2回生				
授 業 の 概 要	<p>法（法律）と聞いて、あなたはどのようなイメージをもちますか。そのようなイメージを出発点としながら、本講義では私たちの身近な生活のなかで法がどのような働きをしているのかについて考えます。その際には、裁判（所）の役割にも目を向ける必要があります。現在、小・中学校における「法教育」の取組みも進んでいます。本講義では、法のご概念や法の体系・種類、法の解釈といった法律学上の基本事項について学びとともに、小・中学校における法教育の可能性等についても話し合いたいと考えています。</p> <p>なお理解を深めるために、動画を視聴したり、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進めます。また、日々のニュースなどにも関心を持ってください。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。</p> <p>2) 具体的な事件等について、法的視点（法的な考え方）から問題点と解決策を説明することができる。</p> <p>3) 小・中学校における法教育・憲法教育のあり方について学び、自分なりの実践案を作成することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )			
テ キ ス ト	森本直子ほか編『法学ダイアリー』（ナカニシヤ出版、2017年4月） *詳細は、初回授業の際に説明します。								
参 考 書	『こども六法』[弘文堂、2019年]、『マンガでわかる日本国憲法』[池田書店、2014年]、『ゼロからはじめる法学入門』[法律文化社、2014年]、『ここから始める『憲法学習』の授業』[ミネルヴァ書房、2019年]、W・キャシディ&R・イエーツ編『小学校で法を語ろう』（成文堂、2015年）など。また、可能であれば『六法』を準備して欲しい。詳しくは、初回に詳しい説明を行います。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	小レポート等については、授業時に簡単に所定の用紙に講評・コメントを行ったうえで次回の授業の時に返却します。								
留 意 事 項	日々の新聞や雑誌記事の切り抜き（記録）を課題とします。日々の出来事や事件などを通して、私たちの生活のなかで、法や裁判がどのような役割を果たしているかについて考えてみてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ライフスタイルと法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ～法律学への誘い、法とは何か、法の解釈とは～	(学修内容) 授業概要の説明、法とは何か、法を学ぶことの意味について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、テキストの目次及び「プロローグ」に簡単に目を通しておくこと。
第2回	誕生と法 ～法の対象となるヒトとは?～	(学修内容) ヒト(人)の誕生をめぐる法的問題について学ぶ。調べてきたことをもとに、グループワーク及びプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第1章に目を通すとともに、最近のニュースから気になった法的事項を一つ選び、簡単に概要をまとめて提出すること。
第3回	子どもと法	(学修内容) 子どもや学校(小・中学校を中心に)に関する法制度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章に目を通しておくこと。
第4回	市民生活と法	(学修内容) 市民としての私たちの責務、特に選挙や納税をめぐる問題、そして裁判員制度等について学ぶ。グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第3章に目を通しておくこと。復習として、DVDを視聴して気づいたことをレポートにまとめて提出。
第5回	消費生活と法 ～消費者の権利～	(学修内容) 契約に関わる法的問題について学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第4章に目を通しておくこと。
第6回	職業生活と法 ～労働に関する法的ルール～	(学修内容) 労働法の基本原則等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第5章に目を通しておくこと。
第7回	パートナーシップと法	(学修内容) 婚姻や離婚をめぐる法的問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第6章に目を通しておくこと。
第8回	事故と法 ～学校事故の法的責任～	(学修内容) 学校事故などを例に、民法の不法行為について学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第7章を参考に、具体的な学校事故に関する案件をレポートにまとめて提出すること。
第9回	犯罪と法	(学修内容) 刑法の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第8章に目を通しておくこと。
第10回	高齢化と法	(学修内容) 社会保障法の基礎について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第9章に目を通しておくこと。
第11回	終末期と法	(学修内容) 安楽死・尊厳死問題等を素材に医事法の基本について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第10章に目を通しておくこと。
第12回	人の死と法	(学修内容) 民法(特に、親族・相続法)の基本を学ぶ。新聞記事等の切り抜きをもとに、調べてきたことについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第11章に目を通しておくこと。
第13回	情報社会と法	(学修内容) 情報公開制度や個人情報保護制度、インターネットをめぐる法的問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第12章に目を通しておくこと。
第14回	環境と法	(学修内容) 環境法の基本について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、テキスト第13章に目を通しておくこと。
第15回	まとめ ～グローバル社会に生きる私たち～	(学修内容) グローバル社会のなかで、あらためて法の役割とは何かについて皆で話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 予習として、テキスト第14章に目を通すとともに、春学期の講義内容を振り返り、あらためて法とは何かについて自らの意見をまとめておく。



授 業 名	統計学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2421
英 文 名	Statistics			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の基礎的な知識をまじえながら、基本統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、サンプリングと統計的な検定の原理や、分散、相関に関する分析手法について解説する。すべての授業を通じて、具体例を用いて作業しながら学べるよう心がける。なお、この授業内容は、秋学期に開講予定の「統計」と連続している。本授業で、統計の基本的なルールを理解した上で、「統計」においては統計を研究や仕事の場面で活用できるよう実践的な力を伸ばすため応用的な課題を自ら解決する態度がもとめられる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト(Excel)を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。								
参 考 書	授業の進捗に合わせて、適宜、参考となる書籍や記事などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留 意 事 項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	統計学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業を進める手順と、統計データの集め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでくる。
第2回	平均・度数分布	(学修内容) Excelを用いて平均値を求め、度数分布表の作成ができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、平均値を求め、度数分布表を作成してみる。
第3回	分散と標準偏差	(学修内容) 数字のばらつきの意味を説明でき、標準偏差を算出することができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、自分で標準偏差を出してみる。
第4回	標本と推定値	(学修内容) 推定値の意味が説明できるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに推定値を出してみる。
第5回	区間推定と信頼区間	(学修内容) 信頼区間を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、信頼区間を出してみる。
第6回	相関	(学修内容) 相関に関する統計的な考え方を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するクロス集計表の説明をする。
第7回	相関係数	(学修内容) 相関係数を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに相関係数を求めてみる。
第8回	統計的検定 : 帰無仮説	(学修内容) 統計的分析における仮説の立て方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとにクロス集計表を作成し、帰無仮説と対立仮説をたててみる。
第9回	統計的検定 : 2群の平均値の差の検定	(学修内容) tの値を求めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、tの値をもとめてみる。
第10回	統計的検定 : 独立性の検定	(学修内容) カイ二乗値を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、カイ二乗値をもとめてみる。
第11回	分散分析 (1要因)	(学修内容) 1要因の分散分析を説明できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに1要因の分散分析を試してみる。
第12回	分散分析 (2要因)	(学修内容) 2要因の分散分析を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに2要因の分散分析を試してみる。
第13回	分散分析のまとめ	(学修内容) 分散分析に関する復習をおこなう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでおこなってきた分散分析の結果を見直し、まわりに分かりやすく伝えられるように整理する。
第14回	科学的研究の方法	(学修内容) 仮説検証の手順など整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでくる。
第15回	総括	(学修内容) これまでのことをふりかえる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時の意見交換を踏まえレポート試験を準備する。

授 業 名	労働法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2310
英 文 名	Labor Law			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	中川 直毅			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>働く人々を守っていくための「労働法」について、基本から応用までを体系的に学んでいく講義です。学生の皆さんが社会に出てからだけに留まらず、現時点におけるアルバイトなどでも労働法の知識が即刻役立つように、裁判例や実際の事例を中心に、また講師が受けた相談事例も豊富に組み込んで解説していきます。</p> <p>なお、授業はテキストにそって行っていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)働く人を保護する労働法の必須知識が身につく。  2)労働法の知識が、社会に出たときに必ず役立つものと実感できる。  3)セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントを法的に防御する知識と知恵が身につく。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	小畑史子・緒方桂子・竹内(奥野)寿『労働法 第3版』有斐閣スタジオア 2019年刊 1900円(税別)								
参 考 書	労働法の条規集として、『労働関係法規集 2019年版』労働政策研究・研修機構 2019年刊 1389円(税別)の購入が望ましい。その他の参考書は必要に応じて授業で指示します								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に1~2回程度、授業理解を確認するための授業感想メモの提出を求めます。このメモにコメントをつけて返却していきます。								
留 意 事 項	特になし								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎回授業終了後に実施します。 アルバイト先などの職場で、働くルールについて疑問点がある場合の相談にも応じます。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など： 実務労働法:名古屋芸術大学キャリアセンター長(現職)、一般社団法人洛陽労働法務キャリア支援機構 代表理事・理事長(現職) 労働法・人事労務管理:特定社会保険労務士、T R A D社会保険労務士法人顧問、安村公認会計士事務所顧問 (以上現職)。上場会社等で人事部長、法務室長、人事総務部長(元職)等を歴任。 これらの経歴を通じて実務労働法の教育を実践してきている。</p>								

授 業 名	労働法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要の説明、労働法を学ぶ意義について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの「はしがき」と「目次」を概観しておくこと。
第2回	労働法を概観する	(学修内容) 労働法の全体像を学ぶ。とりわけ「憲法との関係」「労働法の分類」を重点的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP1～P18に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第3回	労働関係の当事者と権利義務について	(学修内容) 労働契約で生じる権利義務関係、使用者と労働者の定義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP19～P32に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第4回	労働条件の決定、労働契約の成立について	(学修内容) 職場のルールブックである「就業規則」、採用と内定、内定取消し問題などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 事前にテキストのP33～P59に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第5回	組織と人事について	(学修内容) 企業における、配転(転勤)、出向、昇進・昇格について学び、人事評価制度にも言及する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP60～P79に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第6回	賃金について	(学修内容) 賃金、賞与(ボーナス)やシフト制の休業手当などについて学び、職能資格制度にも言及する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP80～P96に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第7回	労働時間・休憩・休日について	(学修内容) 労働時間の定義、休憩・休日、割増賃金(残業代)を中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP97～P116に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第8回	年次有給休暇と育児介護休業について	(学修内容) 年次有給休暇、育児介護休業、母性保護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP117～P130に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第9回	差別禁止、均等・均衡取扱いの法ルールについて	(学修内容) 男女雇用機会均等法や、雇用形態の均等・均衡待遇について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP131～P148に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第10回	安全衛生・労働災害について	(学修内容) 労働災害の防止と労働者災害補償保険について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP149～P164に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第11回	労働契約の終了について	(学修内容) 定年制、解雇などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP165～P183に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第12回	非典型雇用～パート・アルバイト労働、有期契約労働について	(学修内容) パートやアルバイト、契約社員を保護している労働法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストのP184～P196に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第13回	非典型労働～派遣労働について	(学修内容) 労働者派遣法を中心に学び、業務委託や業務請負としての働き方についても言及する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストのP197～P205に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。必要に応じてレジュメも配布する。
第14回	労働組合法～不当労働行為などについて	(学修内容) 労働組合の結成、不当労働行為を中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP206～P224に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。
第15回	労働組合法～団体交渉、労働争議などについて	(学修内容) 団体交渉、労働協約および団体行動(労働争議)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前にテキストのP225～P253に目を通しておくこと。事後には授業で説明した箇所を読了しておくこと。

授 業 名	男女共同参画社会論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3323
英 文 名	Theory of Gender Equality			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、ポスト経済成長時代の社会形成にも重要である。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を中心にしながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2) 受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3) 具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)								
参 考 書	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公男ほか(有斐閣アルマ)、『はじめて学ぶジェンダー論』伊田広行(大月書店)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか(有斐閣)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『男女共同参画白書』そのほか適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートは返却し、コメントします。 プレゼンテーションに対して、コメントします。								
留 意 事 項	ジェンダー論を履修しておくことが望ましい。参加型の授業を目指すので、グループワークやディスカッションを多く取り入れる。また、グループワークの状況により授業内容の順序を入れ替えることもある。授業内での積極的な発言を求めらる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 嘱託研究員								

授 業 名		男女共同参画社会論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 男女共同参画とは	(学修内容) 男女共同参画社会・男女平等とは何かについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの目次をみて全体の構成を把握しておく。	
第2回	ジェンダーとは何か	(学修内容) ジェンダーという概念について理解する。ディスカッションも含む。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第3回	メディアのなかの男女共同参画	(学修内容) メディアが男女共同参画に与える影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第4回	CM分析	(学修内容) グループごとに現在のCMについて男女共同参画の視点から分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第5回	CM分析のグループ発表	(学修内容) 各グループごとにCM分析の結果を発表する(プレゼンテーション、ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をしておく。	
第6回	アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点からの検証	(学修内容) アニメ・テレビドラマについて男女共同参画の視点から分析された資料を検討する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 男女共同参画の視点からアニメ・テレビドラマを見ておく。	
第7回	教育における男女共同参画：教科書	(学修内容) 教科書における男女共同参画について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第8回	スウェーデンにおける中学校社会科の教科書分析	(学修内容) 男女共同参画の視点からスウェーデンの中学校の教科書について分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく。	
第9回	日本とスウェーデンの中学校社会科の教科書の比較	(学修内容) 前回の分析について発表する(プレゼンテーション)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をしておく。	
第10回	法律と男女共同参画	(学修内容) 法律における男女共同参画の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第11回	法律における男女共同参画の実態	(学修内容) 法律における男女共同参画の課題について考える(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく。	
第12回	就業と男女共同参画	(学修内容) 就業に関する男女共同参画の現状について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を読んでおく。	
第13回	男女共同参画と子育て：母親	(学修内容) 子育てにおける母親の現状と課題について理解する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく。	
第14回	男女共同参画と子育て：父親	(学修内容) 子育てにおける父親の現状と課題について理解する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく。	
第15回	男女共同参画社会に向けて：全体のまとめと振り返り	(学修内容) これまでのまとめと振り返りをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業全体を振り返っておく。	

授 業 名	社会調査の基礎			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2311
英 文 名	Basics of Social Survey			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>&lt; 授業の概要 &gt;</p> <p>社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史の変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても説明する。また、授業において、データセットの方法などデータ整理の実習も進めていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会調査の種類や方法・手順が理解できる。</p> <p>2) 調査設計の流れが理解できる。</p> <p>3) 新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	授業にて、適宜資料を配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容について解説します。								
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する（受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく）。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名	社会調査の基礎	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容について確認する。
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	(学修内容) 社会調査の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査どんなものか』P15-27の内容を整理してみる。
第3回	社会調査の倫理について	(学修内容) 社会調査における倫理について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などでおこなわれるアンケート調査など収集してみる。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	(学修内容) 社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査はどんなものか』P27-P39の内容を整理してみる。
第5回	社会調査の種類 目的による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査はどうやってやるか」P41 53の内容を整理してみる。
第6回	社会調査の種類 方法による分類について--量的調査?	(学修内容) アンケート調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査はどうやってやるか」P53 61の内容を整理してみる。
第7回	社会調査の種類 方法による分類について--質的調査?	(学修内容) インタビューなど質的調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 友人や家族にインタビューをしてみる。
第8回	社会調査の種類 統計的研究について	(学修内容) 統計的な検定の考え方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「統計的な考え方」を読んでおく。
第9回	社会調査の種類 事例研究について	(学修内容) 事例研究について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 対象を決めて、「どのようなことを調べてみるか」、調査計画をたててみる。
第10回	社会調査の種類 調査対象による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さらに詳しい自分の調査計画をたててみる。
第11回	実習：聞き取り調査の方法と手順	(学修内容) インタビューの方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてくる。
第12回	実習：統計データを加工する	(学修内容) 統計データへのアクセスの仕方と加工について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 総務統計局のホームページに入り、興味のあるデータを集めてみる。
第13回	実習：アンケート調査の方法と手順	(学修内容) アンケート調査の方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞の世論調査の記事など、きちんとサンプリングされているアンケート調査を収集する。
第14回	実習：質問文の作成	(学修内容) アンケートにおけるワーディングの問題について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまで行われたアンケートを参照しながら、アンケートの構成を念頭において、質問文を作成する。
第15回	実習：アンケートの作成	(学修内容) アンケート調査について大事なポイントを整理していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問の順番やワーディングの問題など確認しながら、アンケートの作成を進めていく。



授 業 名	消費者調査法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3324
英 文 名	Consumer Survey			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>これまで、消費者は、製品の情報をテレビや雑誌などのマスメディアや知人から得ていました。それが今日では、全く会ったことのない人のブログを読み、その人のコメントにひかれてネットから簡単にモノを買うようになりました。インターネットの普及により、個人がアクセスできる情報は増え、情報は「企業から消費者」という流れだけでなく、「消費者から消費者」へと展開するようになっていきます。そのような時代になっても「欲しい」と感じてもらえる消費をつくるためには、どのようなニーズがあるのか分かる必要があります、リサーチはそのために有効な手段です。本授業では、リサーチの手順・仕方について学びます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) マーケティングにおける調査設計の流れが分かるようになる。 2) マーケティングに関するデータを読むことができる。 3) マーケティングに関わる妥当な資料を収集することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	授業内に適宜資料を配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して説明します。								
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する(受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく、また、受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	消費者調査法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	分析とは何か	(学修内容) 分析とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることを整理してきてください。
第3回	調査設計の準備について	(学修内容) 調査設計の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「食」に関して、自分の関心のあることを整理してきてください。
第4回	観察・聞き取りの手順について	(学修内容) 観察・聞き取りの手順について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることについて、観察やインタビューをする対象について整理してきてください。
第5回	アンケート調査の進め方-手法について	(学修内容) アンケート調査の手法について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の関心のあることに関する調査票を収集してきてください。
第6回	データの捉え方	(学修内容) データの捉え方について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 家計調査の内容について調べてきてください。
第7回	グラフ化についてと文書化について	(学修内容) データのグラフ化と文章化について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書を比較してみて、どのようにまとめられているのか整理してきてください。
第8回	仮説をたてる	(学修内容) 仮説のたてかたについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書の結果を比較し、自分の問題関心を整理してきてください。
第9回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) グループワークで、仮説を設定し、インターネットを用いて、オープンデータから分析に用いるデータを収集します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 収集したデータを見ながら、どのようなことが指摘できるか考察してください。
第10回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) グループワークで、収集した統計データを加工していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループの問題関心以外で、データを見て、興味深いものを整理してください (60分)。
第11回	政府による統計データを利用する : グループワーク	(学修内容) データの結果におけるディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 収集してきたデータを整理して、そのデータが示す内容について記述してきてください。
第12回	検証する : グループワーク	(学修内容) 仮説にあったかどうか、もしあっていたら、その後どのようなことが展開できるのか、あてはまらなかったなら、その原因を考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仮説の検証をしてきてください。もし、仮説にあてはまらなかった場合、その原因も考えてきてください。
第13回	前回の授業を踏まえた分析 : グループワーク	(学修内容) 前回の授業をふまえて、分析を展開させていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分析に備えて、グループ内で、異なった意見など整理してみる。
第14回	報告書の作成	(学修内容) 報告書の作成について (事前事後学修課題の内容) (60分) 仮説をたて、検証した結果について整理してきてください。
第15回	総括	(学修内容) 総括 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの学習を振り返ってきてください (振り返るポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	経営学総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1411
英 文 名	Outline of Business Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大谷 和海			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>本講座では、受講生がはじめて経営学を学ぶことを意識して、経営学入門テキストを利用しわかりやすく講義をするようにとめます。具体的には、経営学の対象である企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いて授業を展開します。受講者には、積極的な授業参加をお願いします。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 企業とは何か、株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。 2) 企業や経営について、具体的にイメージし、意見提言できる力を身につける。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (授業での質疑応答による理解力と回答力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス。								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝える。								
留 意 事 項	経営学に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身につけてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授業名	経営学総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：経営学と現代家政学、経営学とはどんな学問か、会社の経営とはどんなことが（企業経営入門）（補章、第1章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業）（第2章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）（第3章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）（第4章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態）（第5章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）（第6章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか（生産管理）（第7章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	社員は仕事をどのように分担しているのか（職務構造と職務設計）（第8章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	社員はなぜ働くのか（モチベーションとリーダーシップ）（第9章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（雇用システム）（第10章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか（報酬制度）（第11章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度）（第12章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	会社はどのようにして商品を提供するのか（マーケティング）（第13章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営）（第14章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度）（第15章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1303
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができる。  2) 現代のライフスタイルを客観的に見ることが出来る。  3) 環境に関するデータを読むことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容などに関して解説します。								
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニツツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。	
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(学修内容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください。	
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(学修内容) 現代における環境問題を説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください。	
第4回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください。	
第5回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください。	
第6回	グループワーク：開発と環境問題の現状に関して考察する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第7回	地球環境問題	(学修内容) 地球環境問題の概要について説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第8回	グループワーク：地球環境問題を整理する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、地球環境問題の整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第9回	リスク社会	(学修内容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(学修内容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください。	
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(学修内容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、消費のありかたについて整理してみてください。	
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(学修内容) 生物多様性の問題について考察します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の問題について調べてきてください。	
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(学修内容) 豊岡市の事例について考察します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください。	
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(学修内容) 効率よいエネルギー利用について考察します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください。	
第15回	グループワーク：循環型社会の形成に向けて考察する。	(学修内容) 総括として、グループワークで循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。	

授業名	多文化共生論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2320
英文名	Theory of Multiculturalism			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	朝田 郁			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>多文化共生とは、異なる文化的背景や歴史的背景を持つ人たちの集団同士が、それぞれの独自性を保ったまま、お互いの価値観を尊重して共存していくことです。多文化と聞くと、私たちの生活から遠いところにあるように感じられるかもしれませんが、実は日本も例外ではありません。日本社会に暮らす外国人の割合は、すでに総人口の2%に達しています。この授業では、世界と日本における様々な事例を読み解きながら、多文化共生社会を実現するための方策について考えていきます。</p> <p>なお、授業の中で1人1回のプレゼンテーションの機会を設けます。受講生が多数の場合は、プレゼンテーションに代えてグループワークを実施します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 多文化共生をめぐる諸問題について、基本的な概念等を説明することができる。  2) 各回の授業テーマに沿って、自ら課題を発見し、問題解決を図ることができる。  3) 社会に内在する多様性を認識し、共生に必要な視点を身に付けることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力		
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	指定はありません。講師が用意したパワーポイント資料で授業を進めます。								
参考書	必要に応じて適宜ご紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	各回の最後に理解度テストを実施します。解答の説明は、次の最初におこないます。								
留意事項	前提知識は必要ありません。基本的なことから順番にお話しします。新鮮な気持ちで臨んでください。講義内容をより多いものにするため、受講生のみなさんの積極的な授業参加を期待します。								
オフィスアワー	授業終了後に時間を設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：東アフリカ・中東湾岸諸国において複数回のフィールドワーク実施  京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員  京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・特任助教  星槎大学/京都コンピュータ学院・非常勤講師</p>								

授 業 名	多文化共生論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：多文化共生とはなにか	(学修内容) 講義全体の進め方・授業内容についてのガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、自分の言葉で「多文化共生」が意味する内容を考える
第2回	日本の中の外国：身近な多民族社会	(学修内容) 日本に暮らす人々の多様な背景・各地の外国人コミュニティ (事前事後学修課題の内容) (30分) 外国人技能実習制度で、どこの国の出身者が増えているのか調べてみる
第3回	民族とはなにか	(学修内容) 帰属意識の形成・民族多様性・多民族社会 (事前事後学修課題の内容) (30分) 民族とはなにか、自分の言葉で考えてみる
第4回	社会統合と多文化共生	(学修内容) 内なる「異人」をめぐる政策・世界の多民族社会の諸相 (事前事後学修課題の内容) (30分) 外国人受入れについて、日本が取っている立場について調べてみる
第5回	異文化接触	(学修内容) 異文化適応のプロセス・エスノセントリズム・文化相対主義 (事前事後学修課題の内容) (30分) カルチャーショックについて、自分の経験を挙げてみる
第6回	マジョリティとマイノリティ	(学修内容) マイノリティの位置付け・ダイバーシティ・格差是正の取り組み (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような時に人はマイノリティになるのか、自分の言葉で考えてみる
第7回	ジェンダーをめぐる議論と誤解	(学修内容) 性差をめぐる権力構造・多文化共生とジェンダー (事前事後学修課題の内容) (30分) フランスのヒジャブ禁止令に、どのような問題点があるか挙げてみる
第8回	現代美術と多文化共生	(学修内容) プリミティブ・アートと『大地の魔術師』以降の現代美術 (事前事後学修課題の内容) (30分) 博物館と美術館の違いを、自分の言葉で考えてみる
第9回	移動と移住	(学修内容) 移民とエスニシティ・日本人の海外移住 (事前事後学修課題の内容) (30分) エスニシティとはなにか、その意味を自分の言葉でまとめてみる
第10回	子育てと教育	(学修内容) 学校教育と移民・外国人学校をめぐる状況・継承語 (事前事後学修課題の内容) (30分) 外国人と日本人の児童が、共に学ぶことで得られる効果を考えてみる
第11回	差別とステレオタイプ	(学修内容) 固定観念・差別の種類とその背景 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の経験から、ステレオタイプが与える影響の事例を挙げてみる
第12回	言語・非言語コミュニケーション	(学修内容) コミュニケーションの多様性・アサーティブネス (事前事後学修課題の内容) (30分) 言語以外のコミュニケーションに、どのようなものがあるか調べてみる
第13回	メインカルチャーとサブカルチャー	(学修内容) 文化の性質・文化と行動規範・サブカルチャーの位置付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分を形作るサブカルチャーを、キーワードの形で挙げてみる
第14回	文明の衝突と対話を超えて	(学修内容) 文明の衝突論への異議申し立てとオリエンタリズム論 (事前事後学修課題の内容) (30分) 東洋が、どのようなイメージと結びついて語られているか調べてみる
第15回	多文化共生のために	(学修内容) 多文化共生社会への参画・共生のためのしくみづくり (事前事後学修課題の内容) (30分) 多文化共生社会を実現するために、自分でなにができるか考えてみる



授 業 名	統計学の基礎			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2312
英 文 名	Statistics for Business			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>統計学をご存知ですか？みなさんも、新聞などでグラフや図表を見たことがあるでしょうし、アンケート調査だとか調査という言葉もよく耳にされていることと思います。また、調査と名前は付いていなかったとしても、私たちの社会では、商品の売れ行きを調べるなど、さまざまな調査が行われています。統計学は、このような調査を通して得られた数的なデータを分析して、その性質を調べる学問です。つまり、統計学があるからこそ、私たちは私たちの暮らす社会の姿や、そこで起きている現象について客観的に知り、さまざまな方策を考えることができます。この講義では、統計学の基礎的な知識を身につけると同時に、統計情報を分析できるようになることを目指します。難しい話は一切抜きにして、まずは統計に慣れることから始め、少しずつ統計学の考え方を身につけていきましょう。</p> <p>受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 統計学の基礎がわかる。 2) 統計学の基本的な考え方がわかる。 3) 統計情報を分析できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計算する力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	適宜、資料を配布します。								
参 考 書	授業中に紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題については、評価基準を授業内あるいはメールにて解説します。								
留 意 事 項	一度欠席すると、次回の内容理解が困難になります。なので、できる限り、休まないでください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	統計学の基礎	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容、進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。
第2回	統計学とは?	(学修内容) 統計学とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞の世論調査などの記事を収集してみる。
第3回	データの特徴を視覚的に明らかにする。	(学修内容) 分布の隠れた方法を明らかにしていく方法を解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(量的データ・質的データの違いなど)。
第4回	データを客観的に分析する指標 --平均値について	(学修内容) 平均値・中央値・最頻値について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(度数分布表、ヒストグラムなど)。
第5回	データを客観的に分析する指標 --分散と標準偏差について	(学修内容) 分散と標準偏差について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(平均値、中央値、最頻値など)。
第6回	2つの異なるデータを比較する。	(学修内容) 2つの異なるデータを比較することができる統計指標について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(分散と標準偏差の計算など)。
第7回	2つのデータの関係を表す指標について	(学修内容) 2つのデータの関係を表す統計指標について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(共分散などについて)。
第8回	確率とは何か	(学修内容) 確率とは何かについて、基本的なところから解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(相関係数について)。
第9回	推定・検定の考え方	(学修内容) 標本から母数を推定する統計的な推定の考え方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(正規分布、二項分布などについて)。
第10回	視聴率調査のカラクリ	(学修内容) 統計の実例について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(標本分布、中心極限定理などについて)。
第11回	選挙の出口調査のカラクリ	(学修内容) 統計の実例について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(視聴率調査の実施のされかたなどについて整理する)。
第12回	データ分析の応用 : データ・セットについて	(学修内容) グループワークで、分析に用いるデータを収集し、データ・セットをします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(選挙の出口調査の限界などを整理する)。
第13回	データ分析の応用 : 2つの商品の価格の相関を調べる。	(学修内容) グループワークで、2つの商品の価格の関係を分析します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。
第14回	データ分析の応用 : 商品価格の変動と地域差を調べる。	(学修内容) グループワークで、商品価格の変動と地域差を分析してみます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。
第15回	「証拠に基づいた議論」を練習しよう	(学修内容) 議論を展開させる根拠として、データの活用の位置づけを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習(授業時に復習のポイントを整理する)。

授 業 名	現代企業論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3457
英 文 名	Theory of Modern Company			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 良介			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>現代社会において、私たちの生活は様々な企業によって支えられています。また、技術の発展に伴い社会が変化していくなかで、現代企業は従前とは異なる価値観の創出を求められています。講義では、マネジ?メントについて現代のICT(情報通信技術)を利用した組織・管理・戦略の実際を事業・企業・経営を中心に講じます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>(1)マネジメントの歴史について主要な理論や概念を説明することができる。  (2)社会の変化に伴う企業の社会的責任について、事例をもとに分析することができる。  (3)現代社会における問題を定義し、考えを深める。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	必要に応じて関連する書籍や資料を紹介する。								
参 考 書	必要に応じ随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対する回答内容を授業内で発表し、必要なアドバイスを行う。								
留 意 事 項	現代社会は日々し、多様な課題を抱えている。そのため、日頃より報道番組やインターネット記事に着目して、現代社会の課題の把握に努めてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業前後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		現代企業論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：マネジメントとは？	(学修内容) マネジメントとは何かを探る。 (事前事後学修課題の内容) (120分) マネジメントについて調べておく
第2回	マネジメントの歴史	(学修内容) マネジメントの歴史について、日米企業の事例をもとに紐解いていく。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 興味・関心のある企業の歴史について調べておく
第3回	事業と企業	(学修内容) 事業と企業の違いについて論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 興味・関心のある企業の組織概要について調べておく
第4回	意思決定と経営資源	(学修内容) 意思決定の手段と経営資源の最適化について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 興味・関心のあるニュースについて調べておく
第5回	市場と競争戦略	(学修内容) 市場の変化と競合との競争戦略について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 同じ業界で競合している企業について調べておく
第6回	マーケティングの基本	(学修内容) S顧客満足、4Pモデルについて論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 商品の一つ取り上げ、価格や広告について調べておく
第7回	ロジスティクスと情報管理	(学修内容) SCM、調達から販売までの流れ、情報管理について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 商品やサービスがどのように消費者に提供されるかについて調べておく
第8回	知識社会のビジネスモデル	(学修内容) 知識社会におけるビジネスモデルの展開について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 興味・関心のあるサービスのビジネスモデルについて調べておく
第9回	クラウドソーシングとファンディング	(学修内容) クラウドを用いた人材活用と資金調達について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) クラウドファンディングについて調べておく
第10回	アントレプレナーの役割	(学修内容) 起業家が果たす社会への影響について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) スタートアップ企業について調べておく
第11回	CSRとコーポレートガバナンス	(学修内容) CSRとコーポレートガバナンスについて論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) CSRについて調べておく
第12回	経営環境の変化・危機への対応	(学修内容) 企業活動における内的・外的リスクについて論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 気候変動や災害、企業不祥事について調べておく
第13回	事例研究	(学修内容) 企業不祥事や事故・災害の事例を取り上げ、分析する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 対象となった事件・事故・災害について調べておく
第14回	事例研究	(学修内容) 企業不祥事や事故・災害の事例を取り上げ、分析する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 対象となった事件・事故・災害について調べておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの講義内容を振り返り、全体について論じる。 (事前事後学修課題の内容) (120分) これまでの授業を総復習しておく

授 業 名	公衆衛生学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1306
英 文 名	Public Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	人は年齢、居住地、社会生活等によって、さまざまな生活方法がある。これらすべての人々の心身の健康を維持することについて、衛生・公衆衛生学の観点から講義をすすめる。社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。 グループで課題を討論し、理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会や環境と健康との関係が理解できる。 2) 日本の現状について学び、健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3) 保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	カレント 社会・環境と健康 公衆衛生学、 北田善三 須崎尚 編著、建帛社								
参 考 書	授業中に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	確認テストやレポートについて解答の解説を行う。								
留 意 事 項	新聞やニュースなどを通じて、日本や世界の健康や公衆衛生に関する社会的な話題に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	公衆衛生学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆衛生と健康の概念	(学修内容) 健康の概念、公衆衛生の定義。プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p1-9を読んでおく
第2回	環境保健	(学修内容) 地球環境の保全。公害対策。環境基本法 地球環境について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p10-25を読んでおく 主要な公害について比較してまとめる
第3回	健康、疾病、行動に関わる統計資料	(学修内容) 疾病・死亡の指標。統計解析の基礎 人口静態統計・人口動態統計。死因統計・疾病統計 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p26-39を読んでおく 各統計値の特徴をまとめる
第4回	疫学	(学修内容) 疫学の概念、方法、EBM、EBPHについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p40-53を読んでおく 疫学の指標をまとめる
第5回	生活習慣の現状と対策	(学修内容) 国民健康づくり対策、健康日本21(第2次) 身体活動、喫煙、飲酒、睡眠、ストレス、歯の健康について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p54-79を読んでおく 生活習慣病および健康日本21(第2次) 各目標値をまとめる
第6回	社会保障	(学修内容) 社会保障 社会福祉 医療制度について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p105-115を読んでおく 社会保障制度を構成する要素をまとめる
第7回	福祉制度	(学修内容) 介護保険 障がい者福祉について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p115-121を読んでおく 介護保険制度、障がい者福祉にかかわる法律についてまとめる
第8回	衛生関連法規	(学修内容) 国民の健康保持・増進のための衛生法規について これまでの学習内容に関する課題についてグループワークを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1回から7回までの内容を復習し、各種衛生法規で規定されている施策の概要について理解を深めておく
第9回	地域保健	(学修内容) 衛生行政と地域保健について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p121-126を読んでおく 保健所と市町村保健センターの役割をまとめる
第10回	母子保健	(学修内容) 主要感染症の動向 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、感染症の現状についてノートにまとめておく
第11回	学校保健	(学修内容) 食品保健に関する法律。食品の表示 食品の種類と機能。食中毒 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、食品と健康についてノートにまとめておく
第12回	高齢者保健	(学修内容) 学校保健安全法 歯科保健 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、学校における健康、歯の健康についてノートにまとめておく
第13回	産業保健	(学修内容) 労働基準法。労働安全衛生法 労働者災害補償保険法。職業性疾病 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p144-152を読んでおく 職場での健康についてまとめる
第14回	感染症	(学修内容) 感染症法。検疫法。予防接種法 感染症対策についてのグループ討議 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p93-98を読んでおく 感染症の発生要因と予防対策についてまとめる
第15回	国際保健	(学修内容) 多国間協力。二国間協力。日本の経済協力 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p157-162を読んでおく これまで学習した内容を復習する

授 業 名	解剖・生理学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1307
英 文 名	Anatomy and Physiology			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。解剖・生理学では、身体の概要およびその構造と機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液・造血器・リンパ系、消化器系、呼吸器系および泌尿器系について学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。  2) 細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。  3) 各臓器の生理学的機能について原理から実際の機能との関連を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (判断力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( 統合力 )		
テ キ ス ト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 羊土社								
参 考 書	多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストおよびシラバスの最後に記したテストで理解度を確認し、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。シラバスに試験問題があるのでこれを解しておく								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> 教員の実際経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		解剖・生理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	細胞 I (細胞の基本構造と細胞膜の機能)	(学修内容)細胞一般、細胞膜について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 細胞一般について把握し、細胞膜の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp1-6	
第2回	細胞 II (細胞の核と細胞内小器官の機能)	(学修内容)細胞の核と細胞内小器官の機能と細胞分裂時の変化について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 細胞周期と核の変化、細胞内小器官の機能についてしらべておく「解剖生理学」pp1-7-19	
第3回	組織 (上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)	(学修内容)上皮細胞と支持組織について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 細胞と組織について調べておく「解剖生理学」pp19-36	
第4回	組織 (筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)	(学修内容)筋組織、神経組織など興奮性細胞について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 興奮性細胞について調べておく「解剖生理学」pp36-55	
第5回	身体の概要 (各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説)	(学修内容)体内の各臓器・器官の位置および構造について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 臓器・器官の位置および構造について調べておく「解剖生理学」pp55-72	
第6回	循環器系 (心臓・血管の構造とその機能)	(学修内容)心臓および血管の構造と機能について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 心臓および血管の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp149-170	
第7回	循環器系 (血圧・循環調節機構)	(学修内容)血管と血圧の調節機能について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 血管と血圧の調節機能について調べておく「解剖生理学」pp170-189	
第8回	血液・造血器・リンパ系 (血液・造血器・リンパ系の構成と働き)	(学修内容)血液・血球についてその組成と機能を理解する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 血液・血球の組成と機能と血液型、血液凝固、線溶について調べておく「解剖生理学」pp191-195	
第9回	血液・造血器・リンパ系 (血液・造血器・リンパ系の構成と働き)	(学修内容)リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構を理解する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構について調べておく。「解剖生理学」pp195-200	
第10回	消化器系 (消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組み)	(学修内容)咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組みについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 咀嚼・嚥下の機構、消化管運動について調べておく「解剖生理学」pp221-238	
第11回	消化器系 II (食べ物の消化・吸収の仕組み)	(学修内容)食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて調べておく(60分)「解剖生理学」pp238-255	
第12回	消化器系 III (肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能)	(学修内容)肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp255-266	
第13回	呼吸器系 (呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構)	(学修内容)呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み  (事前事後学修課題の内容)(60分) 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく「解剖生理学」pp267-285	
第14回	泌尿器系 (腎臓の構造と尿の生成機構)	(学修内容)腎臓の構造と尿の生成機構について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 腎臓の構造と尿の生成機構について調べておく「解剖生理学」pp287-304	
第15回	泌尿器系 (腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構)	(学修内容)循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 体液の恒常性維持について調べておく「解剖生理学」pp302-306	



授 業 名	食品学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1304
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、食品に関する知識を駆使し上手に食品を選択することが必要である。食品学では食品のもつ三つの機能について理解し、その機能を果たす成分や物性について詳しく学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の持つ三つの機能について理解できる。 2) 食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 3) 食品中の成分の変化について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 汎用力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎 編著 『栄養科学イラストレイテッド 食品学』羊土社 2015								
参 考 書	新しい食生活を考える会・編著 『新ビジュアル食品成分表』大修館書店 2019								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、小テストを課してすぐに採点し理解度を確認し、学習内容の定着をはかる。								
留 意 事 項	授業の復習をしっかりとすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		食品学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割	(学修内容) 食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割、環境と食の課題について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の役割をまとめておく
第2回	食品の三次機能について	(学修内容) 食品の持つ三つの機能について 一次機能を担う五大栄養素について (事前事後学修課題の内容) (40分) 教科書p27 28を読んでおく
第3回	食品の成分 1 炭水化物	(学修内容) 食品中の炭水化物、多糖類、少糖類、食物繊維の構造と特性を把握する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p28 43を読んでおく 食品成分表を用いて糖質を多く含む食品について理解を深めておく
第4回	食品の成分 2 脂質	(学修内容) 食品中の脂質の特性と性状、生理作用、油脂の種類と管理の仕方について (事前事後学修課題の内容) (40分) 教科書p43 54を読んでおく 食品成分表を用いて脂質を多く含む食品について理解を深めておく
第5回	食品の成分 3 タンパク質	(学修内容) 食品中のタンパク質の特性について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p57 68を読んでおく食品成分表を用いてタンパク質を多く含む食品について理解を深めておく
第6回	食品の成分 4 ビタミン、ミネラル、核酸・核酸構成成分	(学修内容) 食品中のビタミン、ミネラル、核酸関連物質の特性と働きについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p69 85を読んでおく 食品成分表を用いて、ビタミンやミネラル、さらに核酸関連物質を多く含む食品について理解を深めておく
第7回	食品の成分 5 水分	(学修内容) 食品中の水の働きと特性、水分活性と微生物の増殖 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の成分について復習しまとめておく
第8回	食品の嗜好成分 1 色素	(学修内容) 食品中に含まれる色素成分の種類と特性について (事前事後学修課題の内容) (40分) 教科書p100 106を読んでおく 食品成分表を用いてビタミンまたはミネラルを多く含む食品について理解を深めておく
第9回	食品の嗜好成分 2 呈味成分、香気成分	(学修内容) 食品中の呈味成分や香気成分の種類と特性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p107 114を読んでおく 味の相互作用の例についてまとめておく
第10回	食品の機能性成分	(学修内容) 食品の機能性と食品中の機能性成分の種類とその生理作用について (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習したことをまとめる 市販の機能性食品を探し、表示を確かめレポートにまとめる
第11回	食品成分の変化 1 炭水化物・脂質	(学修内容) でんぷん、糖、脂質の変化について 変化にかかわる緒因子について (事前事後学修課題の内容) (30分) 調理学で学んだことを復習しておく
第12回	食品成分の変化 2 タンパク質・ビタミン	(学修内容) タンパク質、ビタミンの変化について 栄養素の相互作用による変化について (事前事後学修課題の内容) (40分) タンパク質の構造・特性などについて復習しておく 教科書p143 - 149を読んでおく
第13回	食品の物性	(学修内容) レオロジー、テクスチャーなど食品の物性の特徴と測定・評価方法などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p163 - 173を読んでおく 物性を変化させて食用とする食品例について考えておく
第14回	食品の表示と規格基準	(学修内容) 法律により制定されている食品表示に関して、さらに特定保健用食品や栄養機能食品について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 健康食品と特定保健用食品の違いについてまとめておく 教科書p176 192を読んでおく
第15回	食品の製造・加工・保存基準および器具・容器包装の安全基準	(学修内容) 食品の製造にまつわる規格基準について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p192 194を読んでおく 身近な食品の包装素材について調べておく

授 業 名	食品学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1312
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	食品を様々な視点から分類する方法とその特徴について知り、そのうえで食品成分表について理解していく。さらに、日常よく用いる食品の個々の食品の特性と取り扱いについて理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品成分表について深く理解できる。 2) 食品の嗜好性成分、食品の調理・加工特性などが理解できる。 3) 食品が健康に与える影響と役割を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (汎用力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	栢野新市、水品善之、小西洋太郎 編著、『栄養科学イラストレイテッド 食品学』羊土社 2016								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	毎回、小テストを課してすぐに採点し、理解度を確認し学習内容の定着をはかる								
留 意 事 項	食品成分表も持参すること。								
オフィスアワー	掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		食品学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の分類	(学修内容) 食品の様々な分類方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p13 15を読んでおく 春学期に学んだ食品中の成分について復習しておく
第2回	食品成分表の理解	(学修内容) 食品成分表の構成や収載品目さらに成分の分析方法などについて学んでいく (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品成分表に書かれている使用法のところを読んで予習しておく
第3回	植物性食品 1 穀類、イモ類	(学修内容) 植物性食品の中の、炭水化物を主体とする穀類やイモ類の個々の特徴およびその取扱いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p28 43を読んでおく 炭水化物について復習しておく
第4回	植物性食品 2 豆類、種実類	(学修内容) 植物性食品の中の、豆類と種実類について種類と特徴について学ぶ 特に大豆についてはその加工品に関しても加工方法など学んでいく (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p43 55を読んでおく 食品成分表で大豆の加工品について調べておく
第5回	植物性食品 3野菜類、果実類	(学修内容) 植物性食品の中の、野菜類と果実類の種類と性質について学び、さらに青果物の鮮度保持についても学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p55 67を読んでおく 日常生活の中で青果物の鮮度維持のために行われていることについてまとめておく
第6回	植物性食品 4キノコ類、藻類	(学修内容) 植物性食品の中の、ビタミンと無機質に富んだ食品である キノコ類、海藻類の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p68 75を読んでおく スーパーなどに置かれているキノコや海藻の種類について調べておく
第7回	動物性食品 1 肉類	(学修内容) 畜肉の種類と性質および成分の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p83 91を読んでおく 熟成肉について調べておく
第8回	動物性食品 2 魚介類	(学修内容) 魚介類の種類と特徴および死後変化と鮮度判定について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p92 103を読んでおく
第9回	動物性食品 3 乳類、卵類	(学修内容) 乳類、卵類の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p104 116を読んでおく 乳類の加工品について調べておく
第10回	食用油脂 1 植物性油脂	(学修内容) 植物性油脂の特徴および種類について 油脂の取り扱いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p121 130を読んでおく 各自の家庭で使われている食用油脂のラベルや表示などを調べておく
第11回	食用油脂 2 動物性油脂	(学修内容) 動物性油脂の特徴および種類について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の132 135を読んでおく 食品成分表で動物油脂について調べておく
第12回	調味料、香辛料、飲料	(学修内容) 調味料の特徴と性質について、香辛料の種類とその成分について、お茶やコーヒーなどの製法と成分について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p148 158を読んでおく
第13回	発酵食品 1 アルコール飲料	(学修内容) アルコール飲料の種類と製法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p181 185を読んでおく
第14回	発酵食品 2 調味料など	(学修内容) 日本の伝統的な発酵食品である味噌や醤油などについて その製法と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p186 191を読んでおく
第15回	総まとめ 食品の摂取と健康	(学修内容) 総まとめ 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりについて、考えをまとめる。

授 業 名	調理学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1302
英 文 名	Introduction on Cooking			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史の変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2) 献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得し、説明できる。 3) 食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得し、説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	山崎英恵編『食べ物と健康 調理学 食品の調理と食事設計』中山書店								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名	調理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の役割1 (調理の目的と意義・調理と嗜好性)	(学修内容)・栄養効果・安全性・嗜好性それぞれを高めるための調理の意義と方法 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストp.1~15をよく読んでおくこと。
第2回	調理の役割2 (嗜好性の主観的・客観的評価)	(学修内容)・嗜好性の客観的評価の種類と内容 ・嗜好背の主観的評価の種類と内容 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.16~22をよく読んでおくこと。
第3回	非加熱調理	(学修内容)・非加熱調理操作の種類と特徴 ・非加熱調理操作により生じる食品材料の変化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.23~36をよく読んでおくこと。
第4回	加熱調理	(学修内容)・加熱調理時の伝熱方式と少佐の原理および特徴 ・加熱調理に用いる熱源と加熱用機器の特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.37~47をよく読んでおくこと。
第5回	調味操作・化学的な調理	(学修内容)・個々の調味料による操作と特徴 ・代表的な化学的調理操作の理論と特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.48~53をよく読んでおくこと。
第6回	調理と栄養:植物性食品1 (穀類・豆類・いも類)	(学修内容)米・小麦・いも類・豆類の種類と構成成分および調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.54~69をよく読んでおくこと。
第7回	調理と栄養:植物性食品2 (野菜類、果物類など)	(学修内容)野菜類、果物類、種実類、きのこ類、藻類それぞれの種類と構成成分および調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.70~79をよく読んで復習しておくこと。
第8回	調理と栄養:卵類、乳類	(学修内容)卵類、乳類それぞれの成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.80~94をよく読んでおくこと。
第9回	調理と栄養:食肉類	(学修内容)食肉類の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.95~103をよく読んでおくこと。
第10回	調理と栄養:魚介類	(学修内容)魚介類の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.104~114をよく読んでおくこと。
第11回	調理と栄養:油脂類、ゲル化材料、調味料類、香辛料、嗜好品	(学修内容)油脂類、ゲル化材料、調味料類、香辛料、嗜好品それぞれの種類と特性および使用法 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.115~128をよく読んでおくこと。
第12回	調理による栄養学的・機能的利点	(学修内容)調理によっておこる物理変化や化学変化とそれによって得られる栄養学的・機能的利点 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.129~135をよく読んでおくこと。
第13回	食事設計の意義と内容	(学修内容)食生活指針、食事摂取基準、食事バランスガイド、食品群、食品成分表について (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.136~143をよく読んでおくこと。
第14回	献立作成	(学修内容)献立作成の手順と留意点および評価(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.144~152をよく読んでおくこと。
第15回	供食・食卓構成・食事環境	(学修内容)・日本料理、西洋料理、中国料理それぞれの特徴と献立構成および食卓構成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.153~160をよく読んでおくこと。

授 業 名	調理学実習 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1303
英 文 名	Practical Exercise Cooking			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化を確認および把握する。5～6名を単位としたグループで実習を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理に関する基礎知識を修得し、基本的な操作ができる。 2) 安全・栄養・嗜好性を考慮した食事を提供できる。 3) 調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的变化を関連付けて説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (基本的な調理技術の習得)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	新調理研究会編『これからの調理学実習(基本手法から各国料理・行事食まで)』オーム社 『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部 『新ビジュアル食品成分表』大修館書店 坂本裕子・森美奈子編『調理・献立作成の基礎』化学同人								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		調理学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理、調理の基本操作 等）	（学修内容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項と基本操作  （事前事後学修課題の内容）（15分） 「実習書」p.2～6、「調理・献立の基礎」p.3～24をよく読んでおくこと。	
第2回	献立作成のための基礎知識	（学修内容）食品成分表の使い方、栄養価計算、調味パーセント  （事前事後学修課題の内容）（15分） 「調理・献立の基礎」p.26～51をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。	
第3回	日本料理の基礎1（炊く、ゆでる、だしをとる）	（学修内容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第4回	日本料理の基礎2（ずし飯、蒸す）	（学修内容）ちらしずし、茶碗蒸し  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第5回	日本料理の基礎3（揚げる、和える）	（学修内容）天ぷら、和え物、すまし汁  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第6回	日本料理の基礎4（焼く、煮る）	（学修内容）魚の照り焼き、炊き合わせ  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第7回	西洋料理の基礎1（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（学修内容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第8回	西洋料理の基礎2（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（学修内容）ムニエル、サラダ、ゼリー  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第9回	西洋料理の基礎3（パスタの扱い方）	（学修内容）スパゲティ、クッキー  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第10回	中国料理の基礎1（湯をとる、炒める）	（学修内容）炒飯、湯菜  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第11回	中国料理の基礎2（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（学修内容）炸菜、炒菜、点心  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第12回	中国料理の基礎3（特徴的な調理法）	（学修内容）溜菜、拌菜  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第13回	パン生地づくりの基本	（学修内容）ピザ、ラタトゥイユ  （事前事後学修課題の内容）（15分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。	
第14回	実技テスト	（学修内容）実技テストの内容については、後日連絡する  （事前事後学修課題の内容）（30分） 内容が発表になったら、しっかり練習をしておくこと。	
第15回	包丁について	（学修内容）包丁の種類や扱い方  （事前事後学修課題の内容）（30分） 「調理・献立の基礎」p.11～14をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。	



授業名	調理学実習 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1311
英文名	Practical Exercise Cooking			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田 二三子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	調理学実習 で学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。5～6名単位のグループで実習を行う。								
学修成果到達目標	1) 日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解し、説明できる。 2) 季節のもてなし料理や行事食についての知識を持ち、提供できる。 3) 給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (調理技術の習得)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	新調理研究会編『これからの調理学実習(基本手法から各国料理・行事食まで)』オーム社								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留意事項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	調理学実習 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 調理学実習を受講するにあたっての諸注意  (事前事後学修課題の内容) (10分) 実習のに必要な白衣、帽子等を準備しておく。
第2回	日本料理1 (煮物、でんぷんの種類と特徴)	(学修内容) 鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第3回	日本料理2 (味付飯、和え物の応用)	(学修内容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第4回	日本料理3 (もてなし料理・もち米の調理)	(学修内容) 赤飯、プリの照り焼き、炊き合わせ、赤だし  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第5回	西洋料理1 (魚介だし、油脂の調理特性)	(学修内容) ブイヤベース、パウンドケーキ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントおよびテキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第6回	西洋料理2 (塊肉の調理、シュー生地)	(学修内容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第7回	西洋料理3 (パイ生地)	(学修内容) アップルパイ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第8回	中国料理1 (パン生地の応用、砂糖の調理特性)	(学修内容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、拔絲地瓜  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第9回	中国料理2 (魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方)	(学修内容) 炒墨魚、冷拌  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第10回	中国料理3 (点心)	(学修内容) 粽子、水果西米露  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第11回	行事食1 (クリスマス料理)	(学修内容) ローストチキン、ポタージュ、サラダ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第12回	行事食2 (正月料理)	(学修内容) 正月吉例料理、雑煮  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第13回	・テーブルセッティングとマナー ・実技テスト	(学修内容) ・テーブルセッティングとマナーの基本 ・実技テストの内容については後日発表する  (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストをよく読んでおくこと。 実技テストの内容を発表したら、しっかり練習をしておくこと。
第14回	自由献立1 (計画)	(学修内容) 班ごとにメニューを考案  (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考にするレシピを集めておくこと。
第15回	自由献立2 (調理と評価)	(学修内容) 班ごとに調理、全体で評価  (事前事後学修課題の内容) (30分) 材料の準備、手順の確認をしておくこと。

授 業 名	<b>基礎栄養学</b>			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1401
英 文 名	Basic Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	<b>根岸 裕子</b>			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養の概念について解説できる。 2) 食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて説明できる。 3) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について解説できる。 4) 体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学、田地陽一 編、羊土社								
参 考 書	配布資料								
課題に対する フィードバック の方法	筆記試験およびレポート後に解答の解説を行います。								
留 意 事 項	テキストの予習と授業で配布した資料をしっかりと読むこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養の概念	(学修内容) 栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割  (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p14-26を読んでおく 章末の問題について解答、解説をノートにまとめておく
第2回	食物の摂取	(学修内容) 摂食行動について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p28-37を読んでおく 章末の問題について解答、解説をノートにまとめておく
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態(1) 消化器系	(学修内容) 消化器系の構造と機能 消化の概要  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p39-50を読んでおく 章末の問題Q1-3について解答、解説をノートにまとめておく
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態(2) 消化の調節	(学修内容) 管腔内消化と膜消化 栄養素別の消化・吸収  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p50-64を読んでおく 章末の問題Q4-8について解答、解説をノートにまとめておく
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態(3) 栄養素の体内動態	(学修内容) 門脈系とリンパ系  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p64-66を読んでおく 課題プリントについて解答、解説をノートにまとめておく
第6回	糖質の栄養(1) 分類	(学修内容) 糖質の分類 エネルギー源  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p68-72を読んでおく 章末の問題Q1-3、Q7-10について解答、解説をノートにまとめておく
第7回	糖質の栄養(2) 血糖	(学修内容) 血糖とその調節 食物繊維  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p73-84を読んでおく 章末の問題Q4-6、Q11-18について解答、解説をノートにまとめておく
第8回	脂質の栄養(1) 種類	(学修内容) 脂質の種類 脂質の臓器間輸送  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p87-97を読んでおく 章末の問題Q1-10について解答、解説をノートにまとめておく
第9回	脂質の栄養(2) 代謝	(学修内容) 脂質の体内代謝 脂肪酸由来生体活性物質  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p98-103を読んでおく 章末の問題Q11-12について解答、解説をノートにまとめておく
第10回	たんぱく質の栄養(1) 構造と機能	(学修内容) たんぱく質の構造・機能 合成と分解  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p107-112を読んでおく 章末の問題Q1-2について解答、解説をノートにまとめておく
第11回	たんぱく質の栄養(2) 代謝	(学修内容) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 摂取するたんぱく質の量と質の評価  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p112-123を読んでおく 章末の問題Q3-5について解答、解説をノートにまとめておく
第12回	ビタミンの栄養	(学修内容) ビタミンの種類と構造 ビタミンの栄養学的機能  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p125-140を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第13回	ミネラルの栄養	(学修内容) ミネラルの種類と機能  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p142-152を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第14回	水・電解質の意義	(学修内容) 水の出納と電解質代謝  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p154-166を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第15回	エネルギー代謝	(学修内容) エネルギー代謝の概念と測定法  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p169-180を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく

授 業 名	基礎栄養学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1402
英 文 名	Experiment of Basic Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学で学んだ栄養の意義について実験を通して深く理解していく。まず栄養素の消化・吸収に関する実験や生体内の栄養素の測定を通して、栄養素の体内動態とその生理的な意義について理解する。さらにエネルギー代謝測定を行い身体の活動とエネルギー代謝の関連性について深く理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 消化吸収の実際を解説できる。 2) 栄養素の代謝と生理的な意義について説明できる。 3) エネルギー代謝と身体活動の関連性について解説できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計画力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	生化学実験 田代 操 編著 化学同人、およびプリント								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	基礎栄養学と共に生化学の内容についても復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション(1) 実験の基礎	(学修内容) 1. 実験の心構え 2. 実験器具と機器操作の説明 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第2回	オリエンテーション(2) 基本操作	(学修内容) %濃度やモル濃度の溶液調製 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストを読んで濃度の単位を理解し、ノートに整理しておく
第3回	in vitro 酵素消化(1) 糖質	(学修内容) パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第4回	in vitro 酵素消化(2) 脂質とタンパク質	(学修内容) パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第5回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(1) 分離	(学修内容) ラット肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第6回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(2) 定量	(学修内容) グリコーゲンの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第7回	肝臓脂質の分離と定量(1) 分離	(学修内容) ラット肝臓からの脂質の抽出分離 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第8回	肝臓脂質の分離と定量(2) 定量	(学修内容) ラット肝臓からの中性脂肪とコレステロールの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第9回	尿中ビタミンの定量(1) 前処理	(学修内容) 尿中試料の調製 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第10回	尿中ビタミンの定量(2) 定量	(学修内容) 尿中総ビタミンCの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第11回	ミネラルの定性と定量(1) 定性	(学修内容) 尿中ミネラルの定性 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第12回	ミネラルの定性と定量(2) 定量	(学修内容) 尿中Clイオンの定量 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第13回	エネルギー代謝(1) 行動調査	(学修内容) 行動調査による消費エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容)(30分) エネルギー代謝について復習し、ノートにまとめておく
第14回	エネルギー代謝(2) 食事調査	(学修内容) 食事調査による摂取エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容)(20分) 食事摂取基準について復習し、ノートにまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) 行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 行った実験の内容を確認し、ノートに整理しておく

授 業 名	健康管理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2314
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。WHO憲章における健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。テーマに沿ったディスカッションを行い、理解を深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (分析力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	社会・環境と健康 健康管理概論 東あかね/関戸啓子/久保加織・編 講談社サイエンティフィック								
参 考 書	公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所編 メディックメディア社 プリント配布								
課題に対する フィードバック の方法	レポートに対する質問への回答と解説を行う。								
留 意 事 項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に実施								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：臨床医。産業医。京都府内、兵庫県内、滋賀県内の複数の市の健康づくり部会長。滋賀県後期高齢者医療広域連合健康づくり基盤事業アドバイザー。国際協力機構（JICA）「フィリピン共和国母子保健・家族計画プロジェクト」専門家。認定特定非営利活動法人AMDA のボランティア医師として国内外の災害被災地、難民キャンプなどにおける保健医療活動に従事</p>								

授 業 名	健康管理論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界の健康	(学修内容) 健康の概念の変遷 健康の概念についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、世界保健機構(WHO)憲章の成り立ちと健康を阻害する各種要因についてノートにまとめておく
第2回	日本の健康 1. 日本における健康の概念の変遷	(学修内容) 第一次国民健康づくり対策。第二次国民健康づくり運動。健康日本21 健康づくり政策についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、健康日本21についてノートにまとめておく
第3回	日本の健康 2. 日本における健康の現状	(学修内容) 寿命と死亡。日本の健康管理システムの変遷と現状 日本の医療と福祉施設 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本の健康管理システムについて調べておく
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	(学修内容) 健康管理にかかわる施設。メディカルスタッフとコメディカルスタッフ 介護・福祉関連スタッフ (事前事後学修課題の内容) (60分) 保健医療、介護・福祉施設について調べておく
第5回	胎児と妊婦の健康 1. 胎児と妊婦の健康管理システム	(学修内容) 母子保健法。妊婦健康診査。健やか親子21 (事前事後学修課題の内容) (60分) 健やか親子21について調べておく
第6回	胎児と妊婦の健康 2. 胎児と妊婦の健康の現状と課題	(学修内容) 胎児と妊婦の健康にかかわる指標 (事前事後学修課題の内容) (60分) 胎児と妊婦における食育について調べておく
第7回	乳児の健康 1. 乳児の健康管理システム	(学修内容) 乳児健康診査と予防接種 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児健康診査について調べておく
第8回	乳児の健康 2. 乳児の健康の現状と課題	(学修内容) 乳児の健康にかかわる指標 乳幼児突然死症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児における食育について調べておく
第9回	幼児の健康	(学修内容) 幼児の健康管理システム 幼児の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児における食育について調べておく
第10回	児童の健康	(学修内容) 児童の健康管理システム 児童の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童における食育について調べておく
第11回	生徒の健康	(学修内容) 生徒の健康管理システム 生徒の健康現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中学生、高校生における食育について調べておく
第12回	学生の健康	(学修内容) 学生の健康管理システム。学生の健康の現状と課題 学生の健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 学生における食育について調べておく
第13回	成人の健康 1. 成人の健康管理システム	(学修内容) 成人、就業者における健康管理システム (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、成人の健康管理システムについてノートにまとめておく
第14回	成人の健康 2. 成人期における健康の現状と課題	(学修内容) ストレス、薬物、運動、喫煙 成人期における健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 成人における食育について調べておく
第15回	高齢者の健康	(学修内容) 高齢者の健康管理システム 高齢者の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 高齢者における食育について調べておく



授 業 名	健康栄養概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2321
英 文 名	Health and Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	人間やその生活を生態系に位置づけて、理解を深めるとともに、人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解する。社会・環境が人間の健康に及ぼす影響や、健康を保持増進するためのライフステージ別の栄養のあり方を学び、地域の食生活を通して、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 人間やその生活を生態系に位置づけて説明できる。 2) 社会・環境が人間の健康に及ぼす影響について説明できる。 3) ライフステージ別の栄養のあり方を学び、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	東あかね・関戸啓子・久保加織編 『栄養科学シリーズNEXT 社会環境と健康 健康管理概論 第3版』講談社								
参 考 書	日本栄養士会編『管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集』第一出版 2019年版								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説をする。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名		健康栄養概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	私たちの求める健康の概念（個人と社会における健康）	（学修内容）授業の進め方の説明をする 健康の概念について理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておく 健康状態評価の調査の種類について、テキストp.2～11を読んでおく	
第2回	社会環境と人々の生活	（学修内容）社会環境と人々の生活の関連を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 社会環境と人々の生活の関連について、テキストp.13～24を読んでおく 、授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第3回	生態系の理解	（学修内容）地球温暖化態について理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 地球温暖化について調べておくこと 授業開始時にディスカッションを行うので準備すること	
第4回	人間の行動特性と基本的メカニズム	（学修内容）人間の行動特性と関連して、社会環境と健康問題について理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 社会環境と健康問題に関連する公害について調べておくこと	
第5回	社会環境等の変化と生活行動の変化	（学修内容）社会環境等に伴う生活行動の変化として、食料自給率などを理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 食料自給率について調べておくこと	
第6回	社会・環境と健康問題	（学修内容）健康管理を担う施設などを理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 健康管理を担う施設について、テキストp.37～45を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第7回	日本における健康づくり運動と健康日本21	（学修内容）健康増進法、健康日本21を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 健康づくり運動に関連するテキストp.24～34を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第8回	疾病予防の取り組み	（学修内容）疾病予防に対する公共の施策を理解する 第1回～7回の授業の理解度確認テストと解説 （事前事後学修課題の内容）（30分） 感染症について、公衆衛生学のテキストの関連ページを復習しておく 第1回～7回の授業の理解度確認テストのための復習をしておくこと	
第9回	「国民健康・栄養調査」の結果と食生活の課題	（学修内容）「国民健康・栄養調査」の結果を考察し、理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 「国民健康・栄養調査」について、厚生労働省のホームページから「国民栄養調査の結果」のサイトを読んでおく	
第10回	食育における課題 - 胎児期から乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（学修内容）胎児期、乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 胎児期から乳幼児期について、テキストp.48～63を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第11回	食育における課題 - 学童期から青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（学修内容）学童期、青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 学童期、青年期について、テキストp.93～111を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第12回	食育における課題 - 成人期・高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（学修内容）成人期、高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 成人期、高齢期について、テキストp.142～164を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する	
第13回	地域社会における食生活の課題（食環境の在り方と栄養）	（学修内容）地域社会における食生活の課題と地域活動のかかわり理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 今回の授業までに地域活動に関するレポートを提出する	
第14回	地域社会における健康づくりと管理栄養士の役割	（学修内容）地域社会における食生活の課題について、管理栄養士の役割を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 地域社会での管理栄養士の役割について調べておくこと	
第15回	健康と栄養のまとめ - 地域社会の健康増進と栄養・食生活の課題解決	（学修内容）授業のまとめ 授業を振り返り、健康・栄養・食生活に関するディスカッションを行う （事前事後学修課題の内容）（60分） これまでの授業の配布プリントを復習し、疑問点などの質問の準備をする	

授業名	解剖・生理学 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN2315
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	解剖・生理学 に続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学 では、生殖器系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。								
学修成果到達目標	1) 生殖器系、内分泌系、免疫系、運動器系、神経系、感覚器系および自律神経系の構造とその機能が理解できる。 2) 日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。 3) 身体恒常性を保つシステムの生理学について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (判断力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (統合力)		
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 羊土社								
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで理解度を確認し、解答の解説を行う。								
留意事項	解剖・生理学 で学んだことは復習しておく。 学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		解剖・生理学 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生殖器系 (男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生)	(学修内容)生殖器の構造と機能および生殖器の発生について (事前事後学修課題の内容)(60分) 生殖器の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp307-327	
第2回	生殖器系 (性周期、排卵の機序、受精・分娩)	(学修内容)性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について (事前事後学修課題の内容)(60分) 性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく「解剖生理学」pp327-335	
第3回	内分泌系 (ホルモン分泌の調節機能)	(学修内容)視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について調べておく「解剖生理学」pp336-345	
第4回	内分泌系 (ホルモンの種類とその働き)	(学修内容)ホルモン分泌器の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) ホルモン分泌器とそのホルモン作用について調べておく「解剖生理学」pp346-354	
第5回	免疫系 (免疫系の構造とその機能)	(学修内容)免疫系の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 免疫系の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第6回	免疫系 (生体防御機構とアレルギー)	(学修内容)生体防御機構とアレルギーについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 生体防御機構とアレルギーについて調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第7回	運動器系 I (全身の骨格の構造とその運動機能)	(学修内容)運動器系(全身の骨と骨格)の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 全身の骨格の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp73-116	
第8回	運動器系 II (全身の筋系の構造とその運動機能)	(学修内容)運動器系(全身の筋系)の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 全身の筋肉の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp117-147	
第9回	神経系 (神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能)	(学修内容)神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 神経系の電気生理学的特性や中枢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp355-395	
第10回	神経系 II (反射系および末梢神経系、自律神経系の構造と機能)	(学修内容)反射系および末梢神経系、自律神経の構造と機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 末梢神経の機能と、自律神経の全身の臓器への影響と機能について調べておく「解剖生理学」pp396-416	
第11回	皮膚 (皮膚の構造とその機能)	(学修内容)皮膚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 皮膚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp417-432	
第12回	感覚器系 (感覚器の構造とその機能、味覚、嗅覚について)	(学修内容)体性感覚:感覚器、味覚、嗅覚についてその構造と機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 体性感覚器の構造および内蔵感覚の特徴、味覚、嗅覚についてその機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第13回	感覚器系 (、視覚、聴覚、平衡覚について)	(学修内容)特殊感覚;視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第14回	体液の恒常化 (体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性)	(学修内容)体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性について (事前事後学修課題の内容)(60分) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について調べておく「解剖生理学」pp459-465	
第15回	体温調節 (体温の調節機能)	(学修内容)体温の調節機能について (事前事後学修課題の内容)(60分) 体温調節機能について調べておく「解剖生理学」pp466-468	

授業名	解剖・生理学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2322
英文名	Experiment of Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	堀江 登			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチ、ラットの解剖を通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。								
学修成果到達目標	1) 哺乳動物の基本構造や機能を理解できる。 2) 特に消化器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (51%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (49%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	プリントを配布								
参考書	解剖生理学 高野廣子著 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	実験結果に対する考察を重視する。提出したレポートを返却し講評する。								
留意事項	解剖生理学で学んだことを復習しながら進めていく。配布する資料をよく理解し、積極的、主体的に参加する。レポートの提出は、期限を厳守すること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		解剖・生理学実験 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など	(学修内容)オリエンテーション 「実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法など」 (事前事後学修課題の内容)(45分) 実験ノートの作成	
第2回	顕微鏡の取り扱い方 組織標本の観察 消化管(胃と小腸)の観察	(学修内容)「顕微鏡の取り扱い方」「四つ組織(上皮組織、支持組織、筋肉組織、神経組織)」「消化管の一般的構造」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第3回	組織標本の観察 消化管(胃と小腸)の観察	(学修内容)「胃と小腸の構造と機能」「外分泌腺の構造」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第4回	組織標本の観察 消化管の付属器官(肝臓と膵臓)の観察	(学修内容)「肝臓における基本的構造体(肝小葉)の構造と機能」「三つ組」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第5回	組織標本の観察 消化管の付属器官(肝臓と膵臓)の観察	(学修内容)「膵臓における外分泌と内分泌」「ランゲルハンス島の構造」「膵液の分泌機序」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第6回	一般感覚 皮膚感覚と深部感覚に関する実験	(学修内容)「感覚神経系の特徴」「感覚点の検出」「二点弁別閾」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第7回	一般感覚 皮膚感覚と深部感覚に関する実験	(学修内容)「重量感覚」「ウェーバーの法則」「原始的感觉と判別的感觉」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第8回	特殊感覚 味覚に関する実験	(学修内容)「味覚に於ける感覚点の検出と分布」「ウェーバーの法則」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第9回	特殊感覚 味覚に関する実験	(学修内容)「味覚における閾値の検出と分布」「対比効果」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第10回	血液に関する実験 貧血に関する実験	(学修内容)「ラットの解剖と各器官と器官系」「ヘマトクリット値」「赤血球数」「血色素量」「比重」「塗抹標本の観察」「赤血球膜の浸透圧抵抗」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第11回	血液に関する実験 貧血に関する実験	(学修内容)「貧血」「赤血球指数」「貧血のタイプの判定」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第12回	消化に関する実験 たんぱく質の消化に関する実験	(学修内容)「消化管(食道、胃、小腸、大腸)の肉眼的観察」「胃液と腸液の採集」「ペプシンとトリプシン」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第13回	消化に関する実験 たんぱく質の消化に関する実験	(学修内容)「消化管における食塊の移動と消化作用」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第14回	循環器系に関する実験 血圧に関する実験	(学修内容)「心音(第1音と第2音)の観察」「心臓における血液循環」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	
第15回	循環器系に関する実験 血圧に関する実験	(学修内容)「静水圧」「暑受容器反射」「化学受容器反射」「ホメオスタシス」「環境と血圧」「運動と血圧」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成	

授 業 名	栄養生化学実験 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN2316
英 文 名	Experiment of Nutrition Biochemistry			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	本科目では、生化学、栄養生化学において学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体成分の多様性を理解できる。 2) 栄養素の代謝と生体成分の関連性について解説できる。 3) 代謝にかかわる酵素の特性を説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT) 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士 編 講談社サイエンティフィック、およびプリント								
参 考 書	実験テーマごとに紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	「生化学」、「基礎栄養学」、「栄養生化学」の関連部分を読んで復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	栄養生化学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験項目の概略説明 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	実験の基本操作(1) 溶液の調製	(学修内容) 溶液の調製と濃度表示 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第3回	実験の基本操作(2) 溶液の希釈と吸光度	(学修内容) 希釈の実施と希釈液と吸光度との関係 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第4回	生体成分の定性(1) アミノ酸	(学修内容) アミノ酸の定性と同定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第5回	生体成分の定性(1) タンパク質	(学修内容) タンパク質の定性 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第6回	血清タンパク質の定量(1) 血清総タンパク質	(学修内容) ビuret法による血清総タンパク質の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第7回	血清タンパク質の定量(2) 血清アルブミン	(学修内容) BCG法による血清アルブミンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第8回	血清ミネラルの定量(1) 鉄	(学修内容) 血清鉄の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第9回	血清ミネラルの定量(2) カルシウム	(学修内容) 血清カルシウムの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第10回	尿中成分の定量(1) 尿素窒素	(学修内容) 尿中尿素窒素の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第11回	尿中成分の定量(1) 尿酸、クレアチニン	(学修内容) 尿酸、クレアチニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第12回	血清酵素(1) AST	(学修内容) アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第13回	血清酵素(2) ALT	(学修内容) アラニンアミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第14回	肝臓酵素(1) 酵素試料の調製	(学修内容) 肝臓ホモジネイトからの試料調製 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく
第15回	肝臓酵素(2) 酵素の活性測定	(学修内容) 肝臓グルコース 6 ホスファターゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分をノートにまとめておく



授 業 名	<b>病理病態学</b>			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2317
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	<b>武曾 恵理</b>			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	病理病態学Ⅰでは、主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、内分泌系疾患等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。さらに臨床検査結果などによる病態の評価や診断について学び治療の基本的な考え方について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化および治療の原理が理解できる。 2) 疾病を患っている人の生活の問題点にたいして理解できる。 3) 栄養学を理解し、疾病の予防やその病因と回復の促進などの基礎的な知識が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾恵理他著 第11刷版 化学同人社								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	テキスト各章にある設問に取り組み、解答状況を把握し、解答の解説をおこなう。								
留 意 事 項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回講義時に知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名	病理病態学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	疾患による細胞、組織の変化 (炎症と創傷治癒、変性萎縮などの理解)	(学修内容) 疾患による細胞、組織の変化 (炎症と創傷治癒、変性萎縮などと、疾病との関係を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第1章を読んでおくこと。
第2回	疾患の診断 (問診・診察、主な症候)	(学修内容) 疾患診断の概要 (問診・診察、主な症候で実地での状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第2章を読んでおくこと。
第3回	臨床検査I (種類と特性、基準値と検体の理解)	(学修内容) 臨床検査I (種類と特性、基準値と検体の臨床現場で状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章(4.1-4.4)を読んでおくこと。
第4回	臨床検査II (一般検査、尿血液検査、画像検査の実際)	(学修内容) 臨床検査II (一般検査、尿血液検査、画像検査の実際について理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章(4.5-4.10)を読んでおくこと。
第5回	疾患の治療I (種類と特徴、治療の方法の理解)	(学修内容) 疾患の治療I (種類と特徴、治療の方法を末期、急性期についても理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第3章(3.1-3.6)を読んでおくこと。
第6回	疾患の治療II (薬物代謝に及ぼす食品の影響)	(学修内容) 疾患の治療II 薬物代謝に及ぼす食品の影響について実地の状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第3章(3.7)を読んでおくこと。
第7回	糖代謝とその異常I (血糖調節、糖尿病の理解)	(学修内容) 糖代謝とその異常I (血糖調節、糖尿病の病態、診断を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第5章(5.1-5.2)を読んでおくこと。
第8回	糖代謝とその異常II (糖尿病続き、糖尿病、低血糖)	(学修内容) 糖代謝とその異常II (糖尿病、低血糖について理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第5章(5.2-5.4)を読んでおくこと。
第9回	脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常)	(学修内容) 脂質代謝とその異常I (脂質の種類、脂質代謝異常を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第6章(6.1, 6.2)を読んでおくこと。
第10回	脂質代謝とその異常II (高脂血症(脂質異常症)の治療)	(学修内容) 脂質代謝とその異常II (高脂血症、メタボリックシンドロームへの対応の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第6章(6.3)を読んでおくこと。
第11回	蛋白質、核酸の代謝とその異常 (蛋白質の代謝、核酸代謝異常の理解)	(学修内容) 蛋白質、核酸の代謝とその異常 (蛋白質の代謝、核酸代謝異常の診断と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第7章を読んでおくこと。
第12回	栄養障害 (肥満とやせ、各栄養素異常症の理解)	(学修内容) 栄養障害 (肥満とやせ、各栄養素異常の臨床所見と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第8章を読んでおくこと。
第13回	摂食障害 (発症と進行の機序、症状、食事指導の理解)	(学修内容) 摂食障害 (発症と進行の機序、症状、食事指導の実際を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第9章を読んでおくこと。
第14回	消化管の疾患 (嚥下を含む口腔から肛門までの病態と治療)	(学修内容) 消化管の疾患 (口腔から肛門までの嚥下を含む消化管の疾患の病態の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第10章(10.1-10.11)を読んでおくこと。
第15回	肝臓、胆道系、膵臓疾患 (肝、胆、膵臓の病態と治療)	(学修内容) 肝臓、胆道系、膵臓疾患 (肝、胆、膵臓の病態、診断と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第10章(10.12-10.21)を読んでおくこと。

授 業 名	病理病態学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2323
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	病理病態学 に引き続き、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖系などの主要疾患の成因、病態、診断、治療を理解する。また、がんの発症のメカニズムや人体と微生物や毒性物質との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構についても理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 疾患の発症や進行を理解できる。 2) 疾患の症状や治療法を理解できる。 3) 疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾恵理他著 第11刷 化学同人社								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	テキスト各章にある設問に取り組み、解答状況を把握し、解答の解説をおこなう。								
留 意 事 項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学」を理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回講義時に知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	循環障害と循環器疾患I (循環障害の理解)	(学修内容)循環障害と循環器疾患 (虚血、うっ血、血栓症、塞栓症、梗塞の病態と虚血性心疾患を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第11章(11.1)を読んでおくこと。	
第2回	循環障害と循環器疾患II (循環器疾患)	(学修内容)循環障害と循環器疾患II (高血圧と不整脈、心不全の病態と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第11章(11.2)を読んでおくこと。	
第3回	循環障害と循環器疾患III (脳血管障害と老化)	(学修内容)循環障害と循環器疾患III (脳血管障害、認知症の診断、治療対応を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第12章(12.1-4)を読んでおくこと。	
第4回	神経疾患 (神経の構造と神経疾患を学ぶ)	(学修内容)神経と神経疾患について (神経の構造と神経疾患の特徴、老化との関係をまなぶ) (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前にテキスト第12章(12.5-8)を読んでおくこと。	
第5回	腎・尿路疾患I (腎・尿路系の構造と働き、糸球体疾患)	(学修内容)腎・尿路疾患I (腎・尿路系の構造と働きを理解し、糸球体疾患の理解を進める) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第13章(13.1)を読んでおくこと。	
第6回	腎・尿路疾患II (腎・尿路系の構造と働き、尿管、尿路系の疾患)	(学修内容)腎・尿路疾患II (腎・尿路系の構造と働きを理解し、尿管、尿路系の疾患の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第13章(13.2)を読んでおくこと。	
第7回	腎・尿路疾患III (腎不全、慢性腎臓病)	(学修内容)腎・尿路疾患III (慢性腎臓病、腎不全の対応を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第13章(13.3, 13.4)を読んでおくこと。	
第8回	内分泌疾患 (内分泌器官とホルモンの役割と調節機構)	(学修内容)内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などの病態と治療を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第14章を読んでおくこと。	
第9回	骨代謝と筋・骨格疾患 (骨代謝異常の病態の理解)	(学修内容)骨代謝と筋・骨格疾患 (骨と軟骨、カルシウム代謝と骨粗鬆症などの理解と対応) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第15章を読んでおくこと。	
第10回	呼吸器疾患I (喘息、COPD,間質性肺炎、肺がんの理解)	(学修内容)呼吸器疾患I (喘息、COPD,間質性肺炎、肺がんについて病態を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第16章(16.5-16.8)を読んでおくこと。	
第11回	呼吸器疾患II 感染症 (感染症一般と呼吸器ウイルス細菌感染症の理解)	(学修内容)呼吸器疾患II 感染症 (感染症一般の理解と、呼吸器のウイルス、細菌感染症を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第16章(16.1-16.4)を読んでおくこと。	
第12回	血液疾患 (血液成分と血液疾患、凝固系の理解)	(学修内容)血液疾患 (血液成分と血液疾患、凝固系の異常と治療を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第17章を読んでおくこと。	
第13回	免疫・アレルギー疾患I (免疫現象の概要、アレルギー疾患)	(学修内容)免疫・アレルギー疾患I (免疫現象の概要、アレルギー疾患の食物との関係も含めて学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第18章(18.1, 18.2)を読んでおくこと。	
第14回	免疫・アレルギー疾患II (自己免疫疾患、膠原病、免疫不全症候群)	(学修内容)免疫・アレルギー疾患II (自己免疫疾患、膠原病、免疫不全の診断と治療を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第18章(18.3, 18.4)を読んでおくこと。	
第15回	小児の疾患 (小児の成長、発達、栄養の特徴と、栄養の病態と疾患)	(学修内容)小児の疾患 (小児の成長と発達、栄養の特徴を学び、先天性代謝疾患を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第19章(19.1-19.4)を読んでおくこと。	

授業名	微生物学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2318
英文名	Microbiology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求めます。								
学修成果到達目標	1) 微生物と人間とのかかわりについて理解できる。 2) 食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3) 有用微生物の特性と利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (微生物利用に関する理解)	プレゼンテーション能力 (%)		課題発見・解決能力 (微生物制御に関する理解)		
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 微生物学 小林秀光、白石淳 編集 化学同人								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、それに対してコメントします。								
留意事項									
オフィスアワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	微生物学イントロダクション	(学修内容) 微生物学とは、微生物学の歴史 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第2回	微生物の基礎(分類など)	(学修内容) 微生物の基礎、種類、一般性状、分類について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第3回	微生物の基礎(代謝など)	(学修内容) 微生物の基礎、代謝について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第4回	食品と微生物(食中毒微生物)	(学修内容) 食品中の微生物相と食中毒微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第5回	食品と微生物(腐敗と保存)	(学修内容) 食品の腐敗と保存 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第6回	微生物を利用した食品(細菌の例)	(学修内容) 微生物を利用した食品、細菌の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第7回	微生物を利用した食品(酵母・カビの例)	(学修内容) 微生物を利用した食品、酵母、カビの例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第8回	病原微生物(感染機構)	(学修内容) 病原微生物の感染機構 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第9回	病原微生物(腸内細菌)	(学修内容) 病原微生物、細菌(腸内細菌)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第10回	病原微生物(消化器系感染)	(学修内容) 病原微生物、細菌(消化器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第11回	病原微生物(呼吸器系感染)	(学修内容) 病原微生物、細菌(呼吸器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第12回	病原微生物(真菌症)	(学修内容) 病原微生物、真菌(真菌症)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第13回	病原微生物(ウイルス・原虫)	(学修内容) 病原微生物、ウイルス、原虫の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第14回	免疫	(学修内容) 免疫の仕組みと微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第15回	応用微生物学	(学修内容) 微生物のバイオテクノロジー 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	

授業名	微生物学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	FN2319
英文名	Experiment of microbiology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。実験は、グループワークを基本として取り組む。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求める。								
学修成果到達目標	1) 微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2) 食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3) 有用微生物の形態、利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (微生物活用技術の習得)	プレゼンテーション能力 (微生物制御技術の習得)	課題発見・解決能力 (微生物制御技術の習得)				
テキスト	適時資料を配付する。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、適時コメントを行う。								
留意事項	微生物学を復習しておくこと。								
オフィスアワー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		微生物学実験 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第2回	微生物の培養と形態観察(培養)	(学修内容)培地調製、微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第3回	微生物の培養と形態観察(細菌)	(学修内容)細菌の培養、細菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第4回	微生物の培養と形態観察(酵母)	(学修内容)酵母の培養、酵母の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第5回	微生物の培養と形態観察(糸状菌)	(学修内容)糸状菌の培養、糸状菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第6回	微生物の採集とコロニーの分離(培養)	(学修内容)環境からの微生物の培養と単離 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第7回	微生物の採集とコロニーの分離(観察)	(学修内容)空中落下菌、表面付着菌の測定、微生物の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第8回	大腸菌の増殖観察(培養)	(学修内容)培地調製、大腸菌の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第9回	大腸菌の増殖観察(測定)	(学修内容)大腸菌の生育の定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第10回	抗生物質による細菌の生育阻害(培養)	(学修内容)培地調製、細菌の抗生物質処理 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第11回	抗生物質による細菌の生育阻害(測定)	(学修内容)生育阻害の観察、定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第12回	食品からの発酵微生物の分離(培養)	(学修内容)培地調製、食品微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第13回	食品からの発酵微生物の分離(観察)	(学修内容)食品微生物の単離と形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第14回	乳酸発酵と乳酸の測定(培養)	(学修内容)乳酸菌を用いた乳酸発酵 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第15回	乳酸発酵と乳酸の測定(測定)	(学修内容)乳酸発酵物中の乳酸測定 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	



授 業 名	食品学実験 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN2320
英 文 名	Experiment of food science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高村 仁知			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	食品学実験 を踏まえ、実習を通して、主要な食品の特性を成分分析から捉えるとともに、食品成分間の化学変化や脂質の酸化について学ぶ。さらに、食品加工や調理が栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高めることを理解して、加工原理・方法を修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品ごとに含有成分の特性をつかみ、定性分析の方法を修得している。 2) 食品成分の単離、精製、定量法を修得している。 3) 食品の特性について理解し、加工方法を修得している。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (観察力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント								
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省)								
課題に対する フィードバック の方法	必要に応じ、コメントを付けてレポート返却								
留 意 事 項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	食品学実験 a・b		
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 食品成分の分析と加工実験に関するオリエンテーションを行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第2回	食品加工実験 微生物を用いた食品加工(味噌作り)	(学修内容) 微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第3回	食品加工実験 微生物を用いた食品加工(味噌作り)	(学修内容) 微生物を用いた食品加工として、味噌作りを行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第4回	食品加工実験 水産物を用いた食品加工 構造	(学修内容) 魚肉の筋肉の構造の種類による違いを調べる  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第5回	食品加工実験 水産物を用いた食品加工 加工特性	(学修内容) 練り製品の加工原理と特徴について調べる  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第6回	非酵素的褐変 非酵素的褐変の原理	(学修内容) 非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べ、非酵素的褐変の原理を知る  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第7回	非酵素的褐変 糖の構造による差異	(学修内容) 非酵素的褐変として、アミノカルボニル反応による褐変を調べ、糖の構造による差異の理由を明らかにする  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第8回	酵素的褐変 ポリフェノールオキシダーゼ	(学修内容) 酵素的褐変として、リンゴのポリフェノールオキシダーゼによる褐変を調べる  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第9回	酵素的褐変 ベルオキシダーゼ	(学修内容) 酵素的褐変として、ダイコンのベルオキシダーゼによる褐変を調べる  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第10回	油脂の変敗試験 酸価	(学修内容) 油脂の変敗試験として食用油の酸価を測定する  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第11回	油脂の変敗試験 過酸化物価	(学修内容) 油脂の変敗試験として食用油の過酸化物価を測定する  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第12回	デンプンの分離と確認 ジャガイモデンプンの分離	(学修内容) ジャガイモからデンプンを分離する  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第13回	デンプンの分離と確認 デンプンの顕微鏡観察	(学修内容) 各種デンプンについて顕微鏡観察を行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第14回	官能評価法	(学修内容) 味噌を用いた識別実験および嗜好テストを行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	
第15回	食品成分の分析と加工実験のまとめ	(学修内容) 食品成分の分析と加工実験のまとめを行う  (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成	

授 業 名	食品衛生学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2324
英 文 名	Food Hygiene			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>食物を介してもたらされる健康被害を予防することは、食にかかわる者にとって重要な責務である。この授業では食品に関するさまざまな危険因子とその予防法さらに食品の安全性確保のための社会の仕組みについて学んでいく</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。  2) 食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。  3) 食品衛生管理のためのHACCPシステムを理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )			
テ キ ス ト	田崎達明 編著 『栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第2版』 羊土社 2019								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	小テストを毎回実施し時間内に自己採点し理解度の確認を行う。 調べてきたことなどについては、ノート提出などにより確認を行いコメントをつけて返却する								
留 意 事 項	常に身近な発生例などを情報収集しておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	食品衛生学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生と法規	(学修内容) 食品衛生に関する「食品安全基本法」、「食品衛生法」など関連法規と食品衛生行政の仕組みについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 「食品の安全性の確保とリスク分析」について予習しておく
第2回	食品衛生と国際化	(学修内容) 世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などの国際機関の果たす役割について (事前事後学修課題の内容)(30分) 世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などについてに関して調べておく
第3回	食品衛生と微生物	(学修内容) 微生物の形態、構造、特性について学び食品衛生のあり方について考えていく (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p54 59を読んでおく
第4回	食品の変質とその防止	(学修内容) 微生物、油脂の酸化、加工による食品の変質とその防止策について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p38 52を読んでおく
第5回	食中毒と発生状況	(学修内容) 食中毒と発生状況を季節、病因物質別、施設別、年代別に分析し、食中毒を起こさない予防策について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本における食中毒の発生状況について教科書の図表をみて特徴をまとめておく
第6回	病因物質別食中毒	(学修内容) 細菌、ウイルスなど病因物質別の食中毒発生状況について (事前事後学修課題の内容)(30分) 微生物別に特徴をまとめる
第7回	自然毒、化学性食中毒	(学修内容) 動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について、それぞれの特徴と危険度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 微生物以外の食中毒にはどのような例があるか近年の例を調べておく
第8回	食品による感染症と寄生虫症	(学修内容) 食品による経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について (事前事後学修課題の内容)(30分) 経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について、近年の例を探しまとめ予防策について考える
第9回	食品中有毒物質	(学修内容) 食品中の有害物質であるカビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物などとそれらの環境への影響について (事前事後学修課題の内容)(30分) 地球環境および食品に脅威を与えている物質について調べておく
第10回	食品添加物 1 使用の歴史と安全性の評価	(学修内容) 食品添加物の歴史、働きとデメリット、分類と表示、用途および安全性の評価法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な食品にどのような添加物が入っているか調べておく
第11回	食品添加物 2 種類と使用食品	(学修内容) 食品添加物の分類と表示、用途について (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品添加物の使用の実態について、マーケットバスケット法を用いて試算してみる
第12回	食品衛生管理と対策	(学修内容) HACCP概念と衛生管理方法について (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPについて調べておく
第13回	食品用の器具、容器包装材の安全性	(学修内容) 食品用の器具、容器包装材の安全性を素材ごとに学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p146 150を読んでおく
第14回	新規食品とその安全性	(学修内容) 食品の新しい安全性問題である「遺伝子組換え食品」、「ゲノム編集食品」、「放射線照射食品」、「アレルギー物質を含む食品」について (事前事後学修課題の内容)(30分) 身の回りの食品において「遺伝子組換え食品」、「ゲノム編集食品」、「放射線照射食品」がないか調べておく
第15回	食品表示制度	(学修内容) 食品表示法の役割と不適切表示に関わる措置などについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の安全に対する表示の重要性について具体例を基にまとめておく

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2403
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、健康の維持増進や疾病の予防、治療・重症化予防を目指して、様々な対象者の栄養状態に応じた栄養管理のための基礎的な事項について学び、「日本人の食事摂取基準」についてその策定の理論を理解し、栄養管理において管理栄養士として正しく活用するための基本的な事項について学んでいく。応用栄養学 、 、 を通して各ライフステージ別やスポーツ時、特殊環境下の栄養管理の考え方について詳しく学んでいくが、 ではその基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化およびその特徴について理解する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養管理の考え方を正しく理解できる。 2) 食事摂取基準について正しく理解できる。 3) 成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>「カレント応用栄養学」 辻 悦子編 建帛社 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」 第一出版</p>								
参 考 書	<p>「応用栄養学」 柏下 淳、上西一弘 羊土社 「食事摂取基準 そのところを読む」 佐々木 敏 同文書院</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。</p>								
留 意 事 項	<p>専門用語の理解に努めること。 まとめたノートは提出することとします。 また、単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間を研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授業名	応用栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ	(学修内容)オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを見て、教科書(第1章)を予習する。
第2回	栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の概念と意義	(学修内容)栄養ケア・マネジメントとは。 PDCAサイクルについて。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第3回	栄養管理の進め方	(学修内容)栄養学的リスクの有無の判断と栄養スクリーニングについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第4回	栄養評価・栄養診断について	(学修内容)栄養評価の方法と栄養アセスメントの種類、方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第5回	栄養管理計画の作成および実施について	(学修内容)目標設定と栄養管理計画の作成、実施方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第6回	栄養モニタリングと評価、修正、	(学修内容)栄養モニタリングと評価・検証、修正、フィードバックおよびアウトカム評価とその管理について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第7回	日本人の食事摂取基準の策定方針	(学修内容)食事摂取基準の策定の方向性、対象、対象とするエネルギー及び栄養素、指標の目的と種類 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第8回	食事摂取基準の策定の基本的事項	(学修内容)指標の概念と特徴、科学的根拠と留意事項 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第9回	推定エネルギー必要量の策定	(学修内容)推定エネルギー必要量の策定方法 エネルギー代謝と身体活動レベル (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第10回	栄養素の策定について	(学修内容)栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス、ビタミン、ミネラル)の策定方法 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第11回	食事摂取基準の活用に関する基本的事項 食事改善を目的とした食事摂取基準の活用	(学修内容)活用の基本的考え方と留意点、食事摂取状況に関する調査方法、個人の食事改善と集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第12回	成長・発達・加齢と身体的変化	(学修内容)成長・発達・加齢に伴う身体的変化 発育の5原則、スクワモンの発育曲線 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第13回	成長・発達・加齢と身体的変化	(学修内容)成長・発達・加齢に伴う身体的変化 体組成、消化・吸収、代謝 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第14回	成長・発達・加齢に伴う身体的、精神的変化と栄養	(学修内容)社会性の発達と栄養状態の変化 摂食機能の発達 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第15回	加齢に伴う身体的変化と栄養状態 全体のまとめ	(学修内容)加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化、評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2407
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 で学んだ栄養管理のあり方、および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学 では、妊娠期・授乳期および新生児期から成人期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方、およびその栄養管理について理解を深める。同時に関連する疾病や健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ライフステージ各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。  2) ライフステージ各期の栄養管理について理解できる。  3) リスク管理の基本的な考え方について理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	<p>「カレント応用栄養学」 辻 悦子編 建帛社 （応用栄養学 で使用のテキスト）  「日本人の食事摂取基準（2020年版）」第一出版</p>								
参 考 書	<p>「応用栄養学」 柏下 淳、上西一弘 羊土社  「食事摂取基準 そのところを読む」 佐々木 敏 同文書院</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。</p>								
留 意 事 項	<p>応用栄養学 を復習し、専門用語の理解を深める。  ノートをとめておく。  単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。  急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名	応用栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	妊娠期の胎児の成長と母体の変化	(学修内容) 妊娠期の胎児の成長と母体の変化、栄養ケア  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト(4章)を読んでおく。
第2回	妊娠期の栄養	(学修内容) 妊娠期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第3回	授乳期の栄養	(学修内容) 授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第4回	乳児の成長・発達と健康	(学修内容) 乳児期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第5回	乳児期の栄養	(学修内容) 乳児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第6回	幼児の成長・発達と栄養	(学修内容) 幼児期 幼児期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第7回	幼児の栄養アセスメント、ケア	(学修内容) 幼児期 幼児期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第8回	学童期の成長・発達と栄養	(学修内容) 学童期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第9回	学童期の栄養アセスメントとケア	(学修内容) 学童期 栄養状態の評価と判定および栄養必要量について  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第10回	学童・思春期の学校給食の役割	(学修内容) 学童・思春期の学校給食の役割と栄養管理  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第11回	思春期の身体の成長・発達と栄養	(学修内容) 思春期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第12回	成人期の身体の変化と栄養	(学修内容) 成人期 身体状況の変化および栄養状態の変化  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第13回	更年期の身体の変化と栄養	(学修内容) 成人期 更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第14回	成人期の生活習慣病のリスクと管理について	(学修内容) 成人期 生活習慣病のリスクと管理について  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。
第15回	成人期の栄養と判定、栄養必要量、栄養管理について 全体のまとめ	(学修内容) 成人期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。



授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2404
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 では、栄養教育・指導の概念・定義、目的について学ぶ。また、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養うとともに、食行動の変容の指導に必要な行動科学やカウンセリングについての理論と技法を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育の概念・目的・必要性を説明できる。 2) 栄養教育に必要な情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定することができる。 3) 食行動の変容の指導に必要な行動科学やカウンセリングについての理論と技法を説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2020年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名		栄養教育論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする 「栄養教育の概念」「ヘルスプロモーション」について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	栄養教育の概念、目的	(学修内容) 栄養教育の目的、意義を理解する(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.1~3を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する
第3回	栄養教育の対象と機会	(学修内容) 栄養教育の対象と機会、特にライフステージからみた対象と機会について理解する(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.3~8を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する
第4回	行動科学理論と栄養教育	(学修内容) 栄養教育論における行動科学理論の概要について理解する(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.9~11を読んでおく 授業開始時にディスカッションを行うので準備する
第5回	行動科学の理論とモデル - 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデルなど	(学修内容) 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデル、合理的行動理論、計画的行動理論について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.11~16を読んでおく
第6回	行動科学の理論とモデル - (社会的認知理論、ブリーフ・プロシードモデルなど	(学修内容) トランスセオレティカルモデル、社会的認知理論、ソーシャルネットワーク、ブリーフ・プロシードモデルなどについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36を読んでおく
第7回	行動変容技法と概念 - 刺激統制、オペラント強化など	(学修内容) 刺激統制、反応妨害・習慣拮抗、行動置換、オペラント強化などについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36の刺激統制、オペラント強化の部分を読んでおく
第8回	行動変容技法と概念 - 認知再構成など	(学修内容) 行動変容技法の認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約などについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36の認知再構成の部分を読んでおく
第9回	行動変容技法と概念 - セルフモニタリング、自己効力感など	(学修内容) 行動変容技法のセルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキル・トレーニングなどについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.17~36のセルフモニタリング、自己効力感の部分を読んでおく
第10回	健康・栄養に関する情報の収集・分析	(学修内容) 食環境づくりとの関連について理解する 行動科学の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.36~43を読んでおく 行動科学を復習しておく
第11回	栄養カウンセリングの意義	(学修内容) 栄養教育におけるカウンセリングについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.43~44を読んでおく
第12回	栄養カウンセリングの基本技法	(学修内容) 栄養カウンセリングの基本技法を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.44~47を読んでおく
第13回	栄養カウンセリングのための食行動変容にかかわる援助技法と理論	(学修内容) 食行動変容にかかわる援助技法の実際を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.47~51を読んでおく
第14回	栄養カウンセリングの技法と手順	(学修内容) 栄養カウンセリングの技法と手順を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.51~55を読んでおく
第15回	グループカウンセリングの意義と技法	(学修内容) 栄養教育におけるグループカウンセリングを理解する 栄養教育論 の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) 栄養教育論 の全体の内容を復習し、疑問点などの質問点を準備する

授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2408
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 で学んだ行動変容技法やカウンセリングの方法等の事項を踏まえて、栄養教育マネジメントのP D C Aサイクルやアセスメントなどの、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得し、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育のマネジメントサイクルを説明できる。  2) 栄養教育のアセスメントの種類と方法を説明できる。  3) 栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2020年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	栄養教育論 を充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授業名	栄養教育論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする 栄養教育論 の復習をし、理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	栄養教育マネジメント - 栄養教育マネジメントの概要、P D C A サイクル	(学修内容) 栄養教育マネジメントの概要を理解する (栄養教育マネジメントの概要、P D C A サイクル) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.57~62を読んでおく
第3回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの種類	(学修内容) 栄養教育のためのアセスメントの種類について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.62~67を読んでおく
第4回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの方法	(学修内容) 栄養診断のステップについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.67~69を読んでおく
第5回	栄養教育マネジメント - 目標設定	(学修内容) 栄養教育の目標設定について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.70~72を読んでおく
第6回	栄養教育マネジメント - 評価の意義と目的	(学修内容) 栄養教育の評価の意義と目的について理解する 栄養教育マネジメント (前半) の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.72~78を読んでおく
第7回	栄養教育マネジメント - プログラム作成: 学習者の決定、学習指導案の作成	(学修内容) 栄養教育のプログラムの作成 (学習者の決定と学習指導案の作成) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.78~79を読んでおく
第8回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 時間・場所の設定、実施者の決定	(学修内容) 栄養教育のプログラムの作成 (時間・場所の設定、実施者の決定) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.79~80を読んでおく
第9回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 教材の選択と作成	(学修内容) プログラムの作成 (教材の選択と作成) について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.80~85を読んでおく
第10回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 学習形態の選択	(学修内容) 栄養教育における学習形態の種類と選択について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.85~90を読んでおく
第11回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: コミュニケーション技術	(学修内容) 栄養教育におけるコミュニケーション技術について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.43~51のカウンセリングについて復習しておく
第12回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: プレゼンテーション技術	(学修内容) 栄養教育におけるプレゼンテーション技術について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.87~90のプレゼンテーション技術の部分について復習しておく
第13回	栄養教育マネジメント - 参加者個人の評価、集団の評価	(学修内容) 栄養教育における参加者個人の評価および集団の評価について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.72~78の評価の部分復習しておく
第14回	社会生活と栄養教育	(学修内容) 社会生活と栄養教育の関連を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会生活と栄養教育の関連について調べておく、授業開始時にディスカッションを行う
第15回	組織づくり・地域づくり・食環境づくり	(学修内容) 社会生活 (組織づくり・地域づくり・食環境づくり) と栄養教育の関連を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養教育論 の内容を復習しておく これまでの授業の復習をし、疑問点などの質問の準備をしておく

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN2409
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>本授業では、健常者や傷病者の集団を対象とし、教材・媒体を用いた模擬教育を体験することで、様々な場において、栄養問題のアセスメントからプログラムの作成・栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、集団を対象とした栄養教育に必要な技術を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 健常者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。  2) 病態者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。  3) 栄養教育のプレゼンテーション技術を修得する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	各グループの模擬栄養教育実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の業務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務</p>								

授 業 名		栄養教育論実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実習の概要と進め方の確認をする (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	栄養教育のための食事計画	(学修内容) 栄養価計算ソフトの使い方を修得する (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養価計算の復習をしておく
第3回	栄養アセスメント	(学修内容) ライフステージ別に学習者の栄養状態・健康状態の特徴を把握する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.78～80を読んでおく
第4回	栄養教育の基本技術	(学修内容) 栄養教育計画立案について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.80～85を読んでおく
第5回	健康者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) グループごとにライフステージ別の対象集団のプログラムを決める (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養教育の対象集団の状況を考える
第6回	健康者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	(学修内容) グループごとに対象者別の媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備する
第7回	健康者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	(学修内容) 媒体完成と模擬栄養教育の準備をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の媒体の準備をする
第8回	健康者を対象とした集団教育：模擬集団教育リハーサル	(学修内容) 模擬栄養教育のリハーサルと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の準備をする
第9回	健康者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	(学修内容) 模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備を行う 実施した栄養教育の振り返りの表を完成させ提出する
第10回	傷病者を対象とした集団教育：対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) グループごとに傷病者別の対象集団とプログラムを決める (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の対象集団の状況を考える
第11回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体作成	(学修内容) グループごとに対象者別の媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備しておく
第12回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の媒体完成	(学修内容) 媒体完成と模擬栄養教育の準備をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の媒体を準備をする
第13回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育リハーサル	(学修内容) 模擬栄養教育のリハーサルと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養教育の準備をする
第14回	傷病者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と振り返り	(学修内容) 模擬栄養教育実施と各グループの教育内容に対する評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備を行う 実施した栄養教育の振り返りの表を完成させ提出する
第15回	自分のグループの評価のまとめと改善点の検討	(学修内容) クラス全体で模擬栄養教育のグループごとの評価をまとめて改善点をディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) グループごとに模擬栄養教育全体を振り返っておく

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2405
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>傷病者を総合的に評価・判定するために必要な栄養スクリーニング・アセスメントについて学ぶ。  傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。  2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。  3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。  4) ライフステージ別の疾患について説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学、第一出版</li> <li>・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂)</li> </ul>								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社)</li> <li>・その他適宜、参考文献などを紹介する。</li> </ul>								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。</p>								

授業名	臨床栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、臨床栄養の概念について	(学修内容) 授業の進め方。臨床栄養の意義と目的、及び傷病者や要介護者への栄養ケア・マネジメントの理解。医療・福祉の制度と栄養管理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	傷病者・要介護者の栄養アセスメントの意義と目的、栄養ケア計画と実施について	(学修内容) 栄養アセスメントの意義と目的(栄養スクリーニング～栄養必要量の算定)、栄養ケアの計画と実施について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	傷病者・要介護者への栄養・食事療法と栄養補給方法について	(学修内容) 栄養・食事療法・栄養補給法(経口栄養補給法・経腸栄養補給法・静脈栄養補給法)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	傷病者・要介護者への栄養教育とモニタリング・再評価について	(学修内容) 傷病者・要介護者への栄養教育。臨床経過のモニタリングと再評価について学ぶ。(身体計測などの評価方法) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	薬と栄養・食事の相互作用及び栄養ケアでの記録について	(学修内容) 栄養・食事が医薬品に及ぼす影響と栄養ケアの記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	栄養障害(P.E.M)、ビタミン、ミネラル障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 栄養障害、ビタミン、ミネラル欠乏・過剰症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	肥満と代謝性疾患(肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) メタボリックシンドロームの治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。(メタボについて話し合う) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	肥満と代謝性疾患(糖尿病とその合併症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 糖尿病とその合併症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	肥満と代謝性疾患 糖尿病の食事療法における献立作成と工夫について	(学修内容) 糖尿病の食事療法における「糖尿病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫について学ぶ。普段の食事を食品交換表により作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。糖尿病食品交換表の使い方を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	肥満と代謝性疾患(高尿酸血症・痛風など)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 高尿酸血症・痛風などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	消化器疾患(口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症)などの栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(口内炎～たんぱく漏出性胃腸症)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	消化器疾患(炎症性腸疾患:クローン病、潰瘍性大腸炎)過敏性腸症候群、便秘の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(炎症性腸疾患～便秘)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	消化器疾患(肝炎・肝硬変、脂肪肝・NAFLD、NASH)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(肝炎～NASH)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	消化器疾患(胆石症・胆嚢炎、膵炎など)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(胆石症～膵炎)などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	循環器疾患(高血圧症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳出血・脳梗塞など)の栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	(学修内容) 循環器疾患を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。



授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2410
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	臨床栄養学 に引き続き、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。さらにライフステージ別の疾病・病態と栄養との関係についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。 4) ライフステージ別の疾患について説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	・サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学 第一出版 ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂)								
参 考 書	・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社) ・その他適宜、参考文献などを紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。 ・臨床栄養学 をよく復讐して、理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。								

授 業 名		臨床栄養学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	腎・尿路・泌尿器疾患 における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 急性糸球体腎炎～血液透析、尿路結石症を理解し治療方針に沿い栄養ケアの目的を達成し栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	腎・尿路・泌尿器疾患 腎臓病の食事療法における献立作成と工夫について	(学修内容) 腎臓病の食事療法における「腎臓病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫について学ぶ。普段の食事を腎臓病食品交換表により作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。腎臓病の食品交換表の使い方を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	内分泌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	神経疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 認知症、パーキンソン病などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	摂食障害における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 摂食障害(神経性食欲不振症・神経性大食症)を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	呼吸器疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 呼吸器疾患、気管支喘息や肺炎などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	血液系疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 貧血や出血性疾患などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	筋・骨格疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 筋・骨格疾患などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	免疫・アレルギー疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 免疫不全・食物アレルギーなどを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	感染症、癌疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 感染症、癌疾患及び緩和ケア、終末期医療などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	手術、周術期やクリティカルケアにおける栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 手術、周術期やクリティカルケアなどを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	摂食機能障害、身体・知的障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 咀嚼・嚥下機能障害から身体・知的障害などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	乳幼児・小児の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化不良症から小児腎臓病などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	妊産婦・授乳婦の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	老年症候群における栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	(学修内容) 老年症候群の治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。(摂食障害・褥瘡を話し合う)総まとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。

授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN2411
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 対象者にあわせた栄養ケアプランを立てることができる。 2) 病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。 3) 傷病者の栄養状態に応じた栄養補給法について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	臨床栄養学実習 -medical nutrition manual- 岩井 達 編(みらい)								
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 編 文光堂 腎臓病食品交換表第9版 治療食の基準 黒川清監修 医歯薬出版 臨床栄養学実習書 第12版 玉川和子他編・著 医歯薬出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。 主にグループでの実習となる。グループ内での役割分担等を決め、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院での管理栄養士及び部門責任者としての勤務経験を活かし、栄養管理業務の実際及び関連業務について実習及び講義する。								

授 業 名		臨床栄養学実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	病院食と管理栄養士	(学修内容) 病院食と管理栄養士 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にテキストを読んでおくこと。
第2回	病院での栄養部門の組織と業務	(学修内容) 病院での栄養部門の組織と業務 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 事前にテキストを読んでおくこと。
第3回	病院食の種類と献立作成	(学修内容) 病院食の種類と献立作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 事前にテキストを読んでおくこと。
第4回	高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第5回	高血圧症食の実習	(学修内容) 高血圧症食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第6回	糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第7回	糖尿病食の実習	(学修内容) 糖尿病食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第8回	脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第9回	脂質異常症食の実習	(学修内容) 脂質異常症食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第10回	腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第11回	腎臓疾患食の実習	(学修内容) 腎臓疾患食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第12回	要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第13回	介護食の実習	(学修内容) 介護食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第14回	小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) 発表を実施し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第15回	小児(食物アレルギー)食の実習	(学修内容) 小児(食物アレルギー)食の実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを読んでおくこと。 手順をよく理解しておくこと。

授 業 名	公衆栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2412
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>人々の健康増進や疾病予防にかかわる公衆栄養の歴史や施策を学習し、公衆栄養学の目的と意義を理解する。          集団（家庭・地域・職域・諸外国）の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済的要因を把握し、食生活や栄養に関する情報の収集と分析、課題の抽出、総合的評価・判定法について学ぶ。          また、保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養上のハイリスク集団の特定と、総合マネジメント（適切な栄養プログラムの計画・実施・評価）に必要な理論と方法を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 公衆栄養の歴史と意義を理解できる。          2) 地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスについて理解できる。          3) 公衆栄養プログラムを作成し、提供・協同できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	カレント公衆栄養学[第3版] 編者：由田克士・押野榮司 建白社								
参 考 書	日本人の食事摂取基準（2020年版） 栄養士必携2020年度 日本栄養士会編 公衆衛生がみえる MEDICMEDIA								
課題に対する フィードバック の方法	各課題について、コメントを添えて返却する。 プレゼンに対し、アドバイスをクラスで共有する。								
留 意 事 項	教科書や配布資料をしっかりと読むこと。 積極的に発言し、また他の意見への傾聴を心がけること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：管理栄養士として保健所勤務の経験を生かし、データの見方、調査などについて現場の実情を加えながら話します。								

授 業 名		公衆栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	公衆栄養学の概念と意義	(学修内容) 公衆栄養学の考え方、生活の中でどのように役立つかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第2回	公衆栄養学の歴史	(学修内容) 公衆栄養学の歴史や背景について学び、施策との繋がりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第3回	国民健康・栄養調査の実施と食生活の変遷	(学修内容) 国の栄養データの基礎である国民健康・栄養調査の実施方法と日本人の食生活の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 必要なインターネットホームページを検索する	
第4回	国民健康・栄養調査と栄養問題	(学修内容) 国民健康・栄養調査の結果を基に栄養課題について考える。 (レポート提出) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 周辺の栄養問題について調べまとめる	
第5回	公衆栄養関連法規	(学修内容) 公衆栄養活動に関わる法律や他職種との業務の兼ね合いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習	
第6回	健康政策：健康日本21（第二次）と健康づくり	(学修内容) 日本人の健康づくり運動“健康日本21（第二次）”と健康づくりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと	
第7回	社会環境と健康・栄養問題	(学修内容) 人々を取り巻く社会環境と現存する健康・栄養問題の関係について学ぶ。 (プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 環境問題の検索とまとめ	
第8回	食生活と健康栄養問題 情報の収集と分析 総合的評価・判定法	(学修内容) 身近な人々の食生活と健康や栄養の情報収集と分析の方法を学びます。また抽出された課題の総合的評価の方法を学びます。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第9回	食生活と健康栄養問題 地域の健康・栄養問題	(学修内容) 地域毎の健康・栄養問題の相違点や格差について学び、その取り組みを学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第10回	食生活と健康栄養問題 職域の健康・栄養問題	(学修内容) 職域としてとらえた食生活と健康・栄養問題について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第11回	地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用	(学修内容) 地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第12回	わが国の健康栄養施策 地域における保健・医療・福祉・介護システム	(学修内容) わが国の保健・医療・福祉・介護システムについて学び、他職種との連携の大切さを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第13回	わが国の健康栄養施策 ハイリスク集団への提供サービス	(学修内容) わが国の健康ハイリスク集団への考え方やプログラムについて学ぶ。特定検診・特定保健指導のシステムを理解する。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第14回	諸外国の健康栄養問題と施策	(学修内容) 諸外国の健康・栄養問題と施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第15回	地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの展開	(学修内容) 地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの計画や展開について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	

授 業 名	給食経営管理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2406
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 給食の意義を理解できる。 2) 給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3) マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論（第4版） 幸林友男 編（講談社）								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方と給食の概要について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスとテキストの関連箇所を読んでおくこと。
第2回	給食の概念 (給食の概要)	(学修内容)給食の概念 (給食の概要) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	給食の概念 (給食システム)	(学修内容)給食の概念 (給食システム) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規)	(学修内容)給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第5回	給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要) (経営に関する問題点を話し合う) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第6回	給食経営管理の概念 (マーケティングの原理)	(学修内容)給食経営管理の概念 (マーケティングの原理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第7回	給食経営管理の概念 (給食とマーケティング)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食とマーケティング) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第8回	給食経営管理の概念 (給食経営と組織)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営と組織) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第9回	給食の生産(調理) (原価管理、食材管理)	(学修内容)給食の生産(調理) (原価管理、食材管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第10回	給食の生産(調理) (生産と提供)	(学修内容)給食の生産(調理) (生産と提供) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第11回	給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際)	(学修内容)給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第12回	給食の安全・衛生 (事故・災害時対策)	(学修内容)給食の安全・衛生 (事故・災害時対策) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第13回	給食の施設・設備 (生産施設・設備計画)	(学修内容)給食の施設・設備 (生産施設・設備計画) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第14回	給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備)	(学修内容)給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第15回	給食の人事・事務	(学修内容)給食の人事・事務 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。



授 業 名	給食経営管理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2413
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食経営管理論 では、P D C Aサイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論 で得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。								
学 修 成 果 対 象 業 業	1) 各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 2) 対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。 3) 給食施設での経営管理の基本的な考え方や方法について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論(第4版) 幸林友男 編(講談社)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	給食経営管理論 を復習しておくこと。 専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名	給食経営管理論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）	（学修内容）オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）  （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスとテキストの関連箇所を読んでおくこと。
第2回	栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	栄養・食事管理（栄養・食事の計画）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事の計画）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第5回	栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第6回	給食の品質	（学修内容）給食の品質  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第7回	給食施設別経営管理（病院給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（病院給食） （病院給食での栄養管理方法等について話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第8回	給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第9回	給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第10回	給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第11回	給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第12回	給食施設別経営管理（事業所給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（事業所給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第13回	給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第14回	給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）	（学修内容）給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（学修内容）健康増進法における特定給食施設の経営  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をしておくこと。 テキストの関連箇所を読んでおくこと。

授 業 名	食品衛生学実験 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3325
英 文 名	Experiment of food hygiene			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	食品の安全性の確保と衛生管理に必要な測定・分析の基礎技術を修得する。食品の生物学的汚染（微生物）、食品の化学的汚染（農薬、重金属、毒物など）、食品添加物の検出、食品の腐敗、変質の検査法、環境水の安全管理について学ぶ。HACCP課題では給食提供を前提に班で、調理行程の重要管理点を決め、点検・記録して発表し、衛生的管理の仕組みを修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の安全確保と衛生管理のための実験手法を修得している。 2) 食品の生物学的汚染、化学的汚染を検出し、安全管理ができる。 3) HACCPシステムを理解でき、重要管理点のチェックができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	後藤政幸 編著 『Nブックス実験シリーズ 改訂食品衛生学実験』 建帛社								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出されるレポートを確認し、見直し点などをフィードバックする。								
留 意 事 項	食品衛生学を復習しておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授業名	食品衛生学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎	(学修内容)オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章1-4.食品衛生学実験の基礎の項(1-9頁)の予習
第2回	飲料水の水質検査 アンモニア性窒素 亜硝酸性窒素 硝酸性窒素	(学修内容)インドフェノール法によるアンモニア性窒素、ジアゾ法による亜硝酸性窒素、サリチル酸Na定量法による硝酸性窒素を測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、窒素形態別分析(11-13頁)の予習
第3回	飲料水の水質検査 残留塩素の測定	(学修内容)飲料水の水質検査の項、残留塩素をDPD法で測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、残留塩素の分析(16-19頁)の予習
第4回	油脂の変質試験 チオバルビツール酸価の測定	(学修内容)油脂の変質過程をチオバルビツール酸価で測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章2.油脂の変質試験の項(21-24頁)の予習
第5回	魚肉の変質・鮮度試験 ヒスタミンの検出	(学修内容)魚肉の変質をヒスタミンの検出で探り、新鮮度を測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章3.魚肉の変質・鮮度試験の項(25-29頁)の予習
第6回	牛乳の鮮度試験と規格 牛乳の比重測定 乳脂肪測定	(学修内容)牛乳の比重と乳脂肪量を測定して、表示、規格に合致しているかを調べる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章4.牛乳の鮮度試験と規格の項(31-37頁)の予習
第7回	器具および容器・包装の有害化学物質の溶出 ホルムアルデヒドの検出	(学修内容)器具および容器・包装から有害化学物質を溶出し、ホルムアルデヒドを検出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章7.器具・容器・包装の有害化学物質の項(48-50頁)の予習
第8回	食品添加物試験 発色剤(亜硝酸ナトリウム)の検出 酸化防止剤の検出	(学修内容)食品添加物の発色剤と酸化防止剤を検出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章1-4 食品添加物試験の項(53-67頁)の予習
第9回	食品添加物試験 酸性タール色素の抽出と検出	(学修内容)食品中の着色料の酸性タール色素を羊毛法で抽出し、クロマトグラフィで種類を同定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章5.着色料の検出の項(68-70頁)の予習
第10回	微生物検査 手指の細菌検出	(学修内容)微生物検査 手指の細菌をグローブジュース法で分離し、培養し、検出する。皮膚の常在菌と手洗いの重要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1.微生物の検査の項、手指の細菌をグローブジュース法(105-106頁)の予習
第11回	微生物検査 スタンプ法 ふき取り法	(学修内容)微生物検査を スタンプ法 ふき取り法で行い、一般衛生管理手法を修得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2.衛生管理手法の項(105-113頁)の予習
第12回	清浄度検査 ATP測定 たんぱく質測定法 マスターテーブル法	(学修内容)衛生的管理手法として、ATP測定、たんぱく質測定法で清浄度を検査する。マスターテーブル法の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2.衛生管理手法の清浄度検査の項(113-117頁)の予習
第13回	HACCPシステムの構築(手順1~5, 手順 6~12) 重要管理点の設定 調理過程の内部温度測定	(学修内容)HACCPシステムの構築(手順1~5, 手順 6~12) 重要管理点の設定、調理過程の内部温度測定 (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPの概念をよく理解し、実際に給食管理運営実習でも実践していきける力をつけておく。
第14回	HACCPシステム 重要管理点に関する実験 調理過程の内部温度測定 食中毒細菌の検出 まな板のタンパク質の検出	(学修内容)給食班で調理行程の重要管理点を設定し、実験する。調理過程の内部温度測定 食中毒細菌の検出 まな板のタンパク質の検出 (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPにのっとり、重要管理点のチェック項目を調理行程ごとに確認しておく。
第15回	食品の安全管理のまとめ	(学修内容)食品の安全管理法をまとめる。HACCP実習、重要管理点チェックで安全な食品環境を維持できる実践力を身につける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の安全管理手法をまとめ、給食班で、HACCP実習、重要管理点をチェックして、実践力を身につける。

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN3414
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、ライフステージの中で特に高齢期の加齢による身体的・生理的变化とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、および栄養管理について学ぶ。さらに、運動や特殊環境下など身体への影響が考えられる状況でのリスク管理を踏まえた栄養管理のありかたについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 加齢による身体の変化について理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。  2) 加齢による変化に対応する食事の在り方について理解できる。  3) 運動負荷や特殊環境下における生体の状態を理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>「カレント応用栄養学」 辻 悦子編 建帛社（応用栄養学、 で使用のテキスト）  「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 第一出版</p>								
参 考 書	<p>応用栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版（株）</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答合わせを行い説明します。</p>								
留 意 事 項	<p>応用栄養学、 を復習しておくこと。  予習のためのプリントを配布しますので、必ずやってくること。  単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。  急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の生理的特徴  (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト(第8章)を読んでおく。	
第2回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の病態・疾患  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第3回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養アセスメント、食事摂取基準  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第4回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養ケア・マネジメント  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第5回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 後期高齢者の食事支援  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第6回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第7回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 健康づくりと運動  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第8回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動と栄養ケア  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第9回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における生理的特徴  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第10回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における栄養ケア・マネジメント  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第11回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高温・低温環境下における代謝変化  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第12回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高温・低温環境下における栄養ケア・マネジメント  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第13回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高圧・低圧環境下における栄養管理  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第14回	特殊環境と栄養	(学修内容) 無重力による影響と栄養管理  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 テキストを予習し、ノートにまとめておく。	
第15回	栄養管理の実践上の問題点について まとめ	(学修内容) 栄養管理の実践上の問題点について  (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の復習をする。 ノートにまとめておく。	

授 業 名	応用栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN3420
英 文 名	Practical Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学、 、 で学んだ成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能および栄養状態の変化、スポーツ時等における栄養状態の変化について、実習を通して理解を深める。対象者に応じた栄養スクリーニング、栄養アセスメント、短期・中期・長期の栄養管理目標の設定と栄養ケアプランを作成し、プランに即した献立を作成する力をつける。それら献立プランを実習し、評価・判定を行い、栄養管理の方法について理解を深め実践力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養アセスメントを理解し実践することができる。 2) 栄養管理の考え方を理解し、対象者に応じた栄養管理が実践できる基本的な技能を修得する。 3) 献立作成をはじめ栄養ケアプランを実践できる力を身につける</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>「応用栄養学実習」 五関正江・小林三智子 建帛社 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」 第一出版 配布プリント</p>								
参 考 書	<p>「カレント応用栄養学」 辻 悦子編 建帛社 (応用栄養学、 、 で使用のテキスト) 「応用栄養学実習ワークブック」 山本由喜子編 みらい 「日本食品標準成分表(文部科学省)」</p>								
課題に対するフィードバックの方法	提出課題や小テストは点検後、返却。授業内で解説し、理解を深めます。								
留 意 事 項	<p>応用栄養学、 、 の復習をしておくこと。 プリントを配布しますので、予習しておくこと。 調理実習もしますので、身支度の準備をしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		応用栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 栄養マネジメントの概要	(学修内容)オリエンテーション、栄養マネジメントの理解、栄養スクリーニングと栄養アセスメントの方法と実際 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス、テキスト(第1,2章)を読んでおく。	
第2回	日本人の食事摂取基準の活用とPDCAサイクル 必要栄養量の科学的根拠	(学修内容)食事摂取基準の復習 エネルギーと栄養素について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第3回	栄養管理計画とその実践について	(学修内容)食品構成の理解、荷重平均成分表の作成、 適正栄養量の算定と献立作成 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第4回	妊婦・授乳婦を対象とした栄養管理(ケーススタ ディの検討)	(学修内容)妊婦(妊娠前期、中期、後期)・授乳婦を対象とした栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第5回	非妊娠時と妊娠期の指定献立の実習	(学修内容)非妊娠時と妊娠期(妊娠前期、中期、後期)に適した展開食を調理し、栄 養評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第6回	乳児期、離乳期の栄養管理	(学修内容)乳児期の栄養管理(調製粉乳と特殊ミルク、調乳法、離乳食の進め方) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第7回	幼児期の栄養管理(ケーススタディの検討)	(学修内容)幼児期の栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第8回	乳児期、離乳期、幼児期の栄養管理の実際	(学修内容)離乳食の展開、アレルギー食献立の作成と評価 保育所給食と間食の献立作成と評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第9回	調乳、離乳食とアレルギー食の指定献立の実習	(学修内容)調乳を行い、離乳食とアレルギー食に適した献立を実習し、栄養評価を 行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第10回	学童、思春期の栄養管理の実際(ケーススタ ディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(肥満児、学校給食、貧血、やせの場合)の課題と改善 、各班のまとめと発表、献立作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第11回	成人期、更年期の栄養管理の実際(ケーススタ ディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(メタボリックシンドローム、更年期障害の場合)の課 題と改善、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第12回	高齢期、運動負荷に対応した栄養管理の実際(ケ ーススタディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(低栄養、咀嚼力低下、運動負荷の場合)の課題と改善 、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第13回	学童期～スポーツ時の課題解決に向けた食事の提 供(作成献立の実習)	(学修内容)学童期～スポーツ時の各班の作成献立を実習し、栄養評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第14回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班のまとめと発表	(学修内容)各ライフステージにおけるケーススタディーの課題について、各班で改 善に向けた検討を行いまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 課題をしておくこと。	
第15回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班のまとめと発表	(学修内容)各班の検討課題に対する栄養ケア、食事プランを発表する。全体で評価 を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各班で課題をまとめ、発表準備をしておくこと。 課題を提出する。	



授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN3415
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	人の生涯におけるそれぞれのライフステージ、ライフスタイルにおける栄養課題と必要な栄養教育について理解し、栄養教育論・で学んだ基礎知識を実践として活用する方法を修得する。また、臨床栄養学・で学んだ傷病者、要介護者への栄養教育、栄養ケアプランをもとに、栄養教育論実習と関連付けながら、栄養教育のあり方と方法を修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養教育を行うために必要な情報を収集・分析し、問題点を説明にできる。 2) ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育について説明できる。 3) 栄養教育に関連する法律、ガイドラインを説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
参 考 書	東あかね・関戸啓子・久保加織編『栄養科学シリーズNEXT 社会環境と健康 健康管理概論 第3版』講談社 赤松利恵・永井成美 著『栄養カウンセリング論』 化学同人 その他、適宜参考書を紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	栄養教育論・を充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名	栄養教育論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方の説明をする ライフステージ別の栄養教育の対象と場について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	食生活指針と栄養教育	(学修内容) 食生活指針・食事バランスガイドと栄養教育の関連について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 食生活指針・食事バランスガイドの復習をしておく
第3回	妊娠・授乳期の栄養教育	(学修内容) 妊娠・授乳期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99～108を読んでおく
第4回	乳児期の栄養教育	(学修内容) 乳児期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99～108を読んでおく
第5回	幼児期の栄養教育	(学修内容) 幼児期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.109～112を読んでおく
第6回	子育て支援と栄養教育	(学修内容) 保育所における栄養教育について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.112～116を読んでおく
第7回	学童期の栄養教育栄養	(学修内容) 学童期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.117～123を読んでおく
第8回	思春期の栄養教育	(学修内容) 思春期の栄養教育について理解する 第1回～7回の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.123～127を読んでおく 確認テストの内容を復習しておく(妊娠・授乳期～思春期まで)
第9回	成人期の栄養教育(特定健診・特定保健指導と栄養教育)	(学修内容) 特定健診・特定保健指導と成人期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.129～137の復習
第10回	成人期の栄養教育(勤務形態と栄養教育)	(学修内容) 成人期の栄養教育の課題について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.138～147の復習
第11回	高齢期の栄養教育	(学修内容) 高齢期の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.149～160を読んでおく
第12回	傷病者の栄養教育	(学修内容) 傷病者の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.161～174を読んでおく
第13回	障がい者の栄養教育	(学修内容) 障がい者の栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.175～187を読んでおく
第14回	スポーツと栄養教育	(学修内容) アスリートの栄養教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.188～195を読んでおく
第15回	社会生活と栄養教育	(学修内容) 食環境と栄養教育について理解する 第8回～14回の授業の理解度確認テストと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食環境について授業開始時にディスカッションを行うので準備する 確認テストの内容を復習しておく(成人期～スポーツ傷病者まで)

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN3416
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>本授業では、栄養状態や食行動などのライフスタイルに応じた個人への栄養教育のあり方や方法について学ぶ。個人を対象とする栄養マネジメントの実践力を養うため、自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、教材・媒体を用いた模擬教育を体験する他、食行動の変容が必要な個人を対象としたカウンセリングの実施については、講義で学んだ行動科学の理論を活用してその技術を身につけ、臨地実習で展開できる力を身につける。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析から、それらを総合的に評価・判定できる。  2) 対象者個人に応じた栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。  3) 対象者個人に応じたプレゼンテーション技術を修得する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	赤松利恵・永井成美 著『栄養カウンセリング論』 化学同人								
参 考 書	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』 建帛社 2017年								
課題に対するフィードバックの方法	各グループの模擬栄養教育実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名		栄養教育論実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実習の概要と進め方の確認をする 栄養カウンセリングの対象者と場面、態度と倫理について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく テキストp2~9を読んでおく	
第2回	個人を対象とした栄養教育：栄養教育のための食事調査の方法(秤量法)	(学修内容) 栄養アセスメント、食事調査について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考書p62~67を読んでおく	
第3回	個人を対象とした栄養教育：栄養教育のための食事調査の方法(24時間思い出し法)	(学修内容) 食事調査の聞き取り方を体験をする(秤量法と24時間思い出し法の比較) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で1日分の食事調査(秤量法)を行っておく	
第4回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリングの基本的技法	(学修内容) 栄養カウンセリングにおける話し方・聴き方(位置関係、傾聴、受容、要約、開かれた質問と閉ざされた質問)のロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.10~15を読んでおく 実習後にレポート提出	
第5回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリング話し方・聴き方(ロールプレイ)	(学修内容) 生活習慣病に関して、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによる話し方・聞き方のロールプレイを行う(気持ちの受けとめ方) (事前事後学修課題の内容) (30分) 各グループごとに生活習慣病の種類・予防について勉強しておく 実習後にレポート提出	
第6回	個人を対象とした栄養教育：模擬患者への栄養指導プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) 模擬患者の栄養アセスメントを行い、栄養指導プログラムの立案、指導案をグループごとに作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 生活習慣病の種類・予防・アセスメントについて勉強しておく 実習後にレポート提出する	
第7回	個人を対象とした栄養教育：模擬患者への面接(生活習慣病)	(学修内容) 生活習慣病に関して管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行う、(行動変容技法の応用) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.17~32を読んでおく 実習後にレポート提出	
第8回	個人を対象とした栄養教育：模擬患者への面接(生活習慣病)	(学修内容) 教育者・模擬患者・観察者のローテーションによるロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.17~32を読んでおく	
第9回	個人を対象とした栄養教育：模擬患者への面接(生活習慣病)	(学修内容) 教育者・模擬患者・観察者のローテーションによるロールプレイと振り返りを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬個人教育の振り返りの表を完成させ、提出する	
第10回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導プログラムの立案、指導案の作成	(学修内容) 高齢者への栄養指導プログラムの立案、指導案をグループごとに作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.74~75を読んでおく	
第11回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導媒体の作成	(学修内容) グループごとに対象者への媒体を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 媒体作成の資料を準備する	
第12回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導に用いる献立案の作成	(学修内容) グループごとに栄養指導で使用する対象者への献立案を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養指導のための献立作成の資料を準備する	
第13回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導のリハーサル	(学修内容) 高齢者への栄養指導のリハーサルと仕上げをする (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養指導で使用する媒体などの準備をする	
第14回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導の実施	(学修内容) 高齢者への栄養指導についてグループごとの指導の評価を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬栄養指導の準備をする	
第15回	個人を対象とした栄養教育：高齢者への栄養指導の実施内容の評価	(学修内容) 高齢者への栄養指導について、クラス全体の評価をまとめて改善点をディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者への栄養指導の振り返りの表を完成させ提出する	

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN3417
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	臨床栄養学、で学んだ知識を基に臨床における管理栄養士が傷病者を対象とした適切な栄養管理について学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医療品の相互作用について修得する。さらに、チーム医療や在宅医療における栄養ケアについて学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養ケアの概念を理解し、栄養アセスメント、栄養ケアプランの実施、症候や各ライフステージでの栄養ケアを理解できる。 2) 各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。 3) チーム医療や在宅医療における栄養ケアの実際について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	・ Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学 総論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子（中山書店） ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著（文光堂）								
参 考 書	・ 腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編（医歯薬出版株式会社） ・ その他適宜、参考文献などを紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・ 学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。 ・ 臨床栄養学、及び を復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。								

授 業 名	臨床栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（授業の進め方） 栄養ケアの基礎について	（学修内容）臨床栄養学の意義と教育目標、疾病構造の変化と栄養指導、医療・介護福祉制度の基本を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	栄養ケアの基礎について	（学修内容）医療、介護・福祉における臨床栄養の役割、栄養ケアとチーム医療を学ぶ。（医療・福祉関連ニュースを持参して、意見交換） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	栄養アセスメントについて	（学修内容）栄養アセスメントの意義と必要性、栄養サポートチーム、主観的評価と客観的評価を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	栄養アセスメントについて	（学修内容）臨床診査、臨床検査を学ぶ。（臨床診査、臨床検査について調べ、意見交換） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	栄養アセスメントについて	（学修内容）身体計測、摂食状態評価を学ぶ。（相互に身体計測し、摂食記録を集計・評価） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	栄養ケアプランの実際について	（学修内容）栄養ケアプランの目標と作成、問題志向型システム、栄養補給方法を学ぶ。（問題志向型システムを理解し、SOAPを作成） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	栄養ケアプランの実際について	（学修内容）栄養教育、栄養カウンセリング、クリニカルパス、特別用途食品を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	栄養ケアプランの実際について	（学修内容）保健機能食品、栄養ケアと薬物療法、モニタリングと評価を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	症候への栄養ケアについて	（学修内容）発熱・体温調節、ビタミン欠乏症を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	症候への栄養ケアについて	（学修内容）下痢（浸透圧性・滲出性・分泌性）、便秘（器質性・機能的・全身疾患等）を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	症候への栄養ケアについて	（学修内容）褥瘡とその評価方法などを学ぶ。（DESIGN-Rスケールを用いて評価し、栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	新生児期、乳幼児期の栄養ケアについて	（学修内容）新生児、正規産児、栄養補給方法、低出生体重児～哺乳、乳幼児健康診査を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	回復を促す栄養ケアについて	（学修内容）待機手術、緊急手術、周術期の栄養管理、術後合併症発生時の栄養療法を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	回復を促す栄養ケアについて	（学修内容）がん化学療法、副作用と支持療法、栄養障害、放射線療法と副作用を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	終末期の栄養ケアについて 全体のまとめ	（学修内容）終末期の栄養ケア、生命予後を学ぶ。（栄養介入方法を話し合う）全体のまとめ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN3421
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	臨床栄養学、 、 で学んだことを基礎にして、実際の疾患における栄養管理法の根拠と基本を学び、病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解する。さらに、発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターについて学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 病態や栄養生理代謝と食生活との関係を理解できる。 2) 発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターを説明できる。 3) 各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	・ Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学 総論、各論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子(中山書店) ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂)								
参 考 書	・ 腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社) ・ その他適宜、参考文献などを紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・ 学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。 ・ 臨床栄養学、 、及び をよく復讐しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。								

授 業 名	臨床栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	代謝・内分泌疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 骨粗鬆症、糖尿病を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第2回	代謝・内分泌疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 脂質異常症、肥満症・メタボリックシンドロームを学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第3回	代謝・内分泌疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 高尿酸血症、痛風、先天性代謝異常、ウィルソン病、糖原病、甲状腺機能障害を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第4回	消化器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 消化性潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第5回	消化器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第6回	消化器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 胆石症、胆嚢炎、慢性膵炎を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第7回	循環器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 高血圧、虚血性心疾患、心不全を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第8回	循環器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 脳出血、脳梗塞を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第9回	腎臓疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第10回	腎臓疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 慢性腎臓病、慢性腎不全、糖尿病腎症を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第11回	呼吸器疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 慢性閉塞性肺疾患、呼吸器疾患を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第12回	血液疾患、婦人科疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 鉄欠乏性貧血、貧血症、更年期障害を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第13回	免疫疾患、心因性摂食障害の栄養ケアについて	(学修内容) 食物アレルギー、自己免疫疾患、心因性の摂食障害を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第14回	神経筋疾患の栄養ケアについて	(学修内容) 認知症、筋委縮性側索硬化症を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。
第15回	摂食・嚥下障害の栄養ケアについて 全体のまとめ	(学修内容) 摂食・嚥下障害を学ぶ。(グループで栄養指導媒体も作成) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を必ず読んで予習しておくこと。



授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN3422
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学実習 では、臨床栄養業務に必要な栄養マネジメント手法を修得するため各種疾患に対する症検討を行う。</li> <li>・症例のアセスメントパラメータから栄養状態の評価、栄養補給法の検討、栄養教育など、専門的な知識及び技術を備えるための実習を行う。</li> <li>・この授業はグループ単位で行うことからチームワーク力を発揮して、患者向けの指導媒体を作成し、その内容をプレゼンテーションする。対象者が多い疾患は、献立作成と調理実習を行う。</li> </ul>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 疾患ごとの症例に対して栄養アセスメントを実施し、問題点を見つけ出し解決するためのケアプランが作成できる。</li> <li>2) チームワークでスライドや媒体を作成し、プレゼンテーションができる。</li> <li>3) 疾患ごとの食事療法を理解し、献立作成から食材調達、調理、提供まで実行できる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (グループワークでの相互協力と連携)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学実習書 最新版 玉川和子、口羽章子、木戸詔子 編著(医歯薬出版株)</li> <li>・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会 編・著(文光堂)</li> </ul>								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中山俊之、他編 (医歯薬出版株式会社)</li> <li>・Nボックス 三訂臨床栄養管理「第3版」渡邊早苗、寺本房子 他共著 (建帛社)</li> <li>・適宜、参考文献などを紹介する。</li> </ul>								
課題に対するフィードバックの方法	グループ発表では質疑への解答と分かりやすさを評価シートで判定する。課題提出により理解度の確認を行う。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学 ~ を復讐しておくこと。</li> <li>・毎回の予習と復習をしておくこと。</li> <li>・グループワークを主体とする授業のため、欠席、遅刻、早退はしないこと。(出席重視)</li> </ul>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育          教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務する。</p>								

授 業 名		臨床栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 臨床の実際と診療記録、及び栄養管理業務について	(学修内容) 授業概要の説明、臨床における患者心理、プライバシー保護、診療記録の見方・作成、及び栄養管理に必要な帳票と作成方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストのp2~24までを予習して臨むこと。	
第2回	栄養ケアマネジメント手法により疾病の症例検討を学ぶ。 症例検討(例題)メタボリックシンドロームについて( )	(学修内容) 栄養ケア記録(POSの活用)と、メタボリックシンドローム症例をSOAPにまとめパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) SOAPの作成について復習しておくこと。メタボリックシンドロームと栄養管理を予習して臨むこと。	
第3回	症例検討(例題)メタボリックシンドロームについて( )	(学修内容) メタボリックシンドロームの症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) SOAPの作成について復習しておくこと。メタボリックシンドロームと栄養管理を予習して臨むこと。	
第4回	症例検討 肥満症、脂質異常症について( )	(学修内容) 肥満症、脂質異常症の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のメタボリックシンドロームのSOAPをまとめて提出する。肥満症、脂質異常症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第5回	症例検討 肥満症、脂質異常症について( )	(学修内容) 肥満症、脂質異常症の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のメタボリックシンドロームのSOAPをまとめて提出する。肥満症、脂質異常症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第6回	症例検討 高血圧症、うっ血性心不全について( )	(学修内容) 高血圧症、うっ血性心不全の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の肥満症、脂質異常症のSOAPをまとめて提出する。高血圧症、うっ血性心不全の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第7回	症例検討 高血圧症、うっ血性心不全について( )	(学修内容) 高血圧症、うっ血性心不全の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の肥満症、脂質異常症のSOAPをまとめて提出する。高血圧症、うっ血性心不全の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第8回	症例検討 糖尿病、腎臓病(CKD)について( )	(学修内容) 糖尿病、腎臓病(CKD)の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の高血圧症、うっ血性心不全のSOAPをまとめて提出する。糖尿病、腎臓病(CKD)の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第9回	症例検討 糖尿病、腎臓病(CKD)について( )	(学修内容) 糖尿病、腎臓病(CKD)の症例を通じて栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアの評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の高血圧症、うっ血性心不全のSOAPをまとめて提出する。糖尿病、腎臓病(CKD)の病態と栄養管理を予習して臨むこと。	
第10回	糖尿病食事療法の実践について( )	(学修内容) 前回の糖尿病症例に適合する栄養量から、糖尿病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病、腎臓病のSOAPをまとめて提出する。糖尿病食品交換表の使い方を十分に予習して臨むこと。	
第11回	腎臓病食事療法の実践について( )	(学修内容) 前回の腎臓病(CKD)症例に適合する栄養量から、腎臓病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病食の献立表を提出する。腎臓病食品交換表の使い方を十分に予習して臨むこと。	
第12回	糖尿病食事療法の実践について( ) 腎臓病食事療法の実践について( )	(学修内容) 糖尿病食、腎臓病(CKD)食の試作と、食材料の集計及び発注量の確定と調理実習の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 腎臓病(CKD)食の献立表を提出する。糖尿病、腎臓病の調理上の留意点などを予習して臨むこと。	
第13回	糖尿病食、腎臓病食の調理実習	(学修内容) 糖尿病食、腎臓病食の調理実習と試食をする。改善点は他の受講生と共有し対応案も考えまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。	
第14回	症例検討 摂食・嚥下障害について(献立作成)	(学修内容) 摂食・嚥下障害の症例をSOAPにまとめてパワーポイントで発表し、症例からの栄養量に基づき、献立、食材料集計、発注準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の糖尿病食、腎臓病食についてのまとめを提出する。摂食・嚥下障害の状態や特徴、使用食品や調理上の留意点を予習して臨むこと。	
第15回	摂食・嚥下障害食の調理実習 総合評価	(学修内容) 摂食・嚥下障害食の調理実習と試食をする。改善点は他の受講生と共有し対応案も考える。全体を通して総合評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。	

授 業 名	公衆栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN3418
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連の各種サービス、プログラムの調整、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理など、総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から学び、人的資源など社会的資源の活用について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムが作成できる。 2) プログラムを実施し、評価し、総合的にマネジメントする方法を修得している。 3) 地域の健康、栄養課題を明確にして、施策を推進することの大事さに気づくことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	カレント公衆栄養[第3版] 編著：由田克士・押尾榮司								
参 考 書	栄養士必携(2020年度版) 日本栄養士会編 第一出版 日本人の食事摂取基準[2020年版] 第一出版 公衆衛生が見える MEDICMEDIA								
課題に対する フィードバック の方法	各自の計画について、コメントを付けて指導を行う。 プレゼンテーションに対し、評価・改善策を伝える。								
留 意 事 項	総合的に理解できるよう、公衆栄養学 で学んだ栄養の現状や法規を理解したうえで、実践の幅を広げるよう								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業で案内します								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：管理栄養士・健康運動指導士としての保健所での経験から、実技や計画策定などについて、実務に即した話をします。								

授業名	公衆栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養疫学の概要	(学修内容) 栄養疫学について学び、栄養疫学の位置づけと必要性を知る。 論文から各種研究手法を共有する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 公衆衛生学のテキストを持参
第2回	暴露情報としての食事摂取量	(学修内容) 暴露情報としての食事摂取量や栄養素の考え方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 疫学的手法について論文を検索しまとめる
第3回	食事摂取量の測定方法	(学修内容) さまざまな食事摂取量の測定方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第4回	食事摂取量の評価方法	(学修内容) 調査後の食事摂取量の評価方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第5回	公衆栄養マネジメント マネジメント	(学修内容) 公衆栄養マネジメントとは何かについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第6回	公衆栄養マネジメント アセスメント	(学修内容) 食事摂取基準や既存資料の活用方法について学ぶ。 公衆栄養アセスメントの目的と方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第7回	公衆栄養マネジメント 目標設定	(学修内容) 改善課題の抽出方法について学ぶ。 改善目標の設定の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト関連箇所の予習・復習 目標の種類について確認し、ワークを仕上げる
第8回	公衆栄養マネジメント 計画・実施	(学修内容) 課題を改善するための計画を作成・実施の方法や留意点について学ぶ。 実際に計画を立案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(90分) テキスト関連箇所の予習・復習 各機関の計画書などを参照し、取り入れる
第9回	公衆栄養マネジメント 評価	(学修内容) 評価についてその方法や分析の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第10回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養の課題	(学修内容) 地域栄養の課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域データを収集する
第11回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養マネジメント	(学修内容) 各地域で実施されている施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域での各種施策を収集する
第12回	公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラムの実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト必要箇所を読んでおくこと
第13回	公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第14回	公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第15回	地域における生活習慣病の発症予防と重症化予防、ハイリスク集団のプログラム	(学修内容) 特定健診特定保健指導、在宅栄養、地域ネットワークなどの包括的なシステムについて学ぶ。(レポート提出) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト関連箇所の予習・復習

授 業 名	公衆栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN3423
英 文 名	Practical training for Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	竹市 仁美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	公衆栄養関連のサービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。地域や職域等の健康・栄養情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。「日本人の食事摂取基準」の活用法、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析などを行い理解する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 地域や職域等の健康・栄養情報を収集しそれを分析・診断し、集団の特性を把握できる。 2) 情報の分析・診断の結果から問題点を把握し、適切な栄養改善計画を立てることができる。 3) 地域の公衆栄養関連サービスに参加し、協力することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	現場で役立つ公衆栄養学 学内編 同文書院 配布プリント								
参 考 書	日本人の食事摂取基準2020年度版 栄養士必携 2020年 調理のためのベーシックデータ 公衆衛生の動向								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、添削し各自に返却します。								
留 意 事 項	班員と協力して積極的に課題に取り組み、時間内にまとめるよう努力すること								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業時に伝えます								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：保健所管理栄養士としての実務経験を生かし、食事調査、地域診断など実務的な内容に取り組みます。								

授 業 名		公衆栄養学実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆栄養学実習オリエンテーション	(学修内容) 公衆栄養学実習オリエンテーション 健康日本21第2次について、展開されている公衆栄養活動について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 履修済みの公衆栄養学を復習しておく
第2回	社会アセスメント 栄養調査法	(学修内容) 食物摂取頻度調査法・24時間思い出し法について学ぶ (ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの復習 各自食事メモを持参
第3回	社会アセスメント 栄養調査法	(学修内容) 秤量法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト復習
第4回	社会アセスメント 質問紙調査	(学修内容) プリシード・プロシードモデルなどを用いて、学生の栄養状態について 考えるとともに、質問紙法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト復習
第5回	栄養疫学 (データ集計)	(学修内容) 質問紙法の実施とデータ集計の方法を学ぶ (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 社会調査法について復習しておくこと
第6回	栄養疫学 (データ解析)	(学修内容) データ解析の方法を学ぶ(カイ2乗検定・t検定など) (事前事後学修課題の内容)(60分) 日本人の摂取基準 総論をよく読んでおくこと
第7回	栄養疫学 (データ分析)	(学修内容) 各調査結果を総合的に分析する 「日本人の食事摂取基準2020年度版」の活用 (事前事後学修課題の内容)(60分) PDCAサイクルの意義、目的について復習しておくこと
第8回	公衆栄養マネジメント 地域診断	(学修内容) 既存資料、ホームページなどから地域や住民の栄養状態を調べる (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(120分) 既存資料の活用について復習しておくこと
第9回	公衆栄養マネジメント 地域診断	(学修内容) 既存資料、ホームページなどから地域や住民の栄養状態をまとめる (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 既存資料の活用について復習しておくこと
第10回	公衆栄養マネジメント 地域課題の抽出	(学修内容) 地域分析結果などから、課題を見極め対策を考える (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 計画策定のための方法と配慮点について復習しておくこと
第11回	公衆栄養プログラム計画 目標設定	(学修内容) 長期・中期・短期目標を設定する (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの復習
第12回	公衆栄養プログラム計画 運営面・政策面のアセスメント	(学修内容) 実際のプログラムなどを確認し、地域アセスメントを進める (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 改善案の事例等を確認しておくこと
第13回	公衆栄養プログラム計画 社会資源の活用	(学修内容) 実際のプログラムなどを確認し、地域アセスメントを進める (グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 公衆栄養プログラムについて復習しておく 改善案の事例等を確認しておくこと
第14回	公衆栄養プログラム計画 計画策定	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開について考える(PDCAサイクル) 先進的なプログラムを計画する(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの復習
第15回	公衆栄養プログラム 計画発表と質疑応答 実習のまとめ	(学修内容) 公衆栄養改善計画を発表する 各班の発表に対する自分考えをまとめる(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備と練習を行っておくこと

授 業 名	給食経営管理実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Practice of Food Service Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸・石橋 朋美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	本実習は、給食経営管理論 および で学んだ給食の経営の理論について、実習に取り組むことで理解を深め、P D C A サイクルに基づいたマネジメントができる力を修得する。給食の運営だけではなく、組織づくり、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーションなどの全てが経営管理にとって不可欠なものであり、実習ではそれらの能力も養う。1クラスを3グループ(試作、管理、支援)に分け、グループごとにローテーションして全員が全ての役割を実習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 給食業務を総合的に理解し、給食運営に対する実践力と応用力を修得している。 2) 給食経営管理に関して臨地実習に生かす基本内容を修得している。 3) 給食の運営に必要な業務内容を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	給食経営管理論実習 石田裕美 編(建帛社) 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子 編(化学同人)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	給食経営管理論 ・ 等関連科目の復習を十分しておくこと。 グループでの実習となるため、グループ内での役割分担等を把握し、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理実習 a・b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方、実習を行う上での注意事項 (事前事後学修課題の内容)(30分) 給食の流れ等について復習しておくこと。
第2回	給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成)	(学修内容)給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成)	(学修内容)給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第5回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第6回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第7回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第8回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第9回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第10回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第11回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第12回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第13回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考えておくこと。
第14回	評価	(学修内容)評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 評価方法の検討をしておくこと。
第15回	報告会	(学修内容)報告会 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておくこと。



授 業 名	音楽の基礎（ピアノ・歌）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	HE1404
英 文 名	Fundamentals of Music (Piano and Song)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	音楽のごく初学者向け。秋学期開講の音楽（基本的に児童学コース・保育士・幼小教免取得希望者対象）に先立ち、ピアノ・歌唱および音楽理論の基本を学ぶ。毎回実技課題の到達度を個別レッスンによって確認しながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 読譜のための基礎的な音楽理論を理解することができる 2) 正しい音程で発声することができる 3) 簡単な楽譜のピアノ演奏ができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テ キ ス ト	『子どものうた』京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編 『新訂 バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の授業において実技課題の到達度を個別に確認する。								
留 意 事 項	実技練習を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	音楽の基礎（ピアノ・歌）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ト音記号の読譜および視唱 ピアノを弾く際の注意事項および試奏	（学修内容）ト音記号による読譜と視唱およびピアノを演奏する際の基本的注意事項について （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読んでおくこと。
第2回	ト音記号およびヘ音記号および視唱・試奏（個別レッスンを含む）	（学修内容）ト音記号およびヘ音記号による読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2章「音の高さ」の項目を読み、教則本での読譜練習をしておくこと。
第3回	音価 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の基本的な考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読み、教則本およびテキストでの読譜練習（視唱・演奏）をしておくこと。
第4回	音価 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の作品中でのとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章・第2章のワークシートを記入し、音の長さについて理解しておくこと。
第5回	音価 発展（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の相対的な違いについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 音価に関する小品課題を復習しておくこと。
第6回	拍子 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）基本的な拍子について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 基本的な拍子のとり方を復習しておくこと。
第7回	拍子 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）子どもの歌によく用いられる拍子とその拍のとり方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で取り上げた子どもの歌の拍子のとり方を復習しておくこと。
第8回	拍子とリズム 4分の4拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の4拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の4拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第9回	拍子とリズム 4分の2拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の2拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の2拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第10回	拍子とリズム 4分の3拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の3拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の3拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第11回	拍子とリズム 総合演習（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出の拍子・リズムについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 拍子・リズム等既学習事項を復習しておくこと。
第12回	さまざまなリズム シンコペーション・タイ等（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズム以外のリズム型（シンコペーション・タイ等）について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・タイ等既学習事項の復習をしておくこと。
第13回	さまざまなリズム 応用（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズムバリエーションの総合的な理解について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（120分） 既出のリズムの復習をしておくこと。
第14回	加線による読譜（ト音記号・ヘ音記号）（個別レッスンを含む）	（学修内容）加線が用いられた楽譜の読譜について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 加線読譜の復習をしておくこと。
第15回	既学習事項の総復習と課題の克服（個別レッスン・個別相談を含む）	（学修内容）14回目迄の既学習事項の確認と、読譜および演奏上の課題の解決方法について （事前事後学修課題の内容）（120分） 既学習事項の総復習と、授業で克服できなかった課題をまとめておくこと。

授業名	子どもの音楽 u a ~ u d			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1412
英文名	Children and Music I			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山中 信子・阿久津 啓			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、子どもの歌の歌唱・ピアノ教則本のレッスン・ピアノによる弾き歌い・音楽理論とを組み合わせる授業を行う。また、ピアノ実技に関しては毎回課題を課し、個別レッスンによって実技の習熟度を確認しながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 子どもの歌の基本的な歌唱やピアノの技術を習得することができる 2) 弾き歌いの基礎を習得することができる 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を習得することができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	小試験は回収後、解答の解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンを行う。								
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの音楽 u a ~ u d	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) ピアノのレベルチェック、進度確認。  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音部記号」	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 音楽理論「音部記号」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノおよび歌唱の予習復習・音楽理論「音部記号」の復習をしておくこと。
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音価」	(学修内容) および 「音価」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「音価」の復習をしておくこと。
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	(学修内容) および 「リズム」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「リズム」の復習をしておくこと。
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「調性」 音楽理論小試験	(学修内容) および 「調性」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「調性」の復習をしておくこと。
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「八長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「八長調とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「八長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「へ長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「へ長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「へ長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「ト長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「ト長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「二長調とそのカデンツ」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「二長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「二長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第10回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「平行調」	(学修内容) および 「平行調」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「平行調」の復習をしておくこと。
第11回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「和声進行」	(学修内容) および 「和声進行」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「和声進行」の復習をしておくこと。
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(基本形)」	(学修内容) および 「コードネーム」(基本形)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(基本形)の復習をしておくこと。
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(転回形)」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「コードネーム」(転回形)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(転回形)の復習をしておくこと。
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	(学修内容) 歌唱の総復習・小試験の実施  (事前事後学修課題の内容) (60分) 正しい発声・音程での歌唱および既習得のピアノ実技課題の復習をしておくこと。
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	(学修内容) ピアノ実技の総復習、小試験の実施  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ実技課題の総復習をしておくこと。

授 業 名	子どもの図画工作 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1405
英 文 名	Children and Art and Handicraft			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくりたりする活動は、子どもの発達にとって「知識を知恵に変える」大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力、構成力、集中力、計画性、正確さ、優しさや思いやり、伝統文化に対する「誇り」などが育つことに気付くことのできる授業にしたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることできる。 2) 作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることできる。 3) 制作した作品のプレゼンテーションをすることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (発想力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 (技術・技法)		
テ キ ス ト	幼児造形の基礎 樋口一成(萌文書林)2019年11月9日発行								
参 考 書	必要に応じて授業で指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出した制作物は、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参する。 小学校の公開授業参加、作品展(絵画造形展・アイデア展など)鑑賞、トイコンテストや作品展のボランティアを積極的に行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		子どもの図画工作 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 図画工作科の目標	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの全体に目を通しておく。	
第2回	水彩絵の具による表現(1) にじみ・ドリッピング	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法(1) (にじみ絵・ドリッピングなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.110~P.121を読んでおく。	
第3回	水彩絵の具による表現(2) デカルコマニー	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法(2) (デカルコマニーなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.122~P.123などを読んでおく。	
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 水彩絵の具による表現・作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第5回	パスによる表現 スクラッチ	(学修内容) パスによる技法(スクラッチなど)  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.124~P.125などを読んでおく。	
第6回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 パスによる表現・作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第7回	身近な作品の鑑賞(1) ~ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞~	(学修内容) 校内をそぞろ歩きながら、校内のまわりを観察し、いろいろな場面を造形的にとらえ直す (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、テーマを考えておく。デジタルカメラなど準備。 鑑賞したことの内容をまとめておく。	
第8回	身近な作品の鑑賞(2) ~ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞~	(学修内容) そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションを行い、鑑賞し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 造形的にとらえた写真を準備しプレゼンテーション内容を考えておく。 鑑賞したことの内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第9回	動くおもちゃ制作の導入(折紙による創作) しゃくとりむし・紙プロペラ制作	(学修内容) 子どものための造形活動と課題の説明。 動くおもちゃ制作(折紙による創作) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、配布プリントを読んでおく。 制作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第10回	動くおもちゃ制作 クルクルロケット・折紙だこ制作	(学修内容) 感性と創造性を育てる活動を計画する。 折紙による創作について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 凧が飛ぶための条件を考えておく。 制作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第11回	動くおもちゃ制作 風車鳥	(学修内容) 鳥の動きから発想する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 鳥が飛ぶ様子を観察する。飛ぶ仕組みを理解しておく。 制作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第12回	ドリームカー制作(車体づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の車体と車輪制作。  (事前事後学修課題の内容) (30分) ドリームカーのデザインを考え、動く仕組みを理解しておく。 制作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第13回	ドリームカー制作(外装づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の外装デザイン制作。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 外装デザインを考えておく。 制作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。	
第14回	ドリームカー競技会・鑑賞会	(学修内容) ドリームカー競技会・鑑賞会の企画運営をグループで分担して考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの内容を考えておく。	
第15回	まとめ・プレゼンテーション	(学修内容) 授業全体の振り返り 作品返却。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 制作した作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。	

授業名	子どもの算数			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2425
英文名	Children and Arithmetic			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	重松 敬一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	算数科教育において、学びに向かう力、人間性等などの目標にもとづいて教材研究し、子どもの算数の発想を知ることを通して学習指導案を作成する準備をすることに焦点をおいて授業を進める。とくに、数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。講義形式を中心に、ディスカッションやプレゼンテーションを加えて授業する。								
学修成果到達目標	1) 算数科教育において、学びに向かう力、人間性等や数学的な見方・考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成での算数の内容や子どもの算数の発想を理解できる。 2) 数学的及び社会的な視点で算数の内容を考察し、算数科教育の意義を理解できる。 3) 学習指導案作成にあたっての算数の教材研究が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」(平成30年2月、日本文教出版)、講義中にプリントなども配布する								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	毎時の提出課題や授業コメントに対しては、次時にコメントを返します。								
留意事項									
オフィスアワー	メールで対応します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：広島女子商業高等学校非常勤、東大寺学園高等学校非常勤								

授 業 名	子どもの算数	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに - 算数科教育の教科内容と子どもの算数について	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)
第2回	算数の内容：数学の特徴をもとに考える	(学修内容) 自分の学習経験と算数の内容や子どもの見方・考え方を比較する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の学習経験を振り返る
第3回	数学のいくつかの側面と算数の内容	(学修内容) 算数の内容での数学的見方・考え方など特徴を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な数学の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	歴史的な視点からの算数教育：戦前の算数の内容の特徴	(学修内容) 今日の算数の内容を戦前の歴史的な視点から振り返る (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 和算と今日の算数内容との関連を知る。
第5回	歴史的な視点からの算数教育：戦後の算数の内容の特徴	(学修内容) 今日の算数の内容を戦後の歴史的な視点から振り返る (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する かけ算の教材研究で特徴を知る
第6回	現代的な課題からの算数教育(1)：自然数や整数に関する内容	(学修内容) ものを数えることなどの算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 幼児の算数から子どもの算数と算数の教材研究を知る
第7回	現代的な課題からの算数教育(2)：整数の計算に関する内容	(学修内容) 整数の計算に関する算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 計算の教材研究を知る
第8回	現代的な課題からの算数教育(3)：分数や小数とその計算に関する内容	(学修内容) 分数や小数とその計算に関する算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 分数や小数とその計算の教材研究を知る
第9回	現代的な課題からの算数教育(4)：自然数・整数・有理数に関するまとめ	(学修内容) 数の持つ体系的な性質や見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 数や計算の教材研究を知る
第10回	現代的な課題からの算数教育(5)：図形に関する内容	(学修内容) 図形に関する算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 図形の教材研究を知る
第11回	現代的な課題からの算数教育(6)：測定に関する内容	(学修内容) 長さや広さなどに関する算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 測定の教材研究を知る
第12回	現代的な課題からの算数教育(7)：変化と関係、データの活用に関する内容	(学修内容) グラフなどに関する算数の内容と見方・考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する 変化と関係やデータの活用の教材研究を知る
第13回	算数の内容と日常や社会との関係：生活的な視点から教材研究する	(学修内容) 身近な生活への活用の視点から算数の内容と見方・考え方を理解すると共に、教材研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ配布するプリントを理解し、プレゼンテーションを準備する
第14回	算数の内容と日常や社会との関係：社会的な視点から教材研究する	(学修内容) 社会での活用の視点から算数の内容と見方・考え方を理解すると共に、教材研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ配布するプリントを理解し、プレゼンテーションを準備する
第15回	補足とまとめ	(学修内容) 本講義の内容を振り返り、算数の内容と見方・考え方をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する



授業名	子どもの社会			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2424
英文名	Children and Social Studies			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。								
学修成果到達目標	1) 戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2) 民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。 3) 現代の社会の状況を「自分の言葉」で分かりやすく伝えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テキスト	授業時に資料を配布します。								
参考書	前田賢次・荒井真一編『学力と教育課程の創造 社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社 2013年、また適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留意事項	授業前に復習をしておくこと(受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります)。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名		子ども社会
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	社会科の歴史(1) 初期社会科と問題解決学習論	(学修内容) 社会科とは、戦後教育改革と1947年版学習指導要領、社会科の本質と性格 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「戦後教育と社会科の歩み1 社会科略史の講読」
第3回	社会科の歴史(2) 民間社会科の実践と系統学習論	(学修内容) 1955年版から1977年版までの社会科学学習指導要領、文部省社会科と民間社会科の違い、民間社会科の歴史・地理教育の実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「戦後教育と社会科の歩み2 社会科学力論の変遷」の講読
第4回	社会科の歴史(3) 社会科と生活科・総合学習の共存	(学修内容) 1989年版学習指導要領以後の社会科、生活科・総合学習と社会科の総合性、現代的課題と社会科 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「現代の社会科の学力を問う 3 生活科・総合学習と社会科」の講読
第5回	社会科の歴史(4) 現代の社会科の学力とシティズンシップ教育	(学修内容) 2008年版学習指導要領と「生きる力」、シティズンシップ教育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「現代の社会科の学力を問う 1 今、問われる社会科の学力」の講読
第6回	教材づくりについて	(学修内容) 教科書研究から教材づくりと教材化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「社会科の授業づくりと学力」の講読
第7回	地域学習について	(学修内容) 地域に根ざす教材づくり (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域の魅力を紹介するレジュメの作成
第8回	産業学習について	(学修内容) 産業学習と日本社会の産業構造 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「小学校社会科の授業づくりと学力」の講読
第9回	グローバル化と情報化社会の学習について	(学修内容) グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「小学校社会科の授業づくりと学力」の講読
第10回	指導案づくりの実習(1)	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成
第11回	指導案づくりの実習(2)	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成
第12回	模擬授業(1): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第13回	模擬授業(2): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第14回	模擬授業(3): グループワーク	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成
第15回	まとめ	(学修内容) グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「21世紀社会科の展望と課題」の講読

授 業 名	子どもの国語（書写を含む。）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2437
英 文 名	Children and Japanese Language (including Calligraphy)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>学習指導要領にもとづきながら、小学校国語科の目標および内容を理解するとともに、保育所・幼稚園等との接続について考察する。また、絵本や童話などの物語、昔話や言葉遊びなどの言語文化、情報機器など、各教材の効果的な活用方法を理解し、それらの特性を活かした授業設計について実践的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)小学校国語科の目標および内容、ならびに保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「言葉」の要点を理解し、小学校教育とのつながりについて説明できる。 2)物語や説明文、言語文化、情報機器などの活用方法や特徴を理解し、それらを扱った授業構想案を作成できる。 3)教師として求められる基本的な日本語表現の能力を身に付けている。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	<p>佐藤喜一『基礎からのジャンプアップノート 漢字2500 書き取り 改訂版』旺文社、2017年 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』文部科学省、2017年 『こくご 一年上』『こくご 一年下』光村図書 『しょしゃ 一ねん』『書写 三年』教育出版</p>								
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、2018年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントとともに返却します。								
留 意 事 項	毎回漢字や語彙の小テストを行いますので、テキストを予習してきてください。また、グループおよび個人での発表も行いますので各自十分な準備をしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業の際に説明します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもの国語（書写を含む。）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の進め方や評価の方法、課題図書などについて （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）シラバスを読んでおく （事後）課題図書を入手し、読書ノートを作成する
第2回	小学校国語科の目標および内容	（学修内容）学習指導要領に示された小学校国語科の目標および内容について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）学習指導要領の目次と内容を概観しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第3回	「10の姿」と国語科	（学修内容）「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や領域「言葉」と小学校との接続を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）保育内容指導法などの既習科目のプリント等を確認する （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第4回	接続カリキュラムについて	（学修内容）アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）授業で配布した資料を読んでおく （事後）各自治体の資料を読む
第5回	図書館の活用	（学修内容）学校図書館の役割と読書教育について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書の該当教材を読んでおく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第6回	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム	（学修内容）グループワークを通して、割り当てられた自治体の接続カリキュラムの概要や実例をまとめ、考察を含めプレゼンテーションする （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）資料を読み込み参考文献を集め発表準備をする （事後）感想文をもとに小レポートを作成する
第7回	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム	（学修内容）グループワークを通して、割り当てられた自治体の接続カリキュラムの概要や実例をまとめ、考察を含めプレゼンテーションする （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）資料を読み込み参考文献を集め発表準備をする （事後）感想文をもとに小レポートを作成する
第8回	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム	（学修内容）グループワークを通して、割り当てられた自治体の接続カリキュラムの概要や実例をまとめ、考察を含めプレゼンテーションする （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）資料を読み込み参考文献を集め発表準備をする （事後）感想文をもとに小レポートを作成する
第9回	書写（硬筆）/課題図書の発表	（学修内容）姿勢や筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方などの指導法を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）ひらがなの由来や書き順などについて調べておく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第10回	書写（毛筆）/課題図書の発表	（学修内容）毛筆書写に必要な道具の使い方や姿勢などの指導法を理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）道具をそろえ、硬筆との違いや共通点を考える （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第11回	「話すこと、聞くこと」/課題図書の発表	（学修内容）指導要領における「話すこと、聞くこと」の内容と教材の検討 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書の該当教材を読んでおく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第12回	「書くこと」/課題図書の発表	（学修内容）指導要領における「書くこと」の内容と教材の検討 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書の該当教材を読んでおく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第13回	「読むこと」/課題図書の発表	（学修内容）指導要領における「読むこと」の内容と教材の検討 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書の該当教材を読んでおく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第14回	「伝統的な言語文化」/課題図書の発表	（学修内容）「伝統的な言語文化」の内容と教材の検討 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）昔話や言葉遊び、ことわざなどについて調べておく （事後）教科書の該当箇所を読み、ノートにまとめる
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業内容を振り返り、課題を提示する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）これまでの資料をまとめ、質問事項を整理しておく （事後）これまでの学びをレポートにまとめる

授 業 名	家庭科教育			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Elementary School Home Economics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教科「家庭」の教育理念、教育目標、教育内容を理解する。学習指導要領で示された「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の3つの領域を基底に、家庭科を学ぶ意義を講義する。理解を深めるため、適宜ディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 教科「家庭」を学ぶ意義を説明できる。 2. 児童に「家庭」を教授するための基礎的知識が身につく。 3. 小学校で「家庭」を教授するための方法や工夫を理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 東洋館出版								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		家庭科教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 科目の概要と目的 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	家庭科を学ぶ意義	(学修内容) 家庭科の特徴と学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第3回	家庭科で育む能力	(学修内容) 子どもの発達と家庭科で育む資質・能力について 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第4回	家庭科のあゆみ	(学修内容) これまでの家庭科の歩みについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第5回	学習指導要領：家庭科の目標	(学修内容) 学習指導要領の理解：家庭科の目標と内容構成について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	学習指導要領：家族・家庭生活	(学修内容) 学習指導要領の理解：「家族・家庭生活」について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領：衣食住	(学修内容) 学習指導要領の理解：「衣食住の生活」について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	学習指導要領：消費生活・環境	(学修内容) 学習指導要領の理解：「消費生活・環境」について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第9回	家族・家庭生活	(学修内容) 「家族・家庭生活」に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第10回	食生活の基礎	(学修内容) 「食生活」に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第11回	衣生活の基礎1 衣服の材料・サイズ表示	(学修内容) 「衣生活」に関する基礎知識、衣服の材料とサイズ表示について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第12回	衣生活の基礎2 衣服の洗濯と管理	(学修内容) 「衣生活」に関する基礎知識、洗濯と管理について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第13回	住生活の基礎	(学修内容) 住生活に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第14回	消費生活・環境の基礎	(学修内容) 消費生活と環境に関する基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第15回	総括	(学修内容) 家庭科の授業づくりに関して考えをまとめ、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの内容を整理する

授業名	理科教育			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Elementary School Science			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	講義形式の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている4領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質の向上を図る。実験・観察に必要な基本的知識を教授し、効果的な実験技術・方法について具体例を挙げながら教授する。また、自然の中の科学的な事象について観察・分析し、アクティブラーニング形式でも行う。								
学修成果到達目標	1) 自然の事物・現象についての実感を伴った理解ができる。 2) 見通しをもって観察・考察し、科学的な言葉や概念で表現できる。 3) 小学校理科の基本が理解でき、実際の指導が可能となる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	石浦章一、鎌田正裕著 『わくわく理科6』 啓林館 2015年								
参考書	森本信也、森脇義孝編 『小学校理科教育法』 建帛社 2018年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	4～5名を1グループとして模擬授業を行う。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	理科教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション わたしたちの地球について考える	(学修内容) 水、大気、生命、緑について。 模擬授業のグループ分けを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 1~7を一読しておくこと。 模擬授業の担当箇所を考えておく。
第2回	ものが燃えるとき	(学修内容) 燃焼時の空気の変化について。 模擬授業の担当を決める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 8~21を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第3回	動物の構造	(学修内容) 消化と吸収のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 22~31を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第4回	動物の機能	(学修内容) 呼吸と循環のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 32~41を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第5回	植物の構造	(学修内容) 維管束のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 42~50を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第6回	植物の機能	(学修内容) 光合成のしくみについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 51~59を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第7回	生物のつながり	(学修内容) 食物と空気によるつながりについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 60~71を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備しておく。
第8回	自由研究	(学修内容) 課題を決め計画をたて、まとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 72~77を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備する。
第9回	水溶液の性質	(学修内容) 理科室の使い方や水溶液の性質 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 78~99を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第10回	月と太陽	(学修内容) 月の運動と太陽の動きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 100~113を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第11回	大地のつくり	(学修内容) 地層のでき方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 114~129を一読しておくこと。 模擬授業を担当するグループは準備する。
第12回	大地の変化	(学修内容) 火山と地震について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 130~143を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第13回	てこのはたらき	(学修内容) てこの原理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 144~157を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第14回	発電と電気の利用	(学修内容) 発電と蓄電、電気の変換について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 158~175を一読しておくこと。 理解度テストの準備をしておく。
第15回	自然とともに生きる	(学修内容) 自然の事象について科学的分析を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p 176~207を一読しておくこと。 模擬授業を行うグループは準備しておく。



授 業 名	子どもの外国語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2438
英 文 名	Children and Foreign Language			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	2020年度より、「外国語活動」の授業が小学校3年生から引き下げられて実施、また教科「外国語」が小学校5年生から実施されています。小学校教諭免許を取得希望する学生は、外国語に関する授業を子どもたちに指導するスキルが必要です。この授業では、児童を対象にした外国語教育法に関する講義のほか、ビデオを見たり、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進めます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 小学校の外国語に関する授業時の注意点を指摘することができる。 2) 学年に応じた指導案を書くことができる。 3) 簡単な教室英語を使用して、生徒に指示を出すことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	樋口忠彦他編著『新編小学校英語教育法入門』研究社 2,100円+税 文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』 テキスト購入については初めの授業で説明します。								
参 考 書	文部科学省著『Hi, friends!』東京書籍 2012年 文部科学省著『Let's Try! 1, 2』文部科学省 文部科学省著『We Can! 1, 2』文部科学省 文部科学省著『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』開隆堂 128円+税								
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物については、コメントを付し答案返却期間に返却します。 実技については、その都度コメントを返します。								
留 意 事 項	小学校の授業見学、ボランティアを積極的に行ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：精華町立精華西中学校、精華町立川西小学校 非常勤国際理解教育講師 京都市立横大路小学校、京都市立洛央小学校 外国語指導助手								

授業名	子どもの外国語	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 1章：教育の目的と目標 ビデオ視聴	(学修内容) 授業概要説明、ビデオによる模擬授業視聴 学習指導要領、外国語活動、教科としての外国語他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：1章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：1章の学習課題について考える。
第2回	2章：関連分野からみる外国語教育の意義と方向性	(学修内容) 第二言語習得、臨界期仮説、発達心理学他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：2章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：2章の学習課題について考える。
第3回	3章：指導者の役割・資質と研修 ビデオ視聴	(学修内容) 指導形態、指導者の役割他について ビデオによる模擬授業視聴 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：3章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：3章の学習課題について考える。
第4回	4章：教材の構成と内容	(学修内容) 日本で使用されるテキスト他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：4章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：4章の学習課題について考える。
第5回	5章：指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例	(学修内容) 年間指導計画、指導目標他の立て方と具体例について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：5章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：5章の学習課題について考える。
第6回	6章：言語材料と4技能の指導	(学修内容) 4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)の指導について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：6章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：6章の学習課題について考える。
第7回	7章：教材研究 - 児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動	(学修内容) うた、チャンツ、クイズ、ゲーム、絵本活動の具体例について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：7章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：7章の学習課題について考える。
第8回	8章：教材研究 - 児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動	(学修内容) 自己表現活動、国際理解活動、プロジェクト活動他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：8章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：8章の学習課題について考える。
第9回	9章：指導方法と指導技術	(学修内容) TPR、CLIL、ALや発達段階、学習段階他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：9章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：9章の学習課題について考える。
第10回	10章：いろいろな教材・教具の活用法	(学修内容) 教材、教具、機器の活用方法と作成方法他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：10章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：10章の学習課題について考える。
第11回	11章：評価のあり方、進め方	(学修内容) パフォーマンス評価、パフォーマンス課題、ルーブリック他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：11章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：11章の学習課題について考える。
第12回	12章：授業過程と学習指導案の作り方	(学修内容) 学習指導案の構成と作り方他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：12章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：12章の学習課題について考える。
第13回	13章：授業づくり	(学修内容) 学習指導案の作成他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：13章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：13章の学習課題について考える。
第14回	学生による模擬授業	(学修内容) プレゼンテーション：模擬授業発表(希望者のみ数名) (事前事後学修課題の内容) (180分) 事前：学習指導案作成 事後：模擬授業を振り返って学習指導案を修正
第15回	14章：豊かな小学校外国語教育をめざして	(学修内容) 外国語活動の成果と課題他について (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：14章をよく読みA4用紙2枚程度にまとめ授業開始時に提出。 事後：14章の学習課題について考える。

授 業 名	保育内容（造形表現）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2435
英 文 名	Child Care : the Formative Arts for Expressions			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 隆			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	造形表現の様々な演習を通して造形的感性、表現力、創造力などを養い、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る授業です。また、学修を通して子どもの表現活動の指導・支援について考察する機会でもあります。個人の創作活動だけでなく相互の助言、グループでの協働の取り組みやプレゼンテーションなど様々なアプローチで学修を深めるようにします。描く、形に表すにとどまらず、試す、完成したのから新しい表現や遊びを展開するなど直接体験し学びます。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 授業の取り組みで自ら考えて表現する、ねらいをもとに試したり表現を工夫したりする。 2) 友だちからのアドバイスを自身の表現に生かすことができる。友だちの表現に適切な助言をすることができる。 3) 授業の取り組みから子どもの姿を想定し、表現力を育てる指導・支援のあり方について考察することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 取り組みに対する考察力 )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	花篤實・岡田? 吾編『新造形表現 実技編』（三見書房）2012年（1回生春学期「図画工作」で購入のものを使用。実習・採用試験準備にも有用）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	共同制作やインスタレーションなどの取り組みについては教員がその都度口頭で評価する。表現活動の取り組みや鑑賞に関する受講生のコメントをプリントするなどクラス全体で学修の成果を共有できるようにする。								
留 意 事 項	1) 普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。 2) 汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装・持ち物で受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。(担当授業の前を希望する場合は事前に連絡をすること)								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など：</b> 幼稚園にて非常勤講師として絵画製作を担当。 京都教育大学教育学部附属京都中学校に文部教官教諭(担当科目：美術)として勤務。								

授業名	保育内容（造形表現）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	（学修内容）領域「表現」について、本科目の概要と学修の意義を知る。履修上の留意事項。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（181ページ）「表現」の部分を目を通しておく。
第2回	材料体験：ねんど遊び	（学修内容）小麦粉でねんどをつくり、触感を確かめたり遊んだりするとともに、子どもの造形について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（33,133ページ）に目を通しておく。ねんどを持ち帰り材料の変化を確認する。
第3回	触覚を重視した描画活動	（学修内容）自分で絵の具をつくり、フィンガーペインティングで身体全体を使って大きな画面に描く。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（24ページ）に目を通しておく。
第4回	友達とつくるソフトスカルプチュア（身近材による立体造形）	（学修内容）大量の新聞紙を用いた立体表現に挑む（共同で考えて一つのものをつくる） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（49ページ）に目を通しておく。
第5回	空間にかかわる造形遊び（線材によるインスタレーション）	（学修内容）ナイロンテープを用いて身体全体で空間の変容に取り組む（共同で表現する） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（48ページ）に目を通しておく。
第6回	多様な平面表現：凸凹を写し取る（フロッターージュ）	（学修内容）もの、場所の凸凹を発見しフロッターージュで紙に写し取る。重ねたりずらしたりして新しい平面の表現を工夫する。（ペアで活動する） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（28ページ）に目を通しておく。
第7回	多様な平面表現：前回の制作物によるコラージュの制作	（学修内容）フロッターージュの作品をもとにアイデアを練り、構成して貼り絵（コラージュ）の作品に仕上げる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（29ページ）に目を通しておく。
第8回	グループで取り組む簡単な劇表現（発表と人形の構想）	（学修内容）ペープサートのアイデアを考える（グループでの取り組み） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト関連箇所（86,87ページ）に目を通しておく
第9回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形の制作）	（学修内容）ペープサートを制作する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 人形のデザインを考えておく。
第10回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形の接着、発表練習）	（学修内容）ペープサートを完成し発表練習をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表の内容を具体的に決める。
第11回	グループで取り組む簡単な劇表現（人形を用いた発表）	（学修内容）ペープサートの発表をする、他のグループの発表を鑑賞する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表の練習をしておく。
第12回	材料研究：上質紙を用いた紙の加工法の探求	（学修内容）独自の紙の加工法を探求し、成果をまとめるとともに互いの成果を交流する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（151,152ページ）に目を通しておく。
第13回	ケント紙を用いた造形遊び	（学修内容）グループでアイデアを出し合い、ケント紙で高い塔をつくる（共同制作） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（80ページ）に目を通しておく。
第14回	身近材を用いた造形遊び（材料、空間の特徴を生かした表現）	（学修内容）大量のA4判チラシを用いて表現する（共同制作） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（45,74,76,77ページ）に目を通しておく。
第15回	「保育内容(造形表現)」学修のまとめ	（学修内容）各自の授業の振り返りと指導者のまとめ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自身の授業の取り組みを振り返っておく。

授 業 名	保育内容（音楽表現）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3458
英 文 名	Child Care : Musical Expression			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそびや歌唱指導の実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を習得する。このため、グループによる実践発表とそれに対するディスカッションを交えながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現について理解することができる。 2) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現と、造形およびリズムの表現との有機的関連性について理解することができる。 3) 音楽的表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法および援助方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	井口太編著『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社								
参 考 書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省								
課題に対する フィードバック の方法	授業課題に対して理解度確認のための小レポートを課し、回収後、学生にコメントをつけて返却する。グループ発表に関しては発表後に全員が無記名でコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。シートは回収した後にコメントの再共有を授業で行い、その後発表したグループに返却する。								
留 意 事 項	グループでの実践発表を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容（音楽表現）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	鍵盤和声	（学修内容）鍵盤和声について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調の主要3和音を復習しておくこと。
第3回	鍵盤和声実践・小試験	（学修内容）主要3和音の復習を踏まえた伴奏付けの演習（和音進行の把握）・和声・非和声音の把握 （事前事後学修課題の内容）（60分） 鍵盤和声の予習・復習をしておくこと。
第4回	保育実践における手あそびとその展開	（学修内容）手あそびとそのバリエーションについて。導入から展開方法について （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、今まで習得した手あそびとその展開方法について思い出し、実践できるよう準備しておくこと。
第5回	簡易楽器を使った合奏と楽器の活用	（学修内容）鈴・カスタネット等の簡易楽器を用いた合奏とその活用のバリエーションについて （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.114 - 123 「各簡易楽器の基本的持ち方や奏法」に関する小レポートを作成し、提出すること。
第6回	音あそび	（学修内容）様々な音素材を扱った音あそびについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め、楽器以外の身の回りの音素材を探し、授業時に持参すること。
第7回	歌唱指導（基礎）	（学修内容）幼児に歌唱指導をする際の流れ・留意点等について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第8回	歌唱指導（応用）	（学修内容）歌唱指導教材の年齢別検討について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を再度読み返し、返却された小レポートを再構成して提出すること。
第9回	歌唱指導（発展）	（学修内容）歌唱指導の指導案の作成について （事前事後学修課題の内容）（60分） p.40-「音楽的表現の活動」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第10回	歌唱指導発表（基礎）	（学修内容）基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表準備をしておくこと。 指導案を作成して提出すること。
第11回	歌唱指導発表（応用）	（学修内容）第1回目の発表を踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。 歌唱指導小レポートを作成して提出すること。
第12回	歌唱指導（発展）	（学修内容）第2回目の発表を踏まえたグループ発表・小討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。
第13回	歌唱指導（発展）	（学修内容）第3回目の発表を踏まえたグループ発表・小討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと
第14回	歌唱指導（討議）	（学修内容）全ての発表を終えてのグループディスカッション・クラスでの全体討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 実践発表の反省点等をまとめたレポートを作成し、提出すること。
第15回	まとめ	（学修内容）歌唱指導実践をはじめとした表現（音楽）の指導に関する総括（レポートを踏まえた振り返り） （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案の訂正等を行い、再構成して提出すること。

授 業 名	保育内容（人間関係）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2436
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現在、子どものコミュニケーション能力の不足や自制心の不足などが指摘されている。人との関わる力の問題には、社会や家庭のあり方が関わっている。このような状況の中、乳幼児期の子どもたちの保育を担う幼稚園や保育所の役割は大きいものとなっている。ここでは、様々な体験を通して、人と関わる力をつけていくことができるような保育や親等との愛着関係、その他、親子関係を構築するための保護者支援について学ぶ。グループで相互交流をして、考え、思考について相互理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育領域としての「人間関係」の基本原則を理解することができる。 2) 体験を通して成長、発達する子どもたちの人間関係について理解することができる。 3) 家庭の変容から子どもたちの成長、発達において、人間関係をどのように獲得していくかを理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践 保育内容シリーズ2 人間関係』一藝社、2018年								
参 考 書	授業中に、随時、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題レポートは、返却時し解説する。								
留 意 事 項	3回のレポート提出、ミニレポート（授業内で数回）を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をする。在室の時は可能である。（時間が取れない時は、調整して連絡する。）								
実践的教育									

授 業 名	保育内容（人間関係）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育の基本	（学修内容）保育とは何かについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト9頁から18頁を読み、理解しておく。
第2回	領域「人間関係」	（学修内容）領域「人間関係」とは何かについて、ねらいと内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト19頁から28頁を読み、理解しておく。
第3回	新生児の「人への関心」	（学修内容）赤ちゃんが持つ優れて能力について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト29頁から37頁までを読み、理解しておく。
第4回	人との関係の始まり	（学修内容）人から情報を得ることについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト38頁から47頁を読み、理解しておく。
第5回	人との関わりの基盤	（学修内容）アタッチメント関係の形成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト48頁から56頁を読み、理解しておく。事後：「アタッチメントについて」レポート800字程度でまとめ提出。
第6回	自我の発達	（学修内容）自我の発達によって獲得されるものと保育者との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前に、テキスト57頁から66頁を読み、理解しておく。この時間にレポート提出する。
第7回	道徳性の芽生え	（学修内容）道徳性の定義と発達を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト67頁から76頁までを読み、理解しておく。事後：P72-73の事例を読み、考察し、レポート800字程度にして提出。
第8回	思いやりと社会性の発達	（学修内容）思いやりの心理と行動、共感性の発達について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前に、テキスト77頁から85頁までを読み、理解しておく。この時間に、レポート提出する。
第9回	家族との関わり	（学修内容）依存と自立、家庭の中で身につける様々なルールについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト86頁から95頁までを読み、理解しておく。
第10回	保育者との関わり	（学修内容）子どもを迎える時、日々の保育について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト96頁から105頁までを読み、理解しておく。
第11回	遊びの中での関わりの育ち	（学修内容）遊びの発達と人との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト106頁から116頁までを読み、理解しておく。
第12回	友達との関わり	（学修内容）友達との関わりの発達過程について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト117頁から126頁までを読み、理解しておく。
第13回	関わりが「気になる子」	（学修内容）特別な支援を必要とする子どもについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト127頁から135頁までを読み、理解しておく。
第14回	関わりの育ちを支える	（学修内容）親子の関係づくりを支援することについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に、テキスト136頁から145頁を理解しておく。事後：本授業「人間関係」についての学びをレポート800字程度で提出。
第15回	領域「人間関係」の新しい課題	（学修内容）「人間関係」の授業を受け、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（50分） 事前に、テキスト146頁から154頁までを読む。全授業から学んだ内容について、発表をしてもらう予定である。（30）



授 業 名	保育内容（環境）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3446
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	梅田 真樹			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という観点から子どもの育ちを支える領域である。この授業の目的は、領域「環境」のねらいと内容についての理解を深め、子どもの発達や学びの過程を踏まえて、自然の物や教材、情報機器等を活用した具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることである。そのために、子どもの好奇心・探究心や科学的思考の芽生えを育む様々な方法を学び、子どもが自然環境・物的環境・社会環境と主体的に関わる際の保育者の役割を考える力を習得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>領域「環境」のねらいと内容についての理解を深める。子どもの発達や学びの過程を踏まえ、具体的な場面を想定して保育を構想できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (		)	
テ キ ス ト	適宜紹介する。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生が毎回提出する提出物を担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等をする。								
留 意 事 項	日頃から、各自、身近な「環境」についての興味・関心を持ち、自らの五感を磨いておくこと。多様なワーク（個人・グループ・フィールドなど）を実施するので、実際に体験することで学びを深めてほしい。なお、ワークについては、天候等により実施内容や順番を変更することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：17年間の養成校での経験をもとに環境に関する事例を積極的に取りあげる。								

授 業 名	保育内容（環境）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「環境」とは	（学修内容）領域「環境」のねらいと内容についての理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（10分） 復習としてシラバスを再度読み、全体の流れや評価の方法などを確認する。
第2回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	（学修内容）「自然との関わり・生命尊重」などを体験するためワークを実施する。（場所：大学周辺） （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、ワークで気づいたことを3分間で説明できるようにする。
第3回	季節の自然と保育活動 季節の自然との関わりについての教材研究	（学修内容）幼児が、身近にある自然に関心がもてるような環境マップを作成する。（場所：大学周辺） （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、季節の自然とのかかわりについて、教材研究をまとめてみる。
第4回	子どもの活動や生活と「環境」 動物飼育における学びとその指導	（学修内容）乳幼児の発達と環境（動物）との関わりについて理解するためワークを実施する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、ワークを体験して気づいたことを箇条書きでまとめる。
第5回	『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の改訂及び領域「環境」について	（学修内容）乳幼児期の「三つの資質・能力（認知的能力と非認知的能力）」について説明できる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、保育の基本：「環境を通して行う教育」「遊びを中心とした総合的な活動」についてまとめる。
第6回	園と地域社会とのかかわり 身近な地域社会との関わりについての教材研究	（学修内容）乳幼児が、発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設について教材研究をし、1枚のポートフォリオでまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、教材研究についての要点をまとめる。
第7回	自然を取り入れた遊びの指導（1） 物の性質や法則性の学び	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける生活と、身近な自然を取り入れた遊びについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第8回	自然を取り入れた遊びの指導（2） 遊びから科学へ	（学修内容）幼児の身近な自然との関わりにおける遊びについて、教材研究を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第9回	身近な物を使った遊びの指導（1） 物の性質や法則性の学び	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける生活と、身近な物を使った遊びについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第10回	身近な物を使った遊びの指導（2） 好奇心・探究心を育む	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて、主活動をデザインする。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第11回	身近な物を使った遊びの指導（3） 色や絵に親しむ保育実践	（学修内容）幼児の身近な環境との関わりにおける遊びについて、異なった角度から検証し、実践する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、活動について配慮すべき事項についてポイントを書き挙げる。
第12回	子どもの育ちと領域「環境」	（学修内容）子どもの育ちと環境、子どもにとっての環境についてまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、これまで学んだことをふまえて、子どもの育ちと環境について要点をまとめる。
第13回	保育指導案の作成と模擬保育（1） 領域「環境」指導上の課題	（学修内容）領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んで要点をまとめておく。
第14回	保育指導案の作成と模擬保育（2） 領域「環境」における保育者の役割	（学修内容）領域「環境」における保育者の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 復習として、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「環境」の該当箇所を読んで要点をまとめておく。
第15回	保育の現代的課題と領域「環境」	（学修内容）保育の現代的課題から未来の保育を考え、その中で領域「環境」が果たす役割について考える。 （事前事後学修課題の内容）（40分） これまでの内容を振り返り、要点をまとめる。

授 業 名	保育内容（言葉）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3447
英 文 名	Child Care : Language			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	ことばの特性を理解した上で、乳幼児期のことばの発達に基づいて、保育の留意点を解説する。その上で、絵本、ことばあそび、紙芝居、劇遊びなどの展開について体験的に学び、授業を進めていく。劇遊びについては、実際に上演することで、ものがたりの内容を深く理解し、劇をつくりあげる楽しさを実感できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	西川由紀子 子どもの思いにこころをよせて 0 . 1 . 2 歳児の発達 かもがわ出版 西川由紀子 かかわりあって育つ子どもたち 2 歳から 5 歳の発達と保育 かもがわ出版 文部科学省 『幼稚園教育要領』厚生労働省 『保育所保育指針』								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	課題の成果やレポートについては、授業で発表や紹介などしながら解説する。質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回に連絡する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容（言葉）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ことばとは何か	（学修内容）ことばのもつ機能について解説し、授業の展開を説明する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） シラバスを読んでおく。
第2回	0歳、1歳、2歳児のことばの発達	（学修内容）0歳、1歳、2歳児のことばの発達を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の0歳、1歳、2歳、の2歳の部分のことばの発達の部分を読んでくる。
第3回	3歳、4歳、5歳児のことばの発達	（学修内容）3歳、4歳、5歳児のことばの発達を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の3歳、4歳、5歳児のことばの発達の解説部分を読んでくる。
第4回	絵本の楽しみ 絵の楽しさ	（学修内容）子どもの視点に立って、絵本を見る経験をし、絵本の楽しさを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） さまざまな絵本を見てくる。
第5回	絵本の楽しみ 絵本の特徴を考える	（学修内容）絵本の特徴を、他のメディアとの比較から捉え、絵本の楽しさを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	書きことばの世界の展開	（学修内容）幼児にとっての文字の魅力を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の4歳、5歳児のことばの解説部分を読んでくる。
第7回	ことばあそび	（学修内容）おはなしづくり、しりとりをはじめとする、さまざまなことばあそびを体験しながら、幼児にとってのことばあそびの意義を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） ことばあそびについて、振り返ってくる。
第8回	絵本読みの実際	（学修内容）小グループで読み聞かせの体験をし、絵本の読み方のコツをつかむ。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 自分が子どもの頃好きだった絵本を探し出し、絵本紹介のレポートを作成し、読み聞かせをする練習をしてくる。
第9回	紙芝居の読み方	（学修内容）紙芝居の読み方の基本を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 紙芝居を聞いた経験を振り返ってくる。
第10回	教材研究の方法・指導案の作成	（学修内容）絵本や紙芝居の読み取りをどのように深めていくかを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 興味のある絵本や紙芝居を探し出し、読み深めてくる。
第11回	劇遊び 3歳児	（学修内容）3歳児の劇遊びのビデオ鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 3歳児の発達について復習しておく。
第12回	劇遊び 4歳児	（学修内容）4歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、子どもの好きな物語創作のポイントを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 4歳児の発達について復習しておく。
第13回	劇遊び 5歳児	（学修内容）5歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 5歳児の発達について復習しておく。
第14回	劇あそびの実際	（学修内容）小グループで劇をつくり上演する。 （事前事後学修課題の内容）（180分） 小グループで劇を練習してくる。
第15回	ビデオ画像による模擬保育のふりかえり	（学修内容）劇発表会を通して感じた、ものがたりの力、演じる楽しさを確認し、保育でたいせつにすべきことを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表会の振り返りをレポートとしてまとめてくる。

授 業 名	教育方法論（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Teaching Method			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 奈美			対 象 学 生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格科目）				
授業の概要	<p>授業では、学校教育において活動を組織していくために必要な方法についての力量の育成を目標とし、以下の3つの活動をおこなう。</p> <p>(1)教育活動をつくっていくために必要な基礎的なことならについて、理解を深める（例：授業の構成要素）。</p> <p>(2)教育方法学に関する理論や歴史を、教師の授業実践を通して学び、議論する。</p> <p>(3)指導案を作成し、模擬授業を実施。互いの授業を改善していくための検討会を実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 授業において議論した理論や実践を理解できる。</p> <p>2) 自分が行いたい授業を具体的に構想・計画することができる。</p> <p>3) 自分が行いたい授業を実施できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( )		
テ キ ス ト	田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 2 実践から教育を問い直す』日本標準、2009年、ISBN: 4820804227。								
参 考 書	<p>有田和正『若い教師に贈るこの一冊1 有田和正の授業力アップ入門』明治図書、2005年。</p> <p>田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年。</p> <p>田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>田中耕治、鶴田清司、橋本美保、藤村宣久『新しい時代の教育方法』有斐閣、2012年。</p> <p>田中耕治、石井英真、八田幸恵、本所恵、西岡加名恵『教育をよみとく』有斐閣、2017年。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートやリアクションペーパーは提出の翌週にコメントや回答をする。授業時の発表についてはその都度コメントする。								
留 意 事 項	授業で学んだ理論を踏まえて、学習指導案の作成と模擬授業を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に相談。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教育方法論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	はじめに：よい授業とは？	<p>（学修内容）「よい授業」とはどのようなものかについて自分自身の教育経験を振り返って検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（20分） 自分自身の教育体験を振り返り、現時点での「よい授業」の構成要素および条件を書き出してくる。</p>	
第2回	教育目標と学力	<p>（学修内容）教育目標とそれを達成するための方法の策定のあり方を、過去の実践を検討することによって考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、事例の教師が設定した教育目標と、それを達成するための方法についてまとめる。（</p>	
第3回	学校教育と生活	<p>（学修内容）学校教育と人間の生（生活）の関連について過去の実践を検討することによって考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、事例の教師がいかに学校教育と生徒・児童の生活を繋げようとしたのか、そのねらいを考える</p>	
第4回	教えることと学ぶこと	<p>（学修内容）実践事例における、発問や声がけといった生徒・児童の学習を促すための教師の手立て・工夫を考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、教師がどのような教育的工夫を行なっているのかをまとめる。</p>	
第5回	教材研究と授業づくり	<p>（学修内容）教材研究と授業づくりについて、具体例を検討することによって考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料から、教師がどのような配慮、目的をもって事例の教材を作成していったのかをまとめる。</p>	
第6回	食と教育	<p>（学修内容）食育の実践事例を、教育方法的観点から考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（50分） 事例を読み、教師がどのような配慮や工夫をし、授業を実践しているかをまとめる。</p>	
第7回	性と教育	<p>（学修内容）性教育の実践事例を、教育方法的観点から考察する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（50分） 事例を読み、教師がどのような配慮や工夫をし、授業を実践しているかをまとめる。</p>	
第8回	教育評価の方法と学習指導案の書き方	<p>（学修内容）評価指標の具体例を検討するとともに、学習指導案の書き方を学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事例の教育評価基準の設定の仕方を分析するとともに、学習指導案の作成における要点をまとめ、自分自身の学習指導案の作成に活用する。</p>	
第9回	食育の実践事例の分析 教育目標と方法	<p>（学修内容）教育目標と方法の観点から、事例における教師の取り組みを検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（20分） 配布資料「実践記録を読もう」を読み、実践の分析視点をまとめる。</p>	
第10回	食育の実践事例の分析 学習者の学び	<p>（学修内容）事例において、学習者の学びに教師の働きかけがいかに作用したのか、という観点から検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（20分） 記録から読みとった点を整理する。</p>	
第11回	実践分析の共有と学習指導案・模擬授業の準備	<p>（学修内容）実践分析についてクラスで共有する。その後、自分の指導案の改善について教員・クラスメートと議論し、模擬授業の手順を確認する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 実践分析をまとめる。学習指導案を完成させ、模擬授業に備える。</p>	
第12回	模擬授業（1）	<p>（学修内容）1人10-15分程度の模擬授業の実践と、クラス全体で行う授業検討会を実施する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 自分自身の模擬授業の準備を行うとともに、模擬授業・検討会の一連の流れと内容を確認しておく。</p>	
第13回	模擬授業（2）	<p>（学修内容）1人10-15分程度の模擬授業の実践と、クラス全体で行う授業検討会を実施する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 自分自身の模擬授業の準備を行うとともに、模擬授業・検討会の一連の流れと内容を確認しておく。</p>	
第14回	模擬授業（3）	<p>（学修内容）1人10-15分程度の模擬授業の実践と、クラス全体で行う授業検討会を実施する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 自分自身の模擬授業の準備を行うとともに、模擬授業・検討会の一連の流れと内容を確認しておく。</p>	
第15回	授業全体のふりかえり：よい授業とは？	<p>（学修内容）「よい授業」とはどのようなものか、授業第1回目に検討した問題を、講義・模擬授業実践を経て再考する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（30分） 授業全体の振り返りを作成する。</p>	

授 業 名	教育方法論（幼・小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Teaching Method			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 奈美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>授業では、学校教育において活動を組織していくために必要な方法についての力量の育成を目標とし、以下の3つの活動をおこなう。</p> <p>(1)教育活動をつくっていくために必要な基礎的なことならについて、理解を深める（例：授業の構成要素）。</p> <p>(2)教育方法学に関する理論や歴史を、教師の授業実践を通して学び、議論する。</p> <p>(3)指導案を作成し、模擬授業を実施。互いの授業を改善していくための検討会を実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 授業において議論した理論や実践を理解できる。</p> <p>2) 自分がおこないたい授業を具体的に構想・計画することができる。</p> <p>3) 自分が行いたい授業を実施できるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年、ISBN:4820802569。								
参 考 書	<p>有田和正『若い教師に贈るこの一冊1 有田和正の授業力アップ入門』明治図書、2005年。</p> <p>田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 2 実践から教育を問い直す』日本標準、2009年。</p> <p>田中耕治、鶴田清司、橋本美保、藤村宣久『新しい時代の教育方法』有斐閣、2012年。</p> <p>田中耕治、石井英真、八田幸恵、本所恵、西岡加名恵『教育をよみとく』有斐閣、2017年。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーや小レポートについては提出の翌週にコメントや回答をする。授業時の発表は、その時にコメントやアドバイスをする。								
留 意 事 項	授業で学んだ実践例、理論、技術を踏まえて、授業の後半に、学習指導庵の作成および模擬授業を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に連絡。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教育方法論（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに：よい授業とは？	（学修内容）「よい授業」とはどのようなものかについて自分自身の教育経験を振り返って検討する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 自分自身の教育体験を振り返り、現時点での「よい授業」の構成要素および条件を書き出してくる。
第2回	教育目標と学力：「ほんものの教育」とは何か	（学修内容）教育目標とそれを達成するための方法の策定のあり方を、過去の実践を検討することによって考察する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、事例の教師が考えた「ほんものの教育」とは何なのかについてまとめる。
第3回	生きることと学ぶこと：「生活の論理」と「教科の論理」	（学修内容）人間の生（生活）と学ぶこととの関連について過去の実践を検討することによって考察する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、事例の教師が考えた「生活の論理」と「教科の論理」のねらいを考える。
第4回	教えることと学ぶこと：生徒の理解に寄りそう	（学修内容）「生徒の理解に寄りそう」とはどのようなことなのかを過去の実践を検討することによって考察する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 教科書の該当箇所を読み、教師がどのように「生徒の理解に寄りそおう」としたのかをまとめる。
第5回	教材研究と授業づくり	（学修内容）教材研究と授業づくりについて、具体例を検討することによって考察する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料から、教師がどのような配慮、目的をもって事例の教材を作成していったのかをまとめる。
第6回	学習環境の整備と生徒とのコミュニケーション	（学修内容）学習環境の整備と教育的コミュニケーションのあり方を、具体例を検討することによって考察する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、事例の教師が、学習環境の整備と生徒とのコミュニケーションで大切にしていることをまとめる。
第7回	教育評価の方法	（学修内容）教育評価の方法の理論と実践について、事例を通して考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料に提示されているパフォーマンス課題を検討し、それぞれの目的と評価基準の設定の仕方を分析する。
第8回	学習指導案の書き方	（学修内容）学習指導案の書き方について実践的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、学習指導案の作成における要点をまとめ、自分自身の学習指導案の作成に活用する。
第9回	幼稚園における教育方法の事例観察	（学修内容）教育方法学的視点をもって、幼稚園での教育実践を記録したドキュメンタリーを視聴する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 配布資料「実践記録を読もう」を読み、教育実践の分析視点をまとめる。
第10回	幼稚園における教育方法の事例分析	（学修内容）教育方法学的視点をもって、幼稚園での教育実践を記録したドキュメンタリーを分析し、分析結果をグループで共有する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 記録から読みとった点を整理する。
第11回	学習指導案と模擬授業の準備	（学修内容）作成した指導案の改善について教員・クラスメートと議論する。模擬授業の手順を確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導案を完成させ、模擬授業に備える。
第12回	模擬授業（1）	（学修内容）グループごとに、1人10-15分程度の模擬授業の実践、授業分析をおこなう。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分自身の模擬授業の準備を行うとともに、模擬授業・検討会の一連の流れと内容を確認しておく。
第13回	模擬授業（2）	（学修内容）前週のグループで、残りのメンバーが1人10-15分程度の模擬授業の実践、授業分析をおこなう。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分自身の模擬授業の準備を行うとともに、模擬授業・検討会の一連の流れと内容を確認しておく。
第14回	模擬授業のふりかえり	（学修内容）模擬授業の振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループメンバーからのコメントや自分自身の感想等を踏まえて、模擬授業の振り返りシートの問いに答える。
第15回	授業全体のふりかえり：よい授業とは？	（学修内容）「よい授業」とはどのようなものか、授業第1回目に検討した問題を、講義・模擬授業実践を経て再考する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業全体の振り返りを作成する。



授 業 名	保育内容総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1417
英 文 名	Outline of Child Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	保育所、幼稚園、認定こども園の特徴について解説した後、保育の目標と保育内容の関連を解説する。続いて、保育の内容の歴史的な変遷を学ぶ。その後、実際の指導計画を参照しながら、保育内容の展開（長時間保育なども含む）を解説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2) 保育内容の変遷を理解する。 3) 保育内容の展開について理解する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（チャイルド本社） 保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」（ひとなる書房）								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、いくつかを紹介しつつ、コメントする。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育所保育における保育の特性 1	(学修内容) 幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる	
第2回	保育所保育における保育の特性 2	(学修内容) 保育の目標と保育内容の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第3回	保育内容の変遷 1 明治期	(学修内容) 明治期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 明治期の生活を調べてくる	
第4回	保育内容の変遷 2 大正から昭和初期	(学修内容) 大正から昭和初期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大正から昭和初期の生活を調べてくる	
第5回	保育内容の変遷 3 系統的保育案の実際	(学修内容) 系統的保育案の実際と現代の保育への継承 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる	
第6回	保育内容の変遷 4 戦時下	(学修内容) 戦時下の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 戦時下の生活について調べてくる	
第7回	保育内容の変遷 5 終戦後	(学修内容) 戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 終戦後の生活について調べてくる	
第8回	保育内容の変遷 6 1950年代	(学修内容) 戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる	
第9回	保育内容の変遷 7 1960年代以降	(学修内容) 今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第10回	保育内容の展開 1 指導計画	(学修内容) 指導計画にみる保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる	
第11回	保育内容の展開 2 年間計画 月案	(学修内容) 年間計画・月案の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp54～、p147～を読んでくる	
第12回	保育内容の展開 3 保育の実際	(学修内容) 生きた保育の展開と指導計画の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp184～を読んでくる	
第13回	保育内容の展開 4 保育の過程	(学修内容) 保育の過程の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp40～を読んでくる	
第14回	長時間保育における保育内容	(学修内容) 長時間保育における保育者連携と保育の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp249～を読んでくる	
第15回	異年齢保育における保育内容	(学修内容) 異年齢保育における保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp216～を読んでくる	

授 業 名	社会的養護			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1415
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。  1. 社会的養護とは何か 2. 児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について 3. 児童虐待の定義やその対応について 4. 里親ケアの概要について  映像資料などを用いて理解を深め、自分自身の問題として捉えらえるよう、ディスカッションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 2) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭で生活する児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	配布する独自のプリント等を用いる								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業期間中に2度、小テストを行い、採点して返却する。								
留 意 事 項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	社会的養護	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	児童虐待の理解 身体的虐待、ネグレクト	(学修内容) 身体的虐待とネグレクトの実際について (事前事後学修課題の内容)(45分) 厚生労働省が示している身体的虐待とネグレクトの定義を学ぶ
第2回	児童虐待の理解 性的虐待、心理的虐待	(学修内容) 性的虐待と心理的虐待について (事前事後学修課題の内容)(45分) 厚生労働省が示している性的虐待と心理的虐待の定義を学ぶ
第3回	家庭養護について 養育里親	(学修内容) 里親ケアの登録、委託、手当について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を確認しておく
第4回	家庭養護について 養育里親と専門里親	(学修内容) 里親ケアの研修、里子について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を確認する
第5回	家庭養護について 養子縁組里親と親族里親	(学修内容) 里親養育の特質について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を読む
第6回	特別養子縁組制度	(学修内容) 特別養子縁組制度と民間あっせん機関 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第7回	乳児院のケア 入所児童と入所理由	(学修内容) 乳児院に入所する児童の特徴と入所理由の変遷について (事前事後学修課題の内容)(45分) 児童虐待の種類を調べておく
第8回	乳児院のケア 実家族との交流と養子縁組	(学修内容) 実家族との交流の実際と、養子縁組あっせん団体の実際 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第9回	児童養護施設について 入所児童と入所理由	(学修内容) 児童養護施設入所児童の特徴について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第10回	児童養護施設について 実家族との交流と自立支援	(学修内容) 入所中の家庭との関係と家庭復帰について (事前事後学修課題の内容)(30分) 厚生労働省の資料を読む
第11回	少年非行について	(学修内容) 家庭裁判所の役割と社会的養護の機能について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読む
第12回	保護処分について	(学修内容) 保護処分の仕組みと保護司のはたらき (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護観察の種別を調べておく
第13回	アタッチメント障がいについて	(学修内容) アタッチメント(愛着)障がいについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 発達障害の定義を調べておく
第14回	児童心理治療施設について	(学修内容) 児童心理治療施設について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布資料を読む
第15回	社会的養護児童の自立支援	(学修内容) 経済的支援と住居支援について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読む

授業名	子どもの保健 U			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2428
英文名	Infant Health			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	福井 百合子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	保育の現場では、適切に養育する力量が求められる。専門家としての養育に必要な健康管理、安全管理について、演習、実技を交えて学ぶ。「子どもの保健」で学んだ知識と融合し、疾病予防、感染予防、応急・救急処置の基本的知識と技術を理解する。また安全の確保、事故予防等の基礎知識を学ぶ。								
学修成果到達目標	子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画、評価について学ぶ。 子どもの成長、発達についての観察、判断について学ぶ。 子どもの健康増進、心身の発育、発達を促す保健活動や保育環境を考え、保育環境での安全と衛生管理を学ぶ。 子どもの病気やケガの看護や処置、予防対策が理解できる。 疾病や障害を有す乳幼児の保育について学ぶ。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子/森本恵美子著 「子どもの健康と安全」 ななみ書房								
参考書	中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子著 「子どもの保健」ななみ書房、 兼松百合?・荒? 暁?・? 室俊? 編著、? 泉志保美・前? はる?・? 由美?・ 須藤佐知?・? 榎芳江・本間美知? 著 「子どもの保健・実習 - すこやかな育ちをサポートするために -」同文書院、 大澤真木子監修、小國美也子編著 「子どもの保健~健康と安全~」 日本小児医事出版社、 遠藤郁夫、三宅捷太編著、伊澤昭治、稲坂恵、太田由紀枝、甲斐純夫、勝又すみれ著 「子どもの健康と安全」学建書院、 加藤忠明、岩田力編「図表で学ぶ 子どもの保健」(建帛社)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題についてはコメントをつけて返します。								
留意事項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切である。また自分自身や子どもの健康について関心を持つこと。								
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：産科病棟にて助産師として、救急病棟、小児科外来にて看護師としての勤務経験。								

授 業 名	子どもの保健 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 子どもの保健と環境	(学修内容) 保育における保健活動、個の健康と集団保健、健康支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P9～14を読んでおく。
第2回	保育における健康と安全管理 環境の調整と衛生管理	(学修内容) 保育における環境の調整(快適性)、衛生管理について理解する。 衛生的手洗いについて理解し習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P15～25、142～144、144～152、153～154を読んでおく。
第3回	保育における健康と安全管理 事故防止、災害の備え	(学修内容) 保育における安全、事故防止、災害の備えについて理解する。 保育場面での危険予知、事故防止についてグループワークにて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P25～36、142～144、153～154を読んでおく。
第4回	保育場面での養護と保健的対応 乳幼児の世話	(学修内容) 保育場面での養護と保健的対応の実際、健康管理における観察について学ぶ。乳児の抱き方、寝かせ方、オムツ交換の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P89～111、142～144を読んでおく。
第5回	保育場面での養護と保健的対応 乳幼児の健康と発育の評価	(学修内容) 健康、発育状態の評価について学ぶ。乳児の計測(体温、呼吸、脈拍)、身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲)の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料(子どもの保健P64～68)と教科書P130～133を読んでおく。
第6回	保育場面での養護と保健的対応 清潔:衣類の交換と沐浴	(学修内容) 身体の清潔の必要性を知り、乳児の衣類の交換(着脱)と沐浴の方法を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P105～111を読み、沐浴の目的、準備物品、手順を知っておく。
第7回	保育場面での養護と保健的対応 個別的配慮を要する子どもへの対応	(学修内容) てんかん、アレルギー、気管支喘息、心疾患、腎疾患、内分泌疾患をもつ子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P112～120を読んでおく。
第8回	子どもの体調不良に対する適切な対応	(学修内容) 発熱(けいれん)、咳、腹痛、便秘、発疹、頭痛時の対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書37～40、45～53を読んでおく。
第9回	子どもの体調不良に対する適切な対応	(学修内容) 嘔吐、下痢時の対処(観察、看護)について理解し、吐物、下痢便の処理方法を学び実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P37～53を読んでおく。
第10回	子どものケガの応急処置	(学修内容) ショック、出血、外傷、熱傷、打撲、突き指、捻挫、骨折、鼻血時の観察と応急処置について学び、患部の処置、止血、固定法を実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P54～58、64～66を読んでおく。
第11回	子どもの救急処置	(学修内容) 熱中症、異物の誤飲、目・耳・鼻の異物混入時の応急処置と、乳幼児の心肺蘇生法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P58～64、67～78を読んでおく。
第12回	子どもの感染症対策	(学修内容) 感染症の予防(予防接種)、発症時の対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P79～88を読んでおく。 感染症対策ガイドライン、学校保健安全法を調べておく。
第13回	子どもの健康と安全のための管理体制と保健活動の連携、協働	(学修内容) 保健活動の実際と職員間、他職種との連携、協働について学ぶ。保育における保健活動の計画作成、活用、記録、評価について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P121～127、142～144、144～152を読んでおく。
第14回	母子保健と地域での保健活動	(学修内容) 母子保健対策、子ども子育て支援、虐待防止対策をはじめとした子どもの保健活動における家庭、専門機関、地域の連携について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P127～139、141、154～156を読んでおく。健やか親子21について調べておく。
第15回	保育者の健康管理 授業のまとめと試験について	(学修内容) 保育者自身の健康管理と生活習慣について考える。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業全体の復習とまとめをしておく。

授 業 名	教育の方法と技術（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3742
英 文 名	Teaching Methods and Techniques			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	家庭科教諭及び栄養教諭の教育内容を理解し、効果的な授業を展開するために必要な教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術の方法を学習する。また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコンや電子黒板や各種デジタルコンテンツといったICTを用いた授業設計に関わる知識・技術を学ぶことにより、情報発信型の教育に対応した効果的な学習・教育を行うための方法を習得する。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史の変遷・理論など）を説明することができる。 2) ICTを用いた授業設計の方法を理解し、ICT活用教育の効果について説明することができる。 3) グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	随時指示する。								
参 考 書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房，2016年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育の方法と技術（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育方法に関する諸概念	（学修内容）家庭科教諭及び栄養教諭として効果的な授業を実践するために必要な教育方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	ICTを用いた教育方法・技術について	（学修内容）ICTを用いた指導方法について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	教育評価の方法	（学修内容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	学習指導方法を考える	（学修内容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第12回	プレゼンテーション（学習指導方法）	（学修内容）各グループが学習指導方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第13回	学習評価方法を考える	（学修内容）各グループが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 各人がそれぞれのグループに合った学習評価方法を考えておくこと。
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（学修内容）プレゼンテーションの準備をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第15回	プレゼンテーション（学習評価方法）	（学修内容）各グループが学習評価方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。



授業名	教育の方法と技術（幼・小）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3449
英文名	Teaching Methods and Techniques			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術の方法を学習する。また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコンや電子黒板や各種デジタルコンテンツといったICTを用いた授業設計に関わる知識・技術を学ぶことにより、情報発信型の教育に対応した効果的な学習・教育を行うための方法を習得する。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史の変遷・理論など）を説明することができる。  2) ICTを用いた授業設計の方法を理解し、ICT活用教育の効果について説明することができる。  3) グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法をプレゼンテーションすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	随時指示する。								
参考書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房，2016年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	教育の方法と技術（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（学修内容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどのようなものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教授法の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	ICTを用いた教育方法・技術について	（学修内容）ICTを用いた指導方法について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	教育評価の方法	（学修内容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	学習指導方法を考える	（学修内容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第12回	プレゼンテーション（学習指導方法）	（学修内容）各グループが学習指導方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第13回	学習評価方法を考える	（学修内容）各グループが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 各人がそれぞれのグループに合った学習評価方法を考えておくこと。
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（学修内容）プレゼンテーションの準備をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第15回	プレゼンテーション（学習評価方法）	（学修内容）各グループが学習評価方法についてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。

授 業 名	室内デザイン実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3322
英 文 名	Interior Design Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	快適な室内空間を作り上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。2年時の「住空間とインテリア実習」にも関連する授業である。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な室内空間の仕組みが理解できる。 2) 簡易な部屋を設計できる力を身につけることができる。 3) 簡単な模型を作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートならびに作成した作品(図面・模型・プレゼンテーションボード)を回収後、良い点・悪い点を含めた評価コメントを記し、各受講生に返却する。								
留 意 事 項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	室内デザイン実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 室内デザイン実習を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容の確認
第2回	寸法体系	(学修内容) 寸法体系の話・畳の大きさ (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第3回	部屋の構成	(学修内容) 部屋の仕組み (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	(学修内容) 室内の仕上げ・教室内で実地見学 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第5回	家具	(学修内容) 家具の種類と特質 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第6回	室内環境工学	(学修内容) 室内と採光・換気・空調・騒音の関係 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第7回	現地見学1	(学修内容) 優れた室内空間の見学 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の住宅についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第8回	インテリア製図・平面図	(学修内容) 室内のプランニングの理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第9回	インテリア製図・展開図	(学修内容) 室内の立体方向の図面の理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第10回	インテリア・パース作図	(学修内容) 室内の完成予想図の作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第11回	模型制作1	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第12回	模型制作2	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第13回	現地見学2	(学修内容) 優れた商業空間の見学 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の建物についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第14回	部屋の設計	(学修内容) 与えられた条件で部屋の内部空間の設計 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第15回	設計作品の発表ならびに講評	(学修内容) プレゼンテーションと講評会 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (120分) プレゼンテーションの準備

授業名	家庭工学演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3455
英文名	Home Engineering Practice			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的な生活の維持ができる技術を学習する。ビデオをみたりプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解できる。 2) 用いられる電化機器の科学的内容を理解できる。 3) 理想的な設備計画の提案をおこなうことができる。 4) 住まいの安全を総合的に考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (図面解読能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	授業中に配布								
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社 柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートを回収後、各自にコメントをつけて返す。								
留意事項	住宅見学を実施する。								
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出をしていただければ対応します。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	家庭工学演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	(学修内容) 家庭工学演習ガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	住まいの性能1安全	(学修内容) 安全耐震・火災・防犯 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第3回	住まいの性能2設備	(学修内容) 給排水・電気・ガス・照明計画 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第4回	設備図面	(学修内容) 設備図面の読解ならびに簡単な作図 (事前事後学修課題の内容) (60分) 定規類
第5回	家庭の電気と安全性	(学修内容) 屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第6回	現地見学1	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ
第7回	空調機器・家庭の機器	(学修内容) エアコン・冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習と自宅の様態を観察、製品の使用書を確認
第8回	照明のシステムと器具	(学修内容) 照明器具の種類と選択のポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第9回	給排水システムと器具	(学修内容) 湯沸かし機器・給湯システム・排水システム (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第10回	現地見学2	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ方眼紙とメジャー、カメラなど
第11回	インテリア材料	(学修内容) インテリア材料に要求される性能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	(学修内容) シックハウス症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第15回	計画作品の発表ならびに講評	(学修内容) プレゼンテーションと講評会 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自がプレゼンテーションできる用意

授 業 名	販売論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3790
英 文 名	Sales Theory			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 良介			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>現代社会において私たちの生活を支える衣食住には、財やサービスの交換が不可欠です。洋の東西を問わず、物々交換から貨幣経済、取引行為を介して有形の物品（食糧・衣類・住宅）やサービス（教育・知識・技術）を含め、無形の知的財産を交換する売買行為が営まれてきました。講義では、人類普遍の営みである交換・販売におけるマネジメントについて、現代のICT（情報通信技術）を利用した組織・管理・戦略の実際を事業・企業・経営を中心に講じます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1)販売マネジメントの歴史について主要な理論や概念を説明することができる。  (2)販売のイノベーションについて、事例をもとに分析ができる。  (3)ICTの発展に伴う販売の変化について、考察し見解を述べることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 現代のマネジメントへの理解 )	プレゼンテーション能力 ( ICT最新事例の課題認識 )		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	授業中に適宜紹介します。								
参 考 書	渡部・角野・伊藤編『やさしく学ぶ マネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房 この他、授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜講評します。								
留 意 事 項	映像資料等で事例を紹介し、スライドを用いて理論を解説し、レポートを提出してもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業前後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		販売論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：販売とその周辺	(学修内容)モノ・サービスの販売の背景にあるマネジメントについて論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品・サービスについて調べておく
第2回	販売と企業の歴史	(学修内容)自動車産業や家電業界の発展から販売と企業の関係について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 日米の自動車もしくは家電について調べておく
第3回	商品開発の背景	(学修内容)商品の歴史から社会状況を読み解いていく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品・サービスの歴史について調べておく
第4回	市場と消費者心理	(学修内容)マーケットと消費者心理、マインドシェアについて論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 流行した商品やサービスの事例について調べておく
第5回	販売の競争戦略	(学修内容)販売における競争戦略について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 特定の業界における競合・競争関係について調べておく
第6回	販売戦略と流通革命	(学修内容)流通の発展に伴う戦略の変化について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 通信販売と店舗販売について比較し考察しておく
第7回	販売促進のマーケティング	(学修内容)4Pモデルやポートフォリオ、SWOT分析について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品やサービスのマーケットシェアについて調べておく
第8回	顧客の多様化とブランディング	(学修内容)ターゲティングの細分化とブランディングについて論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のあるブランドについて調べておく
第9回	バリューチェーンと顧客満足	(学修内容)バリューチェーンと顧客満足について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 顧客満足の高い事例について調べておく
第10回	電子決済とデータ	(学修内容)決済手段の多様化とデータの利活用について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ポイントカード等について調べておく
第11回	販売におけるHRM	(学修内容)販売における人的資源管理について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 販売に関わる人員について調べておく
第12回	広告の多様化	(学修内容)対象に合わせた広告について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある広告について調べておく
第13回	クラウドファンディングと販売	(学修内容)クラウドファンディングを用いた企画・開発について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) クラウドファンディングサービスについて調べておく
第14回	ニーズの多様化と開発	(学修内容)現代におけるニーズの多様化と発明・開発について論じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 特許庁に登録されている発明品について調べておく
第15回	まとめ	(学修内容)これまでの講義内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの授業の総復習をしておく



授業名	情報処理論			開講学年	1・4回生	単位数	2単位	科目コード	HE1407
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	浅田 瞳			対象学生	現代家政1回生、食物栄養4回生				
授業の概要	<p>コンピュータ及びインターネットの発展に伴い社会生活も大きく変化しつつあります。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人のコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割や性質について学びます。</p> <p>授業では、現代の情報システムの事例について調べ学習を行い、授業内でプレゼンテーション資料を用いて発表する機会があります。また、レポート提出については原則ポータルサイトのアンケートを用いてやり取りをするので、web活用能力も求められます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 情報処理技術についての基礎的な知識について説明できる</p> <p>2) 情報処理システムの仕組みを理解し、知識を活用できる</p> <p>3) 情報社会の概要とその特徴について説明できる</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜、資料を配布する。								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	発表については、その場で課題や長所について指導する。 レポートはポータルサイト内のアンケートでの提出を行い、その都度に授業内でフィードバックを行います。								
留意事項	カタカナやアルファベットの専門用語が多く出てきますが、できるだけかみ砕いて説明したいと思います。								
オフィスアワー	毎週木曜日の昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の実際経験など：神戸親和女子大学 情報教育センター 勤務								

授業名	情報処理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション～コンピュータとは	(学修内容) コンピュータの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) コンピュータとスマートフォンの違いについて発表できるようにする。
第2回	ハードウェアとソフトウェア	(学修内容) コンピュータを構成するパーツとプログラム (事前事後学修課題の内容) (60分) HD、キーボード、ディスプレイとアプリの違いについて発表できるようにする。
第3回	Society 5.0 について考える	(学修内容) 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上記の社会の特徴について発表できるようにする。
第4回	SNSの光と影	(学修内容) SNSの特徴、長所、短所について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) LINE、Instagram、twitterの使い分けについて発表できるようにする。
第5回	ユーザインタフェース	(学修内容) キーボード、タッチパネル、スキャナの違い (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの長所と短所について発表できるようにする。
第6回	コンピュータネットワーク	(学修内容) LAN、WAN、PAN、通信インフラ (事前事後学修課題の内容) (60分) 有線LANと無線LANの違いについて発表できるようにする。
第7回	インターネット	(学修内容) WWWの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットがなぜ発生したのか、調べてくる。
第8回	データベース	(学修内容) データベースの仕組みと活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活で一番使うデータベースを探し、その特徴を発表できるようにする。
第9回	情報セキュリティ	(学修内容) ウイルス、個人情報保護、暗号化 (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜウイルスソフトをインストールしなければならないのか、理由をこたえられるようにする。
第10回	インターネットリテラシー	(学修内容) 情報の真偽、著作権、肖像権 (事前事後学修課題の内容) (60分) SNSのメリットとデメリットを発表できるようにする。
第11回	著作権	(学修内容) 著作権の概要、最新の法改正による事例 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネット上の著作権が侵害された事例を調べ、発表できるようにする。
第12回	IoTの実際	(学修内容) IoT活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) IoT活用されているものを調べ、パワーポイントで資料を作成し、発表できるようにする。
第13回	IoTの実際(2) どのような分野でIoTが進められているのか	(学修内容) IoTについての発表を行い、受講生同志の情報共有を図る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表を聞いて一番印象に残った発表とその理由をレポートにまとめる。
第14回	高度情報社会の進展	(学修内容) ビッグデータの活用、自動運転システム、スマート家電 (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の社会の情報化はどんな方向に進むのかレポートにまとめる。
第15回	これからの情報社会のゆくえ	(学修内容) まとめ 身の回りの情報機器の変化について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のもっている情報機器でもっとも進化したものを紹介する。

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	富安 広幸・坂本 裕子・竹市 仁美・豊原 容子・塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	各自が決定した卒論テーマに沿って、先行研究について調べ現状について理解するとともに、研究方法、結果の考察方法やまとめ方などについて学んでいく。研究方法については地域連携の取り組みや調査、実験など様々があるので適切な方法を考えて実践していく。さらに、ゼミ内での発表や意見交換および個人指導を通して自身の研究を深めていく。6月末には論文題目を提出する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが決定した課題について解決のために主体的に取り組むことができる。 2) 論理的に物事を考えることができる。 3) 得られた結果について適切な考察ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	レジュメ等で行う								
参 考 書	各自に、ゼミ担当者が指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	個人指導において、各自の発表、研究成果における問題点など、さらに今後の進め方などを話し合う。								
留 意 事 項	積極的に自らのテーマに関して研究を進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当教員のオフィスアワーについては、曜日、時間を一覧にして掲示します。研究室に在室している場合は、対応します。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	卒論論文作成に向けて、手引き等の確認、および各自進める上での問題点の整理などについて	<p>（学修内容）先行研究で分かったことを整理し、研究の目的、方法、問題点などを明らかにし、研究の進め方について確認する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 先行研究論文などを読み問題点を整理しておく。</p>	
第2回	研究発表1 - 1 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第3回	研究発表1 - 2 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第4回	研究発表1 - 3 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第5回	個別指導1 - 1 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。</p>	
第6回	個別指導1 - 2 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。</p>	
第7回	個別指導1 - 3 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第8回	個別指導1 - 4 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第9回	個別指導1 - 5 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第10回	研究発表2 - 1 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果について考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第11回	研究発表2 - 2 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第12回	研究発表2 - 3 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第13回	個別指導1 - 1 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	
第14回	個別指導1 - 2 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	
第15回	個別指導1 - 3 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t e			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	富安 広幸・坂本 裕子・竹市 仁美・豊原 容子・塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	研究の進捗状況の報告やそれに関する討論や面談を行いながら、卒業論文内容を検討する。春学期に考えた章立てに沿って論文を仕上げていく。10月末に論文を提出し、12月末に口頭試問に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが課題とした研究テーマについて、主体的に考察し研究を深めていくことができる。 2) 得られた結果を正確に分析することができる。 3) 卒業論文としてふさわしい構成内容の論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的思考力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 (文章表現力)		
テ キ ス ト	各自に担当教員より指示する。								
参 考 書	各担当教員より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	次週までに、提出された文章について問題点などの指摘を行う。								
留 意 事 項	わかったことを自分の言葉で表現するように、常に留意しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当者のオフィスアワーを一覧にして掲示板に掲示する。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。） t a ~ t e	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	論文の書き方について確認および決定	（学修内容）論文作成手引きについて、特に参考文献の書き方などの確認を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 卒論の手引きをみて、自分の参考文献などを整理しておく。考察に関する問題点を把握しておく。	
第2回	発表1-1 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第3回	発表1-2 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第4回	発表1-3 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第5回	発表1-4 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第6回	個別指導1-1 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第7回	個別指導1-2 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第8回	個別指導1-3 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第9回	個別指導1-4 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第10回	個別指導1-5 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第11回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容全体のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料の作成のため、研究内容を要約する。	
第12回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料を作成する。	
第13回	卒業論文内容の発表	（学修内容）論文内容の発表を行い、質疑応答を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 質問事項の整理と解決策について考えておく。	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	HE2315
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	食生活実習 で学んだ基本的な知識を基に、栄養面や安全性、嗜好性を考慮した食事の整え方の理解を高める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身に付ける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表についてその基本を理解する。さらに、中学校、高等学校で指導するうえで必要な技術の実習を行い、知識を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本独自の食文化である季節のもてなし料理や行事食、郷土食について知識を持ち、提供できる力を修得している。 2) 日本だけでなく西洋や中国の食文化についても理解を深める。 3) 中学校、高校生の1日の献立や日常食の献立のための調理計画と調理ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (調理技術の習得と献立作成能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	新調理研究会編「これからの調理実習 - 基本手法から各国料理、行事食まで - 」オーム社 2014年								
参 考 書	授業にて指示します								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します								
留 意 事 項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回到授業で指示します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意		(学修内容) 諸注意、レポートの書き方  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の1日の食生活を振り返っておく
第2回	献立作成		(学修内容) 日本人の食事摂取基準や食品成分表の説明 グループごとに献立を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1日の献立を作成し、次回に提出する。
第3回	和食の基本的な調理		(学修内容) 鯖の味噌煮、けんちん汁、わらび餅(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.54,64を読んで理解しておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第4回	和食で用いられる食材(旬の食材について)		(学修内容) 刺身, あら煮(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読み理解しておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第5回	郷土料理について		(学修内容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.48,204読み理解しておく。 レポートを作成し次回に提供する。
第6回	西洋料理の魚介だしや油脂の調理特性		(学修内容) プイヤベース。パウンドケーキ(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリント及び教科書 p.139を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第7回	西洋の肉料理、シュー生地		(学修内容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.126,138,169を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第8回	もてなし料理		(学修内容) アップルパイ(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.141を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第9回	砂糖の調理特性やパン生地の応用		(学修内容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.89,101,106を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第10回	魚介類を使った中国料理		(学修内容) 炒墨魚(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.76,90を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第11回	中国料理の点心		(学修内容) 水果西米露(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.83,171を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第12回	行事食		(学修内容) 正月吉例料理、雑煮(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.45,178~180を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第13回	京都の料理		(学修内容) 京都のおばんざい(調理実習)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第14回	テーブルセッティングとマナー		(学修内容) テーブルセッティングとマナーの基本  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.34~37,72~73,110~113を読んでおく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第15回	自由献立(調理と評価)		(学修内容) グループごとに計画した献立を調理し、全体で評価する。(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 献立の作り方や材料の準備の確認をしておく。 レポートを作成して指定の日時に提出する。



授 業 名	住空間とインテリア実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2316
英 文 名	Living space and interior training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	住空間とインテリアについて基礎的な知識を学ぶ。それらを具体的な形にする力を身につける。住空間を成り立たせる三次元空間を理解するために、平面・率面・断面・展開の各図の作図をおこなう。くわえて椅子の模型を作成する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)住空間の仕組みが理解できる。 2)立体と平面の関係が理解でき、そのことを表現することができる。 3)簡単なインテリア空間の設計ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	特になし								
課題に対する フィードバック の方法	提出した作品・レポートについてコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	簡単な製図道具と模型制作道具が必要。現地見学がある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住空間とインテリア実習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)住空間とインテリア実習を学ぶ意義  (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認
第2回	住空間の構成1 独立住宅	(学修内容)独立住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第3回	住空間の構成2 集合住宅	(学修内容)集合住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第4回	住空間の構成3 最小限住宅	(学修内容)最小限住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第5回	現地見学・現代建築フィールドワーク	(学修内容)現代の建築見学  (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第6回	平面図の読解	(学修内容)平面図の内容  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第7回	平面図の作図	(学修内容)簡単な室内平面図の作図  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第8回	展開図の読解	(学修内容)展開図の内容  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第9回	展開図の作成	(学修内容)簡単な展開図の作図  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第10回	現地見学・歴史的建築フィールドワーク	(学修内容)歴史的な住宅見学  (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第11回	家具模型の制作・基礎	(学修内容)ペーパー模型  (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備
第12回	家具模型の制作・応用	(学修内容)ペーパー模型、着色  (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備
第13回	家具の設計・作図	(学修内容)椅子とテーブルの設計  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第14回	家具の設計・図面の着色・透視図の作成	(学修内容)椅子とテーブルの設計・図面の着色・透視図の作成  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備、プリントを読んでおく
第15回	設計作品の発表と講評	(学修内容)プレゼンテーションと講評会  (事前事後学修課題の内容)(120分) プレゼンテーションの準備

授業名	生活とメディア			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2309
英文名	Life and Media			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>車の自動運転の実現、遠隔操作によって家の中の家事を進める「スマート家電」など、IoT(Internet of Things),人工知能(AI;Artificial Intelligence)といった技術革新によって私たちの生活は大きく変わりつつあります。また、SNSや動画投稿サイトなどスマートフォン・アプリによって国内外を問わずひととひととのつながりが広がり、新しい文化が生まれています。携帯電話の所持率の低年齢化または所持する年代の高年齢化、今後更にスマートフォンを中心としたインターネット上の各種メディアを老若男女が使用しそれぞれの生活をより善くしていこうとする傾向が強まると予想されます。一方で、日々のニュースで取り上げられるようにインターネット上のトラブルが絶えません。大学や若者の被害もみられます。そこで、本授業を通して、わたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。</p>								
学修成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる</li> <li>・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる</li> <li>・情報セキュリティの基本的な知識・技術を説明し、また実践できる</li> <li>・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる</li> <li>・Society 5.0が目指す社会像を説明できる</li> </ul>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	noa出版『2020年度情報倫理ハンドブック』								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」 <a href="https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/categorization/internet/">https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/categorization/internet/</a></li> <li>・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」 <a href="https://www.npa.go.jp/cyber/">https://www.npa.go.jp/cyber/</a></li> <li>・内閣府ホームページ「Society5.0 科学技術政策」 <a href="https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html">https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html</a></li> <li>・そのほか授業中に適宜指示します。</li> </ul>								
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う								
留意事項	テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること 配慮事項がある場合は、事前に相談にくること (授業を欠席する場合も事前連絡を)								
オフィスアワー	授業期間中の毎週水曜日お昼休み								
実践的教育									

授業名	生活とメディア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「生活とメディア」を通して学ぶこと	(学修内容) シラバス、テキストpp.1-3を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	(学修内容) インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.4-10を読む。 事後学修: 著作権、肖像権の侵害に関する一事例をまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	(学修内容) 生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.11-17を読む。 事後学修: SNSの一つを選び、その特徴をまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	(学修内容) インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.18-19を読む 事後学修: To, Bcc, Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	(学修内容) メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.20-22を読む 事後学修: SNS上のトラブルを調べコメントカードにまとめる
第6回	情報セキュリティの3つの観点	(学修内容) パスワード管理、バックアップ、データ整理によるセキュリティ強化の方法を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.23-28を読む 事後学修: 情報セキュリティについて調べまとめる
第7回	データの安全を脅かすもの	(学修内容) マルウェア、不正アクセス、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.29-33まで読む 事後学修: データの脅威となる1事例を調べ書き出す
第8回	データの安全性を守る技術的対策	(学修内容) 情報を守るセキュリティソフト等の機能を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.34-40まで読む 事後学修: 情報を守る技術の特徴をコメントカードにまとめる
第9回	ネットワーク上のトラブル事例	(学修内容) 【グループワーク】大学生や若者に被害がでているネットトラブルについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.41-44まで読む 事後学修: ネットトラブル事例から1つ選び回避方法を考える
第10回	ネットトラブルを避けるための注意点	(学修内容) 【プレゼンテーション】大学や若者がネットトラブルに遭わないための注意点を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.45-52までを読む 事後学修: ネットトラブル防止の周知策を考え書き出す
第11回	ネット依存	(学修内容) ネット依存の特徴と対策を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修: ネット依存のスクリーニングを行い結果をまとめる
第12回	子育てとメディア	(学修内容) 子どもたちの間で起こるネットトラブルとその予防を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 子どものインターネット使用時間等を調べる 事後学修: 家庭のルールづくり案をコメントカードにまとめる
第13回	わたしたちの生活とSociety5.0	(学修内容) Society5.0が目指す社会像について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 内閣府のSociety5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修: わたしたちの生活の変化を予想しコメントカードにまとめる
第14回	情報倫理と生活	(学修内容) 【グループワーク、プレゼンテーション】授業2~10回を振り返って、情報倫理に関する要点を発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストで興味をもった部分を再読 事後学修: グループワークの内容をコメントカードにまとめる
第15回	これからの「生活とメディア」	(学修内容) 【PBL】授業11~13回を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 授業11~13回を振り返って興味をもった箇所を調べる 事後学修: グループワークの内容をコメントカードにまとめる

授業名	住居文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2419
英文名	Housing Culture			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	住居文化の授業では住むことを歴史的に捉えることを主眼とする。町家、長屋、農村住宅、郊外住宅、団地、マンションと日本の住宅が辿ってきた住居の歴史を学習することで、日本人がどのような生活をおこなってきたのかを振り返り、今後どのような空間に住めばよいのかを総合的に考えていく。また日本の住居に影響を与えた欧米や中国、東南アジア、アラビア・アフリカの住居についても学び、共通点を探り、文化史的なつながりを理解する。								
学修成果到達目標	1)すまいの文化について歴史的な観点から説明することができる。 2)町家や集合住宅などについて特徴や成立を説明することができる。 3)日本と外国の住居について、違いと共通点を説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	プリント配付								
参考書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留意事項	現地見学会がある。私語・飲食は禁止								
オフィスアワー	授業初回に提示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	住居文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 住居文化を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (45分) シラバスの内容の確認
第2回	日本古代・中世・近世の家	(学修内容) 日本古代・中世・近世の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) この時代の家の特徴ならびにイメージをつかむ
第3回	明治期の家	(学修内容) 明治期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第4回	大正期の家	(学修内容) 大正期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第5回	昭和戦前期の家	(学修内容) 昭和戦前期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第6回	昭和戦後期の家	(学修内容) 昭和戦後期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第7回	平成の家	(学修内容) 平成期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第8回	歴史的住宅の現地見学	(学修内容) 歴史的住宅の現地見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先の住宅建築の確認とカメラなどの用意
第9回	見学建物の評価に対するディスカッション	(学修内容) 見学建物の評価ならびに感想に対するディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションに対する自分自身の考えをまとめる
第10回	ヨーロッパの家	(学修内容) ヨーロッパの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) ヨーロッパの家のイメージを事前学習
第11回	アメリカの家	(学修内容) アメリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アメリカの家のイメージを事前学習
第12回	中国・韓国の家	(学修内容) 中国・韓国の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中国・韓国の家のイメージを事前学習
第13回	東南アジアの家	(学修内容) 東南アジアの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 東南アジアの家のイメージを事前学習
第14回	アラビア・アフリカの家	(学修内容) アラビア・アフリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アラビア・アフリカの家のイメージを事前学習
第15回	住居のプレゼンテーション	(学修内容) 住居のプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自パワーポイントの作成と発表の準備

授 業 名	地域福祉論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2433
英 文 名	Theory of Community Welfare I			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>私たちのくらしは、地域福祉の存在で成り立っている。地域ごとでくらしの問題、生活問題は異なる。高齢者の多い地域、子どもの多い地域、低所得者の多い地域等で、くらしの課題は違ってくる。生活問題の地域性に注目して、誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて、地域福祉の果たすべき役割と課題を考えていきたい。そして、日頃暮らしている地域の様々な実践に目を向けていくことを通して地域福祉の役割を考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)地域福祉とは何かが理解できるようになる。  2)地域福祉は生活問題の地域性を対象とした総合的体系的な社会制度であることを理解できるようになる。  3)社会保障の一環であること、まちづくりの一環であることの認識ができるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	試験結果の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	居住している地域の活動に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室しているときは対応します。どうしてもというときには、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。</p>								

授 業 名		地域福祉論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	私たちのくらしと地域福祉	(学修内容) 私たちのくらしと地域福祉について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認し、地域福祉のイメージづくりをする。
第2回	地域福祉の対象	(学修内容) 地域福祉の対象について、各地の状況を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住している地域に目を向け特性を理解してみる。
第3回	地域福祉活動の実際 - 鹿児島島の事例 -	(学修内容) 鹿児島島の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動を調べる。
第4回	地域福祉活動の実際 - 豊中市の事例 -	(学修内容) 豊中市の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動に関わってみる。
第5回	地域福祉活動の実際 - 滋賀県日野町の事例 -	(学修内容) 滋賀県日野町の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が実践できそうな地域福祉活動を考える。
第6回	地域福祉活動の実際 - 京都市の事例 -	(学修内容) 京都市の地域福祉活動を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の課題について考える。
第7回	地域福祉活動の実際 - 私の実践事例 -	(学修内容) 私の地域福祉活動の実践を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の方向性を考える。
第8回	私のまちの地域福祉活動 - 私のまちの特徴 -	(学修内容) 受講生のまちの特徴について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの特徴を調べる。
第9回	私のまちの地域福祉活動 - 広報誌に目を向けて -	(学修内容) 受講生の自宅に配布される広報誌について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの広報誌を調べる。
第10回	私のまちの地域福祉活動 - 町内会を通して -	(学修内容) 受講生の町内会活動について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの町内会について調べる。
第11回	私のまちの地域福祉活動 - 各種団体を通して -	(学修内容) 受講生のまちの各種団体を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの各種団体について調べる。
第12回	地域福祉活動の事業的側面について	(学修内容) 地域福祉活動の事業的側面について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの地域福祉活動の事業と運動を知る。
第13回	地域福祉活動の運動的側面について	(学修内容) 地域福祉活動の運動的側面を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの運動的側面を知る。
第14回	まちづくりの一環としての地域福祉	(学修内容) 地域福祉はまちづくりの課題であることを指摘し、具体的な展開例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちのまちづくりと地域福祉との関連を考える。
第15回	社会保障の一環としての地域福祉	(学修内容) 地域福祉は社会保障の課題であることを指摘し、具体的な展開例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のまちの社会保障と地域福祉との関連を考える。



授 業 名	子どもの音楽 u a ~ u f			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2426
英 文 名	Children and Music II			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子・服部 さやか・阿久津 啓・永峯 翠子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、音楽 に引き続き、子どもの歌の歌唱、ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌い、音楽理論を学ぶ。ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌いに関しては毎回課題を課し、習熟度確認のための個別レッスンをを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの歌の基本的な発声法と弾き歌いの技術を習得することができる。 2) ピアノ教則本は最低でもバイエルを終了を目標とする。 3) 音楽理論を通して音楽の諸活動に必要な基礎的知識を習得することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	小試験はその都度解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンを行う。								
留 意 事 項	レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	子どもの音楽 u a ~ u f	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画の説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの授業の内容に目を通しておくこと
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の伴奏付け	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 伴奏付け(ハ・ヘ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ハ・ヘ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ト長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ト長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第4回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ニ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ニ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第5回	歌唱・ピアノレッスン・伴奏付け総復習	(学修内容) および伴奏付けの総復習と様々な伴奏パターンについて  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・伴奏付けの復習をしておくこと
第6回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ハ長調)	(学修内容) および視唱(ハ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ハ長調)の復習をしておくこと
第7回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ヘ長調)	(学修内容) および視唱(ヘ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ヘ長調)の復習をしておくこと
第8回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ト長調)	(学修内容) および視唱(ト長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ト長調)の復習をしておくこと
第9回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ニ長調)	(学修内容) および視唱(ニ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ニ長調)の復習をしておくこと
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	(学修内容) および視唱小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱課題の復習をしておくこと
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(付点)	(学修内容) およびリズム打ち(付点)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(付点)の復習をしておくこと
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(シンコペーション)	(学修内容) およびリズム打ち(シンコペーション)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(シンコペーション)および既習の音楽理論の復習をしておくこと
第13回	歌唱・ピアノ総復習および演習・音楽理論小試験	(学修内容) の総復習と演奏上の諸注意事項について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱・ピアノ課題の復習をしておくこと
第14回	歌唱総復習・歌唱小試験	(学修内容) の総復習および小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱課題の復習をしておくこと
第15回	ピアノ総復習・ピアノ小試験	(学修内容) の総復習および小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習のピアノ課題の復習をしておくこと

授 業 名	和食学			開 講 学 年	2・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2431
英 文 名	Japanese Food			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養4回生				
授業の概要	人は生きていくために、食物を獲得し、貯蔵・加工し、安全でおいしく食べる工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。世界には気候風土によって、特色ある食文化圏が形成されている。日本では、稲作を基盤とする伝統的な和食文化が生まれ、魚や野菜など四季ごとの豊かな食材で彩られ、健康的な食文化圏として注目されている。この和食文化を社会的背景や歴史の変遷を追って理解を深めていく。和食の優れた点を把握して、将来の食のあり方を考えていくとともに、健康的な食生活の維持、増進に役立てていくことを目指す。理解を深めるために、適宜グループワークを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 和食の特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食文化を自然風土、社会的背景、歴史的観点から考察することができる。 3) 世界の食文化を比較しながら、和食の優れた点を把握し、継承について考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	江原絢子、石川尚子・編著『日本の食文化 和食の敬称と食育』アイ・ケイ コーポレーション								
参 考 書	『聞き書 日本の食生活全集』農文協								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	食生活は何をどれだけ食べるかだけでなく、食べ方、文化、歴史、交流、楽しむ要素など多角的に把握していくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお知らせします。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		和食学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	和食の特徴	(学修内容) 食文化とは何か。和食文化の特徴は何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食の特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	日本の食文化形成と展開	(学修内容) 自然環境や社会環境がどのように日本の食文化の形成に影響してきたか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.31-40をよく読んでおくこと。
第3回	異文化接触と受容	(学修内容) 日本の食文化が影響を受けた主な異文化について、それぞれの特徴と受容の過程を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.41-50をよく読んでおくこと。
第4回	主食の文化	(学修内容) 米だけに限らず、木の実やいも類、麦、雑穀などについても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.51-60をよく読んでおくこと。
第5回	副食の文化	(学修内容) 雑食文化からやがて主食・副食の形が明確化し、現在の欧米化が進む中で出てきた問題点まで歴史を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.61-70をよく読んでおくこと。
第6回	調味料、油脂、だし、香辛料	(学修内容) 日本料理に欠かせない発酵調味料やだしを中心に、その種類や歴史的背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.71-80をよく読んでおくこと。
第7回	菓子、茶、酒	(学修内容) 嗜好品としてその時代時代の社会状況や文化によって変動してきた菓子、茶、酒についてその変容をみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.81-90をよく読んでおくこと。
第8回	日本料理の形成と発展	(学修内容) 日本料理がどのようにして今の形に発展してきたのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.91-100をよく読んでおくこと。
第9回	台所・食器・食卓の文化	(学修内容) 台所や調理に使う器具、食器、食卓について、その変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.101-110をよく読んでおくこと。
第10回	日常の食生活	(学修内容) 日常の食事について、その形態や地域性の変化等を時代を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.111-120をよく読んでおくこと。
第11回	非常の食生活	(学修内容) 天災や人災によって非日常となったときの非常食について、今日に伝わっている工夫などを歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-130をよく読んでおくこと。
第12回	外食文化の成立と変化	(学修内容) 外食文化がどのような時代背景の中で成立し変容していったかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.131-140をよく読んでおくこと。
第13回	行事と地域の食文化	(学修内容) 古くから伝えられてきた行事食や儀礼食、また日本各地の地域独特の食材とそれを利用して伝えられてきた郷土料理についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.141-150をよく読んでおくこと。
第14回	家庭・地域、学校、社会における食育	(学修内容) 伝統的食文化の継承を含む食育の現状と課題をみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.151-160をよく読んでおくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 和食文化を継承していくための課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食文化の優れた点をあげて、継承の課題をまとめておく。

授業名	生化学実験 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1308
英文名	Experiment of Biochemistry			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	根岸 裕子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>生体の構成成分を中心に分析し、人体の成り立ちと生体の化学反応(代謝)を理解する。生化学の講義で学習した知識をさらに深く理解するために、具体的な事象について実験し、その結果を考察することにより、個々の生命現象の基礎知識を身につける。実験を円滑に進めるため、実験課題はグループ毎に進め、結果についてディスカッションをした後、個人でレポートにまとめる。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 生体を構成する成分について深く理解できる。  2) 生体における遺伝子の発現について理解できる。  3) 生体材料の取り扱いについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	配布資料								
参考書	生化学等で使用した教科書								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する。								
留意事項	「生化学」、「基礎栄養学」の教科書を読んで復習しておくこと								
オフィスアワー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	生化学実験 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験についての注意事項、実験ノート・実験レポート作成についてなど (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容をよく確認しておくこと。
第2回	実験の基本操作	(学修内容) 実験器具・実験機器の取り扱い方についてなど (事前事後学修課題の内容) (60分) 重量・容量の単位、溶液濃度の表し方について調べ、それぞれについてまとめておく。授業後、課題に取り組む。
第3回	糖質の定性反応 1 試薬調整、ピペット操作	(学修内容) 試薬調整、種々のピペットの取り扱い方について (事前事後学修課題の内容) (80分) 糖質の構造について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第4回	糖質の定性反応 2 フェーリング反応、パーフォード反応による定性実験	(学修内容) 実験スキーム作成、実験データの処理について (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第5回	糖質の定量実験 1 試薬調整、未知試料のグルコース濃度測定	(学修内容) 未知試料のグルコース濃度測定について (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第6回	糖質の定量実験 2 検量線、糖質の分類、構造、機能について	(学修内容) 測定結果、検量線より濃度を求める方法について (事前事後学修課題の内容) (80分) 糖質の分類について調べ、実験後、実験レポートを作成する。
第7回	タンパク質量 1 吸収スペクトル	(学修内容) タンパク質の紫外光吸収スペクトラムを測定し、その特徴を基に未知試料のタンパク質を定量する。 (事前事後学修課題の内容) (80分) タンパク質の性質について調べ、それぞれの性質についてまとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第8回	タンパク質量 2 比色法	(学修内容) Lowry法、Bradford法によるタンパク質量の定量 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポート作成する。
第9回	酵素反応に関する実験 1 酵素活性と反応時間	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性と反応時間の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) アルカリホスファターゼとはどのような酵素かを調べ、まとめておく。実験後、実験レポートを作成する。
第10回	酵素反応に関する実験 2 酵素活性と基質濃度	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性と酵素量・基質量の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 一般的な酵素活性と酵素量・基質量の関係について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第11回	酵素反応に関する実験 3 酵素反応とpH	(学修内容) アルカリホスファターゼ活性とpH・温度の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 一般的な酵素活性とpH・温度の関係について調べ、まとめておく。実験後、実験レポート作成する。
第12回	核酸実験: DNA抽出	(学修内容) 生体材料からのDNAの抽出 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポート作成する。
第13回	核酸実験: 紫外外部吸収曲線	(学修内容) DNA溶液の紫外外部吸収曲線 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第14回	核酸実験: 電気泳動	(学修内容) 制限酵素によるDNAの切断と電気泳動による解析 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第15回	実験結果の考察	(学修内容) 実験を振り返り考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでにを行った実験や課題、実験レポートの内容を確認しておく。

授 業 名	生化学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1301
英 文 名	Biochemistry			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子および遺伝子レベルで理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体を構成する物質の性質および機能について説明することができる。 2) 5大栄養素それぞれの特徴と相互の違いについて説明することができる。 3) 遺伝子の発現とその調節について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基礎的な知識を応用する能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」第3版、園田勝編、羊土社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	確認テスト後に解答の解説を行います。								
留 意 事 項	栄養生化学の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。 なお毎授業時に確認テストとして、修学ポータルサイト内の「ICT活用」により小テスト実施するが、これらはスマホ、タブレットなどを用いて行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		生化学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	細胞の構造	(学修内容) 細胞の基本構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第1章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q1-3をノートにまとめておくこと
第2回	タンパク質の種類と構造	(学修内容) 生体を構成するタンパク質の種類と構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q3をノートにまとめておくこと
第3回	アミノ酸について	(学修内容) タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q1-2をノートにまとめておくこと
第4回	アミノ酸の構造と高次構造	(学修内容) アミノ酸の構造とタンパク質の高次構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q4-5をノートにまとめておくこと
第5回	糖質の構造	(学修内容) 生体を構成する糖質の構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第2章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第6回	糖質の分類	(学修内容) 糖質の種類とその特徴を理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第2章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第7回	脂質の構造	(学修内容) 生体を構成する脂質の種類と構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを(第3章)読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第8回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	(学修内容) 脂質の誘導体の種類と構造、役割について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを(第3章)読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第9回	ミネラルの機能	(学修内容) 生体内に分布するミネラルの種類と役割について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第8章)を読んでおくこと 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第10回	生体膜と物質輸送	(学修内容) 生体膜の構造と性質、物質輸送における役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第1章)を読んでおくこと 授業終了後は章末問題Q4-5をノートにまとめておくこと
第11回	電子伝達系	(学修内容) エネルギー生成における電子伝達系の役割を理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第12章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第12回	酸化的リン酸化	(学修内容) 酸化的リン酸化と基質レベルのリン酸化について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第13章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第13回	核酸	(学修内容) 核酸分子を形成する基本単位であるヌクレオチドの構造を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第6章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第14回	染色体とDNA	(学修内容) 生物の設計図である染色体について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第14章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第15回	遺伝子の転写と調節	(学修内容) 遺伝子の発現とタンパク質の合成について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第15章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと



授業名	比較文化論 u			開講学年	1・4回生	単位数	2単位	科目コード	HE1304
英文名	Theory of Comparative Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	朝田 郁			対象学生	現代家政1回生（発展科目）、現代家政・食物栄養4回生（基本科目）				
授業の概要	<p>みなさんが持つアフリカや中東のイメージは何ですか？アフリカだと、未開性や貧困問題、野生動物を思い浮かべるかもしれません。中東の場合は、砂漠や石油でしょうか。近年、日本とこれらの地域との経済的な結びつきは深まっていますが、その一方で、人々の営みや文化については、限られた情報しか伝わってきません。この授業では、現代アフリカ社会と中東社会を取り上げ、その文化的多様性と私たちの社会との共通性について考えます。そして身近な具体例から、これらの地域で暮らす人々が、私たちと地続きの世界を生きる同時代人であることを学びます。</p> <p>なお、授業の中で1人1回のプレゼンテーションの機会を設けます。受講生が多数の場合は、プレゼンテーションに代えてグループワークを実施します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) アフリカと中東地域の文化的多様性と共通性について、基本的な知識を身に付ける。  2) 日本とは異なる生活様式を学ぶことで、自文化中心主義を相対化することができる。  3) 関連したニュース報道について、その背景と構造を多角的にとらえることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	指定はありません。講師が用意したパワーポイント資料で授業を進めます。								
参考書	必要に応じて適宜ご紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	各回の最後に理解度テストを実施します。解答の説明は、次回の最初におこないます。								
留意事項	前提知識は必要ありません。基本的なことから順番にお話しします。新鮮な気持ちで臨んでください。講義内容をより多いものにするため、受講生のみなさんの積極的な授業参加を期待します。								
オフィスアワー	授業終了後に時間を設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：東アフリカ・中東湾岸諸国において複数回のフィールドワーク実施  京都大学アフリカ地域研究資料センター・特任助教</p>								

授業名	比較文化論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：アフリカと中東のイメージ	(学修内容) 講義全体の進め方・授業内容についてのガイダンス  (事前事後学修課題の内容) (30分) アフリカと中東と聞いて、連想したキーワードを5つずつ挙げてみる
第2回	聖なるものと人々の営み	(学修内容) アフリカと中東の精神文化・宗教文化  (事前事後学修課題の内容) (30分) 宗教に対して持っているイメージを、キーワードの形で挙げてみる
第3回	一神教の世界1：何を信じている？	(学修内容) 一神教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)の相互関係と思想 (事前事後学修課題の内容) (30分) 世界宗教としての一神教が、世界のどの地域で興ったのか調べてみる
第4回	一神教の世界2：何を実践している？	(学修内容) 一神教に基づいた人々の日常的な暮らし  (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活の中で、どのような宗教的イベントがあるか挙げてみる
第5回	アフリカの衣食住	(学修内容) アフリカ社会における衣食住とその多様性  (事前事後学修課題の内容) (30分) 衣食住に関して、アフリカ由来のものが身の回りにあるか考えてみる
第6回	中東の衣食住	(学修内容) 中東社会における衣食住とその多様性  (事前事後学修課題の内容) (30分) 衣食住に関して、中東由来のものが身の回りにあるか考えてみる
第7回	言葉がつむぐ文化	(学修内容) 言語をめぐる人々の営みと文化形成  (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活の中で、どのような時に言葉の使い分けがあるか考えてみる
第8回	家族の成り立ち	(学修内容) アフリカと中東における家族のしくみと名付け  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が属している親族関係を、家系図の形でまとめてみる
第9回	アフリカのメディア	(学修内容) アフリカ社会固有のメディア状況  (事前事後学修課題の内容) (30分) アフリカ社会の携帯電話の普及率について、ネット検索で調べてみる
第10回	中東のメディア	(学修内容) 中東社会固有のメディア状況  (事前事後学修課題の内容) (30分) SNSの影響を受けた社会現象に、どのようなものがあるか調べてみる
第11回	お祭と民衆	(学修内容) 社会の多数派である民衆の暮らしと祝祭の関係  (事前事後学修課題の内容) (30分) 参加したことのある祭事を挙げ、その社会的な機能について考えてみる
第12回	伝統と革新のせめぎあい	(学修内容) 文化が内包する相反する動き・近代化と復興現象  (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活の中で、伝統文化の影響を感じる機会について挙げてみる
第13回	人々の移動とネットワーク	(学修内容) なぜ人は移動するのか・移動する人々が作り出す文化  (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような背景で人は移動してきたか、日本人移民の事例を調べてみる
第14回	アフリカと中東のポピュラー・カルチャー	(学修内容) アフリカと中東における大衆文化の諸相  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の経験から、音楽が行動や考え方に与える影響について挙げてみる
第15回	グローバル化と異文化理解	(学修内容) 異文化理解に必要な視点・比較文化論のまとめ  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの学習を振り返り、異文化と自文化の共通点を挙げてみる

授業名	解剖・生理学 b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2315
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	解剖・生理学 に続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学 では、生殖器系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。								
学修成果到達目標	1) 生殖器系、内分泌系、免疫系、運動器系、神経系、感覚器系および自律神経系の構造とその機能が理解できる。 2) 日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。 3) 身体恒常性を保つシステムの生理学について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 100 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (判断力)		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( 統合力 )			
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 羊土社								
参考書	多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで理解度を確認し、解答の解説を行う。								
留意事項	解剖・生理学 で学んだことは復習しておく。 学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。								

授 業 名		解剖・生理学 b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生殖器系 (男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生)	(学修内容) 生殖器の構造と機能および生殖器の発生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 生殖器の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp307-327	
第2回	生殖器系 (性周期、排卵の機序、受精・分娩)	(学修内容) 性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について (事前事後学修課題の内容) (60分) 性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく「解剖生理学」pp327-335	
第3回	内分泌系 (ホルモン分泌の調節機能)	(学修内容) 視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能について調べておく「解剖生理学」pp336-345	
第4回	内分泌系 (ホルモンの種類とその働き)	(学修内容) ホルモン分泌器の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) ホルモン分泌器とそのホルモン作用について調べておく「解剖生理学」pp346-354	
第5回	免疫系 (免疫系の構造とその機能)	(学修内容) 免疫系の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 免疫系の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第6回	免疫系 (生体防御機構とアレルギー)	(学修内容) 生体防御機構とアレルギーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 生体防御機構とアレルギーについて調べておく「解剖生理学」pp204-220	
第7回	運動器系I (全身の骨格の構造とその運動機能)	(学修内容) 運動器系(全身の骨格)の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の骨格の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp73-116	
第8回	運動器系II (全身の筋系の構造とその運動機能)	(学修内容) 運動器系(全身の筋系)の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の筋系の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp116-147	
第9回	神経系 I (神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能)	(学修内容) 神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 神経系の電気生理学的特性や中枢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp355-396	
第10回	神経系 II (反射系および末梢神経系、自律神経系の構造と機能)	(学修内容) 反射系および末梢神経系、自律神経の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 反射系および末梢神経系、自律神経の全身の臓器への影響と機能について調べておく「解剖生理学」pp396-416	
第11回	皮膚 (皮膚の構造とその機能)	(学修内容) 皮膚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 皮膚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp417-432	
第12回	感覚器系 (感覚器の構造、体性感覚、内臓感覚、特殊感覚: 味覚、嗅覚とその機能)	(学修内容) 体性感覚、内臓感覚、味覚、嗅覚の構造とその機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体性感覚、内臓感覚、味覚、嗅覚器の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第13回	感覚器系 (視覚、聴覚、平衡覚)	(学修内容) 特殊感覚; 視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について調べておく「解剖生理学」pp433-447	
第14回	体液の恒常化 (体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性)	(学修内容) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について調べておく「解剖生理学」pp459-465	
第15回	体温調節 (体温の調節機能)	(学修内容) 体温の調節機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体温調節について調べておく「解剖生理学」pp466-468	

授 業 名	公的扶助論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2313
英 文 名	Theory of Public Assistance			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	公的扶助制度の中心的制度である生活保護制度の仕組みについて学習する。生活保護制度の対象となる貧困問題について理解し、貧困問題が改めて社会問題となる現状を踏まえながら、貧困問題対策の在り方を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 貧困・低所得問題を理解することができる。 2) 生活保護制度を中心とした公的扶助制度について理解することができる。 3) 公的扶助の今日の課題を考察することができるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (			)
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	随時指示する								
課題に対する フィードバック の方法	試験実施の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	マスコミ報道に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		公的扶助論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容)本講義のねらいと計画  (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスを読んでおく
第2回	公的扶助の概念	(学修内容)公的扶助の概念と範囲  (事前事後学修課題の内容)(30分) 公的扶助とは何かについて考えておく
第3回	公的扶助の歴史 - 明治期 -	(学修内容)公的扶助の歴史 明治期  (事前事後学修課題の内容)(30分) 戦前の公的扶助について考えておく
第4回	公的扶助の歴史 - 大正・昭和期 -	(学修内容)公的扶助の歴史 大正・昭和期  (事前事後学修課題の内容)(30分) 大正・昭和期について公的扶助がどう展開されたかを考えておく
第5回	社会保障体系における公的扶助の位置・役割	(学修内容)社会保障と公的扶助の関係について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会保障の世界を考えておく
第6回	生活保護制度の解説 - 原理 -	(学修内容)生活保護の原理について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護とは何かについて考えておく
第7回	生活保護制度の解説 - 原則 -	(学修内容)生活保護制度の原則について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護とは何かについて考えておく
第8回	生活保護制度の解説 - 種類・基準 -	(学修内容)生活保護の種類と基準  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護にはどのようなものがあるかを考えておく
第9回	生活保護制度の解説 - 施設 -	(学修内容)生活保護の施設  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護施設について考えておく
第10回	生活保護の実際 - 保護率等 -	(学修内容)生活保護の実情についてデータをもとに学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護の実際について考えておく
第11回	生活保護の実際 - 保護世帯の特徴 -	(学修内容)生活保護の実情についてデータをもとに今日の特徴を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護の最近の動向を考えておく
第12回	生活保護の実際 - 保護廃止理由等 -	(学修内容)生活保護の実情についての変化を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護をめぐる話題をつかむ
第13回	生活保護行政について	(学修内容)生活保護の運用上の問題と課題を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護の運用上の課題を考える
第14回	生活保護制度のこれからの課題	(学修内容)生活保護制度改革と将来の展望  (事前事後学修課題の内容)(30分) 関連する新聞記事を読む
第15回	社会保障と生活保護	(学修内容)社会保障体系上における生活保護のあり方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(45分) 生活保護のこれからのことについて考えておく

授 業 名	高齢者福祉論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2314
英 文 名	Theory of Welfare for Elderly People I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	高齢者の生活実態を把握し、問題解決の方策について考える。老後保障としての、年金、医療、介護など総合的な施策を把握しながら、それぞれの課題について検討していきたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)高齢者のくらしの特徴を知ることができる。 2)高齢者の生活の変化を把握することができる。 3)高齢者対策の体系を把握することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	『国民の福祉と介護の動向2019/2020』厚生労働統計協会								
参 考 書	適宜、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	試験実施の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	祖父母等のくらしについて話を聞くようにする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名	高 齢 者 福 祉 論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	わが国の人口と世帯の動向	(学修内容) わが国の高齢化の実態を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等の暮らし向きについて話を聞く。
第2回	高齢化の背景	(学修内容) 少子・高齢化について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自の世帯の特徴について考える。
第3回	高齢者世帯の特徴	(学修内容) 高齢者のみで暮らしている世帯の状況を認識する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等のくらしの悩みについてたずねる。
第4回	高齢者の経済状態	(学修内容) 老後不安の実情をつかむ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等の年金額を教えてもらう。
第5回	高齢者福祉の歴史 - 昭和期 -	(学修内容) 昭和期の高齢者福祉を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 昭和の時代の特徴を知り、高齢者福祉の動向を把握する。
第6回	高齢者福祉の歴史 - 平成・令和期 -	(学修内容) 平成・令和期の高齢者福祉を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分たちが育った時代における高齢者福祉を振り返る。
第7回	高齢者虐待防止について	(学修内容) 高齢者虐待の実態把握と予防を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 要介護者のいる世帯に関心を向ける。
第8回	高齢者の生きがいについて	(学修内容) 老後のくらしと生きがいについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等の生きがいについてたずねる。
第9回	高齢者医療の実態と課題	(学修内容) 高齢者の医療ニーズと制度の実態把握。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等の病気に関する実情をつかむ。
第10回	高齢者の住まいの実態と課題	(学修内容) 高齢者の住まいの実態とその課題を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祖父母等の住まいを観察する。
第11回	高齢者のくらしと施設 - 養護老人ホーム等 -	(学修内容) 高齢者のくらしにとって施設の役割を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設で暮らす高齢者について考える。
第12回	高齢者のくらしと施設 - 特別養護老人ホーム等 -	(学修内容) 特養で暮らす高齢者について把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 特養の役割について考える。
第13回	高齢者のくらしと施設 - 有料老人ホーム等 -	(学修内容) 有料老人ホームの実情を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 有料老人ホームの情報をつかむ。
第14回	高齢者のくらしと在宅ケア - 訪問介護等 -	(学修内容) 高齢者向け在宅ケアの内容を知る。とくに訪問介護。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者にとって在宅の重要性を考える。
第15回	高齢者のくらしと在宅ケア - 通所介護等 -	(学修内容) 高齢者向けの在宅ケアの内容を知る。とくに通所介護。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 通所介護のサービスに関心を向ける。



授業名	食文化			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	HE2418
英文名	Food Culture			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	塩田 二三子			対象学生	現代家政2回生、現代家政3回生、現代家政4回生				
授業の概要	人は何のために食べるのか。単に生命を長らえるためだけでなく、ともに食べることで幸せを感じたり、美味しいものを食べることで悲しみを癒されたりする。食文化とは食べ物と人との関わりにおいて構築されるものであろう。過去、変貌しながら伝承されてきた食文化について、世界的な視点から、また日本の状況について、伝承されてきたさまざまな食材や料理、調理道具、行事食などの観点から学んでいく。理解を深めるために適宜グループワークを行う。								
学修成果到達目標	1) 世界的な視野から日本の食文化を捉えることができる。 2) 日本の食の特徴、食材、料理、行事食、人生儀礼の食などについて理解できる。 3) 郷土食と今日の食に対する課題について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	岡田哲・著 『食文化入門』 東京堂出版								
参考書	授業中に指示する								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する								
留意事項	食文化に関する情報を、新聞記事などから積極的に得るように心掛けてもらいたい。								
オフィスアワー	初回の授業でお知らせする								
実践的教育									

授 業 名		食文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界の農耕文化の発生と伝播	(学修内容) 主作物(稲、小麦、芋、トウモロコシ、その他)と伝播ルート、世界の食文化マップ (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んでおく
第2回	世界の主食類型	(学修内容) 主作物(稲、小麦、芋、トウモロコシ、その他)の食べ方と地域性 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第3回	日本の稲作の歴史と米、魚、大豆の文化	(学修内容) 米(飯と餅)と魚、大豆の文化について、日本型食生活への発展 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第4回	ハレとケの食事	(学修内容) 共食、年中行事、通過儀礼食について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第5回	日本のお正月文化	(学修内容) 全国の雑煮の特色、おせち料理の文化的背景 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第6回	郷土料理と地産地消、京の食文化	(学修内容) 地元の食についての理解を深める、京の魚、野菜の文化 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第7回	各国料理の歴史と特徴	(学修内容) 中国料理、西洋料理などの歴史と発展 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第8回	各国料理の歴史と特徴	(学修内容) 各国料理の様式と献立、調理器具 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第9回	民族による食べ方の違い(異文化の食べ物)	(学修内容) 食具と食器、宗教による食物の禁忌 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第10回	自分の出身地の郷土食について発表(前半)	(学修内容) 自分の出身地の郷土食について発表(前半) (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表準備
第11回	自分の出身地の郷土食について発表(後半)	(学修内容) 自分の故郷の郷土料理について調べ、発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表準備
第12回	日本料理の発展	(学修内容) 日本料理の歴史、様式と献立、調理器具 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第13回	日本料理の発展	(学修内容) 精進料理、茶道と茶懐石、会席料理、和食とは (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第14回	嗜好飲料とお菓子の発展	(学修内容) お酒、お茶、和菓子と洋菓子 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べておく
第15回	世界の発酵食品と日本の発酵食品 授業の総括	(学修内容) 発酵食品と健康、保存の知恵、京の漬物 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布資料について調べてお

授 業 名	社会福祉行政			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3456
英 文 名	Social Welfare Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	社会福祉の実際は、主として国・都道府県・市町村の行政が担っているが、その内容について教授する。なかでも各種計画を通して推進されている実情把握をし、行政課題を検討したい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)社会福祉と行政の仕組みを理解できるようになる。 2)社会福祉計画の実情を知ることができる。 3)社会福祉を推進するための行政課題を把握することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『国民の福祉と介護の動向2019/2020』厚生労働統計協会								
参 考 書	適宜、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	試験実施の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	居住地の市町村窓口へ訪問し、福祉に関する資料を入手する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		社会福祉行政
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会福祉の行政組織 - 国 -	(学修内容) 社会福祉の行政組織としての国の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉に関する国の動向についてマスコミ情報を知る。
第2回	社会福祉の行政組織 - 各種審議会 -	(学修内容) 社会福祉に関する各種審議会の実情を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 審議会の議論についてマスコミ情報を得る。
第3回	社会福祉の行政組織 - 地方自治体 -	(学修内容) 都道府県・市町村が果たしている社会福祉の実情を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の役所について知る。
第4回	社会福祉の実際 - 国会・議会の役割 -	(学修内容) 社会福祉政策の決定の仕組みとしての国会・議会について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の議会情報を得る。
第5回	社会福祉の実際 - 福祉事務所 -	(学修内容) 社会福祉現場としての福祉事務所の実情を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の福祉事務所について知る。
第6回	社会福祉の実際 - 児童相談所 -	(学修内容) 社会福祉現場としての児童相談所の実情を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の児童相談所について知る。
第7回	行政計画の内容と体系	(学修内容) 行政計画の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の行政計画を知る。
第8回	社会福祉に関する計画の実際	(学修内容) 社会福祉に関する計画の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉に関する計画を知る。
第9回	社会保障・社会福祉財政について	(学修内容) 社会福祉財政の仕組みを把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の財政についてマスコミ情報を知る。
第10回	社会保障・社会福祉の財政の動向	(学修内容) 近年の社会福祉財政の特徴を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の財政についてマスコミ情報を知る。
第11回	社会保障・社会福祉の財源をどう考えるか	(学修内容) 社会福祉の財源について根源的に検討する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉の財源はどうあるべきかを考える。
第12回	住民のくらしと社会福祉行政	(学修内容) 住民にとって福祉行政はどんな役割を持っているか検討する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 住民と役所の関係を考えてみる。
第13回	社会福祉要求と社会福祉行政	(学修内容) 社会福祉要求の実態を把握し、行政への関わりを把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 住民の福祉要求を知る。
第14回	請願権と社会福祉行政	(学修内容) 社会福祉要求を実現する手法としての請願権について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 請願権について考えてみる。
第15回	社会福祉行政のこれから	(学修内容) 社会福祉行政の今後の課題についてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 皆さんが望む社会福祉行政を考える。

授 業 名	子ども家庭支援の心理学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	00205
英 文 名	Psychology of Child and Family Support			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	本講義では生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題などを理解する。また、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに子育て家庭をめぐる状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためにどのようにすればよいのかについて考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	子どもや家庭を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。 子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 15 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 85 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	本郷一夫・安藤智子（編）「子育て支援の心理学」（2018）建邦社								
参 考 書	授業の中で適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題にはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時にお知らせします。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務した経験を有する。								

授 業 名		子ども家庭支援の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	生涯発達(1) 乳幼児期から学童期にかけての発達	(学修内容) 生涯発達の考え方・発達の連続性について理解し、特に就学後の学童期までの子どもの発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 本講義に期待すること・自分の問題意識を整理し、自分の子ども観・家族観について考えてみる。	
第2回	生涯発達(2) 思春期・青年期の発達	(学修内容) 思春期の心と体の変化、思春期・青年期の親子関係や友人関係、思春期・青年期の心理的葛藤や悩みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身の思春期・青年期についてどのような変化や葛藤が生じたか振り返り、その意味について考える。	
第3回	生涯発達(3) 成人期・老年期における発達	(学修内容) 成人初期、中年期、老年期までの発達と心理的葛藤について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な中年期・老年期世代(親や祖父母など)と自分自身や他世代との関係性について理論をふまえて考える。	
第4回	家族・家庭の意義と機能: 親子関係・家族関係の理解	(学修内容) 現代における家族・家庭の意義や機能について、文化や歴史的な文脈もふまえて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自身の家族観・家庭観について分析する。	
第5回	子育ての経験と親としての育ち	(学修内容) 妊娠期から出産、子育て期の経験を通じた親としての成長・発達を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子育て経験者に体験談を聞き(あるいは事例を読み)、理論をもとに考察する。	
第6回	子育てを取り巻く社会的状況	(学修内容) 現在の日本における社会的状況が、子育て家庭にどのような影響を及ぼしているかについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 現代の子育てを取り巻く社会的状況に関する統計データを調べ、どのような現状があるのかについて分析する。	
第7回	ライフコース: 恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭	(学修内容) 青年期以降の恋愛・結婚、子育て、仕事と家庭のワークライフバランスの問題などについて学び、多様な状況と価値観があることを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身のライフコースについて具体的に考える。	
第8回	多様な家庭とその支援	(学修内容) 多様な家庭のあり方について理解し、必要となる配慮や支援について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 多様な家庭のあり方について事例を読んだりWEBで調べるなどして理解を深める。	
第9回	特別な配慮を要する家庭への支援	(学修内容) 特に支援を要するハイリスク家庭について理解し、どのような支援のあり方が適切かについて事例などもふまえながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントについて理解する。	
第10回	子どもの生活・生育環境と心の健康	(学修内容) 心の健康についてのとらえ方、子どもの精神疾患・障害の概要(疾患・障害名とその主症状)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの精神疾患について調べ、症状や支援について理解する。	
第11回	情緒的な問題とその支援	(学修内容) 生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情緒的な問題が生じた事例について読み、支援のポイントについて考える。	
第12回	災害後の心理的問題とその支援	(学修内容) 災害の後に生じる子どもたちの変化やストレス障害について学び、保育者としての支援のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 東日本大震災など近年生じた災害の後に、子ども達にどのような変化や問題が生じたか、どのような支援が行われたかについて調べる。	
第13回	発達の課題とその支援	(学修内容) 子どもの様々な発達の課題とその支援方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発達の課題を抱える子どもの事例について読み、支援のポイントについて考える。	
第14回	特別な配慮を要する家庭への支援の実際(1) 園での支援事例	(学修内容) これまでに学んできた基礎知識をもとに、特別な配慮を要する家庭への支援のあり方について事例検討する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントを理解する。	
第15回	特別な配慮を要する家庭への支援(2) 多職種連携の事例/まとめ	(学修内容) 虐待、貧困、保護者が障害を有するケースなど、多様な家庭について他職種と連携しながら支援する方法を考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学んだ知識を整理し、最終レポートにむけて復習をしておく。	

授 業 名	特別支援教育（幼・小）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2439
英 文 名	Special Needs Education (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>近年、教育現場には全体の6.5%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれています。さまざまな支援が必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要があります。</p> <p>本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようにすすめていきます。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解する</p> <p>2) 発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする幼児・児童の心身の発達について理解を深める</p> <p>3) 支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学ぶ</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	玉村公二彦編著『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ 2019年								
参 考 書	山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ 2019年								
課題に対する フィードバック の方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。								
留 意 事 項	授業内で出る課題については必ず講義終了時に提出してください。（未提出の場合は欠席となります）								
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 6号館 幼児教育演習室にて受け付けます								
実践的教育									

授 業 名		特別支援教育（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身のイメージする生涯像をまとめておく
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト第3章前半部分 第4章-096.97.98.99を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態	（学修内容）支援の必要な子どもたちにどのような支援方法が（教育形態、加配制度）があるのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第4章前半部分を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章前半部分を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともにどのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第6回	自閉症スペクトラム障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第7回	学習障害（LD）児、注意欠如・多動性障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）学習障害、注意欠如・多動性障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第8回	小テスト	（学修内容）講義内容を自身でどれだけ理解できているか確認する （事前事後学修課題の内容）（40分） 今までの講義内容を復習しておく テスト終了後、解答の困難だった部分についてしっかりと復習しておく
第9回	肢体不自由児・医療ケア児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体障害にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、各々に求める援助について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章の後半部分を読んでおく
第10回	視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害・聴覚障害・言語障害の特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点があるのかをのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第2章66.67を読んでおく
第11回	ポスターセッションに向けて ・グループワーク	（学修内容）ポスターセッションに向けてグループで話し合い、障害種別の特性およびのぞましい援助を発表するための準備をする （事前事後学修課題の内容）（20分） 事前に発表された自身のグループでの発表内容（障害種別）についてしっかりと復習しておく
第12回	ポスターセッション ・知的障害/発達障害	（学修内容）グループで作成した障害種別の特性およびのぞましいと考える援助についてポスター発表する （事前事後学修課題の内容）（40分） 発表にあたっては相手に伝わりやすいようにどのように説明するのはのぞましいかを考えておく
第13回	ポスターセッション ・身体障害	（学修内容）グループで作成した障害種別の特性およびのぞましいと考える援助についてポスター発表する （事前事後学修課題の内容）（40分） 発表にあたっては相手に伝わりやすいようにどのように説明するのはのぞましいかを考えておく
第14回	特別に支援の必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深め、個別の支援計画について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第4章後半部分を読んでおく
第15回	まとめ インクルーシブ教育への転換	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第1章を読んでおく



授 業 名	特別支援教育（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2722
英 文 名	Special Needs Education (Home Economics・Nutrition)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>近年、教育現場には全体の6.5%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれるなかで、さまざまな支援の必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要がある。</p> <p>本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようにすすめていく。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解する</p> <p>2) 発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする児童・生徒の心身の発達について理解を深める</p> <p>3) 支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学ぶ</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	玉村公二彦編著『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ 2019年								
参考書	山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ 2019年								
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。								
留意事項	授業内で出る課題については必ず講義終了時に提出してください。（未提出の場合は欠席となります） 教育、特別支援についての時事問題は意識して学び、受講して下さい。								
オフィスアワー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 6号館 幼児教育演習室にて受け付けます								
実践的教育									

授 業 名		特別支援教育（家庭・栄養）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身のイメージする障害像をまとめておく
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章前半部分 第4章-096.97.98.99を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態	（学修内容）支援の必要な子どもたちにどのような支援方法が（教育形態、加配制度）があるのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第4章前半部分を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章前半部分を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともにどのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第6回	自閉症スペクトラム障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第7回	学習障害（LD）児、注意欠如・多動性障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）学習障害、注意欠如・多動性障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章-87.88.を読んでおく
第8回	小テスト	（学修内容）講義内容を自身でどれだけ理解できているか確認する （事前事後学修課題の内容）（40分） 今までの講義内容を復習しておくテスト終了後、解答の困難だった部分についてしっかりと復習しておく
第9回	肢体不自由児・医療ケア児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体障害にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、各々に求める援助について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第3章の後半部分を読んでおく
第10回	視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害・聴覚障害・言語障害の特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点があるのかをのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第2章66.67を読んでおく
第11回	ディスカッション ・自身がさらに理解を深めたい障害について	（学修内容）自身がさらに理解を深めたい障害種別ごとにわかれ、互いの意識や援助に必要な知識、課題に対する解決策などを話しあい、意見をまとめる （事前事後学修課題の内容）（20分） 自身が関心の深い障害について、具体的にどのような部分をさらに学びたいと考えているのかをまとめておく（レポート課題）
第12回	プレゼンテーション ・グループ発表	（学修内容）グループでまとめたことについて発表する （事前事後学修課題の内容）（20分） 相手に伝わりやすいようにどのように説明するのはのぞましいかグループでしっかりと準備しておく
第13回	制作 ・自身がさらに理解を深めたい障害についての教材研究	（学修内容）実際に学校現場での事例を見て、自分が指導するにあたってどのような教材が生かせるのか実際に作って考えてみる （事前事後学修課題の内容）（20分） どのような教材を制作するのかを考え材料を準備しておく
第14回	特別に支援の必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深め、個別の支援計画について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第4章後半部分を読んでおく
第15回	まとめ インクルーシブ教育への転換	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第1章を読んでおく

授 業 名	現代家政学演習 s b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学では、生活に関わる課題を取りあげ、現状や解決の方向性を探究することが重要である。本演習では、テーマを設定しグループワークを行うことにより多様な視点、考え方があることを学ぶ。また、グループワークでの意見をまとめてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。さらに、ディスカッションを踏まえて各自の課題を設定し、文献を読みレポートをまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 現代家政学で取り組む課題を認識することができる。 2. 課題に対して人の意見を聞き、多様な視点があることを理解できる。 3. 課題に対して自分の考えをまとめて説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項	主体的に取り組むことが重要。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方の説明とグループ分け  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読み、課題について考える
第2回	生活に関わる課題について考える	(学修内容) 生活を取り巻く課題について考える  (事前事後学修課題の内容) (30分) 現代生活における課題について考えてくる
第3回	課題に対する資料収集	(学修内容) 課題に関する資料を集めて読む  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を検索する
第4回	課題に対する意見をまとめる	(学修内容) 課題に対する資料を読み、自分の意見をまとめる  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読む
第5回	グループワークとディスカッション	(学修内容) グループワークとディスカッションを行う  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめてくる
第6回	発表準備	(学修内容) 発表資料の作成  (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容を考える
第7回	グループ発表とディスカッション：A・B・Cグループ	(学修内容) グループ発表とディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作りと発表準備
第8回	グループ発表とディスカッション：D・E・Fグループ	(学修内容) グループ発表とディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作りと発表準備
第9回	グループ発表のまとめ	(学修内容) グループ発表を振り返る  (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を見直す
第10回	課題に対する論文を集める	(学修内容) 個人の課題を設定し、論文を検索する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える
第11回	論文を読む	(学修内容) 論文を読む  (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文を読む
第12回	発表準備	(学修内容) 個人発表の準備と資料作り  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作り
第13回	個人発表・1回目	(学修内容) 論文内容を解説し、自分の意見を発表する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表レジュメの作成
第14回	個人発表・2回目	(学修内容) 論文内容を解説し、自分の意見を発表する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表レジュメの作成
第15回	総括	(学修内容) まとめとレポートの説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を整理する

授 業 名	現代家政学演習 S C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	日々変化する社会のなかで、社会を環境を地域をいかに捉えていけばよいのか。どのような社会や環境・地域が望ましいのか。そのための問題を見つけ、それを突き詰めて探ることを主眼とする。授業では本・論文・新聞などの文書の読み方、建物見学・町歩きから町や空間の見方、ドキュメンタリー映画などから映像の見方、などをとおして社会や環境・地域について学び、問題意識を習得していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)本・論文・新聞などの文書を解読し、まとめることができる。 2)建物見学・町歩き・ドキュメンタリーの映像などから町や空間・地域の特性を把握し、現代的課題を説明することができる。 3)見出せた課題に対して、調査研究計画を立案することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	適時 関連するものを用意して、配布								
参 考 書	なし								
課題に対する フィードバック の方法	合評会をおこない、評価できる面と足りない部分を伝える								
留 意 事 項	学外での授業がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1回1時間設ける								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 SC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	社会・環境・地域で起こっていること1	(学修内容) 京都の外国人観光客の激増の意味を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付した資料を読み、まとめておく
第3回	社会・環境・地域で起こっていること2	(学修内容) 京都の町家がホテルに建て替る現象を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付した資料を読み、まとめておく
第4回	社会・環境・地域で起こっていること3	(学修内容) 京都の町家について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付した資料を読み、まとめておく
第5回	図書館での資料調査1	(学修内容) 京都府立図書館で本・論文・新聞など資料調査を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のあることをまとめておく
第6回	図書館での資料調査2	(学修内容) 本学図書館で本・論文・新聞など資料調査を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のあることをまとめておく
第7回	フィールドワーク1	(学修内容) 町家の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付した資料を読み、まとめておく
第8回	フィールドワーク2	(学修内容) 白川・祇園新橋界隈の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付した資料を読み、まとめておく
第9回	フィールドワークに対する意見交換	(学修内容) 意見交換 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地調査で得られた情報を整理し、自分の意見の確認
第10回	個人研究テーマの選定	(学修内容) 課題選定と研究の方法 (事前事後学修課題の内容) (40分) 個人研究テーマを考える
第11回	発表1	(学修内容) 調べ学習の発表・パワーポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備、他の人は資料を読んでおくこと
第12回	発表2	(学修内容) 調べ学習の発表・パワーポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備、他の人は資料を読んでおくこと
第13回	発表3	(学修内容) 調べ学習の発表・パワーポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備、他の人は資料を読んでおくこと
第14回	振り返り	(学修内容) 春学期の自己の到達点を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 春学期の振り返りをしておくこと
第15回	折り返し	(学修内容) 秋学期にむけて課題を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋学期にむけて課題を考えておくこと

授業名	現代家政学演習 s d			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>「社会の変化と教育の課題」を考え、その中から興味あるテーマを決め、取り組まれている実例を文献で調べたり、フィールドワークなどを行ったりして調査研究を進め、結果・考察をまとめてパワーポイントで発表する。発表や討論を通して、多様な視点があることを学び視野を広げ、考える力をつける。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 「社会の変化と教育の課題」を認識することができる。  2) 自分のテーマに沿った調査研究の計画を立案し、進めることができる。  3) 発表や討論を通して、自分の考えをまとめることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	使用しない								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適時アドバイスをする。								
留意事項	課題に対して自ら進んで積極的に取り組んでください。								
オフィスアワー	毎週1回設定(休日・休業期間中を除く)								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭  京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭  京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長</p>								

授 業 名		現代家政学演習 s d
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(学修内容) 春学期の授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、課題を考えておく
第2回	教育の課題について考える	(学修内容) 教育の今日的課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考えてくる
第3回	課題別のグループを決める	(学修内容) グループ別に資料を収集し読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んで調べておく
第4回	課題に対する資料収集をする フィールドワークについて	(学修内容) 課題に対する資料を収集し読む フィールドワークの仕方やまとめ方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題に対する資料を読んでくる
第5回	産学公連携施設の調査研究	(学修内容) 産学公連携施設「京都まなびの街生き方探究館」の調査研究をする (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークの仕方やまとめ方を考えておく
第6回	調査研究結果を、グループで議論し意見を集約する	(学修内容) 調査研究でまとめた内容を、グループで議論し意見を集約する (事前事後学修課題の内容) (30分) 調査研究結果を整理しまとめておく
第7回	グループ発表の準備	(学修内容) グループワークの成果をPowerPointで作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料をまとめておく
第8回	グループ発表とディスカッション(1)	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめておく
第9回	グループ発表とディスカッション(2)	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめておく
第10回	個人研究のテーマを選定と研究方法	(学修内容) 個人研究のテーマを設定し研究方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究テーマを考えてくる
第11回	個人研究のテーマに対する文献資料を収集する	(学修内容) 個人テーマに対する文献を検索し資料を収集する (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献や資料を読んでくる
第12回	発表準備	(学修内容) 研究の内容や自分の意見をまとめ、PowerPointで作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 考えをまとめてくる
第13回	個人発表(1)	(学修内容) 個人研究の成果を発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表者は、発表準備・他は資料を読んでおく
第14回	個人発表(2)	(学修内容) 個人研究の成果を発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表者は、発表準備・他は資料を読んでおく
第15回	春学期の総括 秋学期の研究テーマと調査方法	(学修内容) 春学期の総括 秋学期の研究テーマと調査方法 (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究テーマと調査方法を具体的に考えてくる



授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 での考察をふまえ、各自が秋学期に取り組む課題を設定する。課題に関する文献を読みデータを収集し、考えをまとめてプレゼンテーションする。プレゼンテーションとディスカッションを行いことにより多角的な視点を得、さらに考えを深めてレポートにまとめる。一つの課題に主体的に取り組むことにより、問題意識を高め、卒論での研究テーマの設定につなげる。								
学修成果到達目標	1. 課題に関する文献を読み、理解することができる。 2. 自分の意見をまとめてプレゼンテーションすることができる。 3. 課題について考えを深め、レポートにまとめることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	使用しない。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	主体的に取り組むことが重要。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	課題設定	(学修内容) 課題を決め、文献を検索する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える
第3回	課題の発表	(学修内容) 探究したい課題内容と文献を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献を読む
第4回	課題に関する文献を読む	(学修内容) 文献を読み、自分の意見をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献を読む
第5回	発表資料の作成	(学修内容) 発表内容を考え、資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容を考える
第6回	発表1	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第7回	発表2	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第8回	発表3	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第9回	発表4	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第10回	論文検索	(学修内容) 課題に関する論文を検索する (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文の検索
第11回	論文を読む	(学修内容) 課題に関する論文を読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文を読む
第12回	発表準備	(学修内容) 発表内容をまとめて資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成の準備
第13回	発表1	(学修内容) 論文内容を説明し自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第14回	発表2	(学修内容) 論文内容を説明し自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第15回	総括	(学修内容) 意見交換と総括 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を整理する

授業名	現代家政学演習 S C			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、各自学生自身が興味関心を見つけ、具体的なテーマを定め、調査研究をする。具体的には文献解読にくわえ、フィールドワークや映像などの手法を援用し、社会・地域・環境に対する知的好奇心を触発させる。そのことにより課題設定につなげ、調査研究の基礎を習得する。								
学修成果到達目標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方に関して、基本的なことを習得できる。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して調査研究について実践的に学ぶことができる。 3) 文献や現地調査を通してより広い視野の知見を得ることができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	適時 関連するものを用意して配付								
参考書	特になし								
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて、コメントする								
留意事項	学外での授業がある								
オフィスアワー	週に一度一時間設ける								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 S C
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏期休暇中の成果報告	(学修内容) 夏期休暇中の現地調査や文献調査についての報告 (事前事後学修課題の内容) (90分) 報告準備
第2回	発表1-1	(学修内容) 調査内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第3回	発表1-2	(学修内容) 調査内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第4回	発表1-3	(学修内容) 調査内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第5回	フィールド調査の方法	(学修内容) フィールド調査の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第6回	フィールド調査1	(学修内容) 公園・寺院・門前町・建物の現地調査1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第7回	フィールド調査2	(学修内容) 公園・寺院・門前町・建物の現地調査1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第8回	フィールド調査のまとめと意見交換	(学修内容) 意見交換 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地調査で得られた情報をまとめておき、自分の意見の確認
第9回	写真・映像・地図・図面などの非文字資料の見方1	(学修内容) 非文字資料の意義 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第10回	写真・映像・地図・図面などの非文字資料の見方2	(学修内容) 非文字資料の扱い方1 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第11回	写真・映像・地図・図面などの非文字資料の見方3	(学修内容) 非文字資料の扱い方2 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおくこと
第12回	発表2-1	(学修内容) 調査研究内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第13回	発表2-2	(学修内容) 調査研究内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第14回	発表2-3	(学修内容) 調査研究内容をパワ ポイントで発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備
第15回	まとめ	(学修内容) 3年生ゼミにむけて課題を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 3年生ゼミにむけて課題を考えておく

授業名	現代家政学演習 s d			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生各自が自分の興味関心のあるテーマを設定し、それに関する文献資料やデータを収集し、また、必要に応じてフィールドワークを行い、より深く調査研究を推進する。調査研究結果をプレゼンテーションとディスカッションを行い、考えを深めレポートにまとめる。								
学修成果到達目標	1) 調査研究の方法やレポートのまとめ方について、基本的なことを身につけることができる。 2) 発表の場を通して、自分の考えをわかりやすくプレゼンテーションすることができる。 3) 参考文献や現場取材などを通して視野を広げることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	使用しない。								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適時アドバイスをする。								
留意事項	各自の発表は、全員の大切な学びの教材です。ゆとりを持って準備を行い、活発な意見交換を期待します。								
オフィスアワー	毎週1回設定(休日・休業期間中を除く)								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		現代家政学演習 s d
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏休み中の研究成果について	(学修内容) 秋学期の授業の進め方 夏休み中の研究成果について報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告準備
第2回	調査研究経過報告資料の作成	(学修内容) 調査研究経過報告資料の作成について (事前事後学修課題の内容) (60分) 個人研究の概要の発表準備
第3回	調査研究経過報告 A - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第4回	調査研究経過報告 B - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第5回	調査研究経過報告 C - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第6回	小学校の校内研究会の調査研究	(学修内容) 小学校の校内研究会に参加し調査研究をする (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの仕方やまとめ方を考えておく
第7回	調査資料作成	(学修内容) 発表用資料をパソコンで作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究のデータを整理しておく
第8回	調査研究経過報告 A - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第9回	調査研究経過報告 B - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第10回	調査研究経過報告 C - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第11回	調査研究経過報告 A - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第12回	調査研究経過報告 B - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第13回	調査研究経過報告 C - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第14回	調査研究発表会まとめ 1	(学修内容) 調査研究発表会まとめ 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint・Word 資料提出)
第15回	調査研究発表会まとめ 2	(学修内容) 調査研究発表会まとめ 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint・Word 資料提出)

授 業 名	子どもの音楽 u a ~ ue			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2724
英 文 名	Children and Music			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山中 信子・水谷 佳代子・阿久津 啓・服部 さやか・明山 婦美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	ピアノによる初見、簡易伴奏法および弾き歌いを通して、保育、教育現場でのより高い音楽の実践力を身に付ける。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認および指導を行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 初見による弾き歌いの基礎を習得することができる。 2) 子どもの歌の弾き歌いだけでなく、簡易的な即興伴奏法を習得することができる。 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	実技課題等は定期的に小試験を実施し、課題の達成度を確認する。								
留 意 事 項	レベルに合わせてクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	子どもの音楽 ua ~ ue	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	初見の基礎（調）および実践・弾き歌い	（学修内容）基本的な調判定の方法と初見演奏の際の留意事項について （事前事後学修課題の内容）（60分） 調判定の方法を復習しておくこと
第2回	初見の基礎（拍子）および実践・弾き歌い	（学修内容）初見課題のテンポ設定と拍子の取り方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題を正しく演奏できるよう復習しておくこと
第3回	初見の基礎（リズム）及び実践・弾き歌い	（学修内容）初見における理論的なリズム分割について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題の復習をしておくこと
第4回	第1回初見小試験・弾き歌い	（学修内容）初見課題の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の初見課題の復習および任意の初見課題の自主練習をしておくこと
第5回	第1回弾き歌い小試験	（学修内容）弾き歌い課題曲の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め与えられた弾き歌い課題曲の練習をしておくこと
第6回	伴奏付け実践演習（ハ・ヘ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ハ・ヘ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ハ・ヘ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと
第7回	伴奏付け実践演習（ト・ニ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ト・ニ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ト・ニ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと
第8回	伴奏付け応用実践演習・弾き歌い	（学修内容）既習調性による伴奏付けの応用実践について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調コード進行パターンの総復習をしておくこと
第9回	伴奏付け小試験	（学修内容）旋律課題に対する伴奏付けの個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 任意の旋律課題による伴奏付けの練習をしておくこと
第10回	弾き歌い実践演習	（学修内容）弾き歌い小試験に向けた演奏上の個別課題についての検討 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと
第11回	第2回弾き歌い小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと
第12回	初見応用編（付点リズム・タイ）・弾き歌い	（学修内容）初見における付点リズム・タイ等のパターンの読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） 符点のリズム・タイ等の含まれた初見課題の復習をしておくこと
第13回	初見応用編（シンコペーション・弱起）・弾き歌い	（学修内容）初見におけるシンコペーションおよび弱起について （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・弱起等の含まれた初見課題の復習をしておくこと
第14回	初見・弾き歌い総合実践	（学修内容）既習の学習内容の総復習と課題の発見と克服について （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の学習内容の総復習をしておくこと
第15回	第3回弾き歌い個別小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと



授 業 名	教職論（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2714
英 文 名	Teaching Theory (Home Economics・Nutrition)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤本 奈美			対 象 学 生	現代家政2回生（発展科目）、食物栄養2回生（資格科目）				
授業の概要	このクラスでは、教職の意義、教員の役割・職務内容、教育制度や関係法規、服務規程等について学ぶ。教職に就くうえでの心構えやその責任、教職を巡る課題、教師に求められる資質や能力について認識を深める。それによって、教職を志望する学生が、自身の進路選択とキャリア形成に関する具体的ヴィジョンをもてるようになることを目的とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教職の重要性や職務内容について説明できる。 2) 教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の 資質・能力について説明できる。 3) 自分にとって理想の教師像を論じることができる。 4) 教師になるために、自分の強みと課題について説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	佐久間亜紀・佐伯胖編 『現代の教師論（アクティベート教育学2）』 ミネルヴァ書房 2019年、ISBN:4623085368								
参 考 書	八尾坂修編著 『新時代の教職概論 学校の役割を知る 教師の仕事を知る』ジグアイ社2018年。 西岡加名恵、石井英真、川地亜弥子、北原琢也 『教職実践ワークブック』ミネルヴァ書房2013年。 その他、授業時に適宜紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては次回に解説を行う。 発表については、その場で指導・助言を行う。								
留 意 事 項	教職科目であるので、特に授業態度（協働的な学び、課題解決的な学び）を重要視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回時に連絡。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	教職論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 授業の目的と到達目標	（学修内容）科目のねらいと概要、授業の進め方について知る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書を参照しながら、教師と教員という言葉の違いについて考える。
第2回	教職をめぐる現状	（学修内容）自分の学校経験を振り返りながら、教員の役割や教職の意義、また教職をめぐる現状について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の教育体験のなかの「教師」について振り返ったうえで、現段階における自分自身の「理想の教師像」を明確にする。
第3回	各教育段階における教師の役割・意義	（学修内容）学校教育の目的を理解するなかで、幼・小・中・高校それぞれの教育段階における教員の役割や教職の意義・魅力について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書を参照しながら、教職について各自の考えをまとめてくる。
第4回	日本の教職の特徴	（学修内容）他職種や他国との比較から、教員の職務内容や勤務形態など教職の特性について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書を参考に、教員の職務内容や学級規模などをまとめてくる。
第5回	教職の歴史	（学修内容）時代によって変化する求められる教職観について考える。変化を踏まえて、これからの教師に求められる役割について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） それぞれの時代の教師像の背景にある社会状況や教育制度に関する重要な語句について調べ、まとめてくる。
第6回	教員の採用と研修	（学修内容）教員採用のしくみと採用後の研修制度の理解を通し、教職の人材確保及び養成について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の居住地の教員採用試験の内容を調べておく。また、教科書を参照しながら、教員研修制度についてまとめておく。
第7回	教員の職務と専門性	（学修内容）教科担任、学級担任、学校組織の一員としての教員等、多様な職務についての理解を図り、その専門性を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教師の1日の仕事や校務分掌について調べてくる。
第8回	教員の服務	（学修内容）教員の「職務上の義務」と「身分上の義務」について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「職務上の義務」と「身分上の義務」に関する事例について調べ、自分の考えをまとめる。
第9回	教員の権利と身分保障	（学修内容）教員の「権利」と「身分保障」について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「職務上の義務」と「身分上の義務」に関する事例について調べ、自分の考えをまとめる。
第10回	学級運営のさまざまな手法	（学修内容）学級事務、教育活動を含む学級運営について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学級運営のさまざまな手法について調べ、まとめておく。
第11回	現代における教育の課題 子ども・若者の自己認識	（学修内容）現代社会の現状を、子ども・若者・家庭・学校の視点から考え、教師としての関わり方について理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 若者の意識に関する調査を踏まえて、現代の子ども・若者が抱える課題を見つけ、それに対する教師としての対応を考える。
第12回	現代における教育の課題 いじめ	（学修内容）「いじめ」は人間のどのような内面の現れなのかを理解し、教師としての子どもへの関わり方について理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書と配布資料の議論を踏まえたうえで、人間はどんな時、自分や人をいじめるのかについて考え、まとめてくる。
第13回	専門家としての教師の力	（学修内容）教師として子どもといかに人間関係を構築し、子どもの成長を支援するかにについて考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事例を検討したうえで、事例の教師の立場に立った場合の生徒への関わり方について、自分の考えをまとめる。
第14回	「私のめざす教師像」 自分自身の課題と強み	（学修内容）「私のめざす教師像」に迫るうえで、自己の課題と強みについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 今までの学習資料の整理をしておく。
第15回	「私のめざす教師像」 教師になるために	（学修内容）今までの授業をふりかえり、自己が目指す教師像を確立する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「私のめざす教師像」について、まとめてくる。

授 業 名	教職論（幼・小）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2427
英 文 名	Teaching Theory (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育者や教員に期待されている役割を理解したうえで、備えるべき倫理観、資質や能力を理解していく。また、保育者や教員が役割を推敲するために不可欠な連携の重要性を理解し、ひとりひとりが理想的な保育者像、教員像を思い描けるようにしてゆく。主体的に学ぶために、ディスカッションを行ったり、グループワークを行ったりしながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>保育者・教育者の存在意義を理解し、進路選択に向け、保育職・教育職の職業的特徴を理解している。保育者・教育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の職務を含めた保育者・教員の職務の全体像を理解している。保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。職場の同僚と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	授業時にプリントを配布する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、いくつかを紹介して解説する。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育者・教員の役割	(学修内容) 保護者の立場から保育者・教員の役割を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 保護者にとっての保育者、教員像を考えてくる	
第2回	教員養成・免許制度と保育士養成	(学修内容) 教員・保育士がどのようなカリキュラムで養成されるかを知ることによって、それぞれの共通点、特殊性を理解する (事前事後学修課題の内容) (15分) 大学のシラバスの資格科目を見てくる。授業時にシラバスを持参すること。	
第3回	教員の服務と規律	(学修内容) 全体の奉仕者としての教員の服務の基準について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) プリントを読んでくる	
第4回	保育者・教員の倫理	(学修内容) 保育者・教員のもつべき倫理観を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 全国保育士会倫理綱領を読んでくる	
第5回	保育者・教員の資質と能力	(学修内容) 保育者や教員の日を解説し、そこから必要とされる資質、能力について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第6回	保育者・教員養成の歴史	(学修内容) 保育者、教員養成の歴史からその特性を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを参考にして、保育所、幼稚園、小学校いずれかの歴史を年表にまとめてくる	
第7回	計画と実践・省察	(学修内容) 指導計画の立案から省察までの流れを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第8回	計画立案の実際	(学修内容) 3分間スピーチを実施することによって、導入の方法、展開の方法、結末の作り方を実感する (事前事後学修課題の内容) (60分) 3分間スピーチを考えてくる	
第9回	計画の実践の体験	(学修内容) 指導計画を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画を完成させ、必要な教材を作成してくる	
第10回	保育者・教員の自己評価	(学修内容) 自らの実践を振り返ることから、自己評価の意義を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践の自己評価をまとめてくる	
第11回	連携に必要な資質	(学修内容) 連携に必要な資質をワークを通して考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 職員連携に必要な資質を自分に引きつけて考えてくる	
第12回	保護者との連携	(学修内容) 保護者との連携について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保護者対応について調べてくる	
第13回	保護者対応と職員連携	(学修内容) 保護者対応に職員連携が必要なことを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) グループワークで感じた体験を思い出してくる	
第14回	保育施設と小学校の連携	(学修内容) 小学校のスタートをよいものにするための工夫を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 自分の体験を思い出してくる	
第15回	保育者・教員に求められること	(学修内容) 保育者・教員に求められる資質を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) これまでの授業を振り返っておく	

授業名	教育課程総論 u (家庭・栄養)			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3740
英文名	Outline of Curriculum (Home Economics・Nutrition)			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	浅田 瞳			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。</p> <p>この授業では主に中学・高等学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。そこから、家庭科や栄養教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。</p> <p>授業内では、グループワークを行い、各科目でのカリキュラムがどのように設定されているのかについて発表してもらいます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育課程の編成・実施・評価・改善の過程(カリキュラムマネジメント)について説明できる。</p> <p>2) 学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。</p> <p>3) 学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第2版(ミネルヴァ書房)								
参考書	「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「学習指導要領解説 総則編」								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートについては次回解説を行います。								
留意事項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、小レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。								
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み								
実践的教育									

授 業 名	教育課程総論 u (家庭・栄養)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	(学修内容) 授業を進めるうえでの留意点  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	カリキュラムの分類	(学修内容) これまでのカリキュラムの分類を概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第3回	カリキュラムと教育目標	(学修内容) リテラシーとコンピテンシーについて考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) OECDのEducation2030について調べ、発表できるようにしておく。
第4回	カリキュラムの編成原理	(学修内容) 系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第5回	中等教育のカリキュラム原理	(学修内容) 中学および高等学校におけるカリキュラム原理について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第6回	子どもの発達とカリキュラム	(学修内容) 発達の観点からカリキュラムを考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「合理的配慮」について調べ、発表できるようにしておく。
第7回	カリキュラムの社会学	(学修内容) 隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「隠れたカリキュラム」について調べ、発表できるようにしておく。
第8回	カリキュラムを支える教育環境	(学修内容) 「開かれた学校づくり」や学習環境について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第9回	学習指導要領の変遷(1) 1947年～1958年改訂	(学修内容) 戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第10回	学習指導要領の変遷(2) 1968年～1998年改訂	(学修内容) いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第11回	学習指導要領の変遷(3) 2008年～2017年改訂	(学修内容) 近年の学習指導要領の特徴について概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第12回	教科のカリキュラム	(学修内容) 家庭科および特別な教科道徳のカリキュラムについて考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第13回	教科外のカリキュラム	(学修内容) 総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導、進路指導について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第14回	教科のカリキュラムについて考える	(学修内容) 自分が取得予定の教科のカリキュラムについて発表する。  (事前事後学修課題の内容) (120分) 取得予定の教科のカリキュラムについて発表できるようにしておく。
第15回	まとめ 近年のカリキュラム改革の動向	(学修内容) 我が国のカリキュラム改革の動向について概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べ、発表できるようにしておく。

授 業 名	教育課程総論 u (幼・小)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3451
英 文 名	Outline of Curriculum (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>2020年前後を境に学習指導要領は大きく転換します。とりわけ、「主体的・対話的で、深い学び」といった教育方法にまで言及した改革は戦後初といってもよいと思います。今後は教師が子どもたちの学力や深度を見据え、どのようにカリキュラムを考えるのかといったカリキュラム・デザインを行う力が求められます。</p> <p>この授業では主に小学校における学習指導要領の変遷を概観し、学習課程がどのような原理で編成されているのか、諸外国のカリキュラムは我が国とどのような点で異なるのかについて学習します。また、幼稚園教育要領の変遷も概観し、小学校とどのような点に違いがみられるのかにも言及します。そこから、小学校教諭・幼稚園教諭として必要なカリキュラムの視点について学びを深めます。</p> <p>授業の後半では、取得予定の免許の校種ごとにグループをつくり、自分たちの取得予定の校種のカリキュラムの特徴についてプレゼンテーションを行います。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教育課程の編成・実施・評価・改善の過程(カリキュラムマネジメント)について説明できる。</p> <p>2) 学習指導要領の変遷と現行学習指導要領の求めるものやその内容について説明できる。</p> <p>3) 学習指導要領の内容を踏まえ、各自選んだテーマについて指導計画を作成できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)					プレゼンテーション	
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 (			)
テ キ ス ト	田中耕治著『よくわかる教育課程』第2版(ミネルヴァ書房)								
参 考 書	「小学校学習指導要領」「学習指導要領解説 総則編」「幼稚園教育要領」								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートについては次回解説を行います。 プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。								
留 意 事 項	皆さんのこれまでの学校生活で、どのようなカリキュラムを受けてきたのか、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週木曜日の昼休み								
実 践 的 教 育									

授 業 名	教育課程総論 u (幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	(学修内容) 授業を進めるうえでの留意点  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	カリキュラムの分類	(学修内容) これまでのカリキュラムの分類を概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第3回	カリキュラムと教育目標	(学修内容) リテラシーとコンピテンシーについて考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) OECDのEducation2030について調べ、発表できるようにしておく。
第4回	カリキュラムの編成原理	(学修内容) 系統主義と経験主義、スコープとシーケンスの違いについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第5回	初等教育のカリキュラム原理	(学修内容) 小学校および幼稚園におけるカリキュラム原理について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第6回	子どもの発達とカリキュラム	(学修内容) 発達の観点からカリキュラムを考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「合理的配慮」について調べ、発表できるようにしておく。
第7回	カリキュラムの社会学	(学修内容) 隠れたカリキュラムと社会・文化的再生産について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「隠れたカリキュラム」について調べ、発表できるようにしておく。
第8回	カリキュラムを支える教育環境	(学修内容) 「開かれた学校づくり」や学習環境について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第9回	学習指導要領の変遷(1) 1947年～1958年改訂	(学修内容) 戦後間もない学習指導要領から、法的拘束力が付与された58年改訂まで概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第10回	学習指導要領の変遷(2) 1968年～1998年改訂	(学修内容) いわゆる「ゆとり教育」における学習指導要領について概観する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第11回	学習指導要領の変遷(3) 2008年～2017年改訂	(学修内容) 近年の学習指導要領の特徴について概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第12回	教科のカリキュラム	(学修内容) 各教科および特別な教科道徳のカリキュラムについて考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの該当箇所を調べ、発表できるようにしておく。
第13回	教科外のカリキュラム	(学修内容) 総合的な学習の時間、特別活動、生活指導、キャリア教育について考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学校要覧作成に必要な資料を収集し、発表できるようにしておく。
第14回	小学校と幼稚園のカリキュラムの違いについて考える	(学修内容) 小学校と幼稚園のカリキュラムの違いについて発表する。  (事前事後学修課題の内容) (120分) 自分のグループの校種のカリキュラムについて調べ、発表できるように準備する。
第15回	まとめ 近年のカリキュラム改革の動向	(学修内容) 我が国のカリキュラム改革の動向について概観する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 中教審答申などの資料をもとに、カリキュラム改革の動向について調べ、発表できるようにしておく。



授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2723
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	家庭科は、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、より良い生活のあり方を考え、創造していく力を培う教科である。家庭科教育の成立経緯や教育政策、中学校・高等学校家庭科の教育内容の全体像を把握し、生活における現代的課題と家庭科教育の内容構成を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 「家庭科」の特徴と独自性、意義を理解できる。 3. 中学校・高等学校の「家庭科」の内容構成を理解できる。 3. 生活における現代的課題を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『実践的指導力をつける家庭科教育法』多々納道子・伊藤圭子編著【大学教育出版】								
参 考 書	中学校「新しい技術・家庭科 家庭分野」教科書(東京書籍)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		中等教科教育法 (家庭)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 現代社会における家庭科教育の意味	(学修内容) 科目の概要と授業の進め方、家庭科を学ぶ意義について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第2回	家庭科の歩み	(学修内容) 家庭科の歴史について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	子どもの発達と家庭科の内容	(学修内容) 家庭科の内容と家庭科で育む資質について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	家庭科の目標設定	(学修内容) 家庭科の目標と評価について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	家庭科の授業の組み立て	(学修内容) 家庭科の授業の組み立てと教材研究について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	家庭科の特性と学習方法	(学修内容) アクティブ・ラーニングと家庭科の授業について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	家庭科の授業づくり	(学修内容) ユニバーサルデザインによる家庭科の授業について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家庭科の授業環境	(学修内容) 授業の環境づくりと他の授業とのかかわりについて 適宜ディスカッションを行う  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	授業構成：家族・家庭生活	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	授業構成：子どもの成長と発達	(学修内容) 子どもの成長と発達にかかわる分野の授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第11回	授業構成：食生活	(学修内容) 食に関する授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第12回	授業構成：衣生活	(学修内容) 衣生活に関わる授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	授業構成：住生活	(学修内容) 住まいに関わる授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	授業構成：消費生活と環境	(学修内容) 消費生活、環境問題に関する授業内容と課題  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	これまでのまとめとディスカッション	(学修内容) 家庭科の特徴と内容構成のまとめ 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3743
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>中学校・高等学校の学習指導要領の内容を理解する。さらに、「中等教科教育法 (家庭)」で明確化した生活に関わる現代的課題をふまえ、中学・高校家庭科で展開する授業構成を考える。理解を深め、実践力をつけるため、プレゼンテーションとディスカッションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 学習指導要領を理解できる。 2. 家庭科で教える内容を理解できる。 3. 生活に関わる課題をふまえた授業構成を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』文部科学省 開隆堂 中等教科教育法 (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		中等教科教育法 (家庭)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 科目の内容と授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 中等教科教育法 の内容を振り返る
第2回	学習指導要領	(学修内容) 改訂の経緯と基本方針について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	家庭分野の目標	(学修内容) 学習指導要領にみる家庭科の目標について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	学習指導要領の理解：家族・家庭生活	(学修内容) 家族・家庭・地域に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	学習指導要領の理解：食生活	(学修内容) 食生活に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	学習指導要領の理解：衣生活・住生活	(学修内容) 衣生活・住生活に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領の理解：消費生活・環境	(学修内容) 消費生活・環境に関する授業内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家族・家庭生活分野の教材研究	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第9回	家族・家庭生活分野の授業づくり	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第10回	食生活分野の教材研究	(学修内容) 食生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第11回	食生活分野の授業づくり	(学修内容) 食生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第12回	衣生活・住生活分野の教材研究	(学修内容) 衣生活・住生活分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第13回	衣生活・住生活分野の授業づくり	(学修内容) 衣生活・住生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第14回	消費生活・環境分野の教材研究	(学修内容) 消費生活・環境分野の授業構成と教材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料の収集
第15回	消費生活・環境分野の授業づくり	(学修内容) 消費生活・環境分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3771
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	家庭科の特質を活かした学習計画を立て、領域ごとの講義、実習の効果的な指導できるように、基本事項を理解し、具体的な授業設計ができる力をつけ、深く学習指導計画の立案と展開、評価に関する実践的な力を習得する。授業を作る視点とその方法を理解し、教育現場に活かせる、家庭科教員としての指導能力と資質の育成を図る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実践的体験の学習を多く取り入れて授業が工夫できるようになる。 2) 生徒自身が学習意欲を持ち、主体的に取り組める家庭科模擬授業をすることができる。 3) 学習の評価を考えて指導計画が立てられる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	「新しい技術・家庭 家庭分野」東京書籍、「家庭総合」東京書籍 中等教科教育法 ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究の発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授業名	中等教科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習の動機付けとは	（学修内容）学習指導要領の確認 家庭科の目標と評価 指導法の特徴を復習する 生徒の学習動機を引き出す工夫を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領の内容を復習しておく 生徒が家庭科を学ぶ動機を考えておく
第2回	参加型アクション志向学習法とは	（学修内容）参加型アクション志向学習法について学ぶ 視聴覚教材の活用や情報機器の活用についても学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 参加型学習法を調べてくる
第3回	実践例 家族・保育領域	（学修内容）家族・保育領域参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 家族・保育領域の学習内容を復習しておく
第4回	実践例 食生活	（学修内容）食生活領域の参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 食生活の領域の学習内容を復習しておく
第5回	実践例 衣生活・住生活	（学修内容）衣・住領域の参加型アクション志向学習法 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活・住生活の領域の学習内容を復習しておく
第6回	実践例 情報・環境	（学修内容）情報・環境領域の参加型アクション志向学習 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 情報・環境領域の学習内容を復習しておく
第7回	家庭科の教師としての資質、教育実習	（学修内容）教育実習に臨むにあたっての心構えと準備について話し合う （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習の目的、自分の目標を決めておく
第8回	実技、実習を含む授業の衛生と安全管理の指導	（学修内容）調理実習室や家庭科室の安全・衛生管理について考える 調理実習や被服製作実習の指導について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 実技・実習における事故と安全対策について考えておく 調理実習や被服製作の教材について考えておく
第9回	学習指導案の作成 消費生活	（学修内容）消費生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 消費生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第10回	学習指導案の作成 衣生活	（学修内容）衣生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第11回	学習指導案の作成 住生活	（学修内容）住生活領域の生徒の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 住生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第12回	模擬授業 1回目 消費生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第13回	模擬授業 2回目 衣生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第14回	模擬授業 3回目 住生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第15回	まとめ 学習集団とは	（学修内容）学習集団の保障と形成について考える （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの講義をふりかえっておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭) b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3772
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2) 視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3) 生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	中等教科教育法 ・ ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。制作物等は採点し講義時に返却する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授 業 名	中等教科教育法 (家庭) b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育実習の準備	(学修内容) 教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備 指導計画の立案	(学修内容) 自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備 指導詳案の作成	(学修内容) 視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する (事前事後学修課題の内容) (15分) 指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備 指導詳案の発表と修正	(学修内容) 指導詳案を発表し他者の意見を参考に修正する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントの作成 視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目 2名	(学修内容) 模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第6回	模擬授業2回目 2名	(学修内容) 模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目 2名	(学修内容) 模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	(学修内容) 実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (20分) 実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究 環境・消費	(学修内容) 環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究 経済・生活設計	(学修内容) 経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究 家族・保育	(学修内容) 家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの生活環境について復習しておく
第12回	教育実習報告会 現場で気づいたこと	(学修内容) 教育実習を終えてと題し、現場で気づいたことの報告と意見交換をし、今後の自身の課題を明確にする (事前事後学修課題の内容) (20分) 報告の準備をしてくる
第13回	教育実習報告会 研究授業報告	(学修内容) 研究授業の報告と意見交換をし、生徒が学ぶ楽しさと充実感や達成感を得られる授業のあり方を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の教育実習を振り返り、報告の準備をしてくる
第14回	家庭生活の抱える問題	(学修内容) 現代の家庭生活の抱える問題について復習する 伝統と伝承について考える (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでのふりかえりと、生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく
第15回	まとめ これからの家庭科の使命	(学修内容) これまでのまとめと、これからの家庭科の果たす使命について討議する (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでのふりかえりと、家庭科の使命について考えておく



授 業 名	特別活動（家庭）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Special Activities (Home Economics)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤村 法子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性慎重を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導・ガイダンス機能との関連を踏まえながら理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。  2) 特別活動の目標と内容について理解し、指導案に書くことができる。  3) 特別活動の指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>文部科学省「中学校指導要領解説 特別活動編」「中学校学習指導要領解説 総則編」平成29年</p>								
参 考 書	<p>藤田晃之編 新学習指導要領の展開 特別活動編 明治図書  国立教育政策研究所 学級・学校文化を創る特別活動 東京書籍  適宜紹介する</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題について次時に発表しディスカッションしたり、ミニレポート（ノート）に添削したりする。  毎時グループによる5分授業を課しており、模擬授業を行う。</p>								
留 意 事 項	<p>授業は教員学生双方で築き上げていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>授業終了後 オフィスアワーを設ける。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：京都市小学校教員38年（内教頭5年、校長10年、京都市教育委員会学校指導課3年）の実務経験有している。この間の生徒、教職員集団、保護者、地域の変容を目の当たりにしてきて、どのような力が各々に必要か研究してきた。中教審答申、学習指導要領の意味するところを実感してきており、教職志望の学生に、これからの生徒達に必要なとされる特別活動のありようを熱く伝えていく。</p>								

授 業 名	特別活動（家庭）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動 特別活動の基本的性格についての理解を図る。	（学修内容）授業の進め方について知る。教科と特別活動の指導の在り方を比較することにより、特別活動の基本的性格を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.23～29を読み解き、特別活動の基本的性格を確かなものにしておく。
第2回	学校教育と特別活動 特別活動の教育的意義及びその目標についての理解を図る。	（学修内容）「中学校学習指導要領解説 特別活動編」を読みながら、その教育的意義、目標を話しあう。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.11～22を読み解き、特別活動の教育的意義について確かなものにしておく。
第3回	特別活動の目標と内容 特別活動で育成すべき資質・能力の理解を図る。 特別活動で取り扱う内容を概観する。	（学修内容）改訂に向けての中教審答申をもとに、これまでの特別活動の成果と課題を明らかにし、育成すべき資質・能力を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 自己の経験を想起しながら「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.5～10を読み解いておく。
第4回	学級活動（ホームルーム活動） 学級活動「学校や学級における生活づくり」の指導についての理解を図る。	（学修内容）学級活動の内容 具体的な指導実践例をもとに、集団活動の意義、合意形成に向けた話し合い、意思決定などの理解を図る指導法を探る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.40～50をもとに「学級」の機能についてまとめておく。それに資する活動を考えておく。
第5回	学級活動（ホームルーム活動） 学級活動「日常の生活や学習への適応と自己の成長、健康安全、キャリア発達」についての具体的な指導法についての理解を図る。	（学修内容）学級活動の内容 具体的な方法を通して、合意形成に向けた話し合い、意思決定、集団活動の意義の更なる理解を図る指導法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の意義を理解し、生徒の活動意欲を高めるワークシートの具体例を調べる。
第6回	生徒会活動 自治能力を育てるための「生徒会活動」の具体的な内容の理解を図る。	（学修内容）自己の経験してきた生徒会活動を振り返り、その効果と問題点を明らかにし、今後のあり様を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.74～76を読み、生徒会活動に求められていることを学習資料にまとめておく。
第7回	学校行事 学校行事の目標、取り上げる具体的な内容、指導方法等についての理解を図る。	（学修内容）学校行事（儀式的行事、文化的行事、体育的行事、宿泊的行事、奉仕的行事等）の自己の経験を想起しながら、その意義について話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.74～76を読み解き、特に取り上げたい学校行事についての具体的な指導方法を考えてくる。
第8回	学校行事 グループで学校行事の簡単な指導計画を作成し発表し合う。	（学修内容）グループで取り上げたい学校行事を選び、その指導計画を話し合い、学校行事案にまとめる。グループごとに発表する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 発表し合った学校行事案の評価シートを完成し、実施上の課題をまとめる。
第9回	特別活動と道徳、生徒指導 特別活動と道徳・生徒指導との関連について、それぞれの機能を視点から明らかにする。	（学修内容）道徳的実践指導の場として道徳、生徒指導を機能させる特別活動の実践について、学習資料をもとに考え話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 中・高生の問題行動の現状について調べてくる。
第10回	キャリア形成と特別活動 キャリア形成に果たすべき特別活動の役割を明らかにし、具体的な活動についての理解を図る。	（学修内容）教育相談、進路相談、インターンシップ、ボランティア等について具体的な実践例をもとにその意義や留意点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 自己の経験してきたボランティア活動、インターンシップ活動等で学べたことを発表できるようにまとめてくる。
第11回	学級経営と特別活動 学級経営の意義を明確にする。学級経営に機能する学級活動のあり様についての理解を図る。	（学修内容）これまでの学修をもとに特別活動の機能を生かした学級経営について考える。（学級経営案の作成） （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.114～116をもとに、今、どのような学級経営が求められているのか考えまとめておく。
第12回	学級経営と特別活動 グループごとに学級づくりに生きる具体的な学級活動案を作成する。	（学修内容）学級づくりに生かす学級活動を考え、学級活動案を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の実践事例を調べてくる。 学級活動案を仕上げる。
第13回	学級経営と特別活動 学級活動 の内容を取り上げた学級活動の模擬授業を実施し、その省察をする。	（学修内容）学級活動の模擬授業とその省察の実施（学級における生活づくりへの参画の視点から） （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動案の検討 教材準備 授業評価シートを完成しておく。
第14回	学級経営と特別活動 学級活動 の内容を取り上げた学級活動の模擬授業を実施し、その省察をする。	（学修内容）学級活動の模擬授業とその省察の実施（日常の生活や学習への適応と自己の成長、健康安全、キャリア形成の視点から） （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動案の検討 教材準備 授業評価シートを完成しておく。
第15回	特別活動の評価 まとめ 特別活動の評価の意義とその方法についての理解を図る。これからの特別活動のあり方について考える。	（学修内容）教科の評価と比べながら、特別活動評価のあり様を話し合う。これまでの学修をもとに、自己の特別活動の指導観を確かなものにする （事前事後学修課題の内容）（240分） これからの特別活動のあり様をもとに、自己の特別活動に対する指導観をレポートにまとめる。

授 業 名	特別活動（小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3460
英 文 名	Special Activities (Elementary School)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤村 法子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、児童の個性伸長を図るとともに社会性の育成の場としての意義を持つ教育活動である。人間としての生き方を学ぶ領域である。講義を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領を基に、教育課程上の位置づけ、特別活動の基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）及びその教育的意義の理解を図る。同時に、特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導との関連を踏まえながらその理解を深める。簡単な指導計画を作成したり、模擬授業に取り組んだりする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。  2) 特別活動の目標と内容について理解し、指導案に書くことができる。  3) 特別活動の実践的な指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」平成29年  文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」</p>								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	<p>課題については、次時に発表ディスカッションをしたり、ノート提出後添削をし返却する。  毎時5分間授業をグループに順番に課しており、前時に準備をしておき、当番時に実践する。</p>								
留 意 事 項	授業は教員学生双方で築き上げていくものであり、主体的、積極的な授業参画を求めていく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の業務経験など：京都市小学校教員38年（内教頭5年、校長10年、京都市教育委員会学校指導課3年）の経験の中で、子ども、保護者、学校、地域の変容を実感する中で、各々にどのような力を育成していかねばならないか研究実践してきた。中教審答申・学習指導要領の意味するところを実感を伴い伝えると同時に、これからの特別活動の有り様について、教職を志望する学生と共にその解を求めていく。</p>								

授 業 名		特別活動（小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動 特別活動の基本的性格（実践活動、自主的な活動、集団活動）についての理解を図る。	（学修内容）授業の進め方について知る。教科と特別活動の指導の在り方を比較することにより、特別活動の基本的性格を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.24～29を読み解き、特別活動の基本的性格を確かなものにしておく。
第2回	学校教育と特別活動 特別活動の教育的意義及びその目標についての理解を図る。	（学修内容）「小学校学習指導要領解説編 特別活動」を読みながら、その教育的意義、目標について話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.11～20を読み解き、特別活動の目標をまとめておく。
第3回	学校教育と特別活動 特別活動で育成すべき資質能力の理解を図る。 特別活動で取り扱う内容を概観する。	（学修内容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに、これまでの特別活動の成果と課題を明らかにし、育成すべき資質・能力を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 自己の経験を想起しながら「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.5～10を読み解いておく。
第4回	学級活動 学級活動「学級や学校における生活づくりへの参画」の指導についての理解を図る。	（学修内容）学級活動の具体的な指導実践例をもとに、集団活動、合意形成に向けた話し合い、意思決定などの意義について理解を図る指導法を探る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.43～P.51をもとに「学級」の機能についてまとめ、それに資する活動を考える。
第5回	学級活動 学級活動「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 一人一人のキャリア形成と自己実現」の具体的な指導法の理解を図る。	（学修内容）学級活動における、合意形成に向けた話し合いや、意思決定、またその実践についての具体的な指導法について話し合い理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の意義を理解し、児童の活動意欲を高めるワークシートの具体例を調べる
第6回	学校行事 学校行事の目標、内容（儀式的行事、文化的行事、体育・健康安全の行事、遠足・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕の行事）指導法等についての理解を図る。	（学修内容）自己の経験した学校行事を想起しながら、その目標や指導の在り方を話し合い理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.116～135を読み解き、特に取り上げたい行事についての具体的な指導を考えてくる。
第7回	学校行事 グループで学校行事の簡単な指導計画を作成する。	（学修内容）グループ毎に学校行事の簡単な指導計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学校行事案を完成させる。指導計画を発表するための準備をしてくる。
第8回	学校行事 グループで作成した学校行事案の発表をし、お互いにその省察をする。	（学修内容）グループで作成した学校行事案を発表し合うことにより、効果や課題について明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 評価シートをもとに、発表し合った学校行事の実施上の課題等をまとめておく。
第9回	児童会活動 クラブ活動 児童会活動、クラブ活動で育成すべき資質・能力及びその活動のあり様についての理解を図る。	（学修内容）児童会の組織づくり、活動の計画・運営、異年齢集団による交流、クラブ活動の内容及びその取扱いについて話し合い理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.84～115を読み解き、児童会活動、クラブ活動の意義について学修資料にまとめておく。
第10回	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項 生徒指導との関連、道徳科などとの関連など配慮すべき事柄についての理解を図る。	（学修内容）道徳実践指導の場としての特別活動、児童理解の場としての特別活動のありようを、具体的な事例をもとに考え話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 小学生の問題行動や教育課題について調べてくる。
第11回	学級経営と特別活動 学級経営の意義を明確にする。学級経営に機能する特別活動（学級活動）のあり様についての理解を図る。	（学修内容）学級集団の教育的意義について理解を図り、学級経営における学級活動の果たす役割について話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」
第12回	学級経営と特別活動 グループ毎に学級づくりにいきる具体的な学級活動について考える。	（学修内容）学級づくりに生かす学級活動を考え、具体的な学習指導案を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の実践事例を調べてくる。 学級活動案を仕上げておく。
第13回	学級経営と特別活動 学級活動の内容を上げた学級活動の模擬授業を実施し、その省察をする。	（学修内容）学級活動の模擬授業を実践し、「学級における生活づくりへの参画」という視点から授業省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 発表のための教材研究、準備をしておく。 授業評価シートを完成しておく。
第14回	学級経営と特別活動 学級活動の内容を取り上げた学級活動の模擬授業を実施し、その省察をする。	（学修内容）学級活動の模擬授業を実施し、「日常の生活や学習への適応と自己の成長、健康安全」の視点から授業省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 発表のための教材研究、準備をしておく。 授業評価シートを完成しておく。
第15回	特別活動の評価 まとめ 特別活動の評価の意義とその方法についての理解を図る。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チーム学校」の視点から特別活動のあり様をまとめる	（学修内容）教科の評価と比べながら特別活動の評価のあり様を話しあう。 これまでの学修をもとに、今後の特別活動のあり様を考えまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（240分） これまでの学修をもとに、自己の特別活動に対する指導観を確立しレポートにまとめる。

授 業 名	特別活動（道徳を含む。）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Special Activities (Moral Education)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>子どもたちは将来集団社会の中で生きる。集団社会の中でよりよく生きる力の育成として、「企画運営力とコミュニケーション力」は不可欠。学校教育における特別活動では、この2視点を自治的活動・実践活動を中心とした学習の中で進めていく。</p> <p>特別活動は、学校生活を円滑に進め、コミュニケーション能力を高めるためだけでなく、一人ひとりの心身の成長にも大きな力を与え、生きる力の育成の中心となるものである。講義形式の授業だけでなく、グループ活動やエンカウンター学習等を通して、学校における特別活動の意義と役割を理解する。また、道徳教育についても学習指導要領を理解し、実践例を体感し、今日の学校教育における道徳教育のあり方・指導方法・評価方法等についてのスキルを身につける。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1．特別活動（道徳）の目標や意義を理解し、維新の主体者としての自覚を持つことができる。</p> <p>2．特別活動（道徳）の具体的実践についての指導案を書くことができる。</p> <p>3．特別活動（道徳）についての自分自身の思いを5分程度でプレゼンテーションできる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	<p>「先生が楽しい！道徳授業の作り方」三晃出版 著者：毛利豊和  ¥1500 - (平成31年3月29日 出版)</p>								
参 考 書	<p>小中学校学習指導要領 解説 特別活動編 文部科学省 H29年7月  小中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 H29年7月</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>レポートは返還。  スピーチ学習は授業中のコメント評価。  テストは希望者に返還。</p>								
留 意 事 項	特になし								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業前後、講師控室。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。  ・小学校道徳授業・中学校道徳授業・特別活動授業  実践してきた取り組みを紹介し、地域保護者との連携を理解させる。  ・保護者会・学校運営（掲示物等）・家庭教育学級</p>								

授 業 名		特別活動（道徳を含む。）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習計画 特別活動 道徳教育 の目標と意義	（学修内容）＜理論＞特別活動 道徳教育 の目標と意義を理解する ＜実践例とスキル＞特別活動：（孔子）道徳教育：（新垣結衣） （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P7、8・指導要録解説（特別活動）P11
第2回	特別活動 学級活動の3領域（1） 道徳教育 魅力と意義	（学修内容）＜理論＞学級活動の3領域における生活作りへの参画＜実践例とスキル＞ ＊係活動・委員会活動＊おしゃべりゲーム （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P9～12・指導要録解説（特別活動）P43～45
第3回	特別活動 学級活動の3領域（2） 道徳教育 有名人に学ぶ	（学修内容）＜理論＞学級活動の3領域を理解する（2）日常生活や学習への適応と 自己の成長及び健康安全＜実践例とスキル＞＊給食指導 ＊長谷部誠 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P28～31・指導要録解説（特別活動）P46、47
第4回	特別活動 学級活動の3領域（3） 道徳教育 名も無き人に学ぶ	（学修内容）＜理論＞学級活動の3領域を理解する（3）一人一人のキャリア形成と 自己実現＜実践例とスキル＞＊総合学習と特別活動 ＊100人の夢 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P42、43・指導要録解説（特別活動）P46、47
第5回	特別活動 児童会活動 クラブ活動	（学修内容）＜理論＞児童会活動・クラブ活動目標と意義を理解する＜実践例とスキル＞ ＊代表委員会の議題＊クラブ活動を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材収集・整理
第6回	特別活動 学校行事 特別活動と各教科、道徳科 道徳教育 他教科における道徳的指導	（学修内容）＜理論＞学校行事の目標と意義 特別活動と各教科、道徳科 ＜実践例 とスキル＞ 各教科と道徳的 ＊運動会＊宿泊学習（エンカウンター） （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書P136、137・指導要録解説（特別活動）P149 教材収集・整理
第7回	特別活動 集会活動の進め方 道徳教育 スピーチ学習「身の回りの教材」	（学修内容）集会活動スキル：司会・会場設営・掲示物等 友人に学ぶ＊スピーチ学習「身の回りの教材」 （事前事後学修課題の内容）（30分） スピーチ学習を計画する
第8回	道徳教育 道徳の時間と道徳教育の違い 道徳の時間の教材	（学修内容）＜理論＞教材が持つ条件・教科書教材と自作教材＜実践例とスキル＞＊ 読み物教材：いい話＊補助教材（まさかの教材）：ポスター・漢字 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P60、61
第9回	道徳教育 領域A 自分のことに関すること	（学修内容）＜理論＞多様なものの見方・社会の一員＜実践例とスキル＞＊りんご＊ パラリンピック （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P14、15
第10回	道徳教育 領域B 他の人との関わりに関すること	（学修内容）＜理論＞思いやり・多様な教材＜実践例とスキル＞＊アニメに学ぶ：（ ドラえもん）＊CMに学ぶ：ジョージアコーヒー・AU三太郎 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P16、17
第11回	道徳教育 領域C 集団社会との関わりに関すること	（学修内容）＜理論＞家族愛・身の回りの教材・先人の知恵＜実践例とスキル＞ ＊読み物教材 ＊まさかの教材＊先人の知恵：ゲゲの鬼太郎 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P18、19
第12回	道徳教育 領域D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関 すること	（学修内容）＜理論＞自然愛護・感動資料＜実践例とスキル＞＊自然との共生：屋久 杉・りんご・人ふみ10年＊奇跡の逆転：高校野球決勝戦 （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P20、21
第13回	道徳教育 道徳の時間の作り方・評価 特別活動 評価	（学修内容）＜理論＞道徳の時間の流れ・評価・自作資料の作り方＜実践例とスキル＞ ＊1回読み・2回読み・中心発問＊板書・基本君 ＊評価 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書P134・指導要録解説（特別活動）P162
第14回	特別活動 友人に学ぶ「スピーチ学習」	（学修内容）友人に学ぶ＊スピーチ学習「主体的対話的で深い学び」＊リーダーシッ プとフォローアップ （事前事後学修課題の内容）（15分） スピーチ学習振り返り
第15回	特別活動 まとめとテスト 道徳教育 まとめとテスト	（学修内容）特別活動・道徳教育もまとめとテスト 目標・意義・魅力を振り返る （事前事後学修課題の内容）（15分） 教科書P3、P166

授 業 名	教育実習事前・事後指導 u a (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3773
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Home Economics)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイ等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 必要な教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (学習指導案作成能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育実習事前・事後指導 u a (家庭)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の目的 学校文化の理解	(学修内容) 学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付されたテキストの1章をよく読んでおくこと。
第3回	教師に求められる資質・能力	(学修内容) 各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テーマについて、既存の知識をまとめておく。
第4回	生徒理解	(学修内容) 生徒理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所の下調べをしておく。
第5回	人権と教育	(学修内容) 「人権と教育」について、発達障害の生徒の理解を中心に考える。支援を要する生徒への指導の在り方についてグループ討議を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発達障害について調べてくる。
第6回	教育実習報告会	(学修内容) 上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。
第7回	観察実習記録の取り方	(学修内容) 観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業記録(資料)を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	(学修内容) 実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	(学修内容) 学習指導案の意義とその作成法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	(学修内容) 学習指導案を作成し、教材研究をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	模擬授業と教材研究	(学修内容) 模擬授業を行い、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	模擬授業と教材研究	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	(学修内容) 実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習生カードの内容をまとめてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習ノート該当箇所を考えてくる。



授 業 名	教育実習事前・事後指導 u a (幼・小)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3774
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史・藤本 奈美・柿本 真代・松浦 真理・竹村 伸子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>教育実習事前事後指導は、教育実習に臨む心構えを確かなものにするために、演習形式の授業を通して、教員として求められる姿勢や態度、知識、技能の基本を身につけることを目的とする。</p> <p>具体的には、学習指導要領や幼稚園教育要領などに基づいて、教員として必要な要件を確認したのち、子ども理解の基本を復習する。学校現場での観察、指導案作成、模擬授業などによって実践力をつけていく。</p>								
学 修 成 果 対 象 業 績	<p>1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。</p> <p>2) 教育実習に臨むにあたり、子どもの発達段階や関わり方、学級経営の基本を理解し、保育・学習指導計画を立てることができる。</p> <p>3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領、『京都華頂大学教職課程4年間の学び』、「教育実習ノート」								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	グループ討議の発表や個人・グループの発表後には必ずコメントやアドバイスをする。 提出物については、翌週にコメントや解説をする。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	所定の日時を掲示するので、できるだけその時間に来ること。その他メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 非常勤教員は大津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験がある。								

授業名	教育実習事前・事後指導 u a (幼・小)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認し、(ある場合は)これまでの実習について振り返る。
第2回	学校文化の理解	(学修内容) 学校教育の目的・学校組織・教員の職務等を再認識する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自の経験から学校文化について整理しておく。
第3回	教員に求められる資質・能力	(学修内容) 各学校段階に求められる教員の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教員にとって大切資質能力を最低10項目あげておく。
第4回	子ども理解	(学修内容) 幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領からそれぞれの時期の子どもの特性を考えておく。
第5回	人権と教育	(学修内容) 子どもの一人一人の背景を多面的に見ることを通して、子どもの人権について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 困りを持った子ども、虐待が疑われる子ども、性に関する困りを持った子どもなど人権に関する諸問題についてわかる範囲で調べてくる。
第6回	教育実習報告会	(学修内容) 上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。事後課題として、発表から自分なりの課題を整理してみる。
第7回	観察実習記録の取り方	(学修内容) 観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。ビデオなどの視聴を通して実際の記録を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業記録(資料)を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	(学修内容) 実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。(幼稚園実習予定者は華頂幼稚園での観察実習を行う。) (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	(学修内容) 学習指導案の意義とその作成法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	(学修内容) グループごとに学習指導案の作成、教材研究をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	第1グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) グループ毎に模擬授業をし、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案を完成してくる。
第12回	第2グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	第3グループによる模擬授業と教材研究(校種別で実施)	(学修内容) 授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教員とコミュニケーション能力	(学修内容) 実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) オリエンテーションで知りたい情報について書きあげてくる
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	教育実習事前・事後指導 u b (中・高)			開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Junior High School I・High School)			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討など今後の課題を明らかにする。グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを發表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、論述することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (授業力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 u b (中・高)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のねらい、進め方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストを読み返しておく	
第2回	実習目標の策定	(学修内容) オリエンテーションに際しての注意事項を確認すると同時に、自己の実習目標を確かなものにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習生カードを仕上げておく。	
第3回	オリエンテーション計画	(学修内容) オリエンテーションに際して実習校についての理解を図る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習校の概要について調べておく。	
第4回	オリエンテーション結果考察	(学修内容) オリエンテーションの結果交流を図ることにより、さらに課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) オリエンテーション報告を作成しておく。	
第5回	模擬学級指導	(学修内容) 実習校での子どもへの自己紹介等の模擬指導の実践及び省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学級指導の略案を立ててくる。	
第6回	授業実践	(学修内容) 略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教材研究 略案の作成。	
第7回	生徒実践的理解	(学修内容) 生徒の参与観察をし、その省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生徒の観察記録の作成	
第8回	授業実践	(学修内容) 細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教材研究 学習指導案の作成	
第9回	生徒実践的理解	(学修内容) 生徒の参与観察及びその省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生徒の観察記録の作成。	
第10回	教育実習の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに実習の振り返り(主に教科指導)その成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートの内容を確認する。	
第11回	教育実習の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに実習の振り返り(主に児童・生徒理解)その成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートの内容を確認する。	
第12回	教育実習報告会に向けて	(学修内容) 実習報告会の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートをもとに報告する内容を考える。	
第13回	教育実習報告会に向けて	(学修内容) 教育実習報告会の発表資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートや成果物などを読み返し、資料作成の準備をする。	
第14回	教育実習から学んだこと	(学修内容) 教育実習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 成果物を整理する。	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる (事前事後学修課題の内容) (30分) 履修カルテを作成する。	

授 業 名	教育実習事前・事後指導 u b (幼・小)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3774
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	平尾 隆史・藤本 奈美・柿本 真代・松浦 真理・加藤 倫子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教育実習事前・事後指導ua(3回生配当)に引き続き、目前の教育実習に向けた、より個別的・具体的な指導を行うことが目的である。</p> <p>実習後には、各自が実習を振り返って、課題を見出し、さらに良い教員を目指して、身につけるべき知識・技能を明らかにする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。</p> <p>2) 教育実習に臨むにあたり、幼児・児童生徒の理解、保育・学習指導、学級経営、学校組織のあり方等の基礎的・基本的な事柄を理解し、主体的に実習に向けて態度や行動をとることができる。</p> <p>3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>4) 上記1)や2)の観点から客観的に実習を振り返り、教員になるための自分の長所や課題などを明確にすることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	「教育実習ノート」のほか、必要な資料を適宜配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	個人やグループでのプレゼンテーションなどはその場でコメントやアドバイスをする。提出物は翌週に解説やコメントをする。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室に日時を貼り出すので、できるだけその時間に来ること。メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後に設定する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 非常勤教員は、大津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験者である。</p>								

授 業 名		教育実習事前・事後指導 u b (幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的、進め方を確認し、実習に向けての課題を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習事前・事後指導uaの最終講で作成した、課題を見直しておく。	
第2回	実習意義の確認と実習生カードの作成	(学修内容) 教員にとって大切な資質能力などについて再確認し、実習生カードを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 実習生カード作成のため、所有する資格や健康状態、ピアノレベルなどの正確な状況を把握しておく。	
第3回	オリエンテーションのねらい	(学修内容) 実習前オリエンテーションについて、その意味を知り、事前準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習校の概要について調べておく。	
第4回	オリエンテーション事後確認と実習直前準備	(学修内容) オリエンテーション後の確認作業をもとに、実習前の最終準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの該当部分にオリエンテーション報告を記述しておく。	
第5回	学級観察と子ども理解	(学修内容) 実習校に溶け込もうとし、配属学級における授業や子どもの活動観察とその省察を行う。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 担当教員の授業記録をとり、授業の略案をたてる。	
第6回	授業実践	(学修内容) 略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 部分的な実習や略案による授業実践のためのシミュレーションなどをしておく。	
第7回	児童・生徒実践的理解	(学修内容) 教員と子どもの関係性の理解、子ども同士の関係性の理解。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 児童・生徒の観察記録の作成。	
第8回	授業実践	(学修内容) 細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 教材研究 学習指導案の作成。	
第9回	実習直後の振り返り	(学修内容) 実習直後の記憶を頼りに、自己設定目標との差異を明確にし、そのために必要な今後の課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 振り返りシートの作成。	
第10回	実習記録の振り返り	(学修内容) 教育実習ノートをもとに、一定時間経過後の実習を振り返り(主に教科指導や研究保育などの)成果と課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却された実習ノートの記述から振り返りを整理しておく。	
第11回	グループによる振り返りの共有	(学修内容) グループによる話し合いをそれらのプレゼンテーションによって、自分たちの現状を把握し、課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 振り返りシートと教育実習ノートの持参、事前課題をしておく。	
第12回	教育実習報告会の計画立案	(学修内容) 実習報告会の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育実習ノートなどから報告会のためのテーマを考える。	
第13回	教育実習報告会の資料作成	(学修内容) 教育実習報告会の発表資料の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テーマ別の事前課題をグループでしておく。	
第14回	報告会の具体的な役割分担とシュミレーション	(学修内容) 先週に引き続き、資料を作成すると同時に、主体的な報告会を進めるための下準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループごとに役割を分け、プログラムなどの作成案をつくっておく。	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 履修カルテの実習部分を記述しておく。	

授業名	教職実践演習(中・高)			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Teaching Practice(Junior High School・High School)			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとするを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教師として必要な教科指導力について理解し、主体的で対話的な学びを促す授業のための学習指導案を作成することができる。  2) 教師として必要な生徒指導力や学級経営力について理解し、学級経営に対する自己の見解を説明することができる。  3) 教育実習の成果と課題についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業中に指示する。								
参考書	授業中に指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	教職実践演習(中・高)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 演習の意義とその進め方を理解する。履修カルテに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 履修カルテの整理をしておくこと。
第2回	自己のこれからの研修課題	(学修内容) 教職の意義、教員の役割、職務内容、子どもに対する責任など、実習から気づいたこと、考えたことを振り返る。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己の課題をまとめておくこと。
第3回	社会性や対人関係能力についての振り返り	(学修内容) 教員組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係について考える。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題についての自己の経験をまとめておくこと。
第4回	生徒理解、授業づくりについての振り返り	(学修内容) 生徒理解、授業づくりについて振り返る。(グループ討議) (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の生徒観をまとめておくこと。
第5回	教育実習報告会	(学修内容) 教育実習を振り返り、教育実習の概要や実習の成果・課題について発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育実習の概要、実習の成果や課題をまとめた発表資料を作成しておくこと。
第6回	生徒理解と場面指導	(学修内容) 実際の生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。(いじめ等) (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題について効果的な指導法を調べてくる。
第7回	生徒理解と学級経営	(学修内容) 生徒同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学級のルールや教室経営について調べる。
第8回	現在の教育課題について	(学修内容) 教育委員会より講師を招き、「現在の教育課題について」の講義を受け、授業法について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育実習の授業省察をまとめておく。
第9回	生徒理解と教育方法(特別な支援を要する子どもへの教育支援について)	(学修内容) マルチメディアコンテンツ製作を通して、特別な支援を要する子どもへの教育支援の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の特別支援教育の内容についてまとめておくこと。
第10回	これからの教師に求められる資質・能力について	(学修内容) 教育委員会より講師を招き、「これからの教師に求められる資質・能力について」の講義を受け、求められる教師像について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教育委員会HPを調べ、求められる教師像についてまとめておくこと。
第11回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第12回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第13回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究、学習指導案の作成。
第14回	教師と保護者の関係づくりについて	(学修内容) 教師と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家庭との連携の必要性について考えておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 演習のまとめをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修カルテへの記入を済ませておくこと。



授 業 名	初等科教育法（国語）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Japanese)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校国語科の目標や内容、評価について理解したうえで、物語や昔話、説明文の教材としての特徴や指導上の留意点等をふまえて、実際に教材研究および模擬授業を実施することで、小学校における国語科授業の実践的スキルを身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について説明できる。 2) 教材や情報機器の効果的な活用法を理解したうえで小学校国語科の授業を計画・立案・実施することができる。 3) 模擬授業とその振り返りを行い、授業の改善ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	吉田武男監修、塚田泰彦・甲斐雄一郎・長田友紀編著『初等国語科教育』ミネルヴァ書房、2018年 『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』文部科学省、2017年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたノートおよび指導案については、添削等をして返却します。								
留 意 事 項	模擬授業やその参観が主な内容になるため、十分に準備をしたうえで積極的な受講態度で臨むようにしてください。なお、シラバスの内容は受講生の要望等により変更することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		初等科教育法（国語）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の目的や内容など （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）シラバスを読んでおく （事後）小学校学習指導要領を読み直しておく
第2回	指導の技術	（学修内容）ICTの活用の方法や計画的な板書の方法について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導要領の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第3回	指導案について	（学修内容）国語科学習指導案の作成について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導要領の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第4回	教材研究と指導案	（学修内容）「読むこと」（物語文）の教材研究の方法と指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導要領の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第5回	教材研究と指導案	（学修内容）「読むこと」（説明文）の教材研究の方法と指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導要領の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第6回	模擬授業	（学修内容）「書くこと」（手紙、日記）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第7回	模擬授業	（学修内容）書写の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第8回	模擬授業	（学修内容）「話すこと・聞くこと」の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第9回	模擬授業	（学修内容）「知識及び技能」（国語の特質に関する事項）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第10回	模擬授業	（学修内容）「読むこと」（物語文）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第11回	模擬授業	（学修内容）「読むこと」（説明文）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第12回	模擬授業	（学修内容）「書くこと」（作文）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第13回	模擬授業	（学修内容）「知識及び技能」（伝統的な言語文化）の模擬授業 （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導書の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第14回	授業のユニバーサルデザイン	（学修内容）国語科授業におけるユニバーサルデザインの技法について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）指導要領の該当箇所を読み直しておく （事後）教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの学びを振り返る （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）これまでの指導案と教科書を読み直しておく （事後）この授業で学んだことをまとめ、課題に取り組む

授 業 名	初等科教育法（社会）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Social Studies)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	木全 清博			対 象 学 生	現代家政3回生				
授 業 の 概 要	<p>1) 小学校社会科の本質・目標等について論述するとともに、歴史的な変遷を踏まえて、今日的な社会科の諸課題について考察する。</p> <p>2) 学習指導案の作成や模擬授業等の作業を組み込みながら、授業づくりの方法を体験的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会科の成立の歴史を理解して、学習指導要領の内容や民間社会科を説明できる。</p> <p>2) 目標と内容構成と授業展開を工夫した学習指導案が書けるようになる。</p> <p>3) 社会科の授業設計について模擬授業を行うなかで、自分なりの見通しが持てるようになる。 他の人の模擬授業を受けて、自分なりに批評ができるようになる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	適宜配布するプリント資料を使って講義・模擬授業を行う								
参 考 書	<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 2018年3月</p> <p>臼井嘉一監修『戦後日本の教育実践』三恵社 2013年</p> <p>前田賢次他編『学力と教育課程の創造－社会認識を育てる教育実践とその歩み－』同時代社 2013年</p>								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	提出レポートはコメントして返却する								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：大阪教育大学附属平野中学校教諭、大阪市教育研究所所員、滋賀大学教育学部附属小学校長として勤務</p>								

授 業 名		初等科教育法（社会）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	社会科とは何か、社会科と子どもの社会認識	（学修内容）社会科とはどんな教科か、社会科は戦後生まれの教科、小学校社会科の目標と公民的資質、社会科と社会諸科学/社会認識と市民的資質 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の「社会科体験」を書いてくる、自分の気に入った社会科の内容、面白くなかった社会科、学習指導要領に目を通しておく。	
第2回	社会科の歩みと論争（1）1947年版・1951年版学習指導要領から1955年版・1958年版・1968年版・1977年版までの変遷	（学修内容）戦後社会科の成立と問題解決学習論、文部省社会科と民間社会科の論争－2つの系統学習の対立、社会科における道徳教育論争 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領に目を通しておく。	
第3回	社会科の歩みと論争（2）1989年版・1998年版・2008年版・2017年版の学習指導要領の変遷	（学修内容）生活科と地歴科公民科の成立、問題解決学習の復権、学力論「生きる力」と国際教育・環境教育・情報教育・総合学習と社会科の関係 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第4回	社会認識形成のための社会科学習（1）鈴木正気の地域に根ざす社会科論	（学修内容）民間社会科における地域に根ざす社会科学習論－鈴木正気による教材づくりと授業方法、鈴木正気の授業記録を読む （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第5回	社会認識形成のための社会科学習（2）安井俊夫の「わかる」社会科教材づくりと授業	（学修内容）民間社会科の「わかる」社会科学習論－「わかる」・「できる」の意味と学び直し、子どもが「わかる」を探究する教材と授業過程 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第6回	社会認識形成のための社会科学習（3）2つの「元寇」の授業を比較検討する	（学修内容）小学校6年歴史「元寇」授業の比較検討－倉持祐二と平野昇の教材研究と授業方法、ビデオ視聴と授業記録で比較検討し、討論する （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第7回	学習指導案の作成（1）教科書研究の方法、単元の構成	（学修内容）各自作成する指導案で単元をしぼり、社会科教科書の記述内容を分析。単元案を書くことの意味、単元設定の理由、目標・展開・評価等 （事前事後学修課題の内容）（60分） 作成したい指導案の学年の単元の教科書を選定してコピーして持参する	
第8回	学習指導案の作成（2）本時の構成	（学修内容）指導案を実際に作成する。本時案を書くことの意味、本時の教材観/児童観/指導観、目標・展開・評価、板書・資料等を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第9回	模擬授業（1）中学年社会科、社会認識を中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時の復習をしておく。	
第10回	模擬授業（2）中学年社会科、作業や活動を中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。地図や歴史資料の扱い方・作業や活動の組み込み方 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第11回	模擬授業（3）高学年社会科、討論や話し合いを中心とした授業づくりの実践	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第12回	模擬授業（4）高学年社会科、歴史・地理の授業づくり	（学修内容）担当者作成の指導案による模擬授業、相互に授業批評を行い、改善点を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第13回	模擬授業（5）高学年社会科、社会科と評価	（学修内容）指導案による模擬授業と授業批評を行う。評価観の変遷（相対評価と絶対評価、評価規準と評価基準、PISA型学力観の意味するもの） （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業分析用紙を提出できるよう準備する。	
第14回	社会科と生活科・総合的な学習（1）伊那小学校の実践	（学修内容）伊那小学校の総合学習の授業ビデオ視聴から、総合学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の復習をしておく。	
第15回	社会科と生活科・総合的な学習（2）奈良女子大附小の実践	（学修内容）奈良女子大附小の「しごと」学習の授業ビデオ視聴から、生活科学習と社会科学習の共通点、差異点を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の復習をしておく。	

授 業 名	小学算数・指導法、初等科教育法（算数）			開 講 学 年	2・3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Teaching Method of Mathematics in Elementary School, Teaching Elementary School Students (Mathematics)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	重松 敬一			対 象 学 生	現代家政2回生、現代家政3回生				
授業の概要	小学校算数科の目的・内容・方法・評価について、実際の授業の在り方を中心に、児童の数学的見方・考え方の育成について考察する。これまでの算数科教育の歩みを概観し、低・中・高の各学年の算数指導のポイントについて理解を深める。よりよい授業について具体的に考察するため、指導要領に基づいて課題を想定した授業プランの作成を行う。授業は講義形式を中心に、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 小学校算数科の指導内容及び指導方法の基本的な事項を理解できる。 2) 小学校算数科の学習指導案の作成について理解できる。 3) 小学校算数科の本時案に基づく授業実践を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版）、講義中にプリントなども配布する								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	課題や講義のコメントに対しては、次時の授業においてコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	メールで対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：広島女子商業高等学校非常勤、東大寺学園高等学校非常勤								

授 業 名	小学算数・指導法、初等科教育法（算数）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに - 何のために算数を教えるのか	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)
第2回	数学的活動とはどういうことか	(学修内容) 算数的活動の趣旨を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の学習経験を振り返る
第3回	算数科の目標を理解する	(学修内容) 算数科の目標を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 算数の目標の持つ特徴をあらかじめメモする
第4回	算数科の内容構成とその概観	(学修内容) 算数科の内容構成について自分の経験を生かして理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第5回	低学年の内容（数と計算）とその指導	(学修内容) 算数科の低学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第6回	低学年の内容（図形、測定、データの活用）とその指導	(学修内容) 算数科の低学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第7回	中学年の内容（数と計算）とその指導	(学修内容) 算数科の中学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第8回	中学年の内容（3学年の内容（図形、測定、データの活用）、4学年の内容（図形、変化と関係、データの活用））とその指導	(学修内容) 算数科の中学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第9回	高学年の内容（数と計算）とその指導	(学修内容) 算数科の高学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第10回	高学年の内容（図形、変化と関係、データの活用）とその指導	(学修内容) 算数科の高学年の内容の指導を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第11回	算数科の学習指導案をどのように作成するか	(学修内容) 算数科の学習指導案の作成について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第12回	算数科の授業を情報機器活用などしてどのように設計するか	(学修内容) 算数科の授業の設計について理解する (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ配布するプリントを理解する
第13回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その1）、授業1（数と計算、図形）	(学修内容) 算数科の模擬授業のプレゼンテーションとディスカッションを実施する (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ分担任準備した授業を実施する
第14回	学習指導案作成演習とマイクロティーチング（その2）、授業2（測定、変化と関係、データの活用）	(学修内容) 算数科の模擬授業のプレゼンテーションとディスカッションを実施する (事前事後学修課題の内容) (90分) あらかじめ分担任準備した授業を実施する
第15回	補足とまとめ	(学修内容) 本講義の内容を振り返り算数科の指導方法等をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) あらかじめ配布するプリントを理解する

授 業 名	初等科教育法（理科）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Science in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	名倉 昌巳			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	主に小学校の教科書に登場する実験・実習を中心に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら講義を進める。基本的な実験・観察・実習方法の習得をめざし、それらを中心とした授業づくり、すなわち授業案の作成と模擬授業を行う。また、講義を通して、小学校理科担当教員に必要なスキルの充実を目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な実験器具の使用方法を習得する。 2) 基本的な実験・観察方法を習得する。 3) 今日の初等理科教育の動向を踏まえた授業づくりができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲		プレゼンテーション能力 ( 模擬授業のパフォーマンス評価など )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	特になし 毎回プリントを配布する								
参 考 書	特に指定しない。ただし、小学校理科教科書（特に4・5・6年生用）を持っている方がよい。小学校学習指導要領（理科）などはダウンロードしておくこと。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・学習指導案等についてはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	天候・材料・器具の調達その他の理由により、講義内容を変更する場合がある。 はさみ（カッター）・のり・付箋（3色程度）を持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立下福島中学校教諭（理科新採用指導教諭）。環境教育副読本「おおさか環境科」教材編集部会委員。佛科大学教育学部非常勤講師（「総合的な学習の時間（小学校）担当」）。大阪市中学校教育研究会理科部専門委員。元大阪府中学校理科教育研究会理事。								

授 業 名		初等科教育法（理科）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	小学校理科教育についてのガイダンス	（学修内容）本講義の目標と概要（学習計画・授業案の設計）。小学校学習指導要領の要点。グループ分けとグループディスカッションの効果など。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 講義で実施したコンセンサスゲーム等の実習と、小学校学習指導要領（理科）との関連について、気づいたことをまとめて提出する。
第2回	身近な水溶液に関する化学実験と指示薬づくり（6年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第3回	水の状態変化の実験（4年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第4回	ものの温度と体積・雲のでき方について（4・5年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第5回	ものの溶け方と温度（5年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第6回	電気を通すもの・乾電池のはたらき（3・4年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第7回	ふりこの実験（5年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第8回	食べ物の消化・唾液のはたらき（6年）	（学修内容）実験を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第9回	簡易プラネタリウムの作成と星座の観察（4年）	（学修内容）実習を通して授業設計の方法についてグループで検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（素案）を作成する。
第10回	課題解決型学習とその仕掛け・教室文化など	（学修内容）実習を通して授業設計の方法（学習形態と授業案）を理解する。実際に授業案（細案）を検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（細案）を作成する。
第11回	逆引き設計とパフォーマンス課題・評価など	（学修内容）実習を通して真正の学習評価についての理解と、それを用いた学習計画の設計方法を理解する。実際に授業案（細案）を検討する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 本講義で行った内容について、調べ学習を含めてレポートにまとめるとともに授業案（細案）を完成させる。
第12回	模擬授業	（学修内容）グループ毎の模擬授業を通して授業設計の方法を理解する。グループワーク、プレゼンテーション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 模擬授業に関する相互評価・形成的評価など。
第13回	模擬授業	（学修内容）グループ毎の模擬授業を通して授業設計の方法を理解する。グループワーク、プレゼンテーション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 模擬授業に関する相互評価・形成的評価など。
第14回	模擬授業	（学修内容）グループ毎の模擬授業を通して授業設計の方法を理解する。グループワーク、プレゼンテーション。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 模擬授業に関する相互評価・形成的評価など。
第15回	これまでの講義の振り返り（リフレクション）	（学修内容）これまでの実験・観察・模擬講義などを振り返り、小学校における理科学習指導について総括する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 毎時のレポート等をポートフォリオ（履歴）としてまとめ、振り返り（リフレクション）を行う。



授 業 名	初等科教育法（生活）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Elementary School Students (Life Environment Studies)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	木全 清博			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	生活科の成立から今日的課題に至る基礎的理解を深めるとともに、教科の目標、内容、方法および評価に関する理論と実践について学ぶ。生活科で育てるべき能力や態度についての理解を深めるとともに、生活科の指導計画、学習指導案の作成を含む実践的な指導力の向上を図る。生活科の特質について、成立の意義や現代的課題との関係に基づきながら理解を深め、実践的な知見を含めた学習指導案を作成することをめざす。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生活科の指導に必要な基礎的・基本的な教育論としての教育原理と実践を理解する。 2) 目標や指導内容、指導方法、評価等に関する知識・技能等の総合的な習得を図る。 3) 自分が教壇に立って生活科の指導ができる自信とスキルを身につける。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	鎌倉博・船越勝編『生活科教育』ミネルウ"ア書房 2018年								
参 考 書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』2017年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する								
留 意 事 項	教職を強く志望する学生の履修を望む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪教育大学附属平野中学校教諭、大阪市教育研究所所員、滋賀大学教育学部附属小学校長として勤務								

授業名	初等科教育法（生活）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	生活科とは何か、生活科とはどのような教科か、本授業「初等科教育法生活」の講義の概要を知らせる	（学修内容）「生活」の授業の概要－15回の内容を知らせる。グループ活動・発表と提出物について説明。自分の生活科経験を書いて、発表する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領「生活科」を読んでくる。
第2回	生活科の目標と内容－2018年版学習指導要領「生活」の内容をつかむ	（学修内容）2018年版学習指導要領「生活科」を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導要領「生活科」を読んでくる。筆記具、ファイル
第3回	生活科の歴史（1）生活科誕生の背景、戦前からの低学年の生活教育の流れ	（学修内容）1989年に新設された生活科の歴史を知る。大正期からの低学年教育の歴史を学び、理解する。1989年版学習指導要領の意味を知る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章生活科という教科を読んで、まとめてくる。
第4回	生活科の歴史（2）1998年版、2009年版、2017年版の学習指導要領の変化をつかむ。背景と教育方法学的意義。	（学修内容）1998年版から2008年版へと学習指導要領の変化・発展をとらえる。社会的背景について、教育方法の視点からとらえる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の講義内容をまとめてくる。
第5回	生活科の授業（1）子どもの体験活動の重視	（学修内容）低学年の子どもの学び方の特性を、子どもの生活作文・生活発表から学び合う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2章の内容をまとめてきて、発表する。
第6回	生活科の授業（2）生活科の教材開発1	（学修内容）テキスト第4章自然から学ぶ、第5章・第6章の栽培活動の事例の実践記録を読む中で教材開発の意義をつかむ （事前事後学修課題の内容）（90分） 第4・5・6章のテキストを要約したレポートを提出する。
第7回	生活科の授業づくり（1）生活科の実践活動と教師の役割	（学修内容）生活科の授業づくりの前提になる学校現場の実践活動を解説し、発展した展開を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第7章の飼育活動の実践記録をまとめてくる。
第8回	生活科の授業づくり（2）生活科を実践・指導する上で必要な知識とスキル	（学修内容）テキスト第8章の地域探索活動の実践記録を読み、話し合う。生活科に必要な知識とスキルを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第8章の内容よ読んで、実践記録をまとめてくる。
第9回	生活科の授業づくり（3）生活科の評価と総合的な学習の時間へのつながり	（学修内容）生活科の評価はどうあるべきかを考えて発表するとともに、総合的学習との異同を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布した資料をまとめてくる。筆記具、ファイル
第10回	生活科の模擬授業（1）生活科の授業と構想1 模擬授業の発表者の決定と学習グループ（班分け）	（学修内容）各自が構想してきた単元・授業案を、グループ内で発表し、意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自がこの日までに学習指導案のテーマと構想をまとめてくる。講義中に互いに発表しあう、講義後に教員に提出。
第11回	生活科の模擬授業（2）生活科の授業と構想2	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第9章集団遊びを読んでくる。
第12回	生活科の模擬授業（3）生活科の授業と構想3	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第10章遊べるものをつくるを読んでくる。
第13回	生活科の模擬授業（4）生活科の授業と構想4	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第11章自分の成長を見つめるを読んでくる。
第14回	生活科の模擬授業（5）生活科の授業と構想5	（学修内容）3人が模擬授業を行う。3人の授業者の学生に対して、各グループごとからコメントを発表させ、全員が批評を書いて授業者に渡す （事前事後学修課題の内容）（30分） 参考資料として、テキスト第12章家族をを見つめるを読んでくる。
第15回	本授業のまとめ－生活科・総合的学習の授業を振り返る	（学修内容）生活科の講義全体のまとめをする。生活科授業づくりと模擬授業をお経験して、良い生活科授業がイメージできたかを討論する （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第13章学び方を育む生活科をレポートにまとめてくる。

授 業 名	初等科教育法（音楽）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Music in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校における音楽科教育の意義を踏まえ、音楽指導の内容等に関する知識および技術について習得する。また、小学校音楽科教育の諸活動（表現・鑑賞）について学習指導案を作成し、グループでの模擬授業およびディスカッション等を行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)小学校音楽科教育の学習内容および指導方法についての基本的な事項を理解することができる。 2)模擬授業を実施することで、授業の全体構成および指導実践の留意点について理解することができる。 3)小学校音楽科の学習指導案の作成方法について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『最新 初等科音楽教育法[改訂版]』（初等科音楽教育研究会編 音楽之友社）								
参 考 書	『小学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省）								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートは、コメントを付けて返却する。 模擬授業は毎回振り返りのためのディスカッションおよび助言を行い、実践によって明らかとなった課題の確認を行う。								
留 意 事 項	グループでの模擬授業と取り組みを重視する。 ソプラノリコーダーを準備しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認しておくこと。								
実 践 的 教 育									

授業名	初等科教育法（音楽）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の進め方の諸注意事項 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	小学校音楽科学習指導要領の概要	（学修内容）新小学校音楽科学習指導要領の概要と改訂の要点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの序章「これからの初等科音楽」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第3回	小学校音楽科学習指導要領の解説	（学修内容）小学校音楽科の目標と指導内容について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第1部第2章「音楽科の指導内容」第3章「音楽科の学習指導計画」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第4回	歌唱共通教材（指導案の作成法を含む）	（学修内容）歌唱共通教材の指導実践例と指導案の作成法について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.33「学習指導案の作成」を読み、共通事項を踏まえた歌唱共通教材の指導法を考えて指導案を作成すること。
第5回	模擬授業発表（歌唱）	（学修内容）歌唱共通教材を使った模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、歌唱共通教材の選定と模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第6回	模擬授業発表（器楽：鍵盤ハーモニカ）	（学修内容）器楽（鍵盤ハーモニカ）教材を使った模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（鍵盤ハーモニカ）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第7回	模擬授業発表（器楽：リコーダー）	（学修内容）器楽（リコーダー）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（リコーダー）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第8回	模擬授業発表（器楽：合奏）	（学修内容）器楽（合奏）による模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは、器楽（合奏）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第9回	音楽づくり	（学修内容）音楽づくり指導および指導上の留意点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第2部第4章「音楽づくりの学習と指導」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第10回	模擬授業発表（音楽づくり）	（学修内容）模擬授業（音楽づくり）のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは音楽づくりの模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第11回	鑑賞	（学修内容）鑑賞の意義および指導上の留意点について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの第2部第5章「鑑賞の学習と指導」を読み、概要を小レポートにまとめて提出すること。
第12回	模擬授業発表（鑑賞：日本の伝統音楽）	（学修内容）鑑賞（日本の伝統音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（日本の伝統音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第13回	模擬授業発表（鑑賞：世界の音楽）	（学修内容）鑑賞（世界の音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（世界の音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第14回	模擬授業発表（鑑賞：西洋音楽）	（学修内容）鑑賞（西洋音楽）の模擬授業のグループ発表・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表グループは鑑賞（西洋音楽）の模擬授業の準備をしておくこと。模擬授業後は全員振り返りの小レポートを提出すること。
第15回	まとめ	（学修内容）発表を終えた振り返りと授業全体のまとめ・ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案の再提出および模擬授業実践の総括レポートを提出すること。

授 業 名	初等科教育法（図画工作）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Arts and Crafts in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政4回生				
授 業 の 概 要	<p>小学校図画工作科の指導にあたって必要となる基礎的な知識を修得するとともに、授業づくりの実践的スキルを身に付けるための科目である。</p> <p>この授業では、講義と実際の創作体験を組み合わせ、子どもの発達と造形活動の意味を理解し、学習指導要領で示されている図画工作科の目標や内容を理解する。その上で子どもたちが、創造力・構成力・集中力・計画性・正確さ・優しさ・思いやり・我が国の伝統に対する「誇り」などが育つ指導法（知識を知恵に変える活動）や学習指導計画書の作成方法を学ぶ。</p> <p>また、子どもたちが創作活動を通して表現することの喜びを感じることができるよう、材料、道具などの環境構成についての知識や教科指導の工夫や動機づけについての力を、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業を行ないながら身につけられるように授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教師として必要な図画工作の知識と表現力、また、それを実際に指導することができる。</p> <p>2) 指導計画や学習指導案を作成できる力などを身に付け、説明することができる。</p> <p>3) 小学校教育の中での図画工作科の意義について、自分の考え方をプレゼンテーションすることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 技術・技法 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『図画工作科指導法研究』佐藤洋照・藤江充 編著（日本文教出版）令和元年10月1日発行								
参 考 書	文部科学省著 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」 必要に応じて授業で指示する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	提出された制作物は、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	教職を強く希望する学生の履修を望む。理論と実践力をむすびつける。 小学校の公開授業参加、作品展（絵画造形展・アイデア展など）鑑賞、トイコンテストや作品展のボランティアを積極的に行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		初等科教育法（図画工作）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 図画工作教育の目的と課題	（学修内容）授業内容についてオリエンテーション、自己紹介。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「図画工作教育の意義・目的」に目を通しておく。
第2回	子どもの発達と造形活動	（学修内容）子どもの発達と図画工作で育てる力（知識を知恵に変える活動）。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「子どもの成長・発達と表現活動」に目を通しておく。
第3回	学習指導要領の発展と図画工作	（学修内容）学習指導要領の変遷を学び、これからの図画工作の指導を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「学習指導要領解説」に目を通しておく。
第4回	教育評価の視点	（学修内容）子どもの作品をどう評価するか、作品鑑賞とディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「図画工作科における評価」に目を通しておく。 評価の視点をレポートにまとめておく。
第5回	教材研究・場所と人と関わる造形遊び（1）	（学修内容）造形遊びとコミュニケーション ビデオによる授業視聴とディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「子どもの姿と授業の実践例」に目を通しておく。
第6回	教材研究・場所と人と関わる造形遊び（2）	（学修内容）身近な場所の特徴を捉え、空間の奥行きなどを生かしながら、ある1点から見ると何かの形に見えるような工夫をしてつくる活動をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「造形遊びをする活動」に目を通しておく。
第7回	教材研究・工作に表す活動（1） ～仕組みづくり～	（学修内容）動きのおもしろさを楽しむ表現（1） 身近な材料で動きのある工作の仕組みをつくる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「工作に表す活動」に目を通しておく。
第8回	教材研究・工作に表す活動（2） ～外装づくり～	（学修内容）動きのおもしろさを楽しむ表現（2） 身近な材料で動きのある工作の外装を仕上げる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「工作に表す活動」に目を通しておく。
第9回	教材研究・鑑賞活動	（学修内容）制作した作品から見ること、感じること、調べることをつなぐ活動。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト「鑑賞する活動」に目を通しておく。
第10回	指導計画について 作成の留意点	（学修内容）図画工作科における授業の特色と授業の組み立てプロセスについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布資料に目を通しておく。
第11回	指導計画について 全体計画	（学修内容）制作した教材をもとに学習指導案作成（1）をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配付資料に目を通しておく。
第12回	指導計画について 本時の細案	（学修内容）教材をもとに学習指導案作成（2）をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導案を完成しておく。
第13回	指導計画について 学習指導案検討会	（学修内容）各自の学習指導計画案を持ち寄りグループ討議。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導案について説明できるように考えておく。
第14回	学習指導案をもとに模擬授業	（学修内容）学習指導案をもとにグループで模擬授業を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導案をもとに模擬授業の準備しておく。
第15回	まとめと考察・プレゼンテーション	（学修内容）図画工作科の意義について5分程度でプレゼンテーションする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自、授業を振り返りプレゼンテーションをまとめておく。

授 業 名	初等科教育法（家庭）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校家庭科の各領域について基本的な内容を概説する。「子どもたちが家庭生活をみつめ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、創造していける基礎能力をつけていく」ために、小学校家庭科の指導や教材研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。生活課題を把握し、それに即した指導内容と指導方法を習得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 小学校家庭科の教科としての特徴と独自性を理解する。 2) 小学校家庭科の目標、内容を把握して、教科指導ができる。 3) 小学校家庭科で教える技能を習得し、それらを教えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	<p>「小学校 新学習指導要領の展開」長澤由喜子編著 明治図書 (2017) 「新しい家庭5・6」東京書籍</p>								
参 考 書	<p>「小学校学習指導要領」文部科学省</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究などの発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。</p>								
留 意 事 項	<p>授業で配布するプリント資料もしっかり読むこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>授業終了後に オフィスアワーを設けます。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有</p>								

授業名	初等科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	小学校家庭科の新学習指導要領	（学修内容）新学習指導要領の改訂のキーポイントを理解する 家庭科の目標と評価、内容構成について復習する （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領を読んでくる 家庭科で育てたい力について考えておくこと
第2回	家庭科の指導計画と授業の方法	（学修内容）主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業時数や題材構成を考慮して指導計画を立てる視点を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 小学校の家庭科の教科書に目を通しておくこと
第3回	指導案の書き方と授業の工夫	（学修内容）ICT活用とプログラミング教育、実践的・体験的授業の充実、個に応じた指導、家庭や地域との連携、実習指導における配慮点を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導案の書き方を復習しておくこと
第4回	家庭科の内容 A. 家族・家庭生活	（学修内容）A. 家族・家庭生活 の内容についてと、家庭生活と家族の今日的課題について1時間の授業を計画する（グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（30分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる
第5回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 1. 食生活	（学修内容）B. 衣食住の生活 1. 食生活 の内容についてと、食生活の今日的課題についてと調理実習の指導について学ぶ 調理実習の教材を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 調理実習の意義と調理実習の内容を考えてくる
第6回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活	（学修内容）B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活 の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学び、布を用いた製作教材を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 布を用いた製作実習の意義と製作実習の内容を考えてくる
第7回	布を用いた製作	（学修内容）手縫いでできる作品作り 実技指導を含む授業について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 作品作りに必要な布、道具等を準備し、忘れず持参する
第8回	家庭科の内容 C. 消費生活・環境	（学修内容）C. 消費生活・環境 の内容についてと、衣生活・住生活の今日的課題について学び、視聴覚教材を活用した授業の計画をする （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 実生活で実践できることを考えてくる
第9回	模擬授業 A. 家族・家庭生活	（学修内容）4回目の講義で計画した指導案を元に模擬授業をする（2グループ） 発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第10回	家庭科の新授業プラン B. 衣食住の生活	（学修内容）新授業プランの例から学び、自身の授業のアイデアを話し合う 5回目の講義で各自計画した調理実習の教材を展示し、意見交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） この内容で自分が授業をするイメージをし、自身のアイデアが話せるようにしておく
第11回	模擬授業 C. 消費生活・環境	（学修内容）8回目の講義で計画した、視聴覚教材を活用した授業を発表する。（2～3名）発表者以外は、教師の目で授業を評価する （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第12回	単元の導入にあたる授業の計画	（学修内容）学習の単元の導入（単元の1時間目）の授業の学習指導案を書く 学習の動機付けができるよう工夫する （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案を書く単元を決めてくること 児童の学びたい気持ちを引き出せるような授業を考えてくる
第13回	児童が主体的に学べる授業の計画	（学修内容）アクティブラーニングの学習方法や、ICT活用、プログラミング教育、実践的・体験的授業などを効果的に取り入れた授業の学習指導案を書く （事前事後学修課題の内容）（60分） 児童が主体的に学べる1時間の授業をイメージしてくる 参考になる実践例や必要な情報を調べておくことよい
第14回	単元の導入にあたる授業の発表	（学修内容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりで準備しておくこと
第15回	児童が主体的に学べる授業の発表	（学修内容）先に提出した指導案の中から数人発表してもらい、意見やアドバイスを交換する （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表は誰に当たるかわからないので、全員発表するつもりで準備しておくこと



授 業 名	初等科教育法（体育）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Teaching Method of Physical Education in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	金 尚 憲			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校体育教育の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識や技術を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健等）を理解することで教師として自己成長するための方法を探究する。学習指導要領作成の留意点や体育科評価の視点について学び、指導のポイントを習得する。授業はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 体育科の目標・内容を理解することができる。 2) 体育科の学習指導案を作成することができる。 3) 模擬授業を通して体育授業を行う上での留意事項を理解することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	石田智己・山口孝治編著『初等体育科教育 新しい教職課程講座 教科教育編9』ミネルヴァ書房 2018年								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省</li> <li>・梅野圭史編著『小学校ボールゲームの授業づくり』創文企画 2017年</li> </ul>								
課題に対する フィードバック の方法	小テストやレポートは、チェックを行い要点を解説する。								
留 意 事 項	運動の得意・不得意は評価に関係しない。積極的な参加を期待する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：大阪府内の高校で教員として勤務。 その後、大阪市中央体育館体育医事相談所 測定員として、運動適性検査を担当した後、高の原スポーツ研究所を設立。</p>								

授 業 名		初等科教育法（体育）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	体育科教育の概念と歴史的変遷	（学修内容）体育科教育の意義と歴史的変遷を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの概観し、学びのイメージを深める。
第2回	体育の目標と内容	（学修内容）体育科の目標と領域内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「体育科の目標」「内容」を読んでおく。
第3回	学習指導の実際 体づくり運動、器械運動、陸上運動の学習指導	（学修内容）体づくり運動、器械運動、陸上運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第4回	学習指導の実際 水泳、ボール運動の学習指導	（学修内容）水泳、ボール運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第5回	学習指導の実際 表現運動、保健の学習指導	（学修内容）表現運動、保健領域の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第6回	学習資料、教育機器の活用	（学修内容）I C Tを活用した授業展開を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） デジタル機器を活用した授業展開を考えておく。
第7回	実技指導の実際 低学年の運動指導	（学修内容）低学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 低学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第8回	実技指導の実際 中学年の運動指導	（学修内容）中学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 中学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第9回	実技指導の実際 高学年の運動指導	（学修内容）高学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 高学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第10回	体育科の年間指導計画	（学修内容）体育科における年間計画の作成の仕方について知る。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「年間計画の作成」を読んでおく。
第11回	学習指導案の作成 単元目標、指導計画	（学修内容）学習指導案の作成の仕方について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布した資料を読んでおく。
第12回	学習指導案の作成 本時の計画	（学修内容）学習指導案の作成（本時案）の仕方について知る。 （事前事後学修課題の内容）（80分） 本時の展開部分を完成させておく。
第13回	体育の授業研究 模擬授業の実際	（学修内容）模擬授業（プレゼンテーション）を通して、指導技術について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業のイメージ作りをしておく。
第14回	体育の授業研究 模擬授業の実際	（学修内容）模擬授業（プレゼンテーション）を通して、特に評価のあり方を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト「評価の観点」を読んでおく。
第15回	優れた体育授業の創造をめざして（まとめ）	（学修内容）これまでの学習の総復習をする。 （事前事後学修課題の内容）（80分） これまでの学習内容を確認しておく。

授 業 名	教職実践演習(幼・小)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4818
英 文 名	Teaching Practice(Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史・藤本 奈美・柿本 真代・松浦 真理・竹 村 伸子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を多角的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。</p> <p>履修カルテや実習の振り返りをもとに、学生の個別的な課題、および、これからの社会情勢にかんがみた教員が身につけるべき全体的な課題を掘り下げ、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、教員としての資質能力をさらに高めることを目的としている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教員としての使命感、責任感を自覚し、言動に表すことができる。</p> <p>2) 多様な子どもや保護者とのコミュニケーションを想定して対応することができる。</p> <p>3) 新任教員として必要な教科・保育に必要な指導力を身につけ、指導案作成や模擬授業に活かすことができる。</p> <p>5) 語彙力や表現力を豊かにして他者に働きかけができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	『保育・教職実践演習』(小田・神長編著、光生館、2013)や『幼児理解と評価』(文部科学省、幼稚園教育指導資料第3集)などを中心に、各回の授業で必要な資料を適宜配布する。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションやロールプレイなどについては、学生同士のピア評価と教員のコメントと解説をおこなう。リアクションペーパーや小レポートは提出の次週にコメントおよび質問への回答をおこなう。								
留 意 事 項	「教師力を高める」演習形式の授業であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	所定の日時を掲示するので確認のうえ、できるだけその時間に来ること。その他メールでのアポイントや質問は随時受け付ける。非常勤教員については授業後の時間を設定する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 非常勤教員は天津市公立幼稚園園長および教育委員会勤務経験を有している。								

授 業 名	教職実践演習(幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教職実践演習の意義と目的	(学修内容)本授業の進め方を理解する。本授業の意義と目的を理解して、入学後これまでの教職課程および教育実習の内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「教育実習振り返りシート」「履修カルテ」の記述および整理。
第2回	個別の課題設定と習得計画の作成	(学修内容)履修カルテや教育実習の振り返りから各自の研修課題を明確にし、必要な知識技能の習得に向けて計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己の課題をまとめ、課題克服の計画を修正し提出する。
第3回	教員の役割と使命感(対子ども、对学校組織、対保護者や地域という異なる観点から多角的に考える)	(学修内容)教師の使命感・責任感・情熱等について社会の現状や教育実習経験をふまえながらグループ討議を行い、グループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題についての自己の経験をまとめてくる。
第4回	困りを抱える子どもの理解と援助方法	(学修内容)困りを抱える子どもへの指導について、事例をもとにロールプレーやグループ討議を通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 困りを抱える子どもについての特性や指導法について調べてくる。
第5回	子ども同士のけんかやトラブルの理解と援助方法	(学修内容)ビデオを見ながら、子ども同士のけんかやトラブルについて考え、グループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習での実際のけんかやトラブルの場面を思い出して書き出し、その時の対応なども整理しておく。
第6回	危機管理への備え	(学修内容)想定されうる危機管理について理解し、具体的な対応について話し合っ て深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校の外内にある「危険」を書き出す。教員の備え、子どもとともに する行動について考えておく。
第7回	これからの教員に求められるもの(外部講師)	(学修内容)校長経験者など講義をもとにこれからの教員に求められる資質能力につ いて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 1今後の社会状況の変化と教員に求められる力について予測しておく。
第8回	模擬授業の準備	(学修内容)第2回の授業うけて各自の課題を実践するための具体的な案をグループ で考え、次週以降の各グループごとの模擬授業の準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自の課題を再確認し、模擬授業にどのように取り組むかを考えておく 。
第9回	第1グループから第3グループまでの模擬授業	(学修内容)第1-3グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。
第10回	第4グループから第6グループまでの模擬授業	(学修内容)第4-6グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。
第11回	第7グループから第9グループまでの模擬授業	(学修内容)第7-9グループが模擬授業を実施し、それについてピア評価、省察をす る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 学習指導案作成。
第12回	学校行事と学級通信作成	(学修内容)学校行事の意味を理解し、それらと関連付けながら、日々のクラス活動 を学級通信にまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 学級通信を書きたい季節を選んで内容について考えておく。
第13回	保護者対応と連携	(学修内容)学校と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通し て考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者との連携の必要性について考えてくる。
第14回	これからの学校教育	(学修内容)現場経験者の講義をもとに社会の変化と学校の在り方、子どもの育ちな どの関連をし整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びを踏まえ、各自が社会と学校、子どもの関連について考 えておく。
第15回	総括	(学修内容)これまでの授業と教職課程全般を振り返り、今後の抱負を相互に伝え合 う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修カルテの総括欄に記入しておく。

授 業 名	社会的養護 U			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2712
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	社会的養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法について学ぶと共に、施設や職員の役割を理解し援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会的養護を必要とする問題の発生状況と求められる支援について理解できる。 2) 被虐待児童の行動特性をアセスメントできる。 3) アセスメントに基づく支援計画を作成すると共に、支援に必要なスキルについて理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業資料、事例のプリントを配布								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	練習問題等の解答と解説を行います。								
留 意 事 項	積極的に授業に参加し、出された課題や事例について考察することが求められます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務の現役施設長								

授 業 名		社会的養護 U
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読んでおく
第2回	レジデンシャルソーシャルワークの基本 アドミッションケア・インケア・リビングケア 。アフターケアの理解	(学修内容) 施設におけるソーシャルワーク的アプローチの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童養護施設等の基本的機能を確認しておく
第3回	事例を通して学ぶ 生育歴、生活歴から考察する	(学修内容) 少年犯罪事例から生育歴の考察を学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事件ニュースの背景について考察してみる
第4回	事例を通して学ぶ 保育所での相談事例 アセスメントと支援計画の理解	(学修内容) 「視線が合わない」子どもの事例を通して親子関係支援について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、家庭養育支援について考察する
第5回	事例を通して学ぶ 二児の母からの相談事例 ジェノグラムの理解	(学修内容) 「弟をいじめる」兄弟事例を通して、家庭養育について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、家族のコミュニケーションについて考察する
第6回	事例を通して学ぶ 幼稚園入学に向けた相談事例 エコマップの理解	(学修内容) 「トイレトレーニング」の相談事例から相談対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、家族間の養育感のあり方について考察する
第7回	DVや児童虐待の理解	(学修内容) DV・児童虐待の予防と対応についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会的養護 の授業内容を復習しておく
第8回	コミュニケーションの重要性の理解	(学修内容) コミュニケーションの重要性とそのスキルについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションスキルについて調べておく
第9回	事例を通して学ぶ DV事例	(学修内容) 事例を通してコミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、コミュニケーションについて考察する
第10回	事例を通して学ぶ デートDV事例	(学修内容) デートDV事例を通して共生について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、対等な関係について考察する
第11回	事例を通して学ぶ 身体的虐待事例	(学修内容) 身体的虐待事例を通して支援あり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り人体的虐待対応について考察する
第12回	事例を通して学ぶ 性的虐待事例	(学修内容) 性的虐待事例を通して支援のあり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、性的虐待対応について考察する
第13回	事例を通して学ぶ 心理的虐待事例	(学修内容) 心理的虐待事例を通して支援のあり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、心理的虐待対応について考察する
第14回	事例を通して学ぶ 不登校事例	(学修内容) 不登校事例を通して支援のあり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、不登校支援について考察する
第15回	振り返りとまとめ	(学修内容) これまでの授業内容の復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 振り返り内容を復習し試験勉強する

授業名	保育実習指導 u a			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子・芹澤 出			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	保育実習を行うために必要な事項について学ぶ。講義形式の授業を通して、保育実習の目的や概要、各実習施設の役割や機能、さらに実習を記録する方法について学ぶ。演習形式の授業を通して、子どもや利用者とのかかわりや記録の書き方を実践的に学ぶ。実習日誌の記述方法や目標設定について、グループワークを行う。子どもや利用者の人権やプライバシー保護に配慮した実習について理解し、保育士の専門性を学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 保育実習の目的や概要などについて理解する。 2) 各種施設の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。 3) 人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解する。 4) 実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業でプリントを配布する								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	実習ノートの書き方、実習目標の立て方などの各種課題について、学生相互にチェックしながら学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：芹澤 出先生 母子生活支援施設「野菊荘」施設長 近本佳子先生 元風の子保育園（京都市内）主任								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育実習指導 u a		
第1回	保育実習とは	(学修内容) 保育実習の目的を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 保育実習のイメージを自分なりに考えてみる	
第2回	保育実習について (保育実習全般について)	(学修内容) 保育実習の全体像を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第3回	保育実習について (障害児施設について)	(学修内容) 障害児施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第4回	保育実習について (養護系施設について)	(学修内容) 養護系施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第5回	実習ノートの書き方の講義	(学修内容) 実習ノートの書き方を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業出された課題を仕上げる	
第6回	実習ノートの書き方の演習	(学修内容) 先週の講義を受けて演習を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を受けて、課題を書き直す	
第7回	実習についての質問の会	(学修内容) 実習にあたっての質問を出す (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問を考えてくる	
第8回	施設実習を成功させるためのポイント	(学修内容) 施設実習を成功させるためのポイントを解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容をまとめておく	
第9回	実習目標の立て方についての講義	(学修内容) 実習目標の立て方について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を成功させるために自分の目標を考える	
第10回	各自の実習目標を検討する	(学修内容) 小グループで実習目標を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を立て直す	
第11回	実習にあたっての諸留意事項	(学修内容) 実習に対する心構え・諸手を伝える (事前事後学修課題の内容) (60分) 諸手を完了する	
第12回	春実習に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談をうけて、課題を見直す	
第13回	名札作製など実習準備	(学修内容) 名札や自己紹介カードをつくる (事前事後学修課題の内容) (60分) 名札や自己紹介カードをつくる	
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の行く施設について調べる	
第15回	春実習直前指導	(学修内容) 春実習の諸注意を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の準備ができているか確認する	



授業名	保育実習指導 ub			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	演習形式の授業を通して、保育実習を円滑にすすめていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化する。施設実習の事後指導としては、実習の評価をみながら、各自の課題を見つけ、新たな学習目標を明確化させていく。保育所実習の事前指導としては、講義で保育士の役割、保育実習の意義、目的、内容について伝えていく。また、設定保育の指導案の立て方の解説を行ったうえで、指導案の立案から実施、振り返りまでを体験する。こうした取り組みをとおして、保育所実習の目標を具体的にしていく。実習日誌の記述方法や、目標設定について、グループワークを行う。								
学修成果到達目標	1) 施設実習の振り返りを行い、保育所実習に生かす。 2) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。 3) 人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解する。 4) 実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業でプリントを配布する。								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	施設実習の振り返り、保育所実習の目標、設定保育の指導案など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習の単位が取得できることを条件とする。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など:</b> 近本 佳子先生 元風の子保育園(京都市内)主任								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	施設実習の振り返りと今後の実習について	(学修内容)施設実習を振り返り、保育所実習の課題を考える  (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習について振り返る	
第2回	施設実習交流会	(学修内容)施設実習での体験を交流する  (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習での体験をまとめておく	
第3回	施設実習事後面談	(学修内容)個人面談を実施する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設実習を振り返る	
第4回	施設実習からの課題抽出	(学修内容)施設実習を経て自らの課題を抽出する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設実習の学んだことをまとめる	
第5回	保育所についての事前学習	(学修内容)保育所について学習する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所での自分の課題を考えるための資料を集める	
第6回	保育士倫理綱領、実習目標の立て方	(学修内容)保育士倫理綱領と実習目標の立て方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育士倫理綱領を読んでくる	
第7回	指導案の立て方・実習課題の再検討	(学修内容)指導案の立て方を学び実習目標を再検討する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習目標を立ててくる	
第8回	指導案の立て方の実際 乳児クラス	(学修内容)乳児クラスの指導案の展開を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる	
第9回	指導案の立て方の実際 幼児クラス	(学修内容)幼児クラスの指導案の展開を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる 実習目標を立て直してくる	
第10回	保育所実習記録の配布・記録の書き方	(学修内容)実習記録の書き方を解説する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案を立案する	
第11回	指導案の実施 製作活動	(学修内容)小グループで指導案を実施する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案が実施できるように準備する	
第12回	指導案の実施 からだを使った遊び	(学修内容)小グループで指導案を実施する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する	
第13回	保育所実習にむけての面談	(学修内容)個人面談を実施する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる	
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容)自分の課題に基づいて事前学習する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所実習の事前学習課題を実施する	
第15回	保育所実習直前指導	(学修内容)保育所実習の諸注意を確認する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 提出書類に必要なものを用意する	

授業名	ソーシャルワーク総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1701
英文名	Outline of Social Work			開講時期	春学期	必修選択	必修	選択必修	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークとは、狭義には相談援助を指し、広義には社会福祉援助全般を指します。社会福祉（援助）の資格には社会福祉士、保育士、介護福祉士などが含まれますが、この授業では、広い意味でのソーシャルワークの立場から、ソーシャルワークの基盤となる理論と方法、基本原則や歴史的展開、それを担う専門職について学びます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) ソーシャルワークの概要、体系について理解できるようになる。  2) ソーシャルワークの基本原則、基本姿勢について理解できるようになる。  3) 専門職としての価値、知識、技術について理解できるようになる（社会福祉、保育の各領域）。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	使用しない。								
参考書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答を解説します。								
留意事項	ノートをしっかりとること。								
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名	ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（導入） 社会福祉とソーシャルワーク	（学修内容）社会福祉の定義とソーシャルワークの実践活動について （事前事後学修課題の内容）（15分） シラバスに目を通しておく。
第2回	ソーシャルワークの価値基盤	（学修内容）ソーシャルワークの価値について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること
第3回	ソーシャルワークの価値基盤専門職倫理	（学修内容）専門職としての倫理について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第4回	ソーシャルワークの歴史的展開 前史	（学修内容）ソーシャルワーク前史を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第5回	ソーシャルワークの歴史的展開 発展史	（学修内容）ソーシャルワークの発展史について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第6回	ソーシャルワークの体系	（学修内容）専門援助技術の種類、概要、定義など体系を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第7回	ソーシャルワークの対象	（学修内容）ソーシャルワークの対象について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第8回	ソーシャルワークの担い手 職種から	（学修内容）専門職と種類、範囲について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第9回	ソーシャルワークの担い手 資格から	（学修内容）専門職特に社会福祉士、保育士について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第10回	ソーシャルワークの実践現場、機関	（学修内容）ソーシャルワークの諸機関の体系、種類について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第11回	ソーシャルワークの日本的展開 導入～近代	（学修内容）歴史の中で代表的な実践モデルを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第12回	ソーシャルワークの日本的展開 近代～現代	（学修内容）現在も活用される実践モデルを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第13回	ソーシャルワークの基本原則 国際ソーシャルワーク連盟の定義	（学修内容）定義について、用語を含め内容を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第14回	ソーシャルワークの基本原則 自立と自立支援など	（学修内容）自己決定の尊重を含め利用者本位の原則を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。
第15回	ソーシャルワークの基本原則 ノーマライゼーションと社会的包摂など	（学修内容）理念形成の過程を含め現代における意義を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付資料を学習すること。

授業名	ソーシャルワーク総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1711
英文名	Outline of Social Work			開講時期	秋学期	必修選択		選択必修	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>社会福祉の援助実践活動ソーシャルワークは、今日様々な実践現場において、非常に重要になってきている。その援助の方法としては、それぞれこの社会での構成単位である、個人（個別）、集団、地域等の支援をはじめとして非常に多様化してきている。この講義を通じて、ソーシャルワークの基盤となる方法とそれを担う専門職について学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) ソーシャルワークの概要、体系、基本原理、理論構築の歴史的経緯などが理解できるようになる。  2) ソーシャルワークの総体を理解できるようになる。  3) ソーシャルワークの現代的展開と実践の基礎を理解できるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テキスト	使用しない。								
参考書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答を解説する。								
留意事項	今日の社会で生起する社会福祉問題に関心を向け、授業との関連を考えて欲しい。								
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名		ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス ソーシャルワークの視点(確認)	(学修内容)前期の振り返り。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 総論を受講した人は内容を確認しておく。	
第2回	ソーシャルワーク専門職の体系 専門職の全体像を把握	(学修内容)関連領域を含む専門職の体系を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第3回	ソーシャルワークに係る専門職の体系 社会福祉領域における専門職	(学修内容)専門職の役割と機能を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第4回	ソーシャルワークに係る専門職の体系 社会福祉関連領域における専門職	(学修内容)専門職の役割と機能を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第5回	専門職の倫理 社会福祉士	(学修内容)社会福祉士会の倫理綱領等により学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第6回	専門職の倫理 精神保健福祉士	(学修内容)介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第7回	専門職の倫理 保育士、介護福祉士等	(学修内容)介護福祉士や保育士等、専門職の倫理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第8回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク 理論的統合	(学修内容)総合的かつ包括的なソーシャルワークをめぐる動向。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第9回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク 実践理論	(学修内容)包括的な実践理論を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第10回	事例研究 自殺をいかに防ぐか	(学修内容)ソーシャルワークの視点から自殺問題に向き合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第11回	事例研究 児童虐待	(学修内容)ソーシャルワークの視点から児童虐待に向き合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第12回	事例研究 子育て支援	(学修内容)ソーシャルワークの視点から子育て支援に向き合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第13回	事例研究 要援護児童	(学修内容)ソーシャルワークの視点から要援護児童に向き合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第14回	事例研究 保育現場	(学修内容)ソーシャルワークの視点から保育現場の問題に向き合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	
第15回	講義の総括	(学修内容)今までの講義のまとめ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。	

授 業 名	保育実習指導 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3777
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	保育実習 では、保育所において二回目の保育実習を行う。そのために、保育実習 を振り返り、保育所の役割の理解、保育者の援助の方法の理解を深めた上で、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習 を実施するために必要な事項について理解する。 2) 授業で学んだことが、実践できるようにする。 3) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	保育所保育指針								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	保育所実習の振り返り、保育所実習の目標作成など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物をみて実習を振り返っておく	
第2回	保育実習交流会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく	
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で学んだことを整理しておく	
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談の内容をまとめる	
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の日誌を見直す	
第6回	保育所についての解説	(学修内容) 保育実習 での課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育の制度について調べておく	
第7回	2 回生との交流	(学修内容) 2 回生と交流し実習での体験を伝える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る	
第8回	保育所についての解説 保育内容	(学修内容) 保育実習 の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所での実習について振り返る	
第9回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた保育目標を相互に見直す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成してくる	
第10回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公立・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心のある項目をまとめておく	
第11回	実習記録の書き方	(学修内容) 二度目の保育所実習にふさわしい記録の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの実習記録を読み直す	
第12回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる	
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す	
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを先輩から聞く。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる	
第15回	保育実習 直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習 必要な事前準備を完了しておく	



授 業 名	保育実習指導 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3778
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>保育実習 では、児童館において保育実習を行う。そのために必要な事項として、保育実習 の振り返り、児童館の機能や対象者の理解、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。これまでの実習日誌の記述内容を自ら分析し、よりよい記録の作成を目指すほか、保育職になるために必要な資質についても、公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶなどして、さまざまな角度から考察する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育所実習の振り返りを通して、自己の課題を明確化する。  2) 児童館の役割を理解し、計画を立案して実践できるようにする。  3) 保育士に必要な資質を理解し、実習の目標に反映させることができる。  4) 保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	プリントを適宜配布する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	実習日誌や実習目標を基に事後面談や事前面談を個別に行い、評価をフィードバックする。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする  (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物を見て振り返っておく	
第2回	保育実習交流会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく	
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 での学びを振り返っておく	
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談の内容をまとめる	
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 の日誌を見直す	
第6回	児童館についての解説	(学修内容) 児童館の現状や機能を理解する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設・保育所での実習について振り返る	
第7回	2 回生との交流	(学修内容) 2 回生と交流し実習での体験を伝える  (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る。これまでの日誌を持参する	
第8回	保育実習 の目標について説明	(学修内容) 保育実習 の課題を理解する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童館の機能について復習する	
第9回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた保育目標を相互に見直す  (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成してくる	
第10回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心のある項目をまとめておく	
第11回	実習記録の書き方	(学修内容) 実習施設にあわせた記録の書き方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの実習記録を振り返る	
第12回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う  (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を作成する	
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 個人面談の内容を振り返る	
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを知る  (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のある項目をまとめておく	
第15回	保育実習 直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習に必要な事前準備を完了しておく	

授 業 名	ビジネス実務総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1702
英 文 名	Business Routine Concept			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	東野 國子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでにビジネス社会の仕組みや活動について、また一般的な常識を学修し、社会人としてのまたワーカーとしての基礎能力を身につけていきます。テキストの巻末の振り返りシートを利用し少しずつ知識の定着を図っていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ビジネス実務士の資格を取得し、ビジネス実務の基本を身につける。 2) ビジネス社会を理解できる。 3) 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	『新版 ビジネス実務総論』水原道子・大島武編著 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします。								
留 意 事 項	社会人になるまでに社会に対して興味をもち、新聞などで自分が目指す業界の情報を積極的に収集してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	何か質問があれば授業の後に聞いてください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	ビジネス実務総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ビジネス実務概論を学ぶ意義	(学修内容)オリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	ビジネス社会と経営資源について	(学修内容)ビジネス社会においては働く人も経営資源のひとつであることを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自が自分が興味のある業界についてのビジネス活動について考えてみる
第3回	企業とは	(学修内容)社会人になったときに必要な企業についての基礎を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自が興味のある企業の理念や社会貢献などについて調べる 振り返りシート
第4回	代表的な会社	(学修内容)日本における代表的な会社の種類と組織を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 新聞を使って会社を調べる 振り返りシート
第5回	企業の組織と会計	(学修内容)業種や職種、企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 新聞を使って会社を調べる 振り返りシート
第6回	身の回りの経済	(学修内容)日常生活と経済についての関係を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 身の回りのものの値段について調べてみる 振り返りシート
第7回	日本経済の流れ	(学修内容)戦後から現代までの経済の流れについて確認する (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の中で興味のある時期の経済の動きについて調べる 振り返りシート
第8回	グローバル社会とビジネス	(学修内容)グローバル社会がビジネスにもたらす影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) インバウンドと観光について調べる 振り返りシート
第9回	様々な働き方	(学修内容)働く意義や働き方の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自が自分の働き方について考える 振り返りシート
第10回	税と社会保険	(学修内容)税金の種類と社会保険について学修する (事前事後学修課題の内容)(60分) 支払った税金がどのように使われているか調べる 振り返りシート
第11回	労働と法律	(学修内容)労働者を守る法律について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分たちの身近なところでの法律について調べる 振り返りシート
第12回	地域連携	(学修内容)大学と地域連携のあり方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分たちができる地域連携を考えてくる 振り返りシート
第13回	ボランティア活動	(学修内容)社会人基礎力とボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 身近で出来るボランティアについて考えてみる 振り返りシート
第14回	情報管理の重要性	(学修内容)情報化社会の中で情報を管理することの重要性について学修する (事前事後学修課題の内容)(60分) 情報の重要性についての事例を調べてくる 振り返りシート
第15回	インターネットとビジネス	(学修内容)インターネットとビジネスのかかわり方について学修する (事前事後学修課題の内容)(60分) 今までの学習の復習をする 振り返りシート

授 業 名	応用ビジネス実務論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1708
英 文 名	Applied Business Routine Concept			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブリスニング、ビジネスプレゼンテーション、KT法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。  2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。  3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	全国大学実務教育協会編『ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論』紀伊国屋書店								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に関して、評価基準を授業内あるいはメールにて解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。	
第2回	ビジネスを考える	(学修内容) ビジネスは何を目指しているのか、説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP10-23を読んでおく。	
第3回	ビジネス環境をとらえる --グローバル化、情報化について	(学修内容) 経済のグローバル化、高度情報化について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP25-36を読んでおく。	
第4回	ビジネス環境をとらえる --環境問題、少子高齢化について	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化の問題について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP36-49を読んでおく。	
第5回	ビジネス現場をとらえる	(学修内容) 日本の雇用のありかたやワークスタイルについて解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP51-68を読んでおく。	
第6回	ビジネス実務について	(学修内容) ビジネス実務とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71-83を読んでおく。	
第7回	ビジネス実務の基本について --仕事の進め方	(学修内容) 仕事の進め方などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85-111を読んでおく。	
第8回	ビジネス実務の基本について --情報活用	(学修内容) 情報活用などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112-136を読んでおく。	
第9回	ビジネス実務の活動をとらえる --オペレーションとマーケティング	(学修内容) オペレーション活動とマーケティング活動について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP137-152を読んでおく。	
第10回	ビジネス実務の活動をとらえる --キャリア形成とコストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成とコストパフォーマンスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP152-174を読んでおく。	
第11回	ビジネス実務の創造	(学修内容) これからのビジネス実務について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP175-195を読んでおく。	
第12回	業界研究	(学修内容) グループワークで、関心のある業界から始まり、それに関連する業種を整理していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の興味・関心のある企業を調べる。	
第13回	業界研究	(学修内容) 前講から引き続き、グループワークで、業種から企業を絞り、歴史など調べてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事など企業に関連する記事を収集してみる。	
第14回	自分のキャリア形成の方向性について考える	(学修内容) 「生き方・働き方・休み方・楽しみ方」それぞれの選択肢をどのように組み合わせていくのか考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のキャリア形成について考え、整理する。	
第15回	まとめ	(学修内容) 自己啓発について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。	

授 業 名	ビジネス実務演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1703
英 文 名	Practical Business Affairs			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	IT化によるビジネス環境の変化とともに仕事の仕方も変化してきている。それに対応するビジネスワーカーの基礎能力を身につける。 ビジネスマナーをベースに電話・来客対応、メール・文書作成、情報分析、ビジネスワーカーとしての基礎知識などを問題と実習を通して身につけ、今後のキャリア形成に役立てる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ビジネスに必要なマナーやルールについて理解し、効率のよい仕事の進め方が実践できる。 2) コミュニケーションに関する知識を身につけ、状況に応じて適切な行動ができる。 3) 「知る」だけでなく「できる」ようになることを目標とする。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	2020年度版 要点と演習「ビジネス能力検定 3級」(実教出版)								
参 考 書	2020年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の提出物と課題には添削とコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	* 企業で働くことを希望する学生が履修し、新聞等から社会の動きに興味を持っておくこと。 * 教科書と配布プリントは常に用意すること。 * 次に学ぶ章の教科書部分を予習として読んでおく、また学んだ章の教科書演習問題残りを課題とし、復習徹底のこと。 * 恥ずかしがらず実習は積極的参加すること。 * 受講時の言動はオフィスワーカーにふさわしいように心掛けること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 接遇インストラクターとして新入社員研修等各種企業研修を担当。 その経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学短期大学部准教授 として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	科目ガイダンス 第1編キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容)本講義の目標理解。自分のキャリアについて考える  (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)シラバス内容の確認。教科書の準備 (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第2回	会社活動の基本	(学修内容)組織人としての意識を理解する  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習2の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第3回	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	(学修内容)服装と身嗜み、基本的なマナーについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習3の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第4回	指示・命令の受け方と連絡・相談	(学修内容)仕事の基本の指示と報告について  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習4の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第5回	話し方・聞き方のポイント	(学修内容)話し方の基本を身につける  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習5の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第6回	ビジネスの場にふさわしい言葉	(学修内容)尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使い分ける  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習5の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第7回	電話応対実習 - 受け方(取り次ぎ)	(学修内容)声だけのコミュニケーションの特殊性を実習を通して知る  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習6の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第8回	電話応対実習 - 受け方(不在)、かけ方	(学修内容)不在電話対応の注意点を実習を通して知る  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習6続きの問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第9回	来客応対実習と訪問の基本マナー	(学修内容)来客対応と名刺の扱いを実習を通して知る  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習7の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第10回	会食と冠婚葬祭マナー	(学修内容)慶事・弔事の留意点を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習8の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第11回	第2編仕事の取り組み、仕事の進め方	(学修内容)効率の良い仕事の進め方を身につける  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、第2編 演習1の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第12回	ビジネス文書の基本	(学修内容)ビジネス文書作成の基礎知識を身につける  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習2の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第13回	社内文書・メールの種類と作成	(学修内容)社内文書の特徴と役割を理解し作成する  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習2の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第14回	社外文書・メールの種類と作成	(学修内容)社外文書の特徴と役割を理解し作成する  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習2の問題を解く (事後)授業内容の復習と残りの演習問題実施	
第15回	統計データの作り方、会社の数字の読み方	(学修内容)表とグラフの読み方、会社のデータから企業研究をする。  (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書に目を通し、演習3・5の問題を解く (事後)残りの演習問題と企業研究の結果のレポート準備をする	



授 業 名	ビジネス実務実践演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1709
英 文 名	Business Manner Practice Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>IT革命はビジネスの進め方を根底から変えつつある。それによりオフィスでの仕事の進め方も様変わりしてきている。このようなビジネス社会で活躍するには、さまざまな実務能力や法的な知識を身につける必要がある。「ビジネス実務演習」で学んだことをベースに、まず、仕事の管理や問題解決の方法について概説し、それらに関する演習を行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会人として必要な「ビジネス」や「仕事」の基本的視点を体得することができる。  2) 組織の課題やニーズから、問題発見・問題解決に向けて論理的思考ができる。  3) 目的に応じて情報収集ができ、統計的手法により分析ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( チームワークカ	プレゼンテーション能力 ) (	課題発見・解決能力 ) (				
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。								
参 考 書	『2019年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて、評価基準の具体的な内容など解説します。								
留 意 事 項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	ビジネス実務実践演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、仕事のマネジメントとは	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容) IT時代におけるキャリアと仕事へのアプローチについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) IT関連の新聞記事を収集してみる。
第3回	会社活動の基本	(学修内容) 会社のしくみについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 企業紹介などの新聞記事を収集してみる。
第4回	話し方と聞き方について	(学修内容) 話し方と聞き方のポイントについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「話し方と聞き方のポイント」を読んでおく。
第5回	接客と営業について	(学修内容) 接客と営業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「接客と営業の進め方」を読んでおく。
第6回	統計・データの読み方、整理の仕方	(学修内容) 統計・データに関する基本的な知識を理解し、データのとらえ方を検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「データ整理法」を読んでおく。
第7回	情報収集とメディアの活用	(学修内容) 各メディアの特徴と信頼性について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活において、どこから情報を収集しているのか、整理してみる。
第8回	データ分析と将来の予測	(学修内容) グラフのデータから問題点を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グラフなどを用いている新聞記事を収集してみる。
第9回	クレーム対応について	(学修内容) 不満を信頼に変えるクレーム対応について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「不満を信頼に変えるクレーム対応」を読んでおく。
第10回	産業と経済の基礎知識 --会社の数字の読み方	(学修内容) 会社の財務指標などに出てくる数字について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「会社数字の読み方」を読んでおく。
第11回	産業と経済の基礎知識 --法律・税金	(学修内容) ビジネスにおける法律・税金について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「ビジネスと法律・税金知識」を読んでおく。
第12回	P D C Aサイクルについて	(学修内容) P D C Aサイクルのプロセスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料「P D C Aサイクルのプロセス」を理解しておく。
第13回	ビジネスの応用事例 --会社を選定する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第14回	ビジネスの応用事例 --選定した会社の内容を分析する	(学修内容) グループに別れて事例研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料収集と整理 (グループワークに向けて)
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの内容を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理してみる (整理するポイントは授業時に説明する)。

授 業 名	図書館概論 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1707
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日の課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について説明することができる。 2) 図書館の今日的課題に関して、現状と課題について自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2018年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授業名	図書館概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは	(学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念:図書館の自由など	(学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	(学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	(学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。

授 業 名	図書館制度・経営論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3779
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス		(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の制度		(学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法		(学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文をよく読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律		(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律		(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度		(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。
第7回	図書館の管理運営の外部化 PFI		(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。
第8回	図書館のサービス計画		(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	図書館のマーケティング		(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館の建築計画		(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画		(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第12回	レイアウト図をつくる 書架		(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる 閲覧席		(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画		(学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図		(学修内容)コンセプトをふまえてゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。

授 業 名	図書館情報技術論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3780
英 文 名	Theory of Library Information Technology			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	岡 紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題や、グループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (課題遂行能力)			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	改訂 図書館と情報技改訂術(樹村房)2018年 4月発刊								
参 考 書	・メディアリテラシ(上田裕子・増永良文、Computer ScienceLibrary15) 植田裕子・増永良文(サイエンス社) ・最新 情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監修:久野靖他)大串 夏身(青弓社) ・デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) 笠羽 晴夫(水曜社)								
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。								
留 意 事 項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授 業 名		図書館情報技術論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第8回	図書館の新たなITの活用 その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術等を活用したシステムについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第9回	図書館の新たなITの活用 その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスカバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要: アカウントとPWを配布	(学修内容) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認	
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第14回	レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY作成の演習(3) 継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第15回	レポートのプレゼンテーション(3) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成	



授 業 名	図書館サービス概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2715
英 文 名	Introduction to Library Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	高山正也・村上篤太郎編『改訂 図書館サービス概論』樹村房、2019年								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。								

授業名	図書館サービス概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 -	(学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 -	(学修内容) 図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3 - 5項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷	(学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスとコンプライアンス	(学修内容) 知識のデジタル化・オープンアクセス化についてを中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(学修内容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。
第8回	図書館サービスの協力と連携	(学修内容) 図書館や関係機関との協力・連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	課題解決支援サービス	(学修内容) 各種課題解決支援サービスを事例映像を観ながら確認及び解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第7章を読んでおくこと。
第10回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8・9章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスとコミュニケーション	(学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。
第12回	図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 -	(学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 -	(学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第11章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。

授 業 名	情報サービス論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2716
英 文 名	Theory of Information Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	授業にて指示する。								
参 考 書	『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	・ 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・ 本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								

授業名	情報サービス論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授 業 名	児童サービス論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2717
英 文 名	Theory of Child Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂下 直子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>公共図書館の児童サービスは、すべての子どもにとっての読書活動を、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないもの」(子どもの読書活動の推進に関する法律第2条)と位置づけて推進されている。今日、読書は広義に解釈される傾向にあり、そこに情報への公平で平等なアクセスが含まれていることも重要である。</p> <p>本授業では、まず様々な研究成果に基づいた児童サービスの理論を概説し、その理念を具体的な形にして実現するための方法をレジュメ・実物・スライドなどで例示する。また、時には実演も交えながら具体的に解説し、受講生も実技の一部を体験したあとに、再び理論を確認する。(「なぜ、それをするのか」の意識化)</p> <p>本授業は、国家資格である司書資格取得を前提としているという側面もあるため、理論と実践を意識的に結びつけることが重要となることから、講義とともに実習課題(プレゼンテーション・PBL)にも取り組み、双方を関連づけているかどうか重要となる。</p> <p>出席票と一体化したコメントシートを課し、講義の理解度を確認する。シート上の質問・提案などをもとに、次回以降に意見交換をはかり、グループワークを含めた双方向型の授業をめざす。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 公共図書館における生涯学習のはじめの一步である児童サービスの意義と目的を、歴史的変遷や研究成果に基づく理論をふまえて、理念を理解することができる。</p> <p>2. 児童サービスを担当する司書として、「子ども(乳幼児からヤングアダルト)の発達」と「児童資料」について知り、「子どもと児童資料を結ぶための技術」を実践的に習得することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	使用しない(適宜プリントを配布)。								
参 考 書	<p>堀川照代編著、『児童サービス論』, 日本図書館協会, 2014, ISBN9784820413158</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1: 運営・サービス論』, 日本図書館協会, 2011, ISBN9784820411062</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス2: 児童資料・資料組織論』, 日本図書館協会, 2011, ISBN9784820411079</p>								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。 コメントシートに記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。								
留 意 事 項	自分自身の子ども時代も含めて、「子どもの心」と「子どもの本」と「子どもの本がある図書館」について注目してください。(現代では「本」を広義にとらえ、あらゆる情報資源と解釈してください。) また、子どもに関するニュースなどにアンテナをはっておいてください。 自分が、図書館で児童サービスに携わったと想定して、すべきことを想像してみてください。逆に利用者としてサービスを受ける立場になったら、どのようなことを思うのかを考えてみてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など: 公共図書館で司書、小学校で学校司書、小中学校で教員の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説する。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 授業の概要説明 児童の発達における図書館活用の意義		(学修内容)本授業の目的やねらい、取り組み内容について理解する。  (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 公共図書館における自身のこれまでの体験を想起しておく。
第2回	児童サービスの歴史と意義		(学修内容)欧米における児童サービスの歴史及び、日本における児童サービスの始まりと展開について理解を深めることができる。  (事前事後学修課題の内容)(30分) 児童サービスの歴史について、国内外の展開を時系列で説明できるよう、まとめておく。
第3回	児童資料の種類と特色1(絵本・児童文学・ノンフィクション他)		(学修内容)児童資料について、絵本・児童文学・ノンフィクションなどの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第4回	児童資料の種類と特色2(知識の本・レファレンスブック・図書以外の資料他)		(学修内容)児童資料について、知識の本・レファレンスブックなどの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第5回	児童資料の種類と特色3(逐次刊行物・視聴覚資料・電子書籍他)		(学修内容)児童資料について、逐次刊行物・視聴覚資料・電子資料などの種類や特徴、活用場面について学び、理解を深めることができる。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 大学図書館や各自の近隣の公共図書館、書店などで、当該資料をじっくりと閲覧する。web上でもリサーチする。
第6回	児童資料の選択・収集・整理・管理方法		(学修内容)児童資料の収集方針と選定基準について学び、コレクション構築の要点と流れを理解する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 様々な児童図書館の選定基準を比較する。選書のための書評の特徴をつかみ、自身でも記述できるよう準備する。
第7回	児童サービスの企画・立案・広報・運営		(学修内容)児童サービスを推進するためのイベント企画から運営までの要点の流れを理解し、PBLとして意識する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自の近隣の公共図書館などで行われているイベントを、現地やHPからリサーチし、自身が構築する企画(PBL)のために示唆を得る。
第8回	子どもと本をつなぐ技法 カウンターワーク・フロアワーク・アウトリーチサービス		(学修内容)公共図書館内外で行われているサービスの諸相を知り、それぞれの意義について理解する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自の近隣の公共図書館などを訪問したり、HPを拝見したりして、実際のサービスがどのように展開されているのかをリサーチする。
第9回	子どもと本をつなぐ技法 読み語り・ストーリーテリング他		(学修内容)読み語りやストーリーテリングなどの技法の実演を見て、特徴を学ぶ。実技(プレゼンテーション)を行うにあたっての留意点を確認する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 留意点をふまえて実技(プレゼンテーション)の練習を行う。
第10回	子どもと本をつなぐ技法 ブックトーク・アニメーション他		(学修内容)ブックトーク・アニメーションなどの技法の実演を見て、特徴を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 留意点をふまえて実技の練習を行う。
第11回	子どもと本をつなぐ技法 学習(調べ学習・探究学習・課題解決型学習)支援		(学修内容)調べ学習・探究学習・課題解決型学習といった学校教育に関連する場面での学習支援について理解する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 国立国会図書館レファレンス協同データベースを検索し、児童に向けて公共図書館が行ったレファレンスサービスの特徴をつかむ。
第12回	乳幼児サービス		(学修内容)児童サービスにおける前期の年齢層である乳幼児とその保護者に対するサービスの特徴と留意点をグループワークで学ぶ。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 京都市図書館の平成31年版のブックリスト『本のもり』(赤ちゃん・幼児編)を拝見し、その中の本を実際に取ってみる。
第13回	ヤングアダルトサービス		(学修内容)児童サービスにおける後期の年齢層であるヤングアダルトに対するサービスの特徴と留意点をグループワークで学ぶ。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 京都市図書館の平成31年版のブックリスト『本のもり』(中学生編)を拝見し、その中の本を実際に取ってみる。
第14回	学校図書館への支援と家庭・地域・ボランティア・関係機関との連携協力		(学修内容)関連機関との連携や支援について、意義と実践を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 学校連携・家庭文庫・地域連携・ボランティア団体などの実例を、実地及びweb上でリサーチする。
第15回	児童サービスの展望と課題		(学修内容)全回のまとめを行い、これからの児童サービスの展望と課題について考える。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で取り上げてきたことを振り返り、自分なりの理想の児童図書館像と目指す図書館員像を考えておく。

授業名	情報サービス演習 u			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3781
英文名	Information Service Practice			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。  2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。  3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2016年								
参考書	今まどこ『図書館学情報学基礎資料』、樹村房、2016年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。</li> <li>講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかりと復習すること。</li> </ul>								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。</p>								

授業名	情報サービス演習 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。



授 業 名	図書館情報資源概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2718
英 文 名	Introduction to Library Information Resource			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8),学文社 2016年								
参 考 書	今まどり子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会,2012								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授業名	図書館情報資源概論 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと。
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。
第8回	コレクション形成の理論	(学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。
第9回	コレクション形成の方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと。
第14回	電子書籍、電子ジャーナル	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと。

授 業 名	情報資源組織論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2733
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などについても解説を行なう。基本的には講義形式をとるが、学内の図書館を見学しながら、授業を進める回もある。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 3) 分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	講義内で配布するプリント								
参 考 書	講義で紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物を添削し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名	情報資源組織論 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織化の意義	(学修内容) 情報資源組織の業務と意義  (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、図書館員の業務内容をリストアップしておく
第2回	目録の役割と種類	(学修内容) 目録の役割、目録の種類  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第3回	目録記入の構成	(学修内容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第4回	標目の役割	(学修内容) 標目の機能、標目の種類、典拠ファイル  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第5回	主要な書誌記述規則	(学修内容) 主要な目録規則の概要  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第6回	集中目録作業	(学修内容) 書誌データの流通、MARC  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第7回	共同目録作業	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティ  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第8回	書誌コントロールと標準化	(学修内容) 書誌コントロールの種類と歴史  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第9回	OPACの管理と運用	(学修内容) OPACの機能と管理、メタデータ、RDF  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第10回	主題の分析と検索	(学修内容) 主題分析の意義、自然語、統制語  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第11回	件名標目表とシソーラス	(学修内容) 件名標目表、シソーラス、「基本件名標目表」の構成  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第12回	図書の配架方法	(学修内容) 案内板、図書の配架方法、分類の留意点  (事前事後学修課題の内容) (20分) 各自 図書館へ行き、図書の配架方法、および図書館利用者が目的の場所へたどりつけるよう配置された案内板の記載内容を確認しておく
第13回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類法の概要、「日本十進分類法」の構成  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第14回	多様な情報資源組織の配架と分類記号の付与	(学修内容) 学内の図書館を見学し、別置資料の配架方法とその図書ラベルを確認。別置されている理由、課題について解説。  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第15回	主要な分類法	(学修内容) 主要な分類法の概要  (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする

授 業 名	情報資源組織演習 u			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4819
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	木原通夫・志保田務『分類・目録法入門（新改訂第6版）メディアの構成』第一法規 2020年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に行う課題については、その場で添削をし、解説をする。提出物に関しては添削をした後、後日返却をする。								
留 意 事 項	講義内容を復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名		情報資源組織演習 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	書誌データの作成	(学修内容) 目録法及び記述に関する総則を解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。	
第2回	各書誌的事項の記述	(学修内容) 和資料を中心に各書誌的事項の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第3回	書誌階層構造	(学修内容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第4回	継続資料の書誌データの作成	(学修内容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第5回	非図書資料の書誌データの作成	(学修内容) 地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第6回	標目の付与、『日本目録規則2018年版』	(学修内容) 標目の表記方法を解説、演習問題。今年出された『日本目録規則2018年版』の内容を解説。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第7回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(学修内容) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第8回	書誌データ管理・検索システムの構築	(学修内容) 書誌データベースの構築。メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第9回	主題分析と分類作業の実際	(学修内容) 主題分析の方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第10回	日本十進分類法の活用法	(学修内容) 日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(学修内容) 日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(学修内容) 日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、固有補助表	(学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分・文学共通区分など)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第14回	分類規程・図書記号の付与	(学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第15回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	

授 業 名	図書館基礎特論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3748
英 文 名	Special Lecture on Library			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的課題の一つである広報活動の在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。 3) 図書館サービスを紹介する映像資料を通して、プレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留 意 事 項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。	
第3回	レファレンスサービスを考える	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。	
第4回	レファレンス質問を考える	(学修内容)レファレンス質問を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。	
第5回	レファレンス回答をつくる	(学修内容)図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。	
第6回	図書館の広報活動について考える	(学修内容)図書館の広報活動の概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 広報の意義について考えておくこと。	
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(学修内容)レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レファレンス回答を完成させておくこと。	
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーを考えておくこと	
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(学修内容)仮撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。	
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仮撮影の内容を振り返る。	
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(学修内容)本撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。	
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(学修内容)撮影したビデオの編集作業を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。	
第14回	発表	(学修内容)完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ビデオを完成させておくこと。	
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。	



授業名	図書・図書館史 u			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC2719
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。  2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。  3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	<p>佃一可『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11)、樹村房、2012年</p>								
参考書	<p>随時指示する。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。</p>								
留意事項	<p>普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察してもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。</p>								
オフィスアワー	<p>毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。</p>								

授業名	図書・図書館史 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容)ガブリエル・ノーデやライブニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3753
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	竹市 仁美・富安 広幸・平 正人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>専門分野の各講義や実習で学習した内容を発展させ理解を深めるために、臨地実習を想定した課題・情報収集や分析を行い、解決策を自らで考案し課題解決に取り組む。衛生管理や栄養指導の実際を修得する。また、栄養評価や栄養管理に必要な総合的能力を養う。 臨地実習の事前事後指導を行うことで実習を効果的なものにする。管理栄養士としての実践力をつける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 管理栄養士としての基礎を修得して、実践的な力をつける。 2) 臨地実習に向けて、総合力、応用力をつける。 3) マナーや言葉遣いなど、社会人として必要なスキルが身についている。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録(後日配布)								
参 考 書	栄養士必携(2020年度) 日本人の食事摂取基準[2020年版]								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーション時のアドバイス・指導 提出物への各自コメント記入								
留 意 事 項	臨地実習における専門的知識および技術の統合を図るための事前指導を含む。 国家試験対策などの結果も参考に、総合的な学力について判断する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の最初に伝えます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院における栄養管理業務・行政保健所での栄養改善業務の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種間の連携についても伝えていく。								

授 業 名		総合演習 (管理栄養士)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	管理栄養士の役割と業務について	(学修内容) オリエンテーション 管理栄養士の役割について確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養士法など関連法規を再読しておく	
第2回	臨地実習の目的と意義	(学修内容) 臨地実習の目的と意義について詳しく学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 臨地・校外実習要録を熟読しておく	
第3回	臨地実習の心構え	(学修内容) 実習生としての心構えやマナーについて考える(ロールプレイ) 倫理要綱を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) マナーや敬語について各自復習をしておく	
第4回	臨地実習課題への取り組み方法	(学修内容) 病院・福祉施設・保健所など各施設での設定課題取り組む (事前事後学修課題の内容) (60分) 各施設に置ける関連トピックについて検索し、施設の特徴を調べておく	
第5回	情報収集	(学修内容) 課題の状況や原因などについて現状を調べる (事前事後学修課題の内容) (120分) 既存資料、各種調査結果から必要な資料の収集を行い持参する。	
第6回	課題の実践と研究	(学修内容) 課題解決策を提案しまとめる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで協力し、課題解決策案をまとめる	
第7回	実習目標の設定	(学修内容) 課題への解決策と改善への取り組みについて、各自目標を設定する (事前事後学修課題の内容) (60分) PDCAサイクルなどを復習のこと	
第8回	特定給食施設における給食運営について	(学修内容) 特定給食施設における給食業務の実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 給食経営管理論(特にHACCP)について復習しておく	
第9回	臨地実習「給食の運営」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 臨地実習での目標等を設定する (事前事後学修課題の内容) (90分) 各実習先にあった自己目標を設定できるように、施設について調べる	
第10回	臨床現場での栄養食事指導の現状	(学修内容) 栄養指導における管理栄養士の役割と使命について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養教育論を復習しておく	
第11回	「臨床栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 栄養管理計画の作成と評価、チーム医療活動の実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 臨床栄養学について復習しておく	
第12回	特定給食施設における給食マネジメントについて	(学修内容) 臨地実習先で確認・検討する点等をグループでまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の目標設定・実習計画を明確にしておく	
第13回	「給食経営管理臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	(学修内容) 臨地実習に向く際の準備や各自のテーマについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 給食の運営に関して、各自持ち寄った計画へのグループディスカッションを行う	
第14回	公衆栄養行政の現状と事業の実際	(学修内容) 栄養行政を取り巻く現状の課題と法律や施策との関係を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 公衆栄養学について復習しておく	
第15回	チーム医療・検査値の活用	(学修内容) 現場で活用するデータについて確認する (事前事後学修課題の内容) (60分) 症例について各自検討しておくこと	

授業名	食品加工学 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2735
英文名	Food Processing			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	食品の加工は、食品原材料を精製、調味、発酵などの手法を用いて、貯蔵性に優れ、より安全で、人間の嗜好に合った食品を作ることを行われる。また、この加工によって食品素材よりも商品価値を高めた食品とすることができる。講義形式の授業を通して、食品加工についての理論を学び、主要な加工食品についての製造工程とその原理及び加工食品としての特質、貯蔵法について、また、近年市場に流通している多様な食商品についての知識を深める。								
学修成果到達目標	食品素材の特性を理解できる。 食品加工の原理と方法を理解できる。 食品の保存性と規格を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	喜多野宜子、上村昭子、久木久美子共著 『食べ物と健康』 化学同人 2016年								
参考書	授業にて指示する								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして各章での理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	食品の加工技術は日々進歩しています。新聞などのニュースに注意して最新の技術について調べておく。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	食をめぐる現状と課題	(学修内容) 食品の多様化と加工食品の急増時代における課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品の種類や特性を調べておく	
第2回	食品加工の原理	(学修内容) 食品の特性を活かした加工法の原理を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 加工食品の原理や食品の特性を調べておく	
第3回	穀類の加工食品	(学修内容) 米や小麦等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.1~14を読んでおく	
第4回	いも類の加工食品	(学修内容) ジャガイモやサツマイモ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.15~20を読んでおく	
第5回	種実類と豆類の加工食品	(学修内容) 大豆やクリ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.21~34を読んでおく	
第6回	野菜類の加工食品	(学修内容) 葉菜類などの特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.35~48を読んでおく	
第7回	果実類、きのこ類、海藻類の加工食品	(学修内容) 仁果類や椎茸、緑藻類等の加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.49~65を読んでおく	
第8回	魚介類の加工食品	(学修内容) 主な魚介類の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.66~86を読んでおく	
第9回	食肉類の加工食品	(学修内容) 牛肉や豚肉、鶏肉等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.87~98を読んでおく	
第10回	卵類の加工食品	(学修内容) 鶏卵等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.99~109を読んでおく	
第11回	乳類の加工食品	(学修内容) 牛乳等の特性とその加工品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.110~122を読んでおく	
第12回	食用油脂	(学修内容) 食用植物油脂や動物油脂等の種類とその特性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.123~127を読んでおく	
第13回	調味料、香辛料、嗜好品	(学修内容) 調味料と香辛料、嗜好品の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.128~150を読んでおく	
第14回	食品の保存と規格	(学修内容) 食品の保存法や規格基準、保健機能食品、特別用途食品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.151~168を読んでおく	
第15回	現代の加工技術について	(学修内容) 加工技術の発展と問題点 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループを組んで最新の加工技術について紹介する。 発表の準備をしておく。	

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC4807
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	竹市 仁美・富安 広幸・平 正人			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	これまで学んできた専門分野の内容を横断的に理解するため、医療・行政・福祉施設などにおける食と栄養の課題を設定し、解決策を考察し課題解決に取り組むことで、管理栄養士として必要な栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 専門分野の内容を横断的に理解して、栄養評価や管理が行える力が身についている。 2) これまでの専門分野の学びと関連付けて各施設における食と栄養の課題を発見し、課題への解決策をマネジメントサイクルに沿って実施できる。 3) 応用的な現場課題に対し、自ら科学的根拠を基に改善策を提案できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士要請家庭における臨地・校外実習要録								
参 考 書	栄養士必携 (2020年度) 日本人のための食事摂取基準[2020年版]								
課題に対する フィードバック の方法	提出物について、コメントを添えて指導を行う。 プレゼンテーションについて、教員・クラスメイトからのコメントを返す。								
留 意 事 項	管理栄養士としての基礎的な視点を養った上で臨地実習に臨めるよう、健康管理を含め積極的に自らの力を発揮できるよう、総合的な復習・準備をしっかりと行うこと。 学内模試などの結果を基礎力の指標とし、評価に加味する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院勤務での栄養管理業務・政令市保健所勤務での栄養改善業務の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種連携についても伝えていく。								

授 業 名		総合演習 (管理栄養士)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 臨地実習の詳細について	(学修内容) 臨地実習についてのスケジュールと準備について知る より成果のある実習記録の取り方について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 臨地実習の意義について法的な確認しておく
第2回	特定給食施設における給食マネジメントについて のこれからの課題	(学修内容) 給食マネジメントについて、現場での取り組みの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 給食経営管理論について復習しておく
第3回	臨床現場での栄養・食事指導における課題	(学修内容) 病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ (集団指導 グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第4回	臨床現場での栄養・食事指導における課題	(学修内容) 病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ (個別指導 ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第5回	管理栄養士の役割とその重要性について確認し、 自己の実習目標を設定する	(学修内容) 管理栄養士の仕事と役割について理解し、自己の実習目標を定める (プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前もって、自ら学ぶ点について整理しておくこと
第6回	公衆衛生行政におけるこれからの課題・ 地域住民への管理栄養士の役割について	(学修内容) 保健所・保健センターにおける住民課題について学ぶ 公衆栄養活動のための、地域における役割を確認し活動方法を考える (事前事後学修課題の内容)(120分) 公衆栄養学について復習しておく
第7回	公衆栄養行政における食環境整備の課題について	(学修内容) 社会における食環境整備の課題を掘り下げ、PDCAサイクルに沿った改善 策の提案を行う(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(90分) 地域の情報を収集しておくこと(教科書のみではなく、住民の声や事業 などを検索)
第8回	チーム医療・職種間の連携について	(学修内容) 実際の現場での事例を基に、グループで意見を出し合い解決策を考える (事前事後学修課題の内容)(120分) 臨床栄養学・栄養教育論を復習 現場の課題について検索しておくこと
第9回	経腸栄養剤・薬剤について	(学修内容) 現場で活用される製剤やその使い方について確認する (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学・給食経営管理論を復習しておくこと
第10回	病院・施設での危機管理対応	(学修内容) 感染症・災害などの危機管理体制についての現状を知るとともに、グル ープでディスカッションする (事前事後学修課題の内容)(90分) 危機管理に関する情報を収集し、多くの解決策を導きだせるよう準備す ること
第11回	ケースワーク (高血圧)	(学修内容) 課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケア プランを作製する (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学を復習のこと
第12回	ケースワーク (肝臓病・クローン病)	(学修内容) 課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケア プランを作製する (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学を復習のこと
第13回	ケースワーク (フレイル・経管栄養)	(学修内容) 主に高齢者症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養 ケアプランを作製する (事前事後学修課題の内容)(60分) 臨床栄養学を復習のこと
第14回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と 相互評価	(学修内容) 取り組みを発表する(プレゼンテーション・ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自発表に対して質問をおこなう準備する
第15回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と 相互評価 まとめと総括	(学修内容) 取り組みを発表する(プレゼンテーション・ディスカッション) 自己の取り組みに対する評価を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業と臨地実習での自己の学びを総合的に評価する



授 業 名	学校栄養教育概論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4812
英 文 名	Nutrition Education at School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教諭は食育基本法に基づき、学校教育において、食育を推進していく主要な食の専門家として位置づけられている。栄養教諭としての使命、役割を把握し、子どもたちに食生活が健康な身体をつくっていく基本であることを教えていくための基礎的な知識と技能を修得する。食指導プラン、他教科との連携の在り方を討論し、学習指導案を仕上げ発表する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教諭の使命を理解し、食に関する指導を実践するための専門知識及び技能を有する。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、課題を解決する方策を考えることができる。 3) 学校給食の中で、また家庭科など他教科担任と連携して、食に関する学習指導案を作成できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	金田雅代 編著 『四訂栄養教諭論 理論と実際』 建帛社								
参 考 書	栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂 笠原賀子編著 医歯薬出版株式会社								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却する								
留 意 事 項	受講者間で課題について討論し、コミュニケーションをとって、優れた食育実践ができる力をつけてもらいたい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお知らせします								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学校栄養教育概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	栄養教諭の制度と役割	(学修内容) 食育基本法と食育推進計画、学校給食法、栄養教諭の使命と職務内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく	
第2回	学習指導要領の意義と食育のあり方	(学修内容) 学習指導要領における食育のあり方とそこで栄養教諭に求められていることについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.47-54をよく読んでおく	
第3回	食に関する指導の全体計画	(学修内容) 「全体計画」の内容と作成の手順、食育推進の評価について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.55-65をよく読んでおく	
第4回	「食に関する指導」の展開	(学修内容) 全体計画をふまえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成し、実践、評価していくのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.66-74をよく読んでおく	
第5回	特別支援学校における食の指導	(学修内容) 特別支援学校における食の指導での留意点と栄養教諭の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.74-83をよく読んでおく	
第6回	「生活科」における食に関する指導	(学修内容) 「生活科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.97-101をよく読んでおく	
第7回	「家庭科」「技術・家庭科(家庭分野)」における食に関する指導	(学修内容) 「家庭科」「技術・家庭科(家庭分野)」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.101-108をよく読んでおく	
第8回	「体育」「保健体育科」における食に関する指導	(学修内容) 「体育」「保健体育科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.108-114をよく読んでおく	
第9回	「総合的な学習の時間」における食に関する指導	(学修内容) 「総合的な学習の時間」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.114-121をよく読んでおく	
第10回	「特別活動」における食に関する指導	(学修内容) 「特別活動」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-128をよく読んでおく	
第11回	「社会科」における食に関する指導	(学修内容) 「社会科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.129-132をよく読んでおく	
第12回	「理科」における食に関する指導	(学修内容) 「理科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.132-136をよく読んでおく	
第13回	「道徳」における食に関する指導	(学修内容) 「道徳」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.136-140をよく読んでおく	
第14回	まとめ1(食に関する指導例の発表:前半)	(学修内容) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え発表する。(前半2名) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表の準備をしておくこと	
第15回	まとめ2(食に関する指導例の発表:後半)	(学修内容) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え発表する。(後半2名) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表の準備をしておくこと	

授 業 名	学校栄養教育指導論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4813
英 文 名	Nutrition education in school			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	日本の食文化や児童を取り巻く社会背景をもとに、食の専門家である栄養教諭としての使命、役割、職務内容を理解する。本講義では学校教育において、食に関する専門的な知識・技能、および教育者としての基礎的な技能を修得する。また、模擬授業などを通して実践できる力をつける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養に関わる教育を実践するための専門知識及び技能を修得できる。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、方策を考えることができる。 3) 学校給食の実際と食に関する指導について、家庭・地域との連携による食の指導について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	金田雅代編著『四訂栄養教諭論』建帛社 2019年								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして模擬授業実施後に講評を行う。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	受講者間のディスカッションに積極的に参加すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 学校給食の教育的意義と役割、学校給食の組織と 栄養教諭の位置づけ	(学修内容) 学校給食法、学校給食の組織と栄養教諭の位置づけ、学校保健委員会について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく	
第2回	学校給食の歴史と食文化の変遷	(学修内容) 学校給食の歴史、日本人の食生活と学校給食について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回目の配布プリントを復習しておくこと、授業開始時にその内容のプレゼンテーションを行う	
第3回	地場産物の活用と郷土食	(学修内容) 地場産物の活用と郷土食について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 地場産物の給食献立案を第5回の授業までに考えレポートにまとめ提出する	
第4回	子どもの発達と食生活	(学修内容) 子どもの健康、食生活、食習慣について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 3回目の配布プリントを復習しておき、授業開始時にその内容のプレゼンテーションを行う	
第5回	給食の時間における食に関する指導	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 地場産物の給食献立案のレポートをまとめて提出する	
第6回	給食の時間における食に関する指導の実際	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導案の作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導案の作成について考えをまとめておく	
第7回	給食の時間における食に関する指導の模擬授業	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導の模擬授業を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を完成させ、模擬授業の準備をしておく	
第8回	教科等における食に関する指導	(学修内容) 小・中学生の教科等授業における食育に関連する事項について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 小・中学生の各教科等と食育との関連について調べ、授業開始時に受講者でディスカッションを行う	
第9回	「特別活動」における食に関する指導	(学修内容) 「特別活動」における栄養教諭の役割について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「総合的な学習の時間」について調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第10回	個別栄養相談指導の方法	(学修内容) 個別栄養相談指導に用いるカウンセリング技法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「個別栄養相談指導」の内容について調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第11回	対象者別個別栄養相談指導	(学修内容) 食物アレルギーの児童・生徒など対象者別個別栄養相談指導について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 食物アレルギーについて調べ、授業開始時に受講者間でディスカッションを行う	
第12回	家庭・地域との連携	(学修内容) 家庭・地域との連携の方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 地場産物の給食献立案のレポートの栄養価計算をして完成させ、レポートにまとめて提出する	
第13回	学校給食だよりの作成	(学修内容) 家庭との連携のための学校給食だよりを作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 次回までに学校給食だよりを完成させる	
第14回	学校給食だよりの評価	(学修内容) 各自で作成した学校給食だよりを受講者間で評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) 学校給食だよりに関するレポートを作成する	
第15回	「学校栄養教育指導論」全体のまとめと文部科学省の 新学習指導要領の確認	(学修内容) 文部科学省の新学習指導要領を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第14回のレポート提出と学校栄養教育指導論全体の復習	

授 業 名	栄養教育実習事前・事後指導			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC4814
英 文 名	Guidance to Teaching Practicum (Nutrition Teachers)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教育実習を充実したものにすることが、より良い教員への第一歩であることを自覚し、実習に向けての心構えを身につける。これまでの教職に関する科目や食物の専門科目の学びを活かし、実習計画を立案し、対象の児童生徒に適した指導案の作成、準備を行うとともに、責任ある社会人としての態度を育成する。 実習後は、客観的に自己分析を行い、より専門職としての資質を高めるよう学びを深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養教育実習の意義と目的を理解し、必要な知識・技能・態度を習得する。</li> <li>2) 子ども理解、学校組織の理解ができ、栄養教諭の責任と役割が理解できる。</li> <li>3) 積極的な態度で臨み、児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導ができる。</li> <li>4) 実習後は実習を振り返り、評価を行い、自己の課題を整理、明らかにし、改善することができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキスト(「栄養教諭論」金田雅代 建帛社)を使います。								
参 考 書	「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版								
課題に対する フィードバック の方法	実習前はレポート、指導案を点検、添削し、個々の学生に適したアドバイスをを行い、返却する。 実習後は報告会で個々にアドバイスをを行うとともに、学びの成果の共有化をはかる。								
留 意 事 項	実習に必要な伝達事項がある場合や、教育実習の時期に合わせて開講時期、時間が変則的になる可能性があります。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務								

授 業 名		栄養教育実習事前・事後指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	栄養教育実習の法的根拠 学校経営、校務分掌など	(学修内容) 栄養教育実習実施の法的根拠、受け入れの根拠等、 校内の組織、教育計画などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、テキストを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第2回	栄養教育実習の意義と目指す教師像	(学修内容) 栄養教育実習の意義、教師に求められる資質や職務内容等について理解 する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第3回	教育実習の準備と心構え	(学修内容) 事前準備、一般的な注意事項を理解する。 実習ノートの作成、実習校への挨拶等、留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読む。実習校の状況を調べておく。 打合せ等実習準備を進める。	
第4回	児童心理の理解と指導	(学修内容) 児童理解と対象者に応じた指導法についての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第5回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第6回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第7回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第8回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第9回	研究授業の指導案・教材を作成、完成	(学修内容) 評価を受けた研究授業の指導案・教材を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指導案・教材を作成する。	
第10回	教育実習の準備(最終確認)	(学修内容) 実習準備を済ませる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習準備を完了する。	
第11回	教育実習のまとめ	(学修内容) 実習ノートのまとめ、課題のまとめをする。 お礼状の作成と発送を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習ノートをまとめる	
第12回	教育実習のまとめ	(学修内容) 報告会の資料作り (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第13回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第14回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第15回	振り返り・まとめ	(学修内容) 栄養教育実習を総括する。 教育実習ノート、履修カルテを完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。 実習ノート、履修カルテを提出する。	

実 習 名	栄養教育実習	対 象 学 生	食物栄養4回生
担 当 者	坂本 裕子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          実際の教育実践にふれながら、児童生徒や教職そのものについての理解を深める。教師としての基盤を確立するために、教育現場における教員の役割・責務等を理解し、教員としての基本的態度を身に付け、教職への使命感を育てる。児童生徒の置かれている食や生活状況の現状を把握し、食に関する指導にあたるための専門的、実践的指導力を身に付ける。また、教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>2. 内容          教員として必要な使命感や責任感、教育的配慮、児童生徒理解について学ぶ。          栄養教諭の役割と責任について学ぶ。          児童生徒の発達段階に応じた指導法を考え、実践することができる。          学校と家庭、地域との連携について理解する。</p> <p>3. 実習生に対する指導法          実習担当、ゼミ担当教員が実習先を訪問し、実習校の担当教員との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          4回生の春学期～秋学期に、主に栄養教諭が配置されている小学校（中学校）で、1週間（30～40時間）の実習を行なう。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について          栄養教育実習事前指導を受けた者が、実習を行うことができるが、履修状況が悪い場合は実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理も求められる実習であり、事前指導への積極的な参加が求められる。また、実習後は実習報告会を行い、実習の学びを振り返り評価するとともに、実習中の課題を明確にし、課題の解決に向かう。実習ノート、出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など          ・総合基礎演習、総合基礎演習、現代家政学演習、現代家政学演習、人権と社会、教育原理、発達心理学が履修済みであること。          ・教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育の方法と技術、生徒指導論、教職論、特別活動（道徳を含む）、学校栄養教育概論、学校栄養教育指導論、栄養教諭実習事前・事後指導、教育課程総論が履修済みまたは履修中であること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・実習先の好意により「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨む。体調管理をしっかり行い安全に実習を行う。</p>		

授業名	教職実践演習（栄養教諭）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4821
英文名	Educational practice seminar			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>大学での授業や栄養教育実習、地域活動やボランティア等を通して修得してきた知識や技能、履修カルテを用いた自己の振り返りを基に、栄養教諭として課題となった事柄や、今後、さらに必要とされる内容を明確にし、講義や演習、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業、発表等、実際の教育現場を想定した学習活動等を通し、指導力のある栄養教諭として必要な資質や技能、実践力を習得していく。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 栄養教諭としての自己の課題を明確にし、課題を解決する力を身につける。  2) 教諭としての使命感、責任感を身につけ、学校での栄養教諭の役割を理解することができる。  3) 児童、生徒理解を深め、対象者に適した食に関する指導を行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストを使います。								
参考書	「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版								
課題に対するフィードバックの方法	発表については授業の中で評価、解説し、提出物についてはチェックを行い返却し、説明を行う。								
留意事項	栄養教諭担当教員や外部講師（栄養教諭、栄養教諭経験者）が一部参加協力し授業を進める。 履修カルテ、実習ノートを持参すること。								
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務								



授業名	教職実践演習（栄養教諭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 自己の研修課題	（学修内容）履修カルテ、実習ノートからの振り返り  （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテや実習ノートなどを振り返り、自己の課題を確認しまとめる。 教職の意義、学校現場についても振り返る。
第2回	教職の意義、学校現場の理解	（学修内容）教員の仕事、学校の役割、責任について講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 教職の意義についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第3回	学校での連携、学校と家庭、地域との連携	（学修内容）教職員とに協同、家庭・地域との連携のためのコーディネートについて 講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第4回	栄養教諭の役割と責任について	（学修内容）栄養教諭の役割と責任について講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第5回	社会性やコミュニケーション能力について	（学修内容）社会性やコミュニケーション能力の育成に講義、グループ学習  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第6回	児童・生徒理解、発達段階と指導法	（学修内容）児童・生徒理解、発達段階と指導法について講義、グループ討議による 事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第7回	食の指導力に関する実践研究 1	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 1  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。
第8回	食の指導力に関する実践研究 2	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 1  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第9回	食の指導力に関する実践研究 3	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 2  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第10回	食の指導力に関する実践研究 4	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 3  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第11回	食の指導力に関する実践研究 4	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 4  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第12回	食の指導の事後反省と教材研究	（学修内容）食の指導の事後反省と改善 教材研究のグループワーク  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第13回	食育指導の模擬授業の構築 1	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 1  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第14回	食育指導の模擬授業の構築 2	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 2  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第15回	栄養教諭の役割 全体のまとめ	（学修内容）栄養教諭としての課題解決についてまとめる  （事前事後学修課題の内容）（60分） 今日の授業についてまとめる。

授 業 名	中等教科教育法 (家庭) a			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3772
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2) 視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3) 生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	中等教科教育法 ・ ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。制作物等は採点し講義時に返却する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する								
実践的教育									

授業名	中等教科教育法（家庭）a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育実習の準備	(学修内容)教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(10分) 自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備 指導計画の立案	(学修内容)自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備 指導詳案の作成	(学修内容)視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する (事前事後学修課題の内容)(15分) 指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備 指導詳案の発表と修正	(学修内容)指導詳案を発表し他者の意見を参考に修正する (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントの作成 視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目 2名	(学修内容)模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第6回	模擬授業2回目 2名	(学修内容)模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目 2名	(学修内容)模擬授業をし、反省点に基づき、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	(学修内容)実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする (事前事後学修課題の内容)(20分) 実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究 環境・消費	(学修内容)環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究 経済・生活設計	(学修内容)経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究 家族・保育	(学修内容)家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの生活環境について復習しておく
第12回	教育実習報告会 現場で気づいたこと	(学修内容)教育実習を終えてと題し、現場で気づいたことの報告と意見交換をし、今後の自身の課題を明確にする (事前事後学修課題の内容)(20分) 報告の準備をしてくる
第13回	教育実習報告会 研究授業報告	(学修内容)研究授業の報告と意見交換をし、生徒が学ぶ楽しさと充実感や達成感を得られる授業のあり方を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 自身の教育実習を振り返り、報告の準備をしてくる
第14回	家庭生活の抱える問題	(学修内容)現代の家庭生活の抱える問題について復習する 伝統と伝承について考える (事前事後学修課題の内容)(20分) これまでのふりかえりと、生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく
第15回	まとめ これからの家庭科の使命	(学修内容)これまでのまとめと、これからの家庭科の果たす使命について討議する (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでのふりかえりと、家庭科の使命について考えておく

授業名	音楽 u a ~ u c			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Music			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山中 信子・水谷 佳代子・明山 婦美			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	音楽 に引き続きピアノによる初見および弾き歌いを通して、保育・教育現場でのより高い音楽的実践力を身に付ける。また、リズム表現等に必要となる即興の変奏も音楽理論の理解を深めつつ学ぶ。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認の確認および指導を行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 初見での弾き歌いに慣れる。 2) 既存の子どもの歌の弾き歌いを応用した即興の変奏を習得することができる。 3) 子どもの音楽活動に必要な音楽の諸理論を理解し、それらを実践に生かすことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実技能力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	実技および実技を支える楽典等は定期的に小試験を課し、課題の達成度を確認する。								
留意事項	レベルに合わせたクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		音楽 u a ~ u c	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	初見（応用編：調）および初見視唱（基礎）・弾き歌い	（学修内容）基本的な調性による初見復習および平易な8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 音楽 で習得した基本的な初見の手順を復習しておくこと	
第2回	初見（応用編：2拍子）および初見視唱（八長調）・弾き歌い	（学修内容）2拍子の子どもの歌の初見練習および平易な八長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第3回	初見（応用編：3拍子）および初見視唱（へ長調）・弾き歌い	（学修内容）3拍子の子どもの歌の初見練習および平易なへ長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 2回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第4回	初見（応用編：4拍子）および弾き歌い小試験	（学修内容）4拍子の子どもの歌の初見練習および弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 3回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第5回	初見（応用編：符点）および初見視唱（ト長調）・弾き歌い	（学修内容）符点のリズムを用いた初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 4回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌い（小試験）の復習をしておくこと	
第6回	初見（応用編：タイ）および弾き歌い	（学修内容）タイを用いた子どもの歌の初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 5回目に説明した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。	
第7回	初見（応用編：総合演習）および弾き歌い	（学修内容）1回目から6回目までに学習した初見の総合実践演習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から6回目までに学習した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。	
第8回	初見小テストおよび弾き歌い小試験	（学修内容）初見および弾き歌いの個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から7回目までに学習した初見・弾き歌いの総復習をしておくこと	
第9回	即興的なリズム変奏（マーチ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（マーチ）の実践演習および弾き歌いとその移調の際の理論について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（マーチ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第10回	即興的なリズム変奏（ワルツ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（ワルツ）の実践演習および弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（ワルツ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第11回	即興的なリズム変奏（スキップ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（スキップ）の実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（スキップ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第12回	即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）および弾き歌い小試験	（学修内容）即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）の実践演習と弾き歌い（移調含む）の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（様々なステップパターン）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第13回	即興的なリズム変奏（総合演習）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の総合実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） 9回目から12回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと	
第14回	即興的なリズム変奏（小試験）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の小試験と弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 9回目から13回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと	
第15回	初見・弾き歌い・移調奏総合実践演習	（学修内容）子どもの歌を用いた初見・弾き歌い・移調奏の総合実践について （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から14回目までに学習した内容の総復習をしておくこと	

授 業 名	小学社会・指導法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2725
英 文 名	Teaching Method of Social Studies in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	木全 清博			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>1) 小学校社会科の本質・目標等について論述するとともに、歴史的な変遷を踏まえて、今日的な社会科の諸課題について考察する。</p> <p>2) 学習指導案の作成や模擬授業等の作業を組み込みながら、授業づくりの方法を体験的に学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会科の成立の歴史を理解して、学習指導要領の内容や民間社会科を説明できる。</p> <p>2) 目標と内容構成と授業展開を工夫した学習指導案が書けるようになる。</p> <p>3) 社会科の授業設計について模擬授業を行うなかで、自分なりの見通しが持てるようになる。 他の人の行う模擬授業を受けて、自分なりに従業批評ができるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社 2018年 適宜配布するプリント資料をつつて講義を行う								
参 考 書	前田賢次他編『学力と教育課程の創造—社会認識を育てる教育実践とその歩み—』同時代社 2013年								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートはコメントして返却する								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪教育大学教育学部附属平野中学校教諭、大阪市教区研究所所員、滋賀大学教育学部附属小学校 長								

授 業 名		小学社会・指導法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	社会科とは何か、社会科と子どもの社会認識の発達について	(学修内容) 小学校社会科の目標と公民的資質、社会科と社会諸科学、子どもの社会認識と時間・空間認識(歴史・地理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の小中高の社会科体験を書いて発表する	
第2回	社会科の歩みと論争(1)1947年版・51年版の問題解決学習と55年以後の系統学習の社会科	(学修内容) 戦後の社会科論争の問題解決学習社会科と系統的知識学習の社会科の論争経過、「西陣織」の授業記録を読む (事前事後学修課題の内容)(30分) プリント資料の学習指導要領の変遷を読んでくる	
第3回	社会科の歩みと論争(2)1989年版、98年版、2008年版の社会科	(学修内容) 社会科と生活科・総合的学習、課題探究学習の社会科論、環境学習・平和学習・地域学習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前時の復習をする	
第4回	社会科の実践記録を読む(1)3・4年の地域学習の実践	(学修内容) 民間社会科の代表的実践の鈴木生気実践の記録を読む一教材づくりの方法と授業、記録を読み小レポートを書く (事前事後学修課題の内容)(30分) 前時の復習をする	
第5回	社会科の実践記録を読む(2)5年の地理学習の実践	(学修内容) 民間社会科の代表的実践の記録を読む一教材づくりの方法と授業、記録を読み小レポートを書く (事前事後学修課題の内容)(30分) 前時の復習をする	
第6回	社会科の実践記録を読む(3)6年の歴史学習の実践	(学修内容) 民間社会科の代表的実践の平野昇実践を読む一教材づくりの方法と授業、記録を読み小レポートを書く (事前事後学修課題の内容)(30分) 前時の復習をする	
第7回	学習指導案の作成の準備(1)教科書研究の事例研究、単元構成、安井俊夫の教材づくりを学ぶ	(学修内容) 学習指導案の作成のための事例を研究する一安井俊夫の教材研究法を知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 作成したい授業単元のテーマを考えてきて発表する、作成したいテーマの教科書記述を複写して来る	
第8回	学習指導案の作成の準備(2)グループで作成したい単元構成、授業テーマを話し合う	(学修内容) 配布する学習指導の2・3の作成事例を読み、イメージを作る。各自のテーマを発表し合って、模擬授業担当者を決める (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で作成する学習指導案の意見交換をする、次回に備えて検討を深める	
第9回	模擬授業を行う(1)3年の社会科、社会認識の形成を目指す授業	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第10回	模擬授業を行う(2)3年の社会科、作業や体験を中心とした授業づくり	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第11回	模擬授業を行う(3)中学年の社会科授業、地域学習	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第12回	模擬授業を行う(4)5年の社会科授業、空間認識の形成をめざす地域学習	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第13回	模擬授業を行う(5)6年の社会科授業、時間認識の形成をめざす歴史学習	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第14回	模擬授業を行う(6)高学年の社会科授業、平和学習・環境学習など	(学修内容) 各自で作成の指導案に基づく模擬授業の発表、授業後の模擬授業についての討論。コメントカードを書き授業者に渡す。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 的確に授業コメントが出来る準備をする	
第15回	社会科と評価論、総合的学習と社会科授業の関係	(学修内容) 社会科授業の評価論の変遷を資料から学ぶ、PISA型学力の評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価の考えを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業の復習をする	

授 業 名	ソーシャルワーク論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1701
英 文 名	Theory of Social Work			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、地域を基盤としたソーシャルワークの理論、ソーシャルワークのプロセス、ソーシャルワークの様々な実践モデルについて理解することを目的とする。社会福祉の枠組みにおけるソーシャルワーク（相談援助）とは何か、人と環境の交互作用としてのシステム理論および地域を基盤としたソーシャルワークの理論をまず押さえる。そして、実践モデルとして、治療モデル、生活モデル等の枠組みを理解しながら実践モデルの実際を理解していく。実践アプローチとして、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、危機介入アプローチ等の方法を併せて理解する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 地域を基盤としたソーシャルワークとは何かについて理解できる。 2) ソーシャルワークの基礎的な理論やそれぞれのモデル等について理解ができる。 3) ソーシャルワークのプロセスについて理解し説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	学習の進捗具合によって授業中に相談して決定する。								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	事前学習の実施状況、内容について確認しながら授業を進める。								
留 意 事 項	自分で考える姿勢を大切にしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									



授 業 名	ソーシャルワーク論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス（学習状況の確認を含む）	（学修内容）授業ガイダンスの中でソーシャルワークに関する基礎力を確認する。社会福祉士養成におけるソーシャルワーク論の位置づけを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスに目を通し、学習内容を確認しておく。
第2回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(1)	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と基本的視座について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配布した資料の当該部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習してくる。
第3回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(2)	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、ジェネラリストソーシャルワークの理論について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配布した資料の当該部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習してくる。
第4回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク	（学修内容）インテークの意義と定義、留意点、ラポールの形成について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第5回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク	（学修内容）インテークの展開とアウトリーチについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第6回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント	（学修内容）アセスメントの定義と原則、ツールについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第7回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント	（学修内容）ニーズの把握とニーズアセスメントについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第8回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニングの位置づけと展開過程について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第9回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニングのツールについて、各項の意味と関連について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第10回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニング（計画）の作成方法について個別支援計画の様式を活用して実践理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に配布した記入の手引きに目を通してくる。
第11回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション	（学修内容）モニタリングの定義と留意点、方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第12回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション	（学修内容）エバリュエーションの定義と留意点、方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第13回	ソーシャルワークの実践モデル(1)～システム理論と医学モデル	（学修内容）システム理論について基本を押さえた上で、伝統的な医学モデルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第14回	ソーシャルワークの実践モデル(2)～生活モデルと社会モデル、ストレングスモデル	（学修内容）1980年より展開した現代のソーシャルワークのモデル、生活モデルと社会モデル、ストレングスモデルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら疑問点を解消する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今までやったところを振り返り、不明な点や質問事項をノートにまとめておく。

授 業 名	ソーシャルワーク論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2731
英 文 名	Theory of Social Work			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、歴史的な展開も含め、ソーシャルワークの各種アプローチについて、その特徴や定義、展開過程を学ぶ。その上で、ソーシャルワークの方法としてケースワーク（ケアマネジメント）、グループワーク、コミュニティーワーク、ソーシャルアクション、ネットワーキング等について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ソーシャルワークの様々なアプローチについて、定義や展開過程を理解できる。 2) ケースワーク（ケアマネジメント）の定義は展開過程を理解できる。 3) ソーシャルワークの専門性、特徴、独自性について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	学生と相談して決定する。								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	事前学習の状況を確認しながら授業を進める。課題については添削・評価して返却する。								
留 意 事 項	授業で全てを教えることはできないので、自分で学習すること、考えることを大切にする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業中に伝達する。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ソーシャルワーク論 の内容を踏まえ、科目ガイダンス	(学修内容) ソーシャルワークの特徴、専門性等について振り返り、授業の内容を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。春学期の内容を復習して疑問点をまとめておく。	
第2回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ (1)	(学修内容) 診断主義的アプローチと機能主義的アプローチ、課題解決アプローチについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第3回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ (2)	(学修内容) エコロジカルアプローチとエンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第4回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (1)	(学修内容) 児童の事例を活用し、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第5回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (2)	(学修内容) 高齢者の事例を活用し、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第6回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (3)	(学修内容) 障害者の事例を活用し、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第7回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (4)	(学修内容) 多問題家庭の事例を活用し、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第8回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク	(学修内容) ソーシャルケースワークの定義と歴史的展開を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第9回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク	(学修内容) ケアマネジメントの定義と登場の背景、構成要素、展開過程、留意点について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第10回	ソーシャルワークの方法(2)～グループワーク	(学修内容) グループワークの成立経緯を確認しつつ、定義及び構造、実践原則について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第11回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク	(学修内容) コミュニティワークの概念と定義、展開方法、社会資源の開発について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第12回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク	(学修内容) ソーシャルアクションやアウトリーチを含む地域を基盤としたソーシャルワークについて復習を含め再度学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第13回	これからのソーシャルワーク	(学修内容) スーパービジョンやコンサルテーションなどソーシャルワーク実践の質を高める手法、仕組みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第14回	これからのソーシャルワーク	(学修内容) 災害ソーシャルワークの事例を題材に、医療・保険との連携を含め今後のソーシャルワークの在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布する資料に目を通し、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第15回	授業の総括と疑問点の解消	(学修内容) 教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら疑問点を解消する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書と資料、ノートに目を通し、疑問点を整理して質問できるようにしておく。	

授 業 名	<b>高齢者福祉論</b>			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Welfare for Elderly People			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	<b>藤井 伸生</b>			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	高齢者問題対策について教授する。とくに介護保険制度の設立背景及び制度の特徴点について考える。また、海外の高齢者福祉対策と比較しながら日本の課題を考える。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1)介護保険制度の理解をすることができる。 2)介護保険制度の課題を考えることができる。 3)海外の高齢者福祉を通して日本の課題を考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	『国民の福祉と介護の動向2019/2020』厚生労働統計協会								
参 考 書	適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	試験実施の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	居住地の介護保険制度の情報を得ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授 業 名	高 齢 者 福 祉 論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	介護保険制度の創設	(学修内容) 介護保険制度創設の背景を知る。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢化社会と介護保険の関係性を考える。
第2回	介護保険制度の概要 - 保険者・被保険者 -	(学修内容) 介護保険の保険者・被保険者について実情を知る。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の介護保険事情に関心を向ける。
第3回	介護保険制度の概要 - 給付の手続きと内容 -	(学修内容) 介護保険制度の給付の手続きと内容について実情を知る。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の介護保険の窓口を知る。
第4回	介護保険制度の概要 - 介護サービス計画 -	(学修内容) 介護サービス計画の内容を把握する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の介護サービスの実情に関心を向ける。
第5回	介護保険制度の概要 - 介護給付 -	(学修内容) 介護給付の内容を知り、課題を考える。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 介護給付について家族等から話を聞く。
第6回	介護保険制度の概要 - 地域支援事業 -	(学修内容) 地域支援事業の実態と課題を考える。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の地域支援事業を知る。
第7回	介護保険制度の概要 - 地域包括支援センター -	(学修内容) 地域包括支援センターの現状と課題を認識する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の地域包括支援センターを知る。
第8回	介護保険制度の推移 - 対象者・受給者 -	(学修内容) 介護保険制度の受給者の推移を把握する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の介護保険受給者について知る。
第9回	介護保険制度の推移 - 施設・事業所 -	(学修内容) 介護保険施設・事業所の推移を把握する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 居住地の介護保険施設・事業所を知る。
第10回	介護保険制度の改正をめぐって	(学修内容) 昨今の介護保険制度の改正について現状と課題を把握する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 介護保険制度の変化を知る。
第11回	介護保険施設現場の実態と課題	(学修内容) 介護保険施設現場の実情を把握し、課題を考える。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 介護現場で働く人たちの話を聞く。
第12回	海外の高齢者について - 暮らしぶり -	(学修内容) 海外の特徴についてスウェーデンの状況を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 国際的な視点をもって高齢者のくらしを考える。
第13回	海外の高齢者対策について - 制度 -	(学修内容) スウェーデンの高齢者対策の現状を把握する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 海外情報に目を向ける。
第14回	日本の高齢者福祉の課題について考える	(学修内容) 日本の高齢者福祉が抱える課題について検討する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者の悩み・要望に目を向ける。
第15回	よりよい高齢者福祉を実現するために	(学修内容) 高齢者福祉実現の方向性について検討する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者福祉の充実に向けて、若者がどのようなことができるか考える。

授業名	フードスペシャリスト論u			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3791
英文名	Theory of Food Coordination			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	流通・販売分野においてフードスペシャリストが担っている専門的役割を明確にしていく。また、フードスペシャリストとして食品の品質評価判定や情報の提供など専門的な仕事に取り組むために必要な知識・技術について学んでいく。								
学修成果到達目標	1) フードスペシャリストの職責について理解できる 2) 食の専門家として必要な知識と技術について理解できる 3) 食の情報を正しく取捨選択することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( )		
テキスト	日本フードスペシャリスト協会 著・編 『四訂フードスペシャリスト論第6版』(建帛社) 日本フードスペシャリスト協会 著・編 『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集2020年版』(建帛社)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	予習で解いてきた過去問について時間内で解答・解説を行い、理解度を確認する								
留意事項	資格認定試験過去問題を解き、これまでに学習したフードスペシャリスト必修科目の復習も同時におこなう。各教科のテキストの用意をしておくこと。								
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授 業 名	フーズスペシャリスト論u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フーズスペシャリストとは	(学修内容) フーズスペシャリストの概念について (事前事後学修課題の内容) (30分) フーズスペシャリストの資格科目の教科書・ノートを見直しておく
第2回	フーズスペシャリストの社会における責務	(学修内容) フーズスペシャリストの業務内容、活躍分野と社会においてフーズスペシャリストが果たすべき責務について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p1-28を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第3回	人類のあゆみと食物	(学修内容) 人類の食物調達の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p28-43を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第4回	世界の食 食作法、タブーについて	(学修内容) 世界の食 食作法、タブーについて (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p46-52を読んでおく「フードコーディネート論」の復習をして過去問を解いておく
第5回	世界の食 ヨーロッパ・アジアの食事情	(学修内容) ユーラシア大陸各国の食の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 世界の食糧事情について調べておく、「フードコーディネート論」の過去問を解いておく
第6回	世界の食 アメリカ大陸・アフリカの食事情	(学修内容) 南北アメリカとアフリカ大陸各国の食の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p55-62を読んでおく、「栄養と健康」の復習をして過去問を解いておく
第7回	日本の食の変化 縄文時代から鎌倉時代の食	(学修内容) 日本の古代から中世の食を概説し、食の伝統について考えていく (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p63-69を読んでおく、「栄養と健康」の過去問を解いておく
第8回	日本の食の変化 江戸、明治・大正の食	(学修内容) 日本の近世から近代の食を概説し、食の伝統について考えていく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書69-73を読んでおく、「食物学」の過去問を解いておく
第9回	日本の食の変化 戦後から現代の食	(学修内容) 日本の戦後から現代までの食の変化について概説し伝統食について考えていく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p80-89を読んでおく、「食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第10回	現代の食の問題点について	(学修内容) 現代社会が抱える食の問題について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p90-103を読んでおく、食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第11回	食品産業の変遷と役割	(学修内容) 我々の食生活を支えている食品産業について体系的に理解できるように概説する (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p104-123を読んでおく、「食品流通・消費」の復習をして過去問を解いておく
第12回	食品の品質規格と表示 JAS法、食品表示法	(学修内容) 食品表示の重要性と法制度について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p124-155を読んでおく、「食品流通・消費」の過去問を解いておく
第13回	食品の品質規格と表示 保健機能食品、表示に関する法律	(学修内容) 特別用途食品と保健機能食品の分類、そのほかの法律による表示について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p156-172を読んでおく、「食品の安全性」の教科書を読みなおして過去問を解いておく
第14回	食情報の信頼性	(学修内容) 食情報の取捨選択について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p174-189を読んでおく、「食品の安全性」の過去問を解いておく
第15回	フーズスペシャリストとして取り組むこと	(学修内容) これまでの学びからフーズスペシャリストとしてどのような姿勢で食生活に取り組むかについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの復習を行うとともにこれからのあるべき食生活について考えておく

授 業 名	食品鑑別論 <sup>u</sup>			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3760
英 文 名	Theory of Food Discrimination			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	猿渡 綾子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>フードスペシャリストは食品の特性についての深い知識を持つとともに品質を見抜く力が必要である。食品の品質を判定するためには対象である食品の化学的および物理的性質だけでなくその評価法についても理解しておかなければならない。本講義では、これら個々の食品の品質に関する基礎知識について学んでいく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品鑑別の意義や目的について理解することができる  2) 食品の成分と品質の関わりについて理解することができる  3) 食品の鑑別を正しく行うことができる</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編(建帛社)								
参 考 書	食品学-栄養機能から加工まで-第3版								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題、小テストについてはコメントをつけて返却する								
留 意 事 項	テキストは食品の官能評価演習にも使用する								
オ フ ィ ス ア ウ ー	初回授業時にアナウンスします。 また、研究室前にも掲示します。								
実 践 的 教 育									



授業名	食品鑑別論Ⅱ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の品質について	(学修内容) 食品に求められる特性と品質について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P1-2を読んでおく
第2回	穀類の鑑別 米	(学修内容) 米の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P87-94を読んでおくこと
第3回	穀類の鑑別 小麦	(学修内容) 小麦およびその他の穀類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P94-106を読んでおくこと
第4回	イモ類、豆類の鑑別	(学修内容) イモ類、豆類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P107-115を読んでおくこと
第5回	野菜類の鑑別	(学修内容) 緑黄色野菜と淡色野菜の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P116-124を読んでおく, 自宅の野菜の保存方法について調べておく
第6回	果物類、海藻類、キノコ類の鑑別	(学修内容) 果物類、海藻類、キノコ類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P126-138を読んでおくこと
第7回	植物性食品の品質変化	(学修内容) 保存に伴う萎凋、加工に伴う色素変化、乾燥、追熟などによる品質の変化などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p122-124を読んでおくこと 植物性食品の鑑別についてまとめておく
第8回	魚介類の鑑別	(学修内容) 魚介類の種類と成分の季節変動および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p139-150を読んでおくこと
第9回	肉類の鑑別	(学修内容) 肉類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p151-161を読んでおくこと
第10回	卵とその加工品の鑑別	(学修内容) 卵とその加工品の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p162-168を読んでおくこと
第11回	乳・乳製品の鑑別	(学修内容) 乳・乳製品の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p168-177を読んでおくこと
第12回	油脂の鑑別	(学修内容) 油脂の種類および分類方法および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p177-183を読んでおくこと
第13回	酒類の鑑別	(学修内容) 酒の種類と主な生産地および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書187-198を読んでおくこと
第14回	茶類、各種飲料の鑑別	(学修内容) 茶類およびコーヒー、ココア、清涼飲料水の種類と主な産地および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p198-209を読んでおくこと、ミネラルウォーター類の表示を見ておくこと
第15回	醸造食品・調味料の鑑別	(学修内容) 醸造食品、調味料、香辛料、加工食品、機能性食品などの種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p209-243を読んでおくこと

授業名	食品の官能評価演習u			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3761
英文名	Sensory Food Evaluation Practice			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	猿渡 綾子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>農薬や食品添加物、表示の偽装、遺伝子組み換えなど食についての不安が広がる昨今、我々は食品の品質について正しく判断する必要がある。そのためのひとつの方法が人間の五感を用いて行う官能評価であるが、それも正しい方法で行われなければ無意味なものになってしまう。本授業では、官能評価の基本と実施方法、そして得られたデータの統計的解析の手法を学ぶとともに、品質評価に必要な化学的評価法、物理的評価法についても学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 官能評価を正しく行うことができる。  2) 官能評価の結果を正しく検定することができる。  3) 正確に食品の品質を判断できる力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』日本フードスペシャリスト協会 編、建帛社								
参考書	資料を配布する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題等についてはコメントをつけて返却する								
留意事項	官能評価はフードスペシャリストにとって大変重要な技術のひとつである。資格取得を目指し、授業に真剣に取り組んでもらいたい。								
オフィスアワー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	食品の官能評価演習Ⅱ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	官能評価とは	(学修内容) 官能評価がどのようなものを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認する
第2回	官能評価の管理	(学修内容) 官能評価の管理 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.5-12を読んでおく
第3回	官能評価の手法の選択	(学修内容) 官能評価にどのような方法があるかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.12-30を読んでおく
第4回	官能評価の実施 1 (個室法)	(学修内容) 個室法を用いて、実際に官能評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価の手法 (個室法) について復習しておく
第5回	官能評価の実施 2 (円卓法)	(学修内容) 円卓法を用いて、実際に官能評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価の手法 (円卓法) について復習しておく
第6回	統計の基本	(学修内容) 検定に必要な統計の基本知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価で得られたデータを整理しておく
第7回	官能評価のデータ処理	(学修内容) 官能評価で得られたデータを用いて検定を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価で得られたデータを整理しておく
第8回	これまでの復習	(学修内容) 資格認定試験の過去問を使って復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.3-30を読み復習しておく
第9回	化学的評価法 1 (食品成分と品質)	(学修内容) 食品成分と品質の関わりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.31-50を読んでおく
第10回	化学的評価法 2 (化学的品質評価法)	(学修内容) 化学的品質評価法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.50-58を読んでおく
第11回	物理的評価法 1 (分散系の分類)	(学修内容) 分散系の分類について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.60-63を読んでおく
第12回	物理的評価法 2 (レオロジーとテクスチャー)	(学修内容) 食品の物理的性質について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.64-68を読んでおく
第13回	物理的性質の評価方法	(学修内容) 物理的性質の評価方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.69-85を読んでおく
第14回	これまでの復習	(学修内容) 資格認定試験の過去問を使って復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.31-85を読み復習しておく
第15回	まとめ	(学修内容) 問題を解きながらこれまでのまとめをおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) 資格認定試験の過去問について復習しておく

授 業 名	<b>地域福祉論</b>			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Community Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	<b>藤井 伸生</b>			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際とその推進方法について理解することを目的とする。地域における生活問題についての認識方法としての調査の方法、地域懇談会の手法、関係機関の連携の方法等、地域福祉として関係者が協力して取り組むべき課題を明らかにし、それぞれの機関・団体が果たしていくべき役割と課題について考えていくことになる。その際、地域福祉（活動）計画の実際を通して理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域福祉の課題をいかに把握するか、地域福祉調査の実際を知ることができるようになる。 2) 地域福祉活動計画の実際を通して地域福祉推進の方向性を理解できるようになる。 3) 地域福祉計画の実際を通して行政の果たすべき役割を理解できるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	授業時に紹介								
課題に対する フィードバック の方法	試験結果の返却時に、模範解答を解説する。								
留 意 事 項	我がまちの地域福祉（活動）の実際及び計画を知ろう								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	地域福祉論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	地域福祉をいかに推進するか	(学修内容) 地域福祉の推進方策 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉の推進方策について考える
第2回	地域福祉の推進と社会福祉協議会	(学修内容) 地域福祉の推進における社会福祉協議会の役割について解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) わがまちの社会福祉協議会を知る
第3回	地域福祉の推進と民生・児童委員	(学修内容) 地域福祉の推進における民生・児童委員の役割について解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) わがまちの民生・児童委員を知る
第4回	地域福祉の推進とボランティア	(学修内容) 地域福祉の推進におけるボランティアの役割について解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) わがまちのボランティアについて知る
第5回	地域福祉調査の方法・枠組み	(学修内容) 地域福祉調査の方法・枠組み (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉調査について考える
第6回	地域福祉調査の実施・分析	(学修内容) 地域福祉調査の実施を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉調査のデータから考える
第7回	地域福祉の推進と計画	(学修内容) 地域福祉と計画の関係 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉(活動)計画を知る
第8回	地域福祉活動計画 - 事業 -	(学修内容) 地域福祉活動計画の事業内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉活動計画を調べる
第9回	地域福祉活動計画 - 運動 -	(学修内容) 地域福祉活動計画の運動内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉活動計画を知る
第10回	地域福祉計画 - 公民協同 -	(学修内容) 地域福祉計画における公民協同 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉計画を調べる
第11回	地域福祉計画 - ヒト -	(学修内容) 地域福祉計画におけるヒトの重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉計画を知る
第12回	地域福祉計画 - モノ -	(学修内容) 地域福祉計画におけるモノの重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉計画の課題を考える
第13回	地域福祉計画 - カネ -	(学修内容) 地域福祉計画におけるカネの重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉計画を財源面で知る
第14回	地域福祉計画 - 情報 -	(学修内容) 地域福祉計画における情報の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉計画を情報面で知る
第15回	地域福祉と自治体行政	(学修内容) 地域福祉推進における自治体行政の役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 我がまちの地域福祉と行政責務を考える

授 業 名	乳児保育 U			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2727
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	安藤 正彦			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。</p> <p>1）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活できるとはどういうことが、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージし、保育園、保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>2）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交換しながら、あそび（手あそび、歌あそび等）づくりにつなげていく。（プレゼンテーション）</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解し実践できる。</p> <p>2）各年齢（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解している。</p> <p>3）実際の保育場面で活かせる、乳児との関わりに適応したあそびを習得する。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	乳児保育研究会編『改訂5版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』								
参 考 書	授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は「ふり返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。								
留 意 事 項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務								

授 業 名	乳児保育 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育の基本	(学修内容) 子どもと保育士の関係とあり方を理解する。子どもの主体性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 第6章を読んでくる。
第2回	乳児保育の基本	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章を読んでくる。
第3回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 乳児保育の目標とねらいを理解する。保育園での子どもの姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章1, 2を読んでくる。
第4回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 保育園での生活環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章3を読んでくる。
第5回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児のかかりやすい病気、ケガなどを事前に調べてみる。
第6回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 集団での生活において、環境の変化や移行に対する配慮等を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児の生活環境で大切なことをまとめてみる。
第7回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(大人とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでくる。対大人とあそびあそびをいくつか調べておく。
第8回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(物とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでくる。物を使ったあそびをいくつか調べておく。
第9回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(友だちとあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでくる。友だち同士でするごっこあそびを調べておく。
第10回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびとその環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章2を読んでくる。
第11回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章3, 4を読んでくる。
第12回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ふれあいあそびの大切さを調べておく。
第13回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそび等)をグループで考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のあそびを復習し、自分であそびを考えてみる。
第14回	プレゼンテーション(グループ)	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにも(理解)大人にも(説明)伝わるように所定用紙に記入する。
第15回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる。

授業名	生活科学実験u			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Experiments of Life Science			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	近年、我が国においては、技術の進歩や新しい食品の開発等によって様々な食品が作られているが、食の安全をゆるがす問題も次々と明らかとなっている。我々は、今、自らの食環境を見直すとともに、食の安全について科学的な視点から判断することができる力を持つことが必要である。本実験では身近な食品を取り上げ、実験を行い、食品の特性について理解するとともに食品を分析する力を養っていく。								
学修成果到達目標	1) 科学的な視点で分析することができる。 2) 食品の特性、安全性についての正しい知識を身につける。 3) 日常使用する食品の問題点に気づくことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	毎回プリントを配布します。								
参考書	「基礎からの食品・栄養学実験」 村上俊夫編著、建帛社								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留意事項	実験方法について予習をしておく。講義のあと、グループで実験を行う。 実験後、レポートを作成して次回に提出する。								
オフィスアワー	初回の実験で指示します。								
実践的教育									



授 業 名		生活科学実験Ⅱ
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテ ション	(学修内容) 実験器具等の使用時の注意事項について 食の安全性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞等から近年起こった食に関する事件を調べておく。
第2回	実験準備とレポート作成について	(学修内容) 計量、測定値の扱い方、レポートのまとめ方など (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく。
第3回	食品の体積と重量の関係	(学修内容) 比重計や比重瓶による測定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第4回	計量・計測に関する実験	(学修内容) 日常よく用いられる食品の廃棄量を測定し、廃棄率を求める (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第5回	野菜の色と加熱に伴う変化	(学修内容) 野菜それぞれの特有の色や天然色素の性質について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第6回	砂糖の加熱による変化	(学修内容) 砂糖溶液の加熱温度による状態の変化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第7回	食品中の塩分濃度	(学修内容) 身近な食品の塩分濃度測定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第8回	卵の鮮度や加熱による変化	(学修内容) 卵黄係数等の鮮度や起泡性、熱凝固性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第9回	エマルションとサスペンション	(学修内容) マヨネーズとドレッシングの構造について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第10回	大豆の加工品	(学修内容) 大豆たんぱく質の変性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第11回	天然色素	(学修内容) 天然色素の変化要因について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第12回	乳及び乳製品	(学修内容) 牛乳の等電点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第13回	テクスチャー測定 1	(学修内容) 成分抽出素材(寒天とゼラチン)のゾル-ゲル転移とその形態について (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第14回	テクスチャー測定 2 (官能評価法)	(学修内容) 味覚の生理(五味の識別)、順位法(味の対比効果)、2点非核法(かつお節だしの塩分濃度識別試験) (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく
第15回	食品の安全・衛生	(学修内容) 細菌検査を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験方法等について予習しておく

授 業 名	食品衛生学 (フードスペシャリスト資格)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3762
英 文 名	Food Hygiene			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>飲食等に起因する健康被害を予防し、人の生命と健康を守るために食品の安全性確保のための基礎知識を修得する。生産、加工、保存、流通、調理を経て、消費者により食品として食されるまでの全ての過程において安全な食べ物を確保するための仕組みを理解するために、食品の変質、食中毒、環境汚染や微生物汚染、食品関連の衛生法規について理解するとともに、近年関心の高いHACCPによる衛生管理など新しい知見や安全性確保のための考え方や取り組みを学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品の安全性、衛生確保に関連する基本事項である健康被害の原因物質と対策を説明できる。  2) 食品の衛生的取り扱い、安全管理の現状について解説できる。  3) 食品衛生管理のためのHACCPシステムを説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	三訂食品の安全性、日本フードスペシャリスト協会 編、建帛社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	確認テストおよびレポート後に解説を行っていく。								
留 意 事 項	テキストを読み、知らない語句について調べる。 興味を持った内容については自主的に調べる習慣を身につける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名	食品衛生学（フードスペシャリスト資格）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生とは	（学修内容）食品の安全性、食品生産から消費までの安全性確保 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p1-8を読んでおく
第2回	食品衛生と微生物	（学修内容）微生物の種類、特性、検査法について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p10-15を読んでおく
第3回	食品の変質とその防止	（学修内容）微生物などによる食品の変質とその防止方法について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p15-24を読んでおく
第4回	食中毒と発生状況	（学修内容）食中毒の分類と発生状況について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p25-32を読んでおく
第5回	微生物性食中毒	（学修内容）微生物、寄生虫による食中毒について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p33-49を読んでおく 食中毒事件について、背景、経過、関与者について調べておく
第6回	自然毒、化学性食中毒	（学修内容）動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について 食中毒事件について、ディベートを行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p50-59を読んでおく
第7回	食品の安全性：食肉製品、水産加工食品など	（学修内容）食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵について原料や製造工程・流通過程での安全性確保の課題 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p61-73を読んでおく
第8回	食品の安全性：冷凍食品、惣菜食品など	（学修内容）冷凍食品、惣菜食品などについて原料や製造工程・流通過程での安全性確保の課題 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p73-84を読んでおく
第9回	家庭における食品の安全保持	（学修内容）微生物の汚染源となる台所用品、冷蔵・冷凍庫、電子レンジなどの取り扱いについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p85-100を読んでおく
第10回	環境汚染と食品	（学修内容）環境中の有害化学物質や放射性物質による食品汚染について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p101-114を読んでおく
第11回	食品用の器具および容器包装	（学修内容）食品用の器具、容器包装の安全性について。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p115-122を読んでおく 容器包装の材質識別マークを食品店で探し、グループ討議を行う
第12回	水の衛生	（学修内容）飲用水だけではなく、食品の洗浄、食品の製造、器具・容器の洗浄などに用いられる水の安全性に関する水質基準について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p123-132を読んでおく
第13回	食品添加物	（学修内容）食品添加物の分類、用途、作用、特徴について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p138-154を読んでおく
第14回	食品の新しい安全性問題	（学修内容）食品の新しい安全性問題について 遺伝子組換え食品、発がん物質、アレルギー物質を含む食品 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p154-176を読んでおく
第15回	食品衛生管理と対策	（学修内容）食品の安全確保に関する法制度や組織を学ぶとともに、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPシステムについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p177-191を読んでおく

授 業 名	フードコーディネート論u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3763
英 文 名	Theory of Food Specialist			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>「食」とは生きるために必要な栄養の摂取のみならず、近年、心の栄養という面でもその重要性が注目されている。だからこそ演出することで、本当においしい状態や心地よい環境で食を提供することは大変重要であるといえる。そこでこの授業では、わが国および諸外国の食文化や調理文化、そしてテーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどについて学ぶとともに、食環境にも触れ、食生活をトータルにコーディネート出来る力を修得する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 「食」の精神的な意義を理解できる。  2) これからの食生活を豊かなものにコーディネートできる。  3) 「食」に関する企画を立てることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	日本フードスペシャリスト協会編 『三訂フードコーディネート論』 建帛社								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却する								
留 意 事 項	フードスペシャリスト資格認定試験を意識した授業内容となる。資格取得希望者は、毎時間、試験勉強のつもりで受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡する。								
実 践 的 教 育									

授業名	フードコーディネート論u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フードコーディネートの基本理念	(学修内容) おいしさとは、もてなしの意味とは (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.2-13を読んでおくこと。
第2回	食事の文化1 (日本の食文化)	(学修内容) 日本の食事文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.15-29を読んでおくこと。
第3回	食事の文化2 (諸外国の食文化)	(学修内容) 諸外国の食事文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.29-33を読んでおくこと。
第4回	日本のテーブルウェア	(学修内容) 日本の食器・食具について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.35-43を読んでおくこと。
第5回	西洋および中国のテーブルウェア	(学修内容) 西洋および中国の食器・食具について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.43-51を読んでおくこと。
第6回	テーブルセッティングとテーブルコーディネート	(学修内容) テーブルセッティングの基本ルールとテーブルコーディネートのポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.51-55を読んでおくこと。
第7回	食事のサービスとマナー	(学修内容) 食卓におけるサービスとマナーの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.57-80を読んでおくこと。
第8回	メニュープランニング	(学修内容) 献立作成に必要な知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.81-98を読んでおくこと。
第9回	食空間のコーディネート	(学修内容) 食空間のコーディネートの基礎を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99-122を読んでおくこと。
第10回	フードビジネスの展開	(学修内容) レストランビジネスの展開について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.123-133を読んでおくこと。
第11回	フードビジネスの投資・収支計画	(学修内容) 投資計画、収支計画の作成について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.134-143を読んでおくこと。
第12回	食企画の実践 (企画案のたてかた)	(学修内容) 食企画のたてかたを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.146-163を読んでおくこと。
第13回	食企画の実践 (企画する)	(学修内容) 食企画をたててみる (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で食企画の素案をたててくる
第14回	食企画の実践 (評価)	(学修内容) たててみた食企画について評価しあう (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実際に行われている食企画について調べてくる
第15回	これまでの復習	(学修内容) 認定試験の過去問題を利用して復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業内容を振り返って復習しておくこと

授 業 名	簿記演習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3751
英 文 名	Bookkeeping Practice			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平野 由美子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	個人商店や会社等は、儲け（利益）や財産、借金がどれだけあるのかを明らかにするために、日々行なう経済活動（取引）を記録して、最終的な儲け（利益）や財産等を計算している。この授業では、小規模な会社が日々行っている経済活動を記録する手段としての商業簿記について学習する。簿記の仕組みを演習を通して実践的に学び、損益計算書や貸借対照表の役割についても理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 複式簿記の基本原則を理解し、小規模な会社における諸取引の処理に適用できる。 2) 商業簿記の日常的な経理事務から決算処理までの理解ができる。 3) 貸借対照表と損益計算書の役割を理解し、作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	スッキリわかる日商簿記3級第11版【テキスト+問題集】								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回の授業で問題を解いてもらい、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：会計事務所に勤務。実務経験をもとに簿記について話をします。								

授業名	簿記演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 簿記の意義	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 簿記とはなにか、なぜ必要なのかについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「簿記の基礎」を読み、全体像を把握しておく
第2回	簿記の基礎概念	(学修内容)貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「仕訳の基本」を読み、「仕訳」のルールを読んでおく
第3回	仕訳のルールと転記	(学修内容)仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資産、負債、純資産(資本)、収益、費用の5つの項目それぞれの役割を確認する
第4回	商品売買	(学修内容)商品売買取引の処理について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 商品売買取引の分記法・三分法の違いを把握する
第5回	現金と預金	(学修内容)簿記上の現金とは何か、小切手に関わる処理を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 通貨代用証券・小切手について調べる
第6回	小口現金	(学修内容)小口現金と小口現金出納帳の作成を説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「小口現金出納帳への記入」を読む
第7回	手形	(学修内容)約束手形について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 約束手形とは何か、小切手との違いを調べる
第8回	有価証券	(学修内容)有価証券について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 有価証券とは何かを把握し、有価証券を購入したときの仕訳を調べる
第9回	貸付金、借入金 その他の債権・債務	(学修内容)貸付金、借入金、その他の債権・債務について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) お金を貸したときと借りたときの仕訳を調べる
第10回	貸倒れと貸倒引当金	(学修内容)売掛金の貸倒れ処理と貸倒引当金の設定について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「貸倒れと貸倒引当金」を読み、「貸倒れ」とは何か、「引当金」とは何かを調べておく
第11回	固定資産と減価償却	(学修内容)固定資産の購入、売却と減価償却について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「有形固定資産と減価償却」を読み、固定資産とは何かを調べる
第12回	資本金	(学修内容)資本金について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「会社を設立して株式を発行したときの仕訳」を読み、「株式会社」とは何かについても調べておく
第13回	決算整理	(学修内容)決算整理仕訳について説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 貸倒引当金と減価償却について復習しておく
第14回	試算表	(学修内容)各種試算表の作成方法と仕組みを説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「試算表」を読んでおく
第15回	精算表と帳簿の締め切り	(学修内容)精算表、帳簿の締め切りについて説明する (事前事後学修課題の内容)(30分) 貸借対照表と損益計算書の役割について復習しておく

授 業 名	会計演習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3789
英 文 名	Accounting Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平野 由美子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	財務会計に関する基本的知識を身につけることを目標とした演習方式の授業である。公開されている企業の貸借対照表・損益計算書などから企業の経営活動の情報を読み解き、さらには財務諸表分析ができるレベルを目指す。「会計」は、民間企業のみならず、官公庁や地方公共団体、非営利組織など、あらゆる組織・団体に利用されている。社会人になったときにも実践的に役立つような会計知識を学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 貸借対照表、損益計算書の役割と構造を理解できる。 2) 収益の認識基準を理解できる。 3) 資産評価基準を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	「知識ゼロでも2時間で決算書が読めるようになる!改訂版」佐伯良隆著 高橋書店								
参 考 書	スッキリわかる日商簿記3級第11版【テキスト+問題集】								
課題に対する フィードバック の方法	興味のある企業の決算書を用いて、決算書の数字を読み解き、分析してもらいます。 企業分析に対し、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	簿記演習も履修することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：会計事務所に勤務。実務経験をもとに企業分析について話をします。								



授業名	会計演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 財務ディスクロージャー制度とは	(学修内容) 本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財務ディスクロージャー制度とは何かについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「決算書超入門」を読んでおく
第2回	決算書の種類と簿記	(学修内容) 仕訳のルールを確認し、会計のルールを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「そもそも会計って何？」を読んでおく
第3回	決算書の役割	(学修内容) 貸借対照表と損益計算書の役割を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「これが決算書の中身！」を読んでおく
第4回	損益計算書の役割	(学修内容) 損益計算書の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書で何がわかる？」を読んでおく
第5回	損益計算書：利益	(学修内容) 利益について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書のしくみ」を読んでおく
第6回	損益計算書：費用	(学修内容) 費用について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「損益計算書は、費用で見る！」を読んでおく
第7回	貸借対照表の役割	(学修内容) 貸借対照表の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「貸借対照表で何がわかる？」、「貸借対照表のしくみ」を読んでおく
第8回	貸借対照表：資産の部	(学修内容) 資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「3つの部 資産の部」を読んでおく
第9回	貸借対照表：負債、純資産の部	(学修内容) 負債の部、純資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「3つの部 負債の部」「3つの部 純資産の部」を読んでおく
第10回	キャッシュフロー計算書	(学修内容) キャッシュフロー計算書について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「キャッシュフロー計算書の話」を読んでおく
第11回	経営分析 - 収益性	(学修内容) 企業の収益性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「収益性の話」を読んでおく
第12回	経営分析 - 安全性	(学修内容) 企業の安全性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「安全性の話」を読んでおく
第13回	経営分析 - 成長性	(学修内容) 企業の成長性の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「成長性の話」を読んでおく
第14回	決算書分析の方法	(学修内容) 企業の決算書を用いて、数値を分析する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「決算書から会社のホントの姿を見る！」を読んでおく
第15回	決算書分析まとめ	(学修内容) 企業の決算書から、企業分析を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 興味のある企業の決算書を用意しておく

授 業 名	人間福祉論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1710
英 文 名	Theory of Human Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的な展開力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	テストの採点結果を返却し、その時に模範解答等を解説します。								
留 意 事 項	ノートをしっかり取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：児童養護施設非常勤職員、高齢者通所介護施設非常勤生活指導員として勤務。								

授業名	人間福祉論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会福祉の対象理解	(学修内容)生活問題の構造把握について (事前事後学修課題の内容)(30分) くらしの実態について考える。
第2回	生活問題の構造	(学修内容)生活問題の構造と社会福祉の関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活問題について考える。
第3回	総合的体系的な生活保障とは？	(学修内容)総合的体系的な生活保障について (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活問題対策について考える。
第4回	総合的体系的な生活保障 - 労使関係制度と社会福祉 -	(学修内容)労使関係制度の内容と課題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 労使関係制度と社会福祉との関連考察。
第5回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保障制度と社会福祉 -	(学修内容)雇用保障制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の雇用実態を知る。
第6回	総合的体系的な生活保障 - 労働者保護制度と社会福祉 -	(学修内容)労働者保護制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の労働条件について知る。
第7回	総合的体系的な生活保障 - 育児・介護休暇と社会福祉 -	(学修内容)育児・介護休暇制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の育児・介護休暇制度を知る。
第8回	総合的体系的な生活保障 - 最低賃金制度と社会福祉 -	(学修内容)最低賃金制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族の賃金について知る。
第9回	総合的体系的な生活保障 - 年金保険制度 -	(学修内容)年金保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 高齢者に年金のことについて聴く。
第10回	総合的体系的な生活保障 - 医療保険制度 -	(学修内容)医療保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 医療機関での実情を考える。
第11回	総合的体系的な生活保障 - 介護保険制度 -	(学修内容)介護保険制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 高齢者に介護保険のことについて聴く。
第12回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保険と社会福祉 -	(学修内容)雇用保険について (事前事後学修課題の内容)(30分) 失業している(した)人を探し、実情を聞く。
第13回	総合的体系的な生活保障 - 教育・医療・保健と社会福祉 -	(学修内容)教育・医療・保健について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教育・医療・保健に関して実情を考える。
第14回	総合的体系的な生活保障 - 住宅・生活環境施設と社会福祉 -	(学修内容)住宅・生活環境施設について (事前事後学修課題の内容)(30分) 住宅・生活環境施設について近隣の実情を考える。
第15回	社会福祉の課題 - 財政問題を中心に -	(学修内容)社会福祉の財政問題について (事前事後学修課題の内容)(30分) 政府予算に目を向け考察する。

実習名	教育実習（中・高）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊 雄一		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 教育実習とは教職に必要な単位数を満たしているものが、一定期間学校現場に身をおき、教師（見習い）として実際の教育活動に取り組むことである。単に現場を体験するのとは異なり、大学で学んだ理論と知識・技術を活かしながら、実習先の教員の指導のもと、あらゆる教育活動に取り組みねばならない。生徒一人ひとりの発達特徴やクラスの雰囲気をつかみ、クラス活動や授業を計画実施するだけでなく、組織としての学校とその中で教員の役割の全体像を学ぶことが求められる。実習を通して、教員としての自覚と責務の重さを新たに、さらなる資質向上を目指してほしい。</p> <p>2. 教育実習（中・高）の内容 生徒理解： 担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 参加実習： 実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 校務理解： 教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 学校行事への参加： 期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。</p> <p>4. 実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校 4回生 5～6月、8～9月のいずれかで連続3週間 ・高等学校 4回生 5～6月 2週間 ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を3回生秋学期と4回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を4回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など： 総合基礎演習・、現代家政学演習・、人権と社会、教育原理、発達心理学、道徳教育論、中等教科教育法（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育の方法と技術、生徒指導論、教職論、特別活動、中等教科教育法（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する科目は3回生春学期までに開講する科目の内、6科目12単位以上を履修済み又は履修中であること。中学校実習を希望する学生で、保育実習の施設実習もしくはソーシャルワーク実習を受けていない者は、7日間の介護等体験実習を教育実習の前に受けておくこと。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など： 教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。</p>		

実習名	教育実習（幼・小）	対象学生	現代家政4回生
担当者	藤本 奈美・平尾 隆史・加藤 倫子・柿本 真代・松浦 真理		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。</p> <p>2. 教育実習 の内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。</p> <p>4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習 はこの前半部分とする。</p> <p>5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わり、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習にできる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。</p>		

実習名	教育実習（中）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊 雄一		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 教育実習は、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修の一端として行われるものである。教員の仕事、授業の進め方、生徒の理解、保護者・地域の願い等、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。中学校は3週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、生徒を育てる意味とその方法はもちろん、学校組織の一員としての役割と責任を見出すことを期待している。</p> <p>2. 教育実習（中）の内容 生徒理解：担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 参加実習：実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 校務理解：教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 学校行事への参加：期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。</p> <p>4. 実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校 4回生 5～6月、8～9月のいずれかで連続3週間 ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を3回生秋学期と4回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を4回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など： 総合基礎演習・、現代家政学演習・、人権と社会、教育原理、発達心理学、道徳教育論、中等教科教育法（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育の方法と技術、生徒指導論、教職論、特別活動、中等教科教育法（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する科目は3回生春学期までに開講する科目の内、6科目12単位以上を履修済み又は履修中であること。中学校実習を希望する学生で、保育実習の施設実習もしくはソーシャルワーク実習を受けていない者は、7日間の介護等体験実習を教育実習の前に受けておくこと。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など： 教育実習は、教員を目指そうとする高邁な意志をもつ学生の支援をしようという実習先の好意によって実現されていることをしっかり自覚し、真摯な態度で臨むことが期待される。</p>		

実習名	教育実習（幼・小）	対象学生	現代家政4回生
担当者	藤本 奈美・加藤 倫子・平尾 隆史・柿本 真代・松浦 真理		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。</p> <p>2. 教育実習 の内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。</p> <p>4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習 はこの後半部分とする。</p> <p>5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わる、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済み又は履修中であることが、実習にできる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。</p>		

実習名	保育実習（施設）	対象学生	現代家政2回生
担当者	山川 宏和・芹澤 出		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。</li> </ul> <p>2. 保育実習（施設）の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設における子ども・利用者の生活と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ</li> <li>健康管理、安全対策、子ども・利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ</li> <li>家庭復帰支援や自立支援など、施設の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ</li> <li>保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</li> </ul> <p>3. 実習生に対する指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</li> </ul> <p>4. 実習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先は、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所支援等のうち、いずれか1か所配当する。期間は、2回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。原則、宿泊だが、一部は通勤になる場合がある。</li> </ul> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合基礎演習 ・ 、現代家政学演習 ・ 、保育原理、発達心理学（保育の心理学）を受講済であること、保育実習指導 ・ 社会的養護 ・ 子ども家庭福祉、子どもの保健 ・ を受講済又は履修中であること。</li> <li>・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。</li> </ul> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。</li> <li>・子どもと利用者、保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</li> </ul>		

実習名	保育実習（保育所）	対象学生	現代家政3回生
担当者	西川 由紀子・近本 佳子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、保育所保育指針との関係で保育所の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。</li> </ul> <p>2. 保育実習（保育所）の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりを学ぶ</li> <li>子どもの観察およびその記録を通して子どもの発達を理解する</li> <li>子どもの発達に応じた保育内容や環境の構成を学ぶ</li> <li>保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</li> </ul> <p>3. 実習生に対する指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</li> </ul> <p>4. 実習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先は、保育所とする。期間は、3回生春学期の8～9月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</li> </ul> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導 への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合基礎演習 ・ 、現代家政学演習 ・ 、保育原理 ・ 発達心理学（保育の心理学）を受講済であること、保育実習指導 ・ 養護原理、児童福祉論、小児保健 ・ を受講済又は履修中であること。</li> <li>・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。</li> </ul> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。</li> <li>・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</li> </ul>		

実 習 名	保育実習	対 象 学 生	現代家政3回生
担 当 者	西川 由紀子・近本 佳子		
実習の概要	<p>1．目標・目的 保育実習 で学んだことに基づいて、養護と教育が一体的に行われるという保育の基本原則や保護者支援、子育て支援、地域連携など保育所の社会的役割を具体的実践から学び取ることを目的とする。</p> <p>2．保育実習 の内容 養護と教育が一体となって行われている保育の具体的展開を学ぶ 保育士の援助や関わりを通して、保育を理解する 保護者への支援や地域社会などとの連携を学ぶ 保育士等の連携を学び、自己の課題を明確化する</p> <p>3．実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4．実習形態 実習先は、保育所とする。期間は、3回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5．事前事後指導等の内容等（必要性）について 保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導 への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1．実習受講の条件など ・総合基礎演習 ・、現代家政学演習 ・、保育原理 、発達心理学（保育の心理学 ）を受講済であること、保育実習指導 、養護原理、児童福祉論、小児保健 ・ を受講済又は履修中であること。 ・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導 の単位を取得することを条件とする。</p> <p>2．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

実 習 名	保育実習	対 象 学 生	現代家政3回生
担 当 者	山川 宏和		
実習の概要	<p>1．目標・目的 ・保育実習 （入所施設および保育所）での学びを踏まえ、児童館で実習を行う。乳幼児の保育、小学生の学童保育、地域連携の実際等を実習することによって、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。児童館が、児童、家庭、関係機関、地域社会を結ぶ子育て支援の拠点であることを、児童館の活動、保育士のソーシャルワーク的支援などから学ぶ。さらに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>2．保育実習 （施設）の内容 児童館における子ども・保護者の利用状況と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ 乳幼児クラブや母親サークル、学童保育など、児童館の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ 保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3．実習生に対する指導法 ・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4．実習形態 ・実習先は、すべて児童館で行い、学生の居住地域等を参考に配属する。期間は、3回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。すべて、通勤で行う。</p> <p>5．事前事後指導等の内容等（必要性）について ・保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1．実習受講の条件など ・総合基礎演習 ・、現代家政学演習 ・、保育原理 、発達心理学（保育の心理学 ）を履修済であること、保育実習指導 、養護原理、児童福祉論、小児保健 ・ を履修済又は履修中であること。 ・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導 の単位を取得することを条件とする。</p> <p>2．実習態度、参加意欲など ・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

実習名	給食経営管理臨地実習（給食の運営）	対象学生	食物栄養3回生
担当者	富安 広幸		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 給食経営管理論の講義および実習で学んだ食事の計画や調理、衛生管理等を含めた給食サービス提供に必要な知識や技術を、事業所、福祉施設等の特定給食施設において実践的に体験する。そこで実践活動の場における課題を発見、解決していくことで、これまで学んできた専門的知識とその技術との統合を図り、管理栄養士として具備すべき給食運営に必要な力を体得する。</p> <p>2. 給食経営管理臨地実習（給食の運営）の内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。 ・献立作成から提供までの実務業務を体験学習し、給食システムを学ぶ。 ・大量調理の特性、安全・衛生管理、事故・災害時対策の実際、適時適温配膳の実際、施設設備・機器を観察学習、食中毒、異物混入等の防止のための衛生管理、衛生教育など集団の栄養管理、衛生管理の実際について学ぶ。 ・喫食者アンケートや行事食など個人対応の実際について学ぶ。 ・調理師や調理員及び他職種とのコミュニケーションや連携の実際について学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所等の集団給食施設のいずれかを配当する。期間は、3回生の5月～3月のうち5日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など 食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、調理学実習、調理学実習の7科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。</p>		

実習名	地域教育実習（幼・小）u a	対象学生	現代家政1回生
担当者	藤本 奈美・大塩 博史		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 ・将来の教職を目指す学生が教育現場に入り、主として学校のある地域の特性を知るとともに、地域に根差す学校教育とはどのようなものかを理解することが本実習の大きな目的である。学校での授業や具体的な取り組みが、子どもの現状と地域の実情に照らして、どのように展開されているのかを継続的に現場に入ることを通して理解する。また、これらの授業や取り組みが子どもの成長にどのように効果的であるかを考察することも目標とする。</p> <p>2. 地域教育実習の内容（学修成果を含む） ・地域に根差す学校教育の現状を把握する。 ・地域の特性を生かす「総合的な学習」計画を考えることができるようになる。 ・地域とつながる教育活動が子どもたちの成長にどのようにつながるのかを考える。 ・自分と子どもとのどのような関わりが子どもの成長につながるかを考えて実践する。 ・教員としてのやりがいや大切なことを現場教員の言動から見て学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 ・事前に実習協力校と打ち合わせ、実習内容について協議しておく。 ・可能な限り実習に教員が付き添い、実習協力校との連携の下で指導を行う。</p> <p>4. 実習形態 ・見学や実習、観察交流やグループ討議などに入ることがある。</p> <p>5. 事前事後指導などの内容（事前指導20時間、事後指導10時間程度を予定している。） ・実習校の特性や地域に根差す学校教育の実践、学校における人権学習、総合的な時間と地域特性、学級担任と学級経営について事前指導する。 ・地域と学校との連携を中心に、子どもの成長にとって大切なこと、教員の役割、学校教育全体について学びについて共有する事後指導をする。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など ・総合基礎演習、総合基礎演習、現代家政学演習、現代家政学演習、教育の基礎と制度、発達心理学を履修済または履修中であること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・小学校および幼稚園の教育現場の現状や諸課題を知るために、現場教員や子どもとともに学ぼうとする意欲をもつこと。 ・学びを活かし、主体的に考えて実習に取り組もうとすること。 ・人権に配慮した言動を取り、実習中に知りえた個人情報を第三者に漏らさないようにできること。</p>		



実習名	給食経営管理臨地実習	対象学生	食物栄養4回生
担当者	富安 広幸		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          特定給食施設で給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを養う。マーケティングの原理や応用についても理解する。それとともに、組織管理のマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。</p> <p>2. 給食経営管理臨地実習 の内容          ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。          ・給食の組織、人事管理と労務管理等の給食経営と組織について学ぶ。          ・栄養・食事管理の実際、及び食事提供システム、食事温度管理等についての給食の品質保証と標準化について学ぶ。          ・原価管理・食材管理、調理機器の種類と管理、調理の実際の給食の生産について学ぶ。          ・栄養業務上発生する情報とその把握等の給食の情報処理管理について学ぶ。          ・栄養教育の実際について学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法          原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所等の集団給食施設のいずれかを配当する。期間は、4回生の5月～3月のうち5日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について          ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。          ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。          ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など          食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、調理学実習、調理学実習、給食経営管理論、臨床栄養学、臨床栄養学、臨床栄養学 の11科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。          ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。</p>		

実習名	公衆栄養学臨地臨地実習	対象学生	食物栄養4回生
担当者	竹市 仁美		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          ・実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識及び技術の統合を図る。          ・公衆栄養分野の臨地実習においては、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策が法律にもとづいて実施されていることを理解する。          ・行政栄養士は健康・栄養問題を取り巻く情報の収集・総合的な分析を通して地域の優先的な健康課題に取り組む。また、その背景にある食環境、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、子供や高齢者の健康、社会環境整備にかかわる担い手であることを理解する。</p> <p>2. 内容          ・保健所・保健センターでは、施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じての実習計画により実施する。          ・特に健康日本21（第二次）の取り組みとしての他職種と協働できる調整能力等のマネジメントについて学ぶ。また、健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルに基づく施策を推進するための地域診断や政策立案について学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法          原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          実習先は、京都府と京都市の保健所及び市町村保健センターいずれか1箇所を配当する。期間は4回生の5月～7月中の平日5日間（45時間）とする。配当によっては宿泊を伴う地域での実習となる。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について          ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。          ・実習後には各々、実習内容の報告と反省・評価をプレゼンし、知識・技術の統合に努める。          ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など          食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、調理学実習、調理学実習、給食経営管理論、給食経営管理論、臨床栄養学、臨床栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学、公衆栄養学 の13科目を履修済みのこと</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・個人情報保護のため、実習中に知りえた情報を第三者に漏らしてはいけない。          ・実習先指導者、実習担当教員による事前の指導や助言を真摯に受け止め、より充実した実習を目指す。          ・実習においては健康管理や衛生管理等が重要であり、実習前後の自己管理を徹底する。</p>		

実習名	臨床栄養学臨地実習	対象学生	食物栄養4回生
担当者	平 正人		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内で学んできた知識や技術を活かし、病院や介護老人保健施設において課題発見や問題解決について学ぶ。</li> <li>・傷病者の栄養評価や栄養管理、病態に応じた栄養ケアプランの作成、栄養指導について管理栄養士としての専門知識と技術を修得する。また、チーム医療における管理栄養士の役割について理解を深めることを目的とする。</li> </ul> <p>2. 臨床栄養学臨地実習（ ）の内容</p> <p>病院・施設の経営方式や組織と栄養部門の運営方式、管理体制、栄養部門業務の概要について学び、説明ができる。栄養補給における経腸栄養法、静脈栄養補給法の実際について学び、その技術や知識などを理解し修得する。傷病者の急性期、慢性期の栄養管理方法とチーム医療における栄養ケアプラン、栄養食事指導の実践力を身につける。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法</p> <p>原則として実習中に1回以上巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態</p> <p>実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は4回生「春学期～秋学期」のうち5日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指含む）の実習を行う。原則として通勤であるが、一部は宿泊となる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告会と反省会を行う。</li> <li>・施設の実習評価に基づいた評価面談も行き、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など：食品学 ・ 、基礎栄養学、栄養教育論 、給食経営管理論 ・ 、調理学実習 ・ 、臨床栄養学 ・ の11科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。</p> <p>3. 実習に向けて：実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。</p>		

実習名	臨床栄養学臨地実習	対象学生	食物栄養4回生
担当者	平 正人		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場で傷病者の栄養状態を正しく評価し、病態に応じた食事療法や栄養指導を遂行する管理栄養士業務を体験し、各種疾患別、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理の実践について学ぶ。</li> <li>・在宅における栄養食事指導の在り方や管理栄養士に課せられた役割について理解を深めることを目的とする。</li> </ul> <p>2. 臨床栄養学臨地実習（ ）の内容</p> <p>チーム医療における管理栄養士の役割を理解し、入院・外来、及び在宅療養患者の栄養食事指導に必要な能力を実体験から学ぶ。代謝、消化管、循環器、癌、免疫、内分泌などの各疾患における栄養ケアプランの実際について理解し、説明ができる。患者・入所者の食事介助と観察記録の作成、摂食状況調査などから、栄養ケアプラン作成と再評価までの実践力を身につける。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法</p> <p>原則として実習中に1回以上、巡回指導を行い実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態</p> <p>実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は4回生「春学期～秋学期」のうち5日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指含む）の実習を行う。原則として通勤であるが、一部は宿泊となる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告会と反省会を行う。</li> <li>・施設の実習評価に基づいた評価面談も行き、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など：食品学 ・ 、基礎栄養学、栄養教育論 、給食経営管理論 ・ 、調理学実習 ・ 、臨床栄養学 ・ の11科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。</p> <p>3. 実習に向けて：実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。</p>		

実習名	地域教育実習（幼・小）u b	対象学生	現代家政2回生
担当者	大塩 博史・松浦 真理		
実習の概要	<p>1. 目標・目的  地域教育実習（幼小）uaの授業に引き続き、将来の教職を目指す学生が教育現場に入り、地域に根差す学校教育とはどのようなものか理解することが本実習の大きな目的である。具体的な目標は以下の通りである。  学校での具体的な取組みが子どもの現状と地域の実情に照らしてどのように展開されているのかを現場に入ることを通して理解する。</p> <p>。現場での授業や取組みが子どもの成長発達にどのように効果的であるのかを考察する。  と からえた知見によって、自分たちの主体的な活動や取組みに活かしていく。</p> <p>2. 地域教育実習（幼・小）ubの内容  地域に根差す学校教育の現状を把握し、地域と学校教育、子どもとの関係を理解する。  学校を訪問見学し、教員としてのやりがいや大切なことを現場の教員の言動や授業から学ぶ。  と を通して得た知見をもとに具体的な指導案を計画、検討する。  ボランティア実習に継続的に入る際に、実際に授業の一部を担当する。</p> <p>3. 指導法  事前に実習協力校と打ち合わせ、実習内容について協議したうえで、連携して指導していく。  事前事後指導と実習とを交互に行い、現場で理解したことを定着させるようにする。</p> <p>4. 実習形態  地域教育実習（幼小）uaと合わせて、原則一日4時間×16日＝64時間を現場に入る。観察実習やボランティア実習を中心とする。</p> <p>5. 事前事後指導内容  実習に入る前に、学校の特性、地域の実情、人権学習、学級経営などについて予習的に学ぶ。  実習後には、学びを共有し合い、子どもの成長・発達にどのように影響を及ぼすのかなどについて考察する。</p>		
備考	<p>1. 受講条件  原則として地域教育実習（幼小）uaを受講済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など  この授業は資格必修ではないが、現場に入ってからの実習が中心となる授業であるため、主体的意欲的な参加が求められる。また、現場では人権に配慮した言動を心がけ、実習中に知れた個人情報を第三者にもらさないようにできることが肝要である。</p>		